年、學部三年、研究科三年である。學部は密教學科、佛教學科、佛教藝術學科、哲學科に分けてゐる。

特殊施設として高野山大學訓育評議會を設けてゐる。同評議會は、學生々徒の指導訓育及び賞罰につき評議をなし、この決議を教授に諮つて、訓育指導の實を擧ぐることゝなつてゐる。報恩日として毎月一日愛染明王功德日、同十六日大明神功德日、同二十一日高祖大師の御命日に報恩法式を行うてゐる。

また附屬圖書館があり、教職員並學生の研究に便してゐる。

## 和歌山、伊都、九度山町
## 九度山町信用購買販賣利用組合

當組合は、大正十三年八月に創設せる信購の信用を主とする組合を、昭和十年十二月、現町長谷政太郎、現專務理事野上德兵衞氏らの主唱發起により、保證責任信用、購買、販賣、利用の四種兼營に改組して設立したもので、區域は當町一圓にして、町民の七割が加入してゐる。

以來理事長は美濃部正一、小澤義五郎坂井金次、谷口政太郎氏を經て、現在のさきには町會議員、學務委員等を歷任して功勞あり、現在は當組合理事長の外縣方面委員、銃後奉公會副會長、大江翼贊町常會委員等の重職を兼ねて盡力してゐるが、町民の信望絕大なるものがある

氏は、明治十七年八月十二日の生れにして、和歌山師範學校卒業後、九度山小學校訓導を振り出しに、郡下各小學校の訓導及び校長を歷任し、郡視學等を務めた教育功勞者である退職後當町長に推されて一期半在任、その他の要職を經て、現在は當組合專務理事を始め、町商工會長、警防團顧問、司法保護委員、裁判所調停委員、縣方面委員、大政翼贊町常會委員、區長等、多くの重職を兼ね、多面的に活躍して、業績顯著なるものがある。

練成達熟、清秀溫雅の人格者にして、町內の信望が篤い。

### 專務理事
### 野上德兵衞

氏は、明治十八年の生れにして、資性圓滿篤實の中に、烈たる愛國の至情と、高き識見を有つ、當地方稀れに見る材幹である。

### 理事長
### 松山恒太郎

役員諸氏の經營よろしきにより、各事業は圓滑なる運營をつゞけて、今日の强力なる發展を見るに至つた。

殊に事變の擴大に伴ひ、社會情勢の轉變と共に、當組合はこれに對處して機構を整備し、國家の要請に應じて、組合員の一致協力により、產業增產の推進力として活躍してゐる。

現役員は、理事長に松山恒太郎氏、專務理事に野上德兵衞氏を推してゐる。理事は橫山佐太郎、谷口政太郎、坂井金治中谷房次郎、北岡庄一郎、森脇源之助、諏訪久七、神保長四郎、筐田源太郎、蓮沼康三郎、青木信一、福井龜三郎の諸氏監事平越孝一、保田由三郎、美濃部定雄玉置政一、浦部茂宏、石井義一、梅下隆誼、橫山勝一、瀨越保松、岡田文一郎の諸氏である。

## 和歌山、西牟婁、串本町
## 橋杭漁業協同組合

電話一〇六番



當町は、黑潮躍る熊野灘、太平洋、潮岬の大漁場を控へ、地理的環境に惠まれ遠洋、近海漁業の根據地として絕好の地位を占めてゐることは、すでに世に周知されてゐる。

從つて早くより漁業組合が設立され、明治二十三年に水產組合として生れ、次いでこれを水產販賣組合と改め、のち漁業法の發令により、現在の無限責任組織の橋杭漁業協同組合に改組し、今日に至つてゐる。

當町は、明治四十年頃まで半農半漁であつたが、耕地面積が狹少にして、人口の增加につれ、漁業に轉ずるものが多くなつたが、漁業家は、鰹漁による放縱な生活に馴れ、凶漁に對する備へを怠つたそれがため昭和六年における財界の不況により大打擊を蒙むつて、漁業家は苦境に追詰められた。そこで從來の放慢な私生活、私經濟を建直し、堅實なる經營方針をとるに至つた。

昭和八、九、十年に至り、南洋スマトラ方面に進出して遠洋漁業を行ひ、最近では、夏季は北海道方面、冬季は九州方面を漁場とし、一年中漁業に從事してゐる。

しかし事變の擴大により、油の不足のため、近來は遠洋漁業が困難となつた。代用燃料の使用が考へられるが、二十五トン乃至三十トン程度の船では、その燃料を積み込む場所がないので、近海漁業はとも角、遠洋漁業者には、代用燃料は不向である。

組合においてこれらの問題について研究してゐるが、良策が得られずにゐる。しかし串本の發展は漁業にあるので、漁業築設の緊要なるを力說し、これが實現に努力し、昭和十二年より中漁港の築造に着手し、目下これが完成を急いでゐる。愈々竣工の曉には、當町の漁業は大發展を招來し、町勢は一段と向上充實するものと期待されてゐる。

尙ほ當組合は、縣下に率先して、昭和十六年三月第一回の共同出荷をなし好成績を收めた。

### 組合長
### 知野得一

氏は、明治二十九年四月二十二日の生れにして、當地漁業界の立役者として知られてゐる。

縣立水產學校卒業、昭和八年推されて組合長に就任、以來漁業の改善、組合員の指導に日夜奮闘して、斯業の向上發展に專念してゐる。

一方現在町會議員、その他の要職を務めて盡瘁し、功績顯著なるものがある。

昔年四十五歲、實力と信望を有する名組合長たる聲名を高めてゐる。

## 和歌山、伊都、四鄕村
## 四鄕村役場

當村は、明治二十二年村制を施行し、初代村長に井上伊助氏が就任、以來十一代を閱し、現在は廣口、瀧、平、東谷の四部落を以て一村を成してゐるが、古來串柿の名產地として世に知られ、村內には數百年を經た柿の古木が少なくない。西北なる下津川部落の棕櫚の晒葉は、また無比の上物と稱せられてゐる。

郡の西北隅、四鄕川の上流に位し、全村山地にして、北方大阪府との境は、三國山、大石の峰等が連亘して、一大分水嶺を成してゐる。

社寺には、村社大宮神社、同妙見神社極樂寺(眞言)、西福寺(同)、西方寺(同)

大宮寺(同)、福德寺(同)、法福寺(同)等があ
る。

養蠶が盛んにして、桑畑が多く、水田が少いので、これを可能の限り水田に造成して、食糧增産に全力をそゝいでゐる
主産物は米、麥、木炭、果實等にして柿の産地として知られてゐる。

村長以下助役は岡本千晴氏(警防團長兼任)、國防婦人會長は森本オカメ氏、青年團長は小林定義氏、軍人分會長は小西友好氏、産業組合長は岡本實之助氏であり、夫々

**村長　小西近之助**

當家は、村内屈指の舊家にして、代々農業を營み、氏は明治二十年二月十八日に生れ、昭和十四年九月村長に當選、以來新體制村政を強化し、村民を指導して、農業增産、臣道實踐の忠誠を效さしめてゐる。

**和歌山、西牟婁、日置町**

**中野虎一**

町會議員

電話三四番

當家は、代々木材業を營んで來たが、現在は製材業を經營し、家運隆々たるものがある。

氏は、明治二十四年四月三日に生誕。家業を繼いで家運の隆盛を圖ると共に、現在は部落會長、常會委員、區長、町會議員、産業組合理事等の重職をかねて、自治公共のため獻身的努力を效し、功勞顯著なるものがある。

特筆すべきは、當町は地勢の關係上水田の灌漑不便のため、稻作の增收が思ふやうにならない。これを痛嘆した氏は、日置川より水を上ぐることの必要を感じ度々縣當局に陳情して、電力で水上げの實現運動をなし、これを成功せしめた功績は實に偉大なるものである。

資性重厚篤實、町内の信望極めて篤く家庭もまた和やかな營みをなしてゐる。

なほ氏は、紀伊無盡日置代理店を經營してゐる。

**和歌山、伊都、妙寺町**

**妙寺町信用購買販賣利用組合**

電話七六番

當組合は、大正十五年七月、現組合長池田憲三氏らの主唱發起によつて組織し設立の認可を受け、池田憲之助氏を初代組合長として、町役場を事務所に同年八月より事業を開始した。

昭和五年八月現在の所に事務所を建築移轉、同時に購買部の事業を開始し、石鹼、紙、地下足袋等を取扱ふに至つた。

同九年九月保證責任組織に改め、現在の妙寺町信用購買販賣利用組合と稱し、小麥の販賣、肥料の購買を開始、同十年七月柑橘販賣の豫備として、資金の援助をなし、各部落にその出荷組合を組織せしめた。

かくて組合は、順調なる運營をつゞけ昭和十一年九月倉庫及び作業場を建築し農業倉庫事業を開始すると同時に、米、麥、小麥、裸麥等の本格的販賣に着手して業運活氣を呈し、更に同十二年二月製粉、精米、精麥、繩再製、肥料粉碎等の利用設備をなし、白米の販賣を實施した。翌三月には醫療利用に關し定款を變更し、農藥購買を始め、同十四年より柿棕櫚蕊栗及び木炭の販賣を始め、今日健全なる發展を見るに見る。

今や、時局重大なる折柄、組合の使命



一段と加つて來たに鑑み、臨戰態勢を整へて、村産業の向上生産擴充の强力なる推進力たるべく、全機能を動員し、系統組合及び關係諸團體と密接なる連繫を保つて大活躍をなしてゐる。

なほ柑橘出荷組合に、ヤマ妙、マル妙、マル廣、マル玉の四組合があり、主として當町の特産たる富有柿を出荷してゐる出荷先は京限神地方にて、大好評を博し年々需要が增加してゐる。

現役員は、理事長に池田憲三氏を推し專務理事に高橋退一氏、理事に現町長岡村留太郎、平岡時一郎、森本長左衞門、增内榮太郎、田村重孝、北浦賢一、岡本增太郎の諸氏が就任し、監事には井上政一部、松岡政雄、船越幸吉、井田宗美氏らがあり、夫々組合の經營に全力を傾けて、多大の貢獻をなしてゐる。

**理事長　池田憲一**

氏は、明治二十五年五月二十九日の生れにして、粉河中學卒、村收入役を經て、現在は當組合理事長の他、郡組合聯合會事務、町會議員等の要職を兼ねて、町内に重きをなし、世の信望を博してゐる。

**專務理事　高橋退一**

氏は、明治二十三年五月五日の生れにして、池田理事長の よき輔佐役として、業務を掌理し、組合諸事業の圓滑なる運營を圖り、著しい業績を擧げてゐる手腕家にして、令名嘖々たるものがある。

**和歌山、西牟婁、白濱町　白濱町役場**

當町は、舊和歌山藩の初代頃は、湯崎山の採鉛一時盛大であつた、歷史を有つてゐる。

郡の西部に位し、南、西、北の三方は海に面して突出せる半島にして、東は西富田村に隣り、北は海を隔てゝ田邊町に相對して居り、地勢的には、南方は平草原の高丘一帶をなし、これを分岐して小丘相連り、北西に及んで低下してゐる。地勢狹隘にして、河川と稱するものがない。

半島北西方面には番別岬、四双島、高島(四月島)、塔島の諸島あり、東方網不知灣と相對しては畠島、神島、藤島等の小島嶼が碁布し、風光頗ぶる明媚である。

白濱溫泉は名勝白良濱に沿ひ、その名勝の名を負ひて近年開拓せられ、急激に顯著なる發展躍進した新興溫泉には、すべてが新鮮に、明朗に、モダーンに設備され、また西海岸の湯崎溫泉は、自然石を以て浴槽となし、景觀天下一品と稱せられて居り、奈良朝の昔、すでに國史に現はれ、日本最古の溫泉にて、しかも近年の躍進は目覺ましいものがある。

名所としては白良濱、御船山、權現岬砂岩脈(天然記念物)、瀨戸の貝寺、臨海研究所、番所山遊園、四月島、番所の鼻自然科學博物館、洗痕(天然記念物)、野生水仙自生地、濱木綿群生地、羽衣公園小ケ浦砂岩脈(天然記念物)、行幸の芝等がある。

交通は、大阪難波、または阪和天王寺から白濱湯崎まで、汽船では大阪天保山より神戸を經由して田邊に至り、田邊文里波止場より白濱まで汽艇の便あり、飛行機では大阪木津川尻から白濱まで、日本航空輸送研究所の旅客機が航行してゐる。

産物としては、林産、農産を主とし、水産、工産等も行はれてゐる。

## 村長 今津勝太郎

氏は、明治十八年八月二十七日に生れ昭和十一年四月瀬戸鉛山村長に就任、まづ村會議員定員十二名を十六名に增員し、更に特別稅入場稅を設置する等村財政の確立を圖ると共に郡內各町村に率先して戶數割の廢止を行ひ、あるひは白濱湯崎溫泉は、從來觀光遊覽の一本槍から療養方面にも進出せねばならぬといふ見地から陸軍轉地療養所並に傷痍軍人溫泉療養所の誘致に奔走して成功せしめるなど功勞顯著なるものがある。

特筆すべきは當白濱町の實現に就いて畢生の努力を傾け、一部の反對を押し切つて、自己の信念を貫徹せしめたことである。

昭和十五年五月二代の町長に就任して以來、一貫せる信念を以て町勢の發展に盡力して今日に至る。

また一方株式會社白濱水族館取締役社長紀州硏石株式會社常取締役、東白濱溫泉土地株式會社常務その他諸會社の重役に就任して活躍し、今や當町の中心人物として令名嘖々たるものがある。

## 兵庫、武庫、大庄村 大庄村役場

當村は、もと新田と稱してゐた。濱田大島の二大字は新田の北に接し、いまは本村に合してゐる。近代この地は大島莊と呼んでゐたのを大庄と改めた。攝津志に新田の南なる大阪港の一部を以て琴浦となすに至つた。

武庫川の東岸に位し、蓬川を以て尼崎市との東方の境をなし、北は立花村にして、南は大字又兵衞の丸島、武庫川東岸の崎をなしてゐる。

產物としては、米、小麥、裸麥、蔬菜及び花卉、鷄卵、水產物、藥製品、木製品、凍豆腐、製革、疊、紐等多くを產し村勢非常に向上充實して、生々脈躍たるものがある。

大庄浦漁業組合、その他の產業及び敎化等の諸團體が活躍してゐる。

社寺には村社六、圓德寺(眞言)、源光寺(同)、興禪寺(臨濟)、廣宣寺(眞言)、淨泉寺(同)、東光寺(淨土)、佛敎會一、天理敎會三等がある。

名勝に河原左大臣の遺蹟があり、交通は、國道村の中央を東西に貫通し、尼崎市、西宮市に接し、阪神急行國道線の停留所あり、至便である。

村民は、都會地に接してゐるにも拘らず、傳統的質實淳朴の美風を傳へ、良俗をなし、時局に協力して、增產報國に邁進し、臣道實踐の忠誠を捧げてゐる。

## 村長 野里義見

村長に就任以來、村治產業の向上發展に力を致し、時局下においては、新體制村政を强化して、村民の時局認識を深めしめ、皇運發展の一翼として、臣道實踐に努力させてゐる。實力と信望を有つ名村長として聲望を高めてゐる。

## 兵庫、芦屋市打出 市會議員 增井竹藏

當家は歷代の儒家にして農を專業とせるが、中途呉服商を營み後轉じて銅製品の合資會社を創めし事もありしが、現在

養父善左衞門氏は二十七年前七十五歲の高齡を以て逝去、生前部落總代等に推され村の發展に努力せる功勞者なりしが氏は養父の亡き後を繼ぎ早くより村政に參與、昭和四年より引續き村會議員として村自治の發達に貢獻するところあり、市制施行と共に衆望により市會議員に選ばれ市の中堅人物として一般の信望篤く此間氏子總代、區長、衞生組長、隣保班長、警防團第一分團副分團長、打出部落評議員等種々の名譽職に選ばれその功勞枚擧に遑あらず、衆人の長敬する又宜なりと云ふべし。

夫人千代さんも亦婦人會顧問として盡は地主、借家業を營み傍ら農事にいそしむ。

すところあり、同會より感謝狀を受く。

三男一女ありて長男藤雄君は日大を卒へて大阪岩本商店に勤務、二男は同志社を出で、三男は關西學院在學中にて極めて圓滿なる家庭として他に羨望さる。

## 兵庫、西宮市在家町 西宮大衆飲食店組合

當組合は、當市內に居住する酒場業者を糾合し「組合員の向上、規則の遵守勵行及び善良なる風紀を保ち、且つ營業上に關し、其の福利を增進する」ことを目的として設立したものである。

以來組合員一致協力して、國家目的に卽應して、自肅自戒、諸統制を强化し、相互扶助の質的向上を圖る等着々業績を擧げて、堅實なる發展を見てゐる。

現役員は、顧問に西宮警察署長、相談役に同署營業衞生主任を推し、組合長は宮下喜與(とみよ)、同住田德市(天狗)の兩氏、幹事は鹽見小三郎、松岡一市、松井寅造、弘光まさ、吉本まき、森本松藏、桂いまる、藤原房太郎、松浪正治、福中敬次郎、木嶋利一郎の諸氏、會計は松尾藤太郎、川上作次郎の兩氏である。

## 組合長 岸信三郎

氏は、明治十九年二月、尊父善兵衞氏の次男として武庫郡鳴尾村小曾根村に生れ、家業たる農業に從事してゐたが、同四十五年神戸市灘區內において料理業を營み、組合の會計や組合長を務めて貢獻したが、大正元年現住地に轉じて、料亭東月を經營、業運大いに發展して、當地業界に重きをなし、昭和八年推されて組合長に就任、爾來斯業の刷新向上に懸命の努力を效し、世の信望を蒐めて今日に至る。

二男二女あり、長男信夫氏は、三重高等農林學校を卒業して、目下海外にある

## 神戸市葺合區脇濱町 神戸葺合燃料小賣商業組合

電話葺合五一七二番

本組合は燃料商業の改良發達を圖る爲共同施設を爲すを目的とし、昭和十五年六月十八日設立認可を得たるものである。

その區域は葺合警察署管内一圓とし、十數ヶ所の配給分所を有し所期の目的を達成するために、取扱商品の共同仕入及共同販賣、取扱商品の保管、運搬、選別を爲す爲の共同設備の設置、營業に關する統制、指導營業に必要なる資金の貸付又は組合員の貯金受入等が計畫され極めて堅實なる發展を遂げ、その前途は頗る有望なるものである。

## 理事長 北本治之助

氏は理事長就任以來組合精神の普及達成を期し、一意專心業界福利に盡瘁され、當組合に寄與すること甚大なるものがあり、非常時局下に於ける組合の指導者として、氏の今後の活躍は業界の等しく刮目するところである。

資性謹嚴實直にして、また極めて情理に厚く、斯界の信望も又絕大なるものがある。

### 神戸市神戸區元町
### 兵庫縣菓子工業組合 聯合會
電話元町三七五五番

當組合は、縣下における地區組合の統制機關として結成されたものである。

加盟組合は、神戸飴菓子工業組合、神戸花霰菓子工業組合、神戸東部同、神戸中部同、神戸西部同、城石兩郡同、川邊郡同、美方郡、明美同、加西郡同、氷上郡同、赤穗郡同、尼ヶ崎同、加印同、西播同、姫路同、淡路、多紀郡同、多可郡同加東郡同、阪神同、南但同、有馬郡菓子工業組合等である。

組合の機構は部制になつて居り、餅部、飴菓子部、燒菓子部、パン部、雜菓子部生菓子部、洋菓子部、花霰部の各部に分れ、夫々部長、委員を配してゐる。

業務組織は、總務、厚生、企畫の三部より成り、總務部は調査、統計事務を掌り、厚生部は厚生、更生、共販事業等を取扱つてゐる。企畫部は主として物資の配給を行ひ、砂糖、メリケン粉、雜穀、米、雜粉、卵、その他營業に必要な物品を取扱つてゐる。

かくの如く整然たる組織機構を有ち、新體制精神を高持して、時局協力に邁進してゐる。

## 理事長 畑牧隆

氏は、理事長に就任以來、事變下における業者の時局認識を高め、新體制商道を確立せしめて、これが健實なる向上發展を圖るべく、日夜懸命の努力をつゞけて、著して貢獻をなしてゐる。

時局に良識を有つ、高見卓識の士として令名嘖々たるものがある。

### 兵庫、芦屋市大倉
市會議員 久野嘉兵衞
電話四四二七番

當家は屈指の大地主にして、先々代の時に播州龍野在島田より當地に移住したのである。

先代の留吉氏は約十五、六年前五十一歳の働き盛りで早逝された有名な產業自治の貢獻者であつた。



當主は先代の長男として明治二十九年一月十七日呱々の聲を上げた。

現在、山邑酒造株式會社大阪支店長としてその手腕を讀へらてゐる。

同會社に在ること既に三十有一年、稀に見る努力家である。

土地にあつては信望厚く、衞生組合長隣保代表、軍事援助委員、其他氏子總代等に推され、激務の傍ら、よく果斷に物事を處理してゐる。

市制なるや、初代市會議員の要職に當選して今日に至る。

資性重厚、明敏なる頭腦の持主。

趣味として園藝を愛し、時々旅行に出かけるが、その性情の一班を窺ふに足る。

夫人りう子さんとの間に四男に惠まれ長男宗太郎君は神戸一中に通學中、である家庭は極めて圓滿にして、近隣羨望の的である。

### 兵庫、川邊、小濱村
## 小濱村役場

本村には、眞宗本願寺支院豪攝寺があり、大字米谷に延喜式河邊賣布神社、清澄寺、安倉の莊等があり、清澄寺は宇多天皇寬平年中の勅建、佛工定圓に命じ釋迦彌陀彌勒三を奏造進せしめられ、開基は益信僧正である。

平家物語に叙山の慈心坊、この寺に住し、承安二年焔魔廳へ赴き、法華を輪讀した話說が載つてゐる。

西は、長尾村に接し、武庫川の東岸にのぞみ、北は西谷村、南は武庫川を隔て武庫郡の良元村に接して居り、その南東は平原地帶にして、本村より編知山線の鐵路を境として、漸く山嶽地帶となつてゐる。

產物は食用農產物、果實、蔬菜及び花卉、觀賞植物、藥製品、鷄卵、林產、水產養殖、沿岸漁獲物、木製品、紙製品、皮革製品、竹製品等がある。

寶塚警察署巡査派出所、池田實業安倉出張所、同小濱出張所、西宮銀行寶塚出張所、愛國貯金銀行支店等があり、また教育、文化、敎化、產業の諸施設、團體等があり、夫々活躍して、時局協力に猛進してゐる。

村民は、傳統的良風を傳へ、生產擴充に全力を傾倒して、臣道實踐の忠誠に力を效してゐる。

神社には鄕社一、村社四、寺院には圓慶寺(眞宗)、光圓寺(同)、豪攝寺(同)、地藏院(曹洞)、清澄寺(眞言)、大運寺(淨土)、法仙寺(淨土)、寶泉寺(曹洞)、本妙寺(日蓮)、金光敎會二、天理敎會四等があり、村民のよき修養道場をなしてゐる。

名勝には黃金塚、清澄寺奥の院址、荒府の古址、南中山文珠院、古墳等がある

交通は、伊丹市に二里、有馬町へ三里各バス電車の便あり、大阪へ約六里、神戸へ約八里である。

### 村長 西田新吾

氏は、手腕識見秀拔の名村長として、村內の信望を高めてゐる。今や村の臨戰態勢を强化し、村民を指導して、生產擴充に努めしめ、臣道實踐の忠誠を效せしめてゐる。

兵庫、明石市公園通

## 明石自轉車小賣商業組合

當組合は、昭和十四年十二月、既設の準則明石輪業組合を、公認組合に改組して、當市一圓を區域とし、明石自轉車小賣商業組合と改稱したものである。

主なる事業は、物資の共同購入及び組合員取扱商品並に營業上必要なる物品の保管運搬をなすため共同設備を行ひ、組合員の共存共榮を計つて、時局下の產業報國に邁進してゐる。

業運も逐年健實なる發展をなし、目下隆々たる業運にあり、臨戰態勢を整備强化して、本來の使命達成に逞しき前進をつゞけてゐる優良組合としての名をなしてゐる。

現役員は、理事長に杉村純三氏、副理事長に田中文三氏を推し、常務理事に福井豐三郎氏があり、理事に梶本貞雄、吉本俵治、永田貞次、監事に山田幸太郎、中城常代、本岡重雄の諸氏が選ばれて、夫々大いに活躍してゐる。この外統制委員十二名、信用評定委員三名を置いてゐる。

**理事長　杉村純三**

氏は、明治二十七年三月の生れにして、任意組合當時より組合長として、當組合の發展に盡瘁せる功勞者であり、この他聯合會理事を兼ね、寧日なき努力をなし、幾多の業績を擧げて、組合の內外に信望を博してゐる。

**副理事長　田中文三**

氏は、杉村理事長のよき輔佐役として組合の發展に盡瘁し及び古物商組合副組合長等を兼務して、且の信賴を篤めてゐる努力家であり、一方町內副組合長として多大の貢獻をなし、

兵庫、加西、北條町

## 加西郡自轉車小賣商業組合

本組合は自轉車小賣商業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で兵庫縣加西郡一圓の同業居住者——卽ち店舖を構へ自轉車並に部分品及附屬品の小賣並に修繕を業とするものを以て設立し、昭和十四年十二月十九日に認可されたのである。

組合はこの目的達成について左記の事業を行つてゐる。

一、組合員の爲其の取扱商品の共同仕入をなすこと。

二、組合員の取扱商品の保管運搬を爲す共同設備を設け組合員をして之を利用せしむること。

三、組合員の販賣する自轉車に對し本組合の證標を附し非組合員の取扱商品との區分を明にし組合員取扱商品の信用及聲價を高むること。

四、組合員の營業に關する取締をなすこと。

五、營業上の弊害を豫防し又は矯正する爲必要ある場合に於て販賣價格の協定をなすこと。

六、組合員に對し其の營業に必要なる資金又は組合員の貯金の受入をなすこと。

七、視察員派遣並に博覽會見本市品評會等に對し出品をなすこと。

現下重大時局に直面し、幹部の努力はもとより各員一致協力し今日では縣下有數の組合として自他共に許す大存在となつた。

役員としては理事長藤本信藏、副理事長藤本文次、理事是常恒一郎、尾柴清太郎、別所熊治、高井悅次、監事荒木源治中安繁治、小谷潔の諸氏である。

**理事長　藤本信藏**

氏は組合の設立發起人として、また當理事長としては育ての親であり、東奔西走常に一貫せる努力と信念を以て斯く組合を大ならしめた功勞者である。

家は屈指の舊家にして、由緒ある家柄である。

先代も公共のためにつくして功勞があり、氏はその男として明治二十三年四月二十二日に呱々の聲をあげた。





兵庫、洲本市物部

## 淡路自轉車小賣商業組合

電話一九五番

當地方は十數年前より同業組合が存在して、津名、三原兩郡百三十名位の業者が、親睦の目的で持續されてゐたもので、この組合が主體となつて昭和十四年八月十一日小賣商業組合を認可設立するに至つたものである。組合事業としては、共同購入、物資配給、古品回收、共同販賣となつてゐる。配給等も、嚴密適正なる實績査定によつて、決定された比率によつて配給され、時局下材料薄の困難克服に組合役職員を始め組合員一同一丸となつて努力なしつゝある。殊に非常時職域奉公と統制經濟の理念指導に萬全が期せられてゐる稀れに見る圓滿な組合として組合員相互扶助の精神が徹底されてゐることは、他組合の範とするに足るものがある。

現在の役員は顧問に兒島常次郎、北野要次郎、元地由藏諸氏、理事長土居國吉氏、副理事長高武春次郎氏、理事會計佐和萬兵衞氏、理事に仲田淺二郎、霜篤雄鳥谷義雄、細春男、森田乙一、山鼻國太郎の諸氏、監事に金山良三、潮崎福松、眞野竹郎、井新一の諸氏が夫々鞅掌して獻身的盡瘁をなしてゐる。

**理事長　土居國吉**

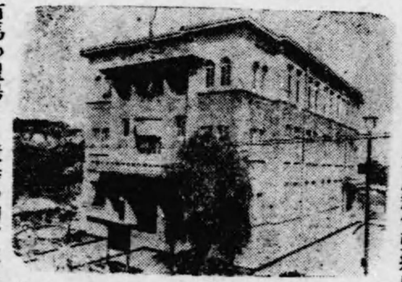
氏は淡路島松帆村の出身にして、明治十二年十二月三十一日、松藏氏の長男として呱々の聲を擧げた、代々農業をなしてゐたが、後井戸ポンプ商に轉じ又、自轉車商を營む樣になつた。輪界に入つてから既に三十年に及び、當地方業界の草分的存在でもある。現在遞信省御用商として、車を納入して

ゐる。資性溫厚篤實、殊に眞摯公共に厚い人で、遂に推されて當組合理事長に就任、爾來私を沒して組合發展を思念してゐる。曩には部落會計軍友會後援會々計等もなし盡力多大なるものがあつた。今後益々組合内容の擴充に嘱望される處である。自宅電話は洲本一九五番。

## 兵庫、芦屋市芝ノ欠
町會長 **長谷川猶助**

氏は大阪市東區内淡路町二丁目に先代猶助氏の男として、明治二十四年五月二十六日に呱々の聲を擧げた。家は質屋を大きく經營してゐたが、若き頃病弱の爲め、佛門に入り、利井興隆師に師事して修養する處あり、當市に來住して既に二十年に及ぶが、その間當市佛教會館の理事として、宗教を通しての精神指導方面に盡力する處大であつた。現在町會長の要職に推され、時局下總動員の細胞基根たる町會の運營指導に獻身的盡瘁をなしてゐる。資性淳厚篤實にして眞摯圓滿の人格は衆望極めて厚いものがある、家庭はとみえ母堂七十五歳、健在として、長男は高等農林卒後縣農務課に奉職、次男は帝大在學中、三男は和歌山商業を卒へ神戸製鋼に勤め四男は濱松高工在學中にして、何れも皆秀才揃ひにて、氏の薫陶と人格の表示とも云ふべきである。

## 兵庫、武庫、鳴尾村
# 鳴尾村役場



有馬の溫場より遠幸の砌、駐蹕ありし武庫行宮の跡と傳へらる。

大阪灣に沿ひ、武庫川の三角洲に立つ地勢平坦海拔四米を超えず、武庫川の派流枝川は、支流申川と共に廢川となり、敷地は阪神電鐵に拂下げ、廣大なる運動場となつてゐる。この地競馬場、野球場を以て有名である。

産物は、食用農産物、果實、蔬菜及び花卉、觀賞植物、藁製品、鷄卵、沿岸海漁獲物、靴、水産加工物、織物、肥料、木製品、疊、植物油等を産し、殊に花卉村として知られてゐる。

川崎航空機工場、鳴尾浦漁業組合、その他産業、文化團體や會社工場等があり教育、敎化保健衛生施設設備が充實整備してゐる。

神社は、縣社一、村社三、無格社二あり、寺院西方寺(眞宗)、西光寺(淨土)、淨願寺(眞)、乘誓寺(同)、常福寺(同)、善敎寺(同)、等覺寺(淨土)、天理敎會二金光敎會一等がある。

名勝には武庫學園、義民の碑、甲子園甲子園野球場、甲子園南運動場、甲子園プール、鳴尾競馬場、鳴尾ゴルフ倶樂部等がある。

交通は、阪神電車鳴尾停留場及び甲子園停留場、また甲子園線及び國道線停留



場あり、なほ村の中央を流れる鳴尾川は船舶の入津するもの次第に多くなつて、殷盛を呈してゐる。

## 兵庫、伊丹市伊丹町
伊丹飲料組合聯合會長 **宇杉守一**

電話六〇八番

當家は先代養父市松氏の代まで米穀商を營み來つた老舗にして、その信評厚きものがあつた。その後生肉を營み、合資會社組織を以て大きく經營されたが、當主守一氏は昭和十五年之を株式會社に變更し、その代表者として敏腕を揮つてゐるが、當地方の代表的商舖として、業界に重きをなし、現在兵庫縣食肉組合聯合會阪神北部支部長、伊丹飲料組合聯合會會長、川部郡洋酒食料品組合長等、現下統制經濟の强力なる推進が要望される折柄之等の中樞的重責を擔ひ、國策の線に沿つてその明敏なる頭腦と手腕を揮つてゐる。又、借家組合理事、隣保組長、軍事援護部長、衞生委員等の公職に盡瘁し名實共に青年少壯事業家として、その他多數の事業に關與し、その溫厚雅寬の風格と共に衆望頗る厚く前途を嘱望される處多大である。

## 神戸市兵庫區西出町
# 兵庫縣劑節製造工業組合

電話八二三番

當組合は、縣下において、動力設備を有する劑節製造業者を以て昭和十六年五月に設立したものである。(槌本理事長)

設立いまだ日淺いにも拘らず、幹部諸氏の經營よろしきと、組合員一同の協力により、順調なる運營を辿り、業績見るべきものがある。(藤本專務)

殊に、時局下國家の要請に從つて、内部の統制を强化し、歩武堂々、組合本來の使命達成に努め、臣道實踐の遑しき前進をつゞけてゐる。

現役員は、理事長に槌本秀雄氏を推し專務理事に藤本良太氏、理事に岩本源太郎、福井喜一、中村吉松、監事に富永美之助、山田知の諸氏が就任して、業運の向上發展に獻身的努力を政してゐる。

**理事長 槌本秀雄**

氏は、明治三十四年十二月の生れにして、夙に業界一方の雄として知られ、衆望に推されて、當組合理事長に就任以來、挺身これが運營に備悶して、渺からざる貢獻をなしてゐる。

現在この他、全國劑節製造業組合聯合會理事、兵庫縣劑節業聯合會常任監事等の要職にあり、斯界の立役者として重きをなしてゐる。

**專務理事 藤本良太**

氏は、槌本理事長のよき輔佐役として、組合の煩雜なる業務一切を引受けて閊然するところなく處理し、快腕を謳はれてゐる。

この他縣劑節聯合會常任監事を務めて

ゐる。

兵庫、西宮市戸田町

東部西宮飲食店組合長　**植野茂市**

電話(代表)三五三五番

當地生肉店、食堂界に於てその盛業を以て知られる氏は、廣島縣忠海町の出身にして、廣助氏の次男として明治二十一年六月二日に呱々の聲を擧げ、夙に志を樹てゝ、上京市淺草六區にて大衆食堂を經營し、非常な繁榮を見てゐたが、彼の大震災に遇ひ、烏有に歸し、來神し牛肉店を創業、その明敏なる頭腦と事業的手腕は逐年の擴大をなして、本店を西宮市今津久壽川町に置き、支店を西宮市戸田町(電話三九八七)阪急西宮北に市場、省線甲子園驛前(電話西宮二七九六)に置き、その他食堂を各店に經營して何れも盛業中であるが、近時更に遠く朝鮮方面までその駿足を伸し事業的才腕益々顯然たるものがある。氏は又公共方面にも意を用ひる處極めて深く、現在東部西宮飯食店組合長、生肉組合西宮支部長、縣生肉同業組合理事等の重職に推され、時局下統制經濟の推進に盡瘁する處多大である。その他町内役員等をなしてゐる。夫人も又婦人會役員たり、間に三男三女を惠まれ、長男益太郎氏も既に氏を輔けて活動してゐる。

資性溫厚篤實にして、殊に大度寬仁の人格は衆望極めて厚く、今後益々その發展が約束されてゐる。

兵庫、川邊、園田村

**川邊郡**包裝木箱**工業組合**

電話尼崎二四四九番

當組合は荷造用包裝木箱製造業者を網羅して、昭和十五年十月一日認可設立された組合にして、現下業界の繁忙は一層規格の統一、價格の適正、企業の統制合同等が要請されてゐるが、當組合に於ても之が實踐に理事長以下各役職員組合員を打つて一丸とし、着々その成果を擧げてゐる。

**理事長　廣田誠太郎**

氏は代々農を營み來つた舊家に、明治三十四年十二月五日眞次郎氏の長男として呱々の聲を擧げた。明石農學校を卒業後、園田村役場に奉職、後大阪市役所商工課に勤務せるも企業的敏腕に富む氏は嚴父の木箱製造業を繼ぎ、之が繁盛に努力し來つた人である。既に斯業を經營する事二十年に及び業界に重きをなす人である。遂に當組合の理事長に推されて、その基礎確立と發展の爲めに私を沒して献身的盡瘁をなし溫厚篤實にして、眞摯誠心の人格と共に信望極めて厚きものがある。氏は又公共方面に思念する處頗る厚く、曩には青年團長として時局下青年層の指導鍛錬に功績を殘し、現在隣保組合長として、隣保扶助の精神的指導に任ずる等その功績は大なるものがある。當組合の將來も、氏の明識と敏腕に多大の囑望を以て俟たれてゐる。自宅は伊丹市寶塚町二ノ九。

兵庫、武庫、本庄村

**武庫郡**纖維製造小賣商業**組合**

電話御影四四四六番

本組合は、昭和十四年八月に設立を認可され、事務所を當村青木に置き、芦屋市、本庄村、本山村、魚崎町、住吉村、



御影町、山田村の一市六ケ町村を業務區域とし、組合の臨戰態勢を强化して時局協力に邁進すると共に、統制下における組合員の業務向上に專念して、優良組合たる名を成してゐる。

現役員は、理事長に野邊順一氏を推し副理事長に木戸慶次郎氏、常務理事に野口山茂氏が就任して居り、理事に淸瀧信次郎、幸田淸、監事に合川勇市、廣政榮三郎の諸氏が選任されて、夫々組合のため活躍貢献してゐる。

**理事長　野邊順一**

氏は、明治三十七年七月二日に生れ、京都同志社經濟科卒業の逸材にして、克く組合の理事長として職責を完うし、衆望に酬ゆべく、一意專心努力しつゝあり、この外村會議員(二期)、商工會副會長、靑木町内會聯合會副會長、芦屋保安協會常任理事、物價査委員、本庄村聯合衞生組合長等の要職にあり、更に兵庫縣護謨被服小賣商組合聯合會副理事長、同縣纖維製品小賣商業組合聯合會監事、等を兼務して、當地方に有力な地歩を占めて健闘してゐる。

兵庫、武庫、上甲子園

關小兒科病院長　醫學博士　**關嘉一**

電話(代表)六〇八番

氏は、明治二十四年三月十日の出生にして、幼少より頭腦明晰、才識衆に秀れ長じて醫學を以て身を立てんと志し、金澤醫科大學に學び、優秀なる成績を以て卒業、直ちに京都帝國大學醫學部に勤務し、日夜研鑽をつゞけて醫學博士の榮冠を授與された。のち西宮回生病院に轉じて、專ら臨床の研究を深め、昭和十二年十二月、現在地に敷地七百坪を求め、三十餘の病室を有する堂々たる小兒科專門の病院を設立した。設備の完備せること阪神間における斯界隨一の定評があり、盛業を極めてゐる。

事務長は萩原純一氏にして、醫師數名看護婦、その他を合し三十餘名の從業員を擁してゐる。

資性溫雅淸秀、名小兒科醫として、世に深く信頼されてゐる。

當關家は、當地方における有數の素封家にして、養父圓次郎氏と貴和夫人があり、圓滿な家庭を營んでゐる。

兵庫、芦屋市

**芦屋金光教會所**

當教會は、大正四年七月の創立にして阪神隨一の莊麗なる殿堂と稱せられ、つねに善男善女の信者が門前市をなす盛況にあり、殊に例祭は、滿場立錐の餘地なきまで參集するので有名である。

**主宰者　上西利三郎**

當家は代々農業を營んで來たが、尊父淺吉氏の代に至り、實業に轉じ、八十八歲の高齡に達して他界した。

氏はその男として、明治十七年五月一日に生れ、夙に金光教を信奉し、武庫郡御影

教會にて、明治四十二年より大正三年まで修業、その間明治四十四年教師となり大正四年七月教會を設立して、今日に至り、一千餘名の信者より清秀溫雅の人柄として敬仰されてゐる。

令室すゑさんは、婦徳の譽れ高く、内にあつて内助の功を積んでゐる。

二男一女を惠まれ、品位ある家風をなし、宗教家としての和やかな家庭を營んでゐる。

なほ、氏は縣下川邊郡中谷村の出身である。

## 兵庫、尼ヶ崎市昭和通
## 阪神熔接工業組合

時局下の統制と要求に應じて、委託により金屬をアセチリン瓦斯又は電氣を以て熔接加工業を營む者を網羅して、昭和十四年十一月二十三日設立認可されたものである。地域は尼ヶ崎市、西宮市、伊丹市、川邊郡、武庫郡瓦木村、鳴尾村、本庄村となつてゐる。

之が創立に當つては非常なる努力が傾注され、昭和十四年六月六日付、加藤玉之助、野々重太郎、池邊政義、大本高一、富永健治、傳反清太郎、松山好廣、山本久太郎、葛下榮太郎の諸氏が創立發起人となり、出資見込數二百七拾として、工業組合設立發起人届を提出し、同時に創立事務所を尼ヶ崎稻川新田三番地加藤玉之助氏方に置き、同業者に呼び掛け遂に組合員七十一名出資口數二九六口に達し名實共に、本格的組合設立となつたもので、爾來役職員の協力指導により、組合業績の顯著なる發展を見つゝある。初代理事長として蒼生期組合の經營に努力盡瘁せるは加藤玉之助氏にして專務理事の石川茂夫氏野口重太郎氏が太く盡瘁した。加藤理事長その功績と人格を惜まれて逝去の後を、現理事長藤口寛三氏が繼ぎ益々組合伸張の爲めに敏腕を揮つてゐる。

氏は富山縣の出身
大正六年兵庫縣巡査を拜命、同十三年一

度び退職、間もなく再び拜命、以來昭和十三年迄警察署、工場課、衞生課等に敏腕を揮つた人で、その溫厚篤實にして、仁徳に厚きは、常に一般の親しみ衆望厚きものがあつた。氏は退官するや、極東製鋼株式會社重役となり、市會等にも推薦されたが、當組合の懇望に依つて遂に當組合理事長に就任、爾來統制經濟下、眞に國策の線に副える、工業組合としての運營に獻身的盡瘁をなしてゐる。

## 神戸市林田區大池町
## 兵庫縣魚粕工業組合

當組合は地區を縣下一圓とし、魚粕製造業を以て組織し、昭和十二年一月七日設立認可を見たものである。現在組合員十名にして、肥料報國の誠心を以て組合一丸の下に增產擴充の强力な推進がなされつゝある。組合事業としては共同出資をはじめ、共同販賣、共同仕入、生產に必要なる諸備品消耗品の配給等にして、買入價格の統制並に實績配給の嚴密適正には萬全の施策が行はれてゐる。

現在組合指導推進の中核として精勵す



る役員は、理事長に植田長次郎氏、常務理事に森本鹿造氏、監事に黒田茂八氏阪井田氏等が夫々眞摯職域奉公信念を以て鞅掌してゐる。

### 理事長 植田長治郎

氏は丑松氏の長男として明治四十二年八月三日に呱々の聲を擧げた。昭和六年神戸高等工業學校機械科を卒業後三年間大阪市工場に勤務したが、嚴父の逝去に遇ひ家業たる製肥業を繼ぎ、昭和九年關西製肥合資と組織變更を見て、その代表者となり業界に重きをなすに至つた。現在理事長として組合の經營を双肩に擔ふのみならず、警防團分團長、會計、前町内會長、隣保組合長、保安協會理事等の多數の公職を歷任して多大な貢獻をなし、溫厚篤實にして眞摯の人格と共に將來益々嘱望される處大である家庭はつる子母堂、喜代子夫人との間に一男あり平和なまどゐをなしてゐる

## 神戸市湊東區楠町
## 兵庫縣熔接工業組合

電話元町一三〇五番

時局下吾國の統制經濟は一層徹底が期せられつゝあるが、當組合に於ても縣下の業者を加入資格として創立されたもので、配給等も嚴密なる實績査定の結果行はれてゐるので極めて圓滑なる組合事業の運營を見つゝある、理事長始め各職員の協力一致により、益々今後の伸展が期待されてゐる。

### 專務理事 谷口壽雄

氏は鳥取縣の出身にして明治二十八年三月四日の生れである。

鄕里の實業學校を卒へて大いなる希望の下に來神し、川崎造船所に入り、或は臭服商を經營する等、異色ある少壯時代を經て、三十五歳にして市會議員に當選、二期選出され、市政上に大く貢獻する處があつた。後合資組織による鐵工所を創立して、その代表者となり、或は日本土木建築通信事業に着手する等幾多の經驗を經て、當組合の設立されるや、專務理事の重責に推され、組合員の統率、組合事業の經營等に敏腕を揮ひ、組合推進を双肩に寢食を忘れて盡瘁してゐる、資性溫厚篤實にして寬容、殊にその行動力の廣きことは正に組合管掌者としての適役とも云ふべく、組合員の信望もまた頗る厚いものがある。

## 兵庫、西宮市和上町
## 西宮燃料小賣商業組合

電話七九二番

當組合は、昭和十五年一月、市内に居住する業者を糾合して組織し、同年六月設立を認可されたものにして、縣下における同種組合中最初に設立されたものである。

設立當初の業務地區は、市内一圓であつたが、現在は西宮警察署管内一圓に擴大し、區域内に十三ケ所の配給所を置き運營の圓滑を計り、業績大いに擧り、順

調なる發展を遂げつゝある。

今や時局下における組合の任務、益々重大性を加へて來たに對し、組合員一同戮心協力して、これが使命の遂行に力を效し、臣道實踐の誠を捧げ、優良組合の名を成してゐる。

**理事長　長谷川幸一**

氏は、明治二十九年三月一日の生れにして、當組合の理事長に推されて以來、これが發展に一身一家を顧みず、日夜碎勵奮闘し、清雅高潔の人格と相俟つて、組合の内外に信望を博してゐる。

現在は、この外西宮商工組合協會理事長、兵庫縣燃料小賣商業組合聯合會理事長、縣商工更生委員等の要職を兼務して、濶達自在の敏腕を揮つて、少からざる貢獻をなしてゐる。

## 兵庫、加古、加古川町
## 加古郡豆腐商業組合

當組合は、既設任意組合の加印豆腐商組合を、前理事長今井秋太郎氏等の發起により、現在の公認組合に改組して、昭和十五年九月設立を認可されたものにして、區域は當郡一圓とし、高砂町、尾上村、荒井村等を除いてゐる。

以來、組合員の共存共榮を計るため、營業上必要なる豆及び油の共同購入をなし、これが圓滑なる配給を行ふべく、役員一同献身的努力をなし、非常時局下にあつて使命遂行に驀進してゐる。

現役員は、理事長に谷川利助氏が推され、常務理事に山本俊氏、理事に小倉福太郎、吉岡士次郎、村崎惣藏、小寺美之の諸氏が就任して、組合の圓滑な運營に懸命の努力を捧げてゐる。

**理事長　谷口利助**

明治二十年八月四日の生れにして、當組合理事長の外、多くの要職に就て貢獻し、功勞尠くない。

時局下組合の臨戰態勢を整備して、使命の達成に挺身努力してゐる。

資性温厚篤實にして、高邁なる識見は組合の内外に深く信頼されてゐる。

**常務理事　山本俊**

氏は、明治七年九月二日に生れ、夙に警察界に入り、部長に昇進して退職、のち大阪毎日、時事新開社等の記者として活躍し、更に商工會加印菓子工業組合專務理事等を勤めて手腕を揮ひ、昭和十五年三月、當組合の常務理事に就任して、谷口理事長のよき輔佐役として健闘して業績を擧げ、世の信望を博してゐる。

**神戸市神戸區下山手通**

## 神戸疊表商業組合

電話葺合二一一〇番

當組合は、市内における疊表、疊用縁布、上敷、疊用縫糸、疊床用麻糸、疊床用縁、疊床板、上敷用鋲、疊用紙等の問屋を專業とするものを糾合した、既設の準則組合神戸市疊表商同業組合を基幹として、昭和十五年一月公認組合に改組したものである。

現役員は、理事長に井上權一氏を推し理事には桑田增五郎、高井三之助の兩氏が選ばれ、監事には道谷佐一、市川清太郎、奥原丈夫、坪田九三郎、岡本春敎、川島英一、藤原利雄の諸氏が就任してゐる。

今や、時局下における組合の使命重大なるに鑑み、幹部役員を始め、組合員一同協心戮力して、機構を強化し、組合の發展を計ると共に、職域奉公、臣道實踐の誠を捧げてゐる。

**理事長　井上權一**

氏は、明治十五年五月二日に呱聲を擧げ、夙に頭脳明敏の手腕たる名を博し、當組合設立發起人として多大の貢獻し、現在は理事長の外、町會副組合長等を兼ねて盡力してゐる。

資性温厚篤實、實行力旺盛な人柄として組合の内外に信望を深めてゐる。

家庭もまた氏の人格を反映して、平和な營みをなしてゐる。

## 兵庫、宍粟、山崎町
## 宍粟郡豆腐商業組合

當組合は、既設の申合組合山崎豆腐組合を、現理事長北東佐太郎氏及び田中義一郎、溝端秋吉、後藤喜久太郎等の主唱發起によつて、内容を刷新強化し、當宍粟郡一圓を區域として組織したものである。

創立以來組合員の共同利益增進を目的として、主なる資材の大豆及び油等の共同購入並に配給に全力を傾け、圓滑なる運營をつゞけて、順調な發展を見てゐる。

現役員は理事長に北東佐太郎氏を推し常務理事に久崎正一氏、理事に橋本亘、植木正雄、内海慶太郎、淺城松藏、平瀬明市の諸氏、監事に井上常吉、笠波庄吉、小倉專次の諸氏がある。

**理事長　北東佐太郎**

氏は、當組合創立以來の功勞者にして、理事長に就任すること茲に十數年前より、白絲製造組合、皮革同業組合等の任意組合が存在したが、昭和十一年十二月七日、一九七名の組合員を網羅し工業組合の設立認可を見たものである。

組合事業としては原材料の共同購入は元より、共同施設工場として、製皮作業場を設置して、本格的組合事業の運營を見てゐる名實共に業界の代表的優良組合として知悉されてゐる。現在資本貸付及貯金受入等をなすの外事務管掌の確立、技術の向上等に力が入れられてゐるが、

## 兵庫、飾磨、高木村
## 高木皮革工業組合

電話一一四五番

時局下皮革生産の質的向上と、之が增産擴充は最も緊要のことゝされるに至り、當地に十數年前より、白絲製造組合、皮革同業組合等の任意組合が存在したが、昭和十一年十二月七日、一九七名の組合員を網羅し工業組合の設立認可を見たものである。

組合事業としては原材料の共同購入は元より、共同施設工場として、製皮作業場を設置して、本格的組合事業の運營を見てゐる名實共に業界の代表的優良組合として知悉されてゐる。現在資本貸付及貯金受入等をなすの外事務管掌の確立、技術の向上等に力が入れられてゐるが、

温雅清秀の人格者にして、非常に公明

常に生産機構としての職域奉公の理念高揚に指導眼目が置かれてゐる。現在の役員は理事長三浦己之助氏、專務理事に大西徳蔵氏、廣瀬澤寛次氏、理事に北田慎三郎、淺鹽佐蔵、新白源五郎、石井直正石塚秀義、增本重蔵、三浦己之次、北中福一、川口純二、原野市助、上杉辰應、藤本尚次の諸氏、監事に金田一男氏、新田角次氏が夫々鞅掌して献身的盡瘁をなしてゐる。

**理事長　三浦己之松**

當家は高木村に於ける舊家にして、且最も古くより加工業を經營し來つた製造家にして、氏は明治三十一年十一月三日に呱々の聲を擧げ、若き時代より、斯業の國家的重要性に着眼、その發達伸展に努力し來つた人で、名實共に業界の中樞的材幹として衆望厚く、昭和十六年二月遂に當組目三代目理事長に推され、爾來統制經濟下、重要生産部門の一翼の重任に、私を没して眞摯なる努力を傾注してゐる人である。その指導統率は克く組合の基礎を確立し、模範組合としての運營を顯現しつゝある。責性溫厚大度衆望極めて厚いものがある因に自宅電話は姫路の二七三五番である。

## 兵庫、神崎、香呂村
## 神崎郡豆腐商業組合

當組合は、昭和十五年十月、郡内の業者を糾合して設立したものである。爾來戰時經濟下における組合員の共同利益をはじめ、營業上最も必要な大豆及び油等の資材の共同購入に主力を注ぎ、これが圓滑なる配給に專念し、組合員は資材の不足勝なる窮屈な營業をつゞけ、時局に協力して、臣道實踐の忠誠を效してゐる。

組合員の時局に對する良識は、これが組合によく反映して、組合の臨戰態勢が强化されて、遥ましい前進を見てゐる。

**理事長　田中藤太郎**

就任以來、時局下における組合精神の普及徹底に寧日なき活躍なし、これが向上伸展に寄與し、その業績洵に顯著なるものがある。

責性溫厚敎實にして、業界の信望は絶大なるものがあり、家庭もまた氏の人格を反映して、極めて圓滿な營みをなしてゐる。

## 廣島、豐田、幸崎町
## 守安恭次郎

先生は廣島縣下各小學校長を歷任され少國民訓育に碎身の努力を致され敎育界に貢獻された足跡は洵に偉大なるものがある。然るに昭和十年後進に道を開く篤志を以て幸崎尋常高等小學校を最後に、父兄、兒童愛惜の中に勇退された。

先生は幸崎青年團長、同女子青年團長等の要職を歷任され、現在大政翼贊會豐田郡協議員、同會幸崎支部理事長等の重職に在り、又關係事業として資本金四百萬圓幸崎船渠會社重役を兼ね日夜間斷なき活躍を續けられてゐる。

先生、責性豪快にして識見卓拔、しかも不言實行主義の偉材にして有史以來の非常時局下に在る帝國の國策に順應し以て東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期され、これが重要なる推進力として先生の存在は萬人尊崇の的である。



## 廣島、豐田、幸崎町
## 渡瀨國民學校

當校の開設は相當古く、殊に敎育地としての環境に惠まれ、土地の人々は一般に勤儉純朴にして近鄕でも、評判の所である。これは一に當校の德育主義敎育がそのまゝ土地の美風を醸成したものとして專らの評判である。

敎育方針としては勅語の實踐にその指標を置き、校長以下職員は一致協力して兒童の敎育に當り、今では縣下でも有數なる模範校として知られるやうになつたのである。

**校長　田阪徹百**

氏の家は連綿たる舊家にして屈指の家柄といはれてゐる。

先代は家業の傍ら、產業公共につくした大功勞者である。

氏はその男として明治二十六年一月二日に呱々の聲をあげた。

幼にして大器として矚目され、向學の志に燃え、夙に福山師範學校、長期講習科を卒業し、同縣下の各地に敎員として奉職し、日夜孜々として育英の改良と研究をし、あらゆる困難を克服して、遂ひに校長の地位に拔擢されるに至つたのである。

責性勤直にして信望篤く、清濁合せ呑む度量は人の長として持つて來いである。

兒童に慕はれること、また尊敬されること慈父の如きも蓋し偶然ではない。

氏の如きは敎育家として典型的な人物と云へやう。

家庭はその人格を反映し、恒に明朗である。

尙、特記すべきは敎育勅語五十周年記念には敎育功勞者として表彰され、勳八等を賜はつてゐることである。

## 廣島、豐田、幸崎町
## 橋本環

町會議員

當家は連綿たる舊家にして屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、公共のために功勞ある人であつた。

氏はその男として呱々の聲をあげた。

幼にして大器たる素質の人として大いに矚目されてゐた。

夙に廣島縣巡査を拜命し、國民保護使命のため身を挺してつくしたのである。

昭和五年退職後は幸崎町の町政に關與し、部落民よりは慈父の如く慕はれ、また青年に政治思想を鼓吹して、地方自治の認識に貢獻し、現在町會議員として令名嘖々たるものがある。

責性重厚にして信用篤く、清濁合せ呑む大度量の人として、部下に親しまれ、人にも立てられるのである。

今やその圓滿なる人格と相俟つて、町政方面の重鎭として堂々たる貫祿を示すに至つた。

一家その人格を反映し、明朗なる家庭をつくつてゐる。

## 廣島、豐田、幸崎町
## 藤森茂次郎

町會議員

當家は代々の舊家にしてまた屈指の篤農家である。

先代は家業の傍ら、產業自治のため功をつくした人である。

當主はその男として明治五年一月五日に呱々の聲をあげた。

幼にして大器としてその將來を嘱目され、夙に土木事業に關係し、その道の天才とまで云はれるやうになつた。

資性重厚にして信用篤く、清濁合せ呑む度量は、氏の業に持つて來いである。

それでも、長い間には幾多の困難に遭ひ、それを全部突破して今日の大をなすに至つたのである。

幸崎町の土木部長として、また現在、當町の町會議員として幾度か表彰されてゐる。

また大政翼贊運動の奉持者として地方指導に盡してゐる。

家風も人情を重んじ、義理に堅く近郷でも模範家庭として噂が高い。

## 廣島、豊田、幸崎町

防諜團長　**藤岡悦次郎**

當家は代々の舊家にして屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、公共のため功勞のある人であつた。

先代は家業の傍ら、公共のために功勞のある人である。

氏はその男として明治五年一月五日に呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦明敏にして大器として嘱目されてゐた。

夙に風雲の志に燃え、海洋方面に方針を立て、明治三十一年に時の遞信大臣末松謙澄閣下より丙種運轉士の船長免狀を授與され、以來航海に專念し、船長として海上生活すること約三十餘年、航海技術家として蘊奥を極め、その道の尊敬を一身に集めた人である。その間には幾多の苦酸を嘗め、血と汗を以て築き上げたものであつた。

既に、功なり名遂げたる氏は、すべてを完遂して海上生活に別れを告げ、餘生を悠々と送るべく、陸に上つてからは、船舶の仲介業を營み、また瀬戸内海汽船の荷客扱店の店主として專心努力し、日と共に大を成して今日に至つた。

資性溫厚にして信望あり、忠海警察署管内船舶仲介業組合長を二十年間勤續し同町撰果場建築當時、その監督に推され自己の利益を全然度外視して至誠の奉公したことは人の記憶に明である。

現在、幸崎町防諜團長として、重大なる使命を擔つて國家のために働いてゐる。

令室おとさんは夙に貞女の譽高く、一女睦子さんあり。

圓滿なる家庭として知られてゐる。

## 廣島、豊田、幸崎町

### アカネコ百貨店

當百貨店は昭和二年の開業にして、開店當時は人々に理解されず業績も大したものではなかなつたが、薄利主義、即ち當店主の營利を度外視した經營方針が漸次知水渡り、特に日夜孜々として努力したその效が酬ゆられて遂ひに今日の大をなすに至つたのである。

店主　**大内　初雪**

氏の家は連綿たる舊家にして屈指の家柄である。

嚴父新松氏は當代小型造船界の巨匠といはれ、現在は第一線から退いてゐるが產業界につくした功勞は絶大なものである。

當主はその長男として明治四十一年一月八日に呱々の聲をあげた。



幼にして大器たる素質に惠まれ、その將來を嘱目されてゐた。

前記の通り百貨店を經營し大成功を收めるとともに、昭和十二年より、幸崎劇場を新築經營に乘出し、地方娯樂、文化のため大貢獻をつくしてゐる。

資性剛直にして不言實行家といはれ、恒に寡默なれども一度口を開けば頗る雄辯家である。

氏は斯く多忙な事業を持つてゐる傍ら公共のためつくし、前には幸崎青年團分團長として數々の範を遺して後進に讓つてゐる。令室つる子さんは夙に淑德高く良妻にしてまた一男一女の賢母でもある。

長男醇さんはよき後繼者の素質を備へ、長女みゑ子さんまた、溫和な性質である。

恒に明朗なる家庭として評判である。

## 廣島、豊田、幸崎町

町會議員　**今井長市**

當家は連綿たる舊家にして屈指の素封家である。

先代は家業の傍ら、公共のために功勞のある人である。

氏はその男として明治二十年一月九日に呱々の聲をあげた。

幼にして大器として將來を嘱目されてゐた。

家業に對しても、恒にその發展と改良に心を碎き、あらゆる困難を征服して遂ひに今日の大をなすに至つた。

資性重厚にして信望篤く、町會議員には數回推されまた農道の實踐家として知られてゐる。

現在、引續き幸崎町々會議員、大政翼贊會幸崎町理事、同郡協力會議員、部落團體の長として重きをなしてゐる。

長男英雄氏は幸崎町役場の書記より、抜擢され、目下忠海町農會の技手として令名嘖々たるものがある。

一家恒に明朗にして羨望される家庭である。

## 廣島、豊田、幸崎町

產業組合信川評定委員　**沖野清松**

當家は連綿たる屈指の舊家にして、由緒ある家柄である。

先代は家業の傍ら、公共のために功勞を致した人であつた。

氏はその男として明治三年九月に呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦抜群、大器として嘱目され、大正初年頃には船長として航海業に從事したが、家庭の事情にて永く海上生活をなし得ず、歸鄉して土木工業事業に着手し、傍ら公共產業のため、町政のために盡力し、產業組合信用評定委員となり、また前には村會議員に當選すること三回、本能地組長六期を勤め、今日まで始終一貫せる信念と遠大なる抱負を以て自治發展のため功勞をつくしたのである。

夙に陸軍歩兵として明治二十七八年日清戰爭に從軍、朝鮮、九連城、牛莊に轉戰し勳八等を授與された勇士である。

資性重厚にして信望篤く、清廉潔白にして、俠氣に富み、人情を重んじ、義理に堅く、部下に慕はれ、人に尊敬される德自ら備はる。

自治の功勞者としては町からも表彰されてゐる。

家庭には令夫人りよ子さん——六十六歳。長男米吉氏——陸軍上等兵。二男覺氏は船長。三男喜代一氏また陸軍兵器製造所のみどり丸船長として活躍中。

一家斯く、よき子福に惠まれ、恒に和氣靄々として、笑聲に滿ち、頗る明朗な模範家庭である。

## 廣島、豊田、幸崎町
幸崎郵便局　**木村富士夫**

當家は連綿たる舊家にして屈指の素封家である。

先代龜吉氏は瀬戸内海に於ける船渠の先驅者として造船界に貢獻したことは甚大である。また傍ら、郵便局の經營に當り、町民の利便、並びに遞信界にも絶大なる功勞を盡してゐる。

同氏は、初代の産業組合長として産業自治の功績もまた大きい。

當主はその男として呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦明晰、大器として囑目されてゐた。

向學の志に燃え、夙に法政大學を卒業し、鄉里に歸つて郵便局長に就任し、爾來、その業務の研究と改善に心を碎き、あらゆる困難を突破して、今では縣下でも有數の郵便局として知られるに至つた。

資性重厚にして信用篤く、殊に清濁合ひ呑む度量の人として部下を愛し、從つて人にも立てられるのである。

家庭は氏の人格を反映して恒に明朗である。

## 廣島、豊田、幸崎町役場内
**大政翼贊會幸崎支部**
支部長　**天野米次**

氏の家は代々の舊家にして屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、産業自治に功勞ある人であつた。

氏はその男として呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦明晰、大器として囑目されてゐた。

現在幸崎町長として町政方面を一身に引受けてゐる人、資性重厚にして信望篤く、當會支部長としても一貫せる信念と大いなる理想を以て指導し、至誠の奉公を致してゐる。

今や氏は如何なる點に於ても町の第一人者として押しも押されもせぬ貫祿を示すに至つた。

家庭は常に氏の人格そのものが反映して明朗を極め、近隣羨望の的となつてゐる。



## 廣島、豊田、幸崎町
**久和喜國民學校**
校長　**土肥敏幸**

當校の開校は相當に古く、殊に教育地としての環境に惠まれ、地方民一般として勤儉純朴にして近鄉でも評判の所であるが、これ一に當校の德育教育主義が、そのまゝ土地の美風を作り出したものと言はれてゐる。

教育方針として勅語の實踐に指標を置き、校長土肥敏幸氏以下職員一同、一致共同して、その教育に精勵し、今では縣下でも有數なる學校として知られるに至つた。

氏の家は代々の舊家として屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、公共のために功勞のある人であつた。

氏はその男として明治三十六年十一月二十三日に呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦明晰、夙に大器としてその將來を囑目されてゐた。

向學の志に燃えたる氏は、大正十三年廣島師範學校を卒業し、一年現役として陸軍々曹になり、同縣下の各校に教員生活を送り、日夜孜々として育英のためにつくし、現在、當地の久和喜國民學校長に拔擢されたのである。

資性重厚、信望篤く、清濁合せ容む大度量は部下の教員に慕はれ、人の長として申分がない。

兒童も從つて氏の人格に融け込み、非常によい習慣ばかり植えつけられてゐるといふ評判である。

一家明朗なる家庭である。

## 廣島、豊田、幸崎町
**順覺寺**
大政翼贊會幸崎支部理事　**仲滿**

當寺は味潟浦幸崎町を俯瞰し、天神山連峯中に巍然として建てる名刹として有名である。

當家は代々の舊家にして屈指の家柄である。

先代宇太郎氏は、町會議員數期を繼續し、百錬の手腕を揮つて拔群の功勞を町政につくした人として、町長の候補として第一に數へられてゐたが五十歳の働き

盛りで他界してしまつた。

氏はその長男として明治三十九年十一月一日に呱々の聲をあげた。

幼にして大器としてその將來を嘱目され、代々傳つた家業たる農、並びに醤油醸造業の後繼者となつてゐた。

夙に向學の志に燃え、昭和八年に東京外國語學校を卒業し、滿洲國某省に勤務し、今事變には大日本通譯官として第一線に活躍し、大いに國家のためにつくしたのである。また現在、大政翼賛會幸崎支部理事として至誠の奉公を致してゐる。

資性温厚、寡默の人にして、數回表彰されたことあるも自ら語るを好まざるゆかしい人格の持主である。

二男一女を惠まれ、明朗なる家庭である。

### 京都、相樂、山田莊村

農業家　**藤原嘉一**

當家は、代々農業を營んで來たが、三代目より機業を開始し、現在當藤原織物工場は、織機五十一臺を有し、從業員二十名近く擁して隆々たる盛運にある。

亡父勘四郎氏は、當地方における業界の重鎭として、斯業の向上發展に寄與するところが多かつた。

當主嘉一氏は、明治四十四年四月三十日に生れ、青年團長を經て、現在は相樂郡産業報國會評議員を勤め、青年機業家として活躍してゐる。

高見達識、行動一致の士として、村青年層に信頼をうけてゐる。

さきには相樂郡物産品評會に、自家製品を出品して二等賞を獲得した。

祖母やすさん(七十八歳)、母堂ふさゑさん(五十九歳)、令室幸子さん(三十二歳)、令弟正八さん(二十三歳)があり、圓滿な家庭である。

### 京都、相樂、山田莊村

村會議員　**森田喜三**

當家の本家は、當村における屈指の舊家にして、四代前に分家して一家を創立以來代々農業を營み、先代故喜三氏は、篤農家として知られ、當家中興の祖ともいはるべき人であつた。先々代喜平氏は庄屋、その他の役柄を勤めた自治功勞者である。

當主喜三氏は、亡父の長男にして、明治二十八年四月一日に生れ、父祖の芳躅をうけづいで、村會議員、自治統制委員産業組合評定委員等、村治政の要職に就き盡力せる功績が少くない。

敎厚質實、角のとれた人柄で、村人の信望が篤い。

家族は、ならえ令室との間に一男四女あり、長男喜平君は、目下木津農學校在學中、二女銳子さんは奈良女子實科研究科卒業後、家事に從事、三女昭子さん、四女惠子さん等が、愉しい家庭を營んでゐる。

### 京都、相樂、瓶原村

機業家　**竹田政次郎**

當家は、代々農業を營んで來たが、明治の末葉より、先代安太郎氏の代に至り織物業を創め、今日に至る。從業員男女三十餘名を擁し、製品は襖地を專門とし組合を通して販賣してゐる。

當主政次郎氏は、明治二十六年一月三



日、尊父安次郎氏の長男に生れ、大正二年京都第九聯隊に入隊せる歩兵上等兵である。

現在は山城槻地工業組合理事を經て、同理事長の重職につき業界の向上發展に健闘してゐる。

今後組合としては、局勢の動向如何によつて企業合同を行ひ、軍需方面に進出して、生産擴充に努め、而して業界の發展を圖る他途はない、そこでわれ等業者は、一致協力して、以て國家の大業を翼賛し、臣道實踐に邁進する決意を有つてゐると語つた。

資性豪爽濶達、而して勁固不屈の意志力を有つ人柄にして、組合員に絶大なる信頼をうけてゐる。

### 京都、相樂、木津町

## 日本特殊礦土株式會社

電話山城木津四五番

當會社は、昭和十三年二月、株式組織を以て組織したものにして、本社を大阪市西區土佐堀船町に置き、工場を上記木津町に設け、強性ライト(硅酸白土)の製造販賣をなしてゐる。

この強性ライトは、セメントと同様、天然物を特種の製法によつて製造したもので、耐火、耐水、耐鹸、耐酸劑のみでなく、セメントを補強する上にセメントを節約することが出來る。また容積はセメント五十キログラム一袋と強性ライト三十キログラム一袋と殆ど同様である。

近來極度のセメント不足對策として、土木關係方面では、硅酸白土の混用時代を現出し、すでに東京工業奬勵館、大阪市土木部などがテストして、東京の分は、道路技術協會機關誌に發表され、二週間乃至三週間の間では、强度やゝ劣るも、四週間以上に達してはセイントのみの使用と遜色なしと報告してゐる。一方大阪市でも前後二回試驗してこれと同樣の報告をなした。

主なる用途は、建築、土木工事、各種化學工場、冶金工場、鑛山等の諸工事、煙突、コンクリート土管、その他礦油及び油脂に對する精製脫色劑、研磨用石鹸原料、魚油脫臭劑等、廣く用ゐられてゐる。

主なる上納先は、内務省大阪土木出張所、大阪、京都、名古屋等の各市役所、日出紡織株式會社、大阪北港株式會社、豊田紡織株式會社、豊田自動車工業所、京都競馬倶樂部、大阪鐵管製造所、大林組、安藤組、清水組、京阪コンクリート工業所、中山製鋼所、その他滿洲、支那朝鮮、樺太各地の公廳會社等にして、その何れよりも賞揚されてゐる。

現重役は、取締役社長宮内熊太郎氏、常務取締役井上勝之助、取締役西岡成秋稻生順太郎、監査役高木良介の諸氏である。

**社長　宮内熊太郎**

この特殊礦土の研究は、すでに昭和五年頃よりの着手してついにこれを成功せしめ、世の稱讃を博してゐる。

氏は、敏腕なる事業家にして、更にこれが研究を重ねて性能の高度化に努め、斯界に貢獻すべく努力してゐる。

### 京都、乙訓、大山崎村

## 大山崎村役場

當村は、京師に入る要衝に當り、歴史

上史實に富み、また淀川西國の大造に沿ひ、往時は難波に對比せる要津であつた。大山崎の村名は、中世隣接地攝津山崎と區別するため稱したのである。また別名河陽といふ。

當地は、古來屢々戰亂の巷と化した。遠くは秀吉光秀の山崎の合戰、近くは鳥羽伏見の戰の如きがその例である。

地勢は、淀町の西、木津、宇治、桂川の三流合して淀川となる。その北岸に位し、西はすなはち大阪府にして、古來津山城の關門として、すこぶる樞要の地點を占めた。

名勝として天王山がある、秀吉と光秀と決戰して以來、天王山の名は、天下分け目の標語に使はるゝに至つた。寶積寺三重塔、酒解神社神輿庫、妙喜庵（山崎宗鑑の庵室）書院は共に國寶に指定されてゐる。小倉神社（延喜式大社）、觀音寺離宮八幡宮、關口祠等がある。

交通は、東海道線山崎驛あり、至便である。

村長荒堀平七助氏、役大北治一郎氏、收入役本部順之助氏、書記本部伊一郎、梶野市太郎、湯淺智量、三浦ユウ子氏、農會技術員小西寅男、同助手井上清氏等が、夫々事務を分掌してゐる。

## 村長 荒熊平七

當家は四代を傳へ代々農業を營む。先代亡平七氏は、篤農家として知られ、また村長、村會議員等を努めた自治功勞者である。

氏は、その長男にして、明治三十年十月十七日に生る。村長二期重任、銃後奉公會長、翼贊會村支部長等を兼務して力を效してゐる。

京都第二中學校卒業、高材正廉、錬成達熟の士として知られてゐる。

## 京都市下京區西院木澤屋橋角 辰巳組主 辰巳松五郎

電話（代表）下六二一番

當家は、代々建築請負業を營んで來たが、氏が營業を繼承するに及び、大正十二年正式に認可を受け、京都府基築業請負組合を結成して組合長となり、今日に至る。目下一千餘の組合員を擁し、國內における屈指の强力なる存在たるは、周知の事實である。

氏は、更に最近の局勢に鑑み、近く六大都市の業者に呼びかけ、これを打つて一丸としたる勞務供給聯合組合を組織すべく、目下各方面に運動を試みてゐる。これが實現の曉には、國策の線にそひ、意義ある役割を果すはいふまでもない。

現在氏は、京都府並に市關係の建築請負に特別の信望あり、既に竣工せしめた工事は、その數枚擧に遑なく、市長、府知事、學校長等より褒狀感謝狀を受くること十六回に及んでゐる。

さきには京都土木建築工業組合の前身たる組合の組合長たりしことあり、現に同組合の常任代議員として盡力してゐる。

なほ町內會長、その他の公職に就いたこと數回、今は多忙のため、一切の公職を辭し、今後は專ら業界のため盡瘁する意圖である。

やがて颯爽と斯界の最先鋒を活躍し、濶達自在の快腕を揮ふことであらう。

溫雅沈摯、敢爲果斷の人柄にして、世に信望を博してゐる。

家庭もまた氏の人格を反映して、和氣溢れる營みをなしてゐる。



## 京都、竹野、彌榮村 村會議員 味田小左衛門

當家は、代々農業を警み、三百年近くを經る、村內屈指の舊家である。

先代小左衛門氏は、區總代、その他の公職に就き、自治振興に貢献をなした功勞者である。氏はその長男にして、明治八年二月二十三日生誕。

村役場書記、助役、區長十九年、米穀檢査員等を歷任して、現在は部落會長、村會議員（四期）を勤めて盡力してゐる。

摯實篤厚、和顏圓滿な人柄として、村民に信望が篤い。

母堂ときさんは九十三歲の高齡で健在令室かつさん（六十五歲）、との間に五男一女あり、長男三郎氏（三十六歲）、同令室なつさん、令孫四人ある。氏の四男勝行君（二十七歲）は今事變に出征した勇士五男博君もまた目下航空隊として出征、活躍中である。

一家揃つて、相睦み、相勵み、國家の要請に應じて、臣道實踐の誠を捧げ、和氣溢れる家庭を營んでゐる。

## 奈良、宇智、野原町 野原町 信用販賣 購買利用 組合

電話二七七番

本組合は、當時の野原の諸狀勢に鑑み產業組合の活動に俟つもの多大なるを痛感し、先代理事長武田重兵衛氏等の盡力により設立したるものである。

區域は野原町一圓に及び、幹部役員の畫策運營まことに機宜に適し、極めて堅實にして順調なる發達を遂げ、最も優秀なる組合として、顯著なる業績を擧げてゐる。

## 理事長 平尾作市

當家は野原町中牧に於て代々農を家業とし、五代の家歷を有する舊家である。尊父も多年村會議員その他の要職に任じ、村治に關して多大の貢献をなしたる名望家であつた。

當主作市郎氏はその長男として朋治十八年六月一日の出生にして、五條中學校卒業、曩に町長、町村會議員五期、消防組頭、警防團長、國勢調査員等を歷任し現在日本赤十字社終身社員、社寺惣代、農地委員、產業組合理事長（三期）、翼贊會郡協力會議、その他幾多の公職に在つて奮鬪してゐるが、特に非常時局下に於ける產業組合の重責を認識し、組合員一致協力し、以て產業の開發、貯蓄の奬勵配給機構の整備等各般に亘り至誠の限りを捧げて、國家目的遂行に寄與せんことを期してゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、業界の信望は絕大なるものがある。

家庭にあつては夫人ハマさんとの間に二男四女を擧げ、既に長男夫妻も令孫一男一女を惠まれ、和氣靄々たる生活を營んでゐる。

## 奈良、吉野、下市町 區會議員 宮坂隆義

當家は村內に知られた舊家にして由緒ある家柄であり、代々篤農家を出し、當主はその男として明治三十二年に呱々の聲をあげたが、三歲にして父に別れた。父を失つて育つた氏は、人一倍の苦勞をしなければならなかつた。

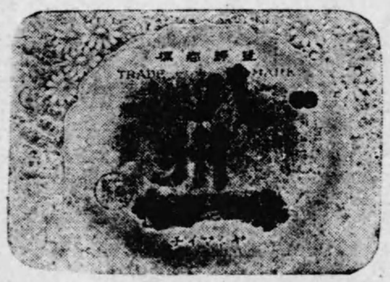
夙に町政に關與し、二十九歲のとき町

會議員に立候補したが不幸落選した。
昭和三年、大いに發奮し志を立て大阪に出ることを決し、尼ケ崎の山中重工業會社に勤務した。性來勤勉な氏は、日夜業務に砥礪しその發展に努力したゝめ、社長の知遇を得て、監督に拔擢された。
しかし家事上のため退社せざるを得なくなり、氏は惑まれながら歸鄉した。
資性温厚にして衆望篤く、現在區會議員として卓拔なる意見抱負の持主として尊敬を集めてゐる。
家族關係としては、長女實子さんは、目下大阪醫學專門學校に在學中、他に姉妹二人あるも、ともに元女教師を奉職してゐたが、既に他家へ嫁してゐる。
今は土地でも屈指の資産家として堂々たる貫錄を示してゐる。
氏を評して、立志傳中の人といふも蓋し偶然ではない。實に家庭も圓滿である。

## 奈良、吉野、秋野村

區長 勳八等 **椿本彌藏**

當家は當主までに六代の家歴を有する舊家にして、代々農業を營み、先代半三郎氏も區會議員として盡瘁した信望篤き家柄である。
當主彌藏氏は先代の長男として明治十四年一月二十五日に生れ、家業繼承以來專心業務に精勵し、關係事業として林業方面にも活躍するなど、その業績は極めて顯著なるものがある。
現在學務委員、林業調査委員、區長、その他部落長等の要職にあり、日夜を分たぬ奮闘を續けてゐる。橋梁、道路の增改築等により村民の利便に資し、以て産業報國の至誠を捧げんことを期してゐる。
氏は日露戰役に從軍し赫々たる武勳を擧げ勳八等を賜りたる勇士であり、質實剛健の人格と共に、村民の推服は絶大なるものがある。
家庭にあつては長男夫妻の間に八人の令孫あり、和氣滿々たる生活を營んでゐる。



當家は五條町に於ける名家にして先代平藏氏以來鑛山業をもつて業となしその巨富は五條地方に於ける尨たるものがあり、先代平造氏も翼贊會縣支部參與の要職に就き、以來公共事業に私財を投じ、その功績は一般崇敬の的であつた。
當主平造氏は明治十九年の出生にして先考の遺志を繼承し、その嘖々たる聲名は鄉黨はもとより、京阪神にまで著聞せらるゝ所である。現在大和索道株式會社長、大和酒造株式會社長、凍豆腐株式會社長として未曾有なる經濟總力戰下に對處し、滅私奉公の實踐躬行に盡瘁し、以て國力の增進、貯蓄の躍進を圖り、產業報國の至誠を致さんことを期され、日夜

## 奈良、宇智、五條町

前町長 **林平藏**



寧日なき努力を續けられてゐる。
氏は溫厚篤實にして、識見卓拔せる人格者であり、その手腕業績と共に各方面の信望は絶大である。氏は又餘技として彩管を揮ひ、芝石と號し文人墨客との交遊又熾んなものがある。

**大和酒造會社**
**支配人**
**水取一男**

當社は明治二十九年九月資本金五萬圓にて創立され其後大正九年資本を參拾萬圓に增額し現在に至れるものである。吟釀名は八州一、幾內櫻、姬露の三種類であり、近畿地方品評會に於て優等賞を授與されたる名酒であるが、現在は時局による統制に順應し上等、並等の二種を釀造してゐる。
當支配人は明治四十三年十一月二十四日の出生にして、昭和四年八月入社、同十五年六月支配人に就任され一切の業務を擔當し、社長の主旨を體し各從業員に銃後國民の眞意義を確認せしめ一意專心時艱克服に邁進しつゝある。

**凍豆腐會社**
**專務取締役**
**石田正夫**

當社は明治二十九年十一月十二日林平造氏の提唱により設立認可されたるものにして、凍豆腐の原料配給、生產品の買入及販賣を取扱ひ、その販路は縣下一圓より大阪、和歌山その他中國方面に及んでゐる。
石田氏は辻井芳松氏の次男として慶應三年十二月四日の出生にして、石田正七氏の養嗣子として入籍され、明治十七年家督を繼承され專心家業に精勵されてゐたが同三十年より當社に勤務し、以來終始社運の興隆に熱誠を捧げ、傍ら地方自治に貢獻され今日に至るものである。
その間日淸、日露の兩役に應召せるれ赫々たる武勳を擧げ勳七等靑色銅葉章、一時賜金を賜はれる勇士である。

**大和索道株式會社**

本社は先代平造氏以來父子二代に亘る事業にして、明治四十四年一月資本金十五萬圓を以て創立され十四年一月資本金十五萬圓增資され今日に至れ、大正五年八萬圓增資されたものである。本社の事業は索道に據るものである。本社の事業は索道に據る貨物運搬、及び貨物自動車營業、並にこれに附屬する一切の業務を取扱つてゐる。その業況は頗る漫刺たるものがありその前途は益々有望なるものであるが、昭和十二年九月金屋淵鑛業株式會社に五ケ年間年賦を以て讓渡契約をなし、現在は專ら同鑛山の貨物一切の運搬に當つてゐる。

## 奈良、吉野、秋野村

## 秋野郵便局

當局は昭和五年、現局長が自費五千圓を投じて設立したるものにして、村一圓を區域とし、初めは集配事務のみであつたが、逐次爲替、保險、年金、電信、電話も開設した。
現在は次男が代理として局員と一致協力、局務に精勵してゐる。

**局長 勳七等**
**岡田豐太郎**

當家は村內隨一の資產家として聞え、又先代豐造氏も村長助役等を歷任すること三十年、村治に關して幾多の貢獻なしたる名望家である。
當主豐太郎氏も村會議員、郵便局長、等の要職にあつて日夜寧日なき努力を續けてゐる。
郵便局設置、道路改修、新道の設置等村治に奮闘したる功績により勳七等を賜り、以來益々村民の福利增進に盡力してゐる。

氏は資性溫厚、篤實なる人格者にしてその業績と共に村民の德望は絶大なるものがある。

家庭に八人の子女があり、四人を國家の干城として大陸に送つてゐる、洵に名譽の家と稱すべきである。

奈良、吉野、下市町

## 大和繭絲 販賣購買利用 組合

當組合は現組合長植田重三郎氏が下市町農會長の公職に在りたる時、繭糸業の將來を達觀して、組合製糸設立を畫策し生産加工販賣の合理化を得、適正價値を取得せしめるは必ず産業振興上至大なる效果あるを確信し、以て同志を糾合し、先進地組合の視察探究をなすと共に、組合製糸設立の緊要ある所以を唱導したる結果、地方關係者の贊意と養蠶家の同意を得て、縣當局の援助の下に郡下八ケ町村を區域として、昭和五年五月十九日設立認可を得たるものである。

爾來、變轉極りなき蠶糸業に於て本組合も幾多の難關に遭遇したが、常に共存共榮を基調とする組合員の精神的融合に依り、組合内容は逐年充實し、現在では事業區域を吉野郡一圓とし、組合員多數を擁し、益々堅實なる發展を遂げつつある。

## 組合長 植田重三郎等

氏は明治十年十月三十日の出生にして日露戰役には工兵伍長として應召され、赫々たる武勳を樹立し、勳八等瑞寶章を賜りたる勇士である。

現在原谷農會長、下市町農會總代、材木同業組合代議員、奈良縣購販組合聯合會理事等の要職にありその他現在までに歷任したる重職は枚擧に遑なく、特に本組合長としては創立以來よりの功勞者であり、その産業開發に貢獻したる功績は甚大なるものがある。即ち大日本帝國農會總裁、宮殿下を初めたてまつり、その授與されたる表彰狀の如きも十指に餘る程である。

去る昭和八年宮城紅葉山御養蠶所拜觀の光榮に浴したことがある。

氏は溫厚篤實なる人格者にして、常に共存共榮の信望絶大なるものがあり、益々公共自治のため活躍してゐる。

奈良、吉野、下市町

## 吉野杉箸工業組合

電話二二九番

本組合は明治四十二年創立し、以來國運の進運に伴ひ、交通機關の整備と共に漸次販路を擴張し需要激增して自然大量生産を要するに至り、遂に大正十一年現工業組合に改組して今日に至れるものである。

爾來生産統制を確實にし、販路區域の擴大に努力したる結果、業務は益々進展し、その販路は内地は勿論北海道、臺灣朝鮮、滿洲より、遠く支那内地、南洋諸島に及び、その年産額は五十萬圓に達する盛況を呈し、本町物産の王座を占むるのみならず、本縣下に於ける最重要物産たるに至つた。

斯業の盛衰は本町の經濟力に甚大な關係を有するものであり、町當局は極力之が保護奬勵に任じ、下市信用販賣購買利用組合は、常に業者を庇護し、多大の便益を與へて生産販賣の助長に努めつゝある。



奈良、吉野、秋野村

## 組合長 吉本喜藏

氏は資性溫厚篤實なる人格者にして、本組合長就任以來、一意專心業務に精勵し、各種事業萎靡不振を極むる時に方り、獨り本吉野製箸のみ盤としてその聲價を持續し、逐年生産量を增加しつゝあるは、氏の功績によるものであること極めて多く、組合員間の信望は絶大なるものがある。

奈良、吉野、秋野村

## 秋野村信用販賣購買利用 組合

電話下市一三六番

本組合は、當時の秋野村の諸狀勢に鑑み、産業組合の活動に俟つもの多大なるを痛感し、大正十二年一月十日に創設されたるものなれども、その當時の幹部役員の無方針の結果破産の狀態に陷りたるを、現役員の獻身的努力によりこれを再建し、以來組合員一攻協力してその發展に精勵され、着々として業績を擧げ、遂に今日の優良組合と成りたるものである。

即ちその業績は、貯蓄、販賣、購買等極めて顯著なるものがあり、その前途は頗る有望なるものがある。

## 專務理事 水田喜太郎

氏は理事長の主旨を體し、これを輔佐し、殆ど解散狀態に再建したりたる本組合を今日の盛況に導き、非常時局下に於ける産業組合の重責を認識し、組合精神の普及徹底により組合員の福利增進を圖り、以て國策に順應し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期し、日夜間斷なき努力を續けてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫したる人格者にして、その業界に寄與したる功績と共に村民の信望は絶大なるものがある。

奈良、吉野、秋野村

## 區長 森本治郎吉

氏は明治十二年四月二十四日の生誕にして、長ずるに及び家業の農事に從事して、之に最善の努力を拂つてゐる。なほ區長の職にも就きて、職責を完遂すべく盡力中である。氏の家は有數の舊家にして、現在十代目の當主にして、右の外區長を二期、村會議員を三期に亙つて努めて居り、その間貢獻せる事蹟は極めて多大である。また能く人生の眞髓を獲得し農村民としての本分を盡うし、堅實なる篤農家である。

現在四人の子息あり、至極圓滿なる家庭生活を營んでゐる。斯くて氏の高潔なる人格と、その溫情は衆望を收め、村内に重きを爲し尊敬の的となつてゐる。

奈良、吉野、大淀町

## 旅館吉野館

電話三五番

當旅館は有名なる吉野町に接する地にあるだけ、吉野山參詣客の休憩場所として理想的である。大軌鐵道の終點でまた地の利に惠まれてゐる。

## 經營者 岡田一馬

氏の實家は代々農を營み、屈指の舊家として知られてゐるが、尊父は剛直な人として業務の傍ら、公共のためにつくした人であつた。氏はその男として明治十九年十二月一日に呱

々の聲をあげたが、のち養父に當る勇吉氏に見込まれ、當岡田家に迎へられた。

夙に向學の志厚く、小學校を經て漢學塾に學んだ。

氏は旅館を營む傍ら、運送業を兼ね、五條驛前の合同運送會社の重役として、同業界に重きをなしてゐる。

資性溫厚、堅實にして信望厚く、推されて區長（四ケ年）、消防組頭（六年）を歷任し隣組役員、大淀町會議員、小學校後援會委員等の要職にある。常に至誠一貫滅私奉公の念に燃え、その貢獻もまた偉大であるため、各方面より度々感謝狀を受領した。

淨土宗を信じてゐる。

家風は恒產ある家としての趣きを備へ非常に義理を重んじ、人情に厚く近隣の評判はもとより、旅客の最負も多く、一度泊つた客は必ずまた來るので、當連の客が多い。

家族九人、長男は戰死された。

奈良、吉野、大淀町

區長　野木光義

當家は村內屈指の舊家にして、また由緒ある家柄として有名である。

南北朝時代のものといはれる高貴の方の御染筆を家寶として秘藏してゐたが、不幸火災のために燒失した。

先代豐吉氏は業務の傍ら、公共のためにつくした人として知られてゐる。

氏はその長男として明治十五年十月十日に呱々の聲をあげた。

資性重厚にして信望篤く、區長、米穀增產實行委員、大淀町經濟調査副部長、國勢調査委員、町內囑託、產業組合理事農事實行組合長等の要職につき、挺身健闘してゐる。

大和瓦工業組合長として盡力せる功を表彰され、また子寶として厚生大臣より表彰せられた。

宗教は淨土宗を奉じてゐる。

時局に處して、臨戰態勢を强化し、滅私奉公、職域奉公の忠誠を捧げ、皇國の發展に協力してゐる。

令室靜江さんは明治二十二年の誕生にして夙に貞淑の聞え高く、その間に六男四女あり、長男茂裕君は素質がよく、よき後繼者として將來を囑目されてゐる。

奈良、吉野、秋野村

龍臥山　法泉寺

當寺は阿彌陀如來を本尊とする眞宗西本願寺派に屬する古刹である。開基開山は不詳なれども、文久三年九月政變に遭ひ、天誅組に堂宇を燒かれ、現在は東山門のみ殘つてゐる。後再建され以來今日まで法燈の絕ゆることなかりしと云ふ。

前住職は同宗派中出色の高識にして學問所を設け業僧濟身に、或は業人の德化に精勵された名僧である。

現在は堂宇整然として建並び、境內百七十坪は淸淨なる聖域をなして、當寺に詣づる人は仲々に多い。

當寺には古來著名なる鐘樓があり、目下國寶として出願中である。

住職　紹葉豐壽

師は本寺住職として就任以來、熱心眞摯なる布敎と獻身的な宗敎的營爲を續け、遂に今日の法燈の熾んを致した。人格高潔にして、又公共仁德に篤く、日曜學校、佛敎靑年會を通じ、崇佛思想普及を圖り、日夜間斷なき



敎化を續けられてゐる。

即ち衆人の信望は頗る厚く、現在では近傍の婦女子を集め、裁縫の敎授をなすなど、その社會的活動は極めて顯著なるものがある。

奈良、吉野、中莊村

村會議員　大谷源十郎

當家の祖先は遠く一千三百年前當地に來住せる村國庄司氏にして、畏くも孝德天皇の末孫より知行三千俵、土地八千坪を賜り、のち源義經當地に來り本家に宿泊、その折大谷源兵衞の姓名を授けられ、以來大谷を名乘る當地最古の家柄である。代々農業、林業を營み當地に於ける人望は極めて篤く、先代又次郎氏も戶長、區會議員に就任し、その功績洵に盡大なるものがあつた。

當主源十郎氏はその長男として出生し現在村會議員、隣保會々長、區會議員、寺院總代、氏子總代等の要職に在り、農業立國の建前より肥料の圓滑なる配給、農產物の增收を圖り、或は小國民育成の一助として地下足袋、運動靴等の增配等に日夜獻身的努力を續けてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、又情理に厚き人格者にして、村民の信望は絕大である。尙敬慶なる信仰家として、曩に神職會總裁正五位勳四等兒玉政介氏より表彰されたことがある。

家庭には長女シズさんと養子德太郎氏の間に四男三女を惠まれ和氣靄々たる生活を營んでゐる。

奈良、吉野、中莊村

村會議員　區長　土居平右衞門

電話一一五乙番

當家は遠く三百年の昔より連綿たる家歷を有する舊家にして、先祖は僧侶であつたが、二代目より農を家業とし、代々庄屋、寺院總代等を務め、村勢に寄與すること極めて大なるものがあつた。先代平治氏の代に至り、農業、林業、材木商を兼ね、その間村長、村會議員、信用組合長、社寺總代の要職を歷任されたる名望家である。

當主平右衞門氏はその長男として明治二十七年六月十一日の出生にして、五條中學校卒業後、即ち大正三年志願兵として步兵伍長に任ぜられた勇士である。

氏は學校警防團顧問、翼贊會理事、村會議員、北葛井區長、常會長、中莊商業組合理事、吉野木材商業組合常任監事等の要職に在り、農業立國の建前より肥料配給の圓滑を圖り、或は產業報國の至誠を以て、農作物の增產等、非常時國家目的に即應し、聖戰目的完遂に協力してゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、公益優先の實行者として、村內の信望絕大なるものがある。

家庭には夫人年子さんとの間に一男三女があり、極めて平和な生活を營んでゐる。

奈良、吉野、秋野村

秋野村役場

本村は縣の西北部吉野町の西南隣にして、地形東南に高く傾斜をなし、南部を秋河西に流る。

主產業は米、麥、林產、繭、賣藥、蒟等で　ある。

交通は下市町へ約半里、バスの便があり、社寺として村社が三つ、高原寺、安樂寺、正福寺、法泉寺、大乘寺などがある。

會社として秋野製材所がある。

## 村長　辻田秀太郎

氏の家は村内有數の舊家にして、素封家であり、先代德太郎氏は業務の傍ら、村會議員、その他公職に就いて自治公共のために多大の貢獻をなして知られてゐる。

氏はその長男として明治十七年九月二十七日に呱々の聲をあげた。

小學校卒業後、向學心に燃ゆる氏は、刻苦研鑽、文檢に合格、本科正教員として、當村秋野小學校に奉職、以來三十年間、兒童教育に一身を捧げた、教育功勞者にして、退職後村民の懇望により役場に入り、助役として日夜研鑽し、村政に通曉する生字引とまでいはれてゐる。

資性溫厚にして信望篤く遂ひに當村長の要職に就任した。この外産業組合長、農會長をも兼務して至誠の奉公を致してゐる。

令室もとさんは明治三十二年の誕生で奈良、吉野、龍門村

## 龍門村役場

往昔は賀美鄕に屬し、中世に至り龍門莊と稱せられ、今の上、中龍門村及び本村を合したる名にして、龍門嶽に因めるものならんといふ。日本書紀天武の卷に「大海人皇子發途東國、事急不待賀乃皇后戴輿從之、速于津振川、東駕始到卽日到菟田」とあり、これは今の津風呂(大字)のことである。

上市町の東北に隣接し、北は宇陀郡、磯城郡、高方郡に、東曰中巢山村、西は大徒町に接し、土地北境、龍門岳より南部に低くなつてゐる。

主産物は米、繭等である。

名勝に鄕社大名持神社、龍門寺址があしき女の吉野川邊に衣を洗ふ白き脛を見る。龍門寺は、久米の仙人、若くして美て、通力を失ひしといふ故實は、當寺の僧なりと今昔物語にある。

鄕社高峯神社があり、寺院に喜運寺(眞)、管生寺(言)、正敎寺(眞)、三緣寺(淨)、高龍寺(融)、西蓮寺(淨)、正覺寺(眞)、淨土寺(融)、佛國寺(淨)、松福寺(融)等がある。

交通は上市町に接し至便である。

## 村長　坂本猷

東亞共榮圈確立の下部組織網たるわが農山村民に賦課せられたる役割を忠實に實行することが、卽ち職域奉公、臣道實踐であると確信してゐる。戰時下緊要缺くべからざる食糧增産確保、次代國家の擔當者たる青少年の拔本的錬成、または養蠶の合理的經營、耕地開墾造成等、今や本村においては全村民打つて一丸となり、これが達成に奮進してゐる。

願ふに今事變が齎らした農山村の生活樣式は、今後必然的に加重强化せられ、統制經濟は一層深化して、生活上更に不便、不自由を來すことは明白である。そこでこれに對處すべく、各部落毎に、指導階級をして、よく事變目的を正して、



把握認識せしめ、他面目覺めたる眞乎平和鄕を發揮して、斃れて後止むの烈々たる氣魄を高持して、盡忠報國の誠を效し農村指導者たる使命の達成に獻身的努力を捧げねばならない。

氏は熱語した。時局に見識を有つ、名村長として當村民に深く信賴敬仰されてゐる。

## 助役　菊岡伊作

當家は、舊幕時代庄屋等を務めた舊家より分家し、三代の家歷を有つてゐる。先考卯太郎氏は村會議員、村長、助役等を歷任して盡力した自治功勞者である。

氏は、その長男として、明治二十八年八月七日に生れ、村會議員(二期)、區長(二期)、青年團長等の要職を經て、現在は助役を始め、農地委員、養蠶實行組合長、愛國婦人分會參與、神社總代等を兼ね、坂本村長とよきコンビをなして多大の貢獻をなしつゝある。

## 牧入役　藤岡鶴吉

氏は、本部大淀町の茂木定吉氏の次男として明治四十二年三月二十五日に生れ、のち當藤岡家の養子となり、昭和八年三月、村收入役に推され、現在は農會幹事、その他の要職を兼ねて健闘してゐる。

奈良、宇智、宇智村

## 宇智信用販賣購買利用組合

電話五一二番

區域は宇智村一圓に及び、幹部役員の書策經營まことに機宜に適し、極めて堅實にして順調なる發展を遂げ、最も優良なる組合として、その業績は洵に潑剌顯著なるものがある。

## 專務理事　酒井安一郎

氏は先代安平氏の次男として明治十四年十一月二十九日の出生にして、曩に國勢調査委員、村會議員五期、助役(一期)等を歷任し、現在村會議員、區長、學務委員等、その他多くの公職を兼任し、特に當組合專務理事に就任以來は組合長の方針を體し、產業組合精神の普及徹底により貯蓄の奬勵、生產の確保、配給機構の整備を圖り、以て國策に順應し、組合員一致協力して東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期し、日夜寧日なき奮鬪を續けてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、公益優先を信條とする人格者にして、手腕力量ともに業界の信望は絕大なるものがある。家庭生活も極めて平和なるものがあり、衆人の美む圓滿ぶりである。

奈良、宇智、五條町

## 五條信用販賣購買利用組合

本組合は昭和十一年五月當時の宇智村の諸狀勢に鑑み、產業組合の活動に俟つもの多大なるを痛感し、現役員、組合員の盡力により設立されたるものである。

當組合は昭和三年十二月五條町商工會總會に於る町内の諸狀勢に鑑み、產業組合の活動に俟つもの多大なるを痛感して設立の決議をなし、當時町長藤原清藏、商工會長北山寬造兩氏專ら力を致し、各設立委員の協力を得て昭和四年十月有限責任五條信用組合の設立を見たるものにして、以來組合の基礎を鞏固ならしめるため保證責任組織に變更、尙農林省の慫慂に依り販賣、購買、利用事業を開始すべく、昭和十三年八月縣知事より許可せ

られたるものである。

爾來その業績は極めて顯著なるものがあり、優良組合として縣知事より表彰せられ、またその他より表彰されしこと一再に止まらない。

時局に處しては、組合の臨戰態勢を強化し、國策に順應して、時艱を克服し、以て皇國發展の一翼たらしめ、本來の使命達成に努めてゐる。

**專務理事　石田　正治**

當家は五條町屈指の舊家として聞え、氏は尊父正夫氏の次男として明治十九年十月二日の出生である。當組合專務理事に就任以來、組合長山本米三氏を輔佐し、專務理事北山寬造氏と協力一致、未曾有の難局下に於て、組合精神の達成を圖り、以て國策に順應し、東亞共榮圈確立に寄與せんことを期し、日夜健闘を續けてゐる。

氏は資性温厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫したる人格者であり、業界の信望絶大なるものがある。

家庭に於ては兩親高齡をもつて今尙健在、夫人モンさんとの間に三男一女を惠まれ、和氣藹々たる生活を營んでゐる。

**群馬、桐生市巴町**

**日本絹撚株式會社**

電話(代表)三七一八番

當社は製品の優秀性と、價格の低廉とを以て多年業界に覇を唱へ、且つ公益優先の精神を一般に魁けて、夙に經營の上に實踐し躬行しきたりたるものにして、絶大なる信用を博して來たもので、今日の隆盛を見るに至つたのは決して遇然ではなかつた。

然し乍ら支那事變勃發以來、時代は急速に移行して、斯業界は、未曾有の難局に立つことゝなつた。

而して、これは時流の然らしめしところと云へ、一面、資本主義經濟時代の私利追求、營利本位の商業が當然何時かは昧はふべき苦難であり、歸結であつた。從つてこれは業界が眞の商業道に立直つて、本來の方向に進展すべき動機を與ふるもので、將來の健實なる發展への出發點を與へたものとして歡迎すべきものである。かかる觀點より、當社は從來實踐し來つた公益優先の精神を一段と發揚し、新體制の運動にそつて、着々陣容の整備を怠らず、會社を擧げ、一致團結生產擴充への凡ゆる困難を克服しつゝ、一路職域奉公に邁進してゐる。

**群馬、桐生市永樂町**

荒島建築部　**荒島重沖**

電話二四八五番

氏は先代沖五郎氏の長男として、明治二十七年九月二日栃木縣に出生した。

大正五年四月現住所に居を構へ、建築請負業を經營し、以來一意專心業務の發展に盡瘁し、着々その成果を擧げ、堅實なる營業方針は好評嘖々たるものがありその業績は年を逐うて發達しつゝある。

現在、桐生市建築業組合副組長、永樂町四丁目組長等の要職に在り、同業者間の福利增進はもとより、組合精神の普及徹底により非常時局下に於ける國策に順應し、業界一致協力して職域の完遂を期し、以て東亞共榮圈確立の一翼たるの本分を致さんとして日夜間斷なき努力を盡されてゐる。

氏は資性質實にして剛健、また情理に



厚き人格者であり、その滅私奉公の精神と共に業界の信望は絶大なるものがある。

家庭には夫人よしさんとの間に五男四女を惠まれ、極めて多幸な生活を營まれ春風堂に充つるの感がある。

因に長男善次郎氏は目下國民徵用令に依り勇躍奮闘で中ある。

**群馬、桐生市永樂町**

白石組店主　**白石富治**

電話三四一二番

氏は新潟縣の農、角之助氏の次男として、明治二十五年十月九日に出生した。

弱冠にして鄕黨を出でし土木建築業に從事し、ついに大正五年四月現住所に土木建築請負業を經營し、現在に至つたものである。

その間家業の發展興隆に粉骨碎身し着々としてその業績を擴張し、遂に今日の隆盛を贏ち得られたものである。

その營業方針は眞摯にして堅實、業界に於ける信用は絶大なるものがあり、現在推されて群馬縣土木建築工業組合第三部員、永樂町二丁目組長等の要職にあり日夜奮闘努力を續けてゐる。

即ち前古未曾有の難局下に於て業界一致協力し、前線將兵諸君と勞苦を俱にする精神の下に、統制經濟時代の資材、人力の不足を克服し、以て國策に順應し東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期してゐる。

氏は資性質實にして剛健、滅私奉公を信念とする人格者にして、その顯著なる功績と共に各方面の德望は極めて厚い。

家庭に於ては夫人ナミさんとの間に四男三女があり、和氣藹々たる生活を營んでゐる。

**群馬、桐生市末廣町**

菅原組主　勳八等　**菅原賢一郎**

電話二九七三番

氏は農を家業とせる先代熊吉氏の三男として明治十六年十月十日宮城縣に出生した。日本大學法科卒業後明治三十六年兵として應召され第三軍に從軍し、勇戰力闘、赫々たる武勳を樹て、勳八等を賜りたる勇士である。

明治四十三年桐生市に來住、土木建築請負業を經營され以來家業の發展に粉骨碎身の努力を續けられ、その堅實眞摯なる營業方針と共に極めて順調なる業績を示し、遂に今日の盛況を贏ち得るに至つた。

現在群馬縣土木建築工業組合第三支部長、同總代、桐生建築資材株式會社取締役、常會評議員、桐生土建組合副組合長等の要職に在り、寧日なき盡力を致されてゐる。

即ち前古未曾有の難局下に際し、土木業者一致協力第一線將兵の覺悟を體し、職域奉公の至誠を捧げ、以て產業の開發文化の向上に資し、國家目的完遂の一翼たらんことを期されてゐる。

氏は資性質實にして剛健、滅私奉公の赤誠に燃ゆる努力家であり、業界に寄與されたる功績と共にその德望は絶大なるものがある。

當地方業界の重鎭として重きをなしてゐる。

家庭にあつては夫人タキさんとの間に二男三女を惠まれ和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、群馬、長野村

土木建築請負業 **島田倭**

電話二番

當家の開創は遠く、六代以前より本業を營みたるものにして、縣下に於ける最古の歴史を有するものである。

氏は先代貞一郎氏の次男として明治三十四年七月五日の出生にして、長兄早世せる爲家督を繼承し、家業の發展に盡瘁せられ現在に至つたものである。

現在翼賛會町村理事、村會議員二期、産業組合理事、縣土木請負業總代、高崎土木建築請負業理事等の要職に在り、土木事業を通じて産業の開發を計り、非常時局下に於ける國策に順應するべく、日夜營々玆々として職域奉公の至誠を致されつゝある。尙村治に關しては國策の下部組織網たるの責務を自覺し、これが完遂に精勵せられつゝある。

氏は資性質實剛健にして情理に厚く、その竭したる功績と共に各方面の人望は大なるものがある。

家庭には慈母シゲさん健在にして良江夫人との間に一男一女を惠まれ極めて平和な生活を營まれてゐる。

群馬、多野、鬼石村

合名會社 **神水館**

電話五七番

本館は埼玉群馬縣境秩父山系の翠轡將に盡きんとするところ、神流川の絶勝を取り入れたる新築三層樓にして、眺望絶佳、客室は大小二十數室あり、多數團體の一泊、宴會又は滯在何れも不便なく、內湯豐富に浴場は近代建築にして重油機關自動給水裝置を設備し、無雙の効顯と相俟ち保健清遊に絶好の樂園である。

東京よりの交通も又至便にして、所要時間は二時間餘。その泉質はアルカリ性強食鹽泉にて固形成分の含有量の大なる事海內無比。浴用として動脈硬化症、神經系諸病、貧血、萎黃病、腺病質、虛弱兒童、濕疹、內用としては慢性消化器病慢性喉頭及氣管支加答兒等に特效がある。

經營者は金澤甚平氏にして、頃來溫泉報國、健康衞生の向上を念願とし、以て鄕土の發展に寄與せんと、日夜間斷なき努力を致されてゐる。

氏は資性溫厚篤實にして情理に富み、業者間の信望は絶大なるものがある。

群馬、多野、新町

多野郡新町砂利 **株式會社**

電話一二番

本社は大正十一年創立されたるものである。

事業は、神流川流域引込線、鐵道省及軍需關係工場資材として、砂利の採取販賣を主としてゐる。

創業以來幹部の畫策運營まことに機宜に適し、極めて堅實なる伸展を示し、社運頗る盛況を極めてゐる。

**專務取締役 田中千代吉**

氏は明治十九年十一月十五日長野縣に出生して、東京錦城中學を卒業するや、以來農具會社に關係して居られたが、現住所に移ると同時に現事業に轉身し專心的努力を致し、今日の盛運の基礎を開かれたのである。

氏は資性質實にして剛健、逐年強化さ



れる統制經濟時代に在つて、一層時局を認識し、職域奉公の誠を致されつゝあり、業界に於ける信望は絶大なるものがある。

家庭には夫人クノさん、長女アサ子さんがあり和氣靄々たる生活を營まれてゐる。

群馬、多野、藤岡町

土木建築業組合長 **中居常治**

電話一七一番

當家は尊父常作氏が土木建築請負業を創めて以來、順調なる業績を擧げて來たもので、常主常治氏は、尊父常作氏の長男として、明治二十二年五月一日に出生した。

家業を繼承するや、一意專心その業績向上に努力し、業況は極めて盛大なるものがあり、當地業者間の重鎭として、曩には藤岡建築業組合長に就任され貢獻されること多大にして、現在藤岡署管內土木建築業組合組合長、群馬縣土木建築請負業組合總代等の要職にあり、間斷なき努力を致してゐる。

東亞共榮圈確立のために、産業開發の基礎事業として、建築業者に組合精神の普及達成を計り、以て國策に順應せんと眞摯な活躍が續けられてゐる。

氏は謹嚴實直なる人格者であり、その業界に貢獻せる業績と共にその人望は極めて高く、萬人敬仰の的となつてゐる。

家庭に於ては、兩親高齡を以て今尙健在にしてシヅ夫人との間に二男一女あり和氣靄々たる生活を營まれてゐる。

群馬、桐生市永樂町

**桐生輸出絹織物工業組合**

電話(代表)三七九一番

當組合は輸出織物振興の爲、業界の統制改良を企圖し、以て國際市場に良品を供給せんとして、昭和九年十一月一日設立認可を得たるものである。

區域は桐生市、山田郡、新田郡、笠懸村、藪塚本町、強戸村、栃木縣足利郡小俣町及び菱村にして、輸出向は滿洲、支那、朝鮮等各方面に亘り、極めて發剌たる發展を遂げつゝある。

本組合の事業は所期の目的を完遂せんために、製品の檢査、統制、製品の販賣營業に必要なる物資の供給、資金の貸附及組合員の貯金の受入、營業に關する指導研究調査等が實行され、何れも幹部役員の畫策施行まことに機宜に適し、また組合員の一致協力は年を逐うて堅實なる業績を擧げ、その前途は益々有望なるものがある。

**理事長 森口唯八**

氏は二代目理事長として就任するや、非常時統制經濟下に於ける組合精神の普及達成を期し、以て東亞共榮圈確立の國策に順應せんとして寧日なき努力を續けられ、その業界に寄與されたる功績は洵に甚夫なるものがある。

而して資性溫厚にして篤實圓滿なる人格と共に業界に於ける信望は絶大である。

群馬、前橋市曲輪町

土木請負業 **宮田勝藏**

電話二八九三番

氏は明治十年十二月二十日の出生にし

て、のち叔父廣吉氏の事業一切を繼承し以來家業の發展向上に奮闘、業績は極めて顯著なるものがあり、堅實眞摯なる營業方針は業界の好指標として好評嘖々たるものがある。

現在土木建築工業組合第一支部員、警防團消防班第一班員、曲輪町隣保班長、曲輪町壯年隊副分隊長、前橋砂利合名會社價格決定委員等の要職にあり、土木事業を基礎として産業の開發、文化の向上に寄與し、以て職域奉公の至誠を捧げ東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期され日夜寧日なき奮闘を致されてゐる。即ち最近は家業の一切を長男福太郎氏の經營に委ね、專ら公共事業に盡瘁されつゝある。

福太郎氏は、秀れた手腕家にして、これが經營に當つては微動だにせしめずにゐる。

氏は資性溫厚篤實、滅私奉公を念願とする人格者であり各方面の信望は絶大なるものがある。家庭には夫人イセさんとの間に三男一女を惠まれ、既に長男福太郎氏夫妻に四男一女があり、和氣藹々たる生活を營んでゐる。

群馬、前橋市萱町

**杉原盛雄**

杉原組主　電話二八〇一番

當杉原組は、先代音松氏の創業したるものにして、氏はその長男として、明治三十九年五月二十日の出生である。家業を繼承するや、土木建築業の他、製材業をも經營し、營々孜々として奮闘、堅實眞摯な營業方針と共に業界の信用は絶大なるものがあり、諸官廳及會社等の指定請負人として、益々活潑なる業績を擧げてゐる。

現在土木建築工業組合第一支部總代、建築協會評議員、警防團副團長等の要職に在り、日夜奮闘努力を續けられその功績は極めて顯著なるものがある。

非常時局下に於て各人協力一致し産業開發の基礎事業たる土木業を再認識し、以て國策に順應し東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期してゐる。

氏は資性質實にして剛健、しかも情理に厚き人格者であり、その滅私奉公の信念と共に業界の敬仰を一身に聚められてゐる。

家庭にあつては母堂ノブさん益々健在夫人フミさんとの間に一男一女をあげ、洵に平和生活を營まれてゐる。

群馬、前橋市曲輪町

**石井喜三郎**

石井組出　電話二七三六番

當家は現主に於て三代の家歷を有し、群馬縣下土木建築業界の重鎭として嘖々たる名聲を博してゐる。

當主は先代喜三郎氏の長男として明治三十六年九月四日の出生にして、昭和十四年三月尊父逝去と共に襲名して家業の一切を繼承し、現在に至つた。

以來家業の發展興隆に精勵され益々顯著な業績を擧げ、堅實眞摯な營業方針は業界の好指標として信用絶大なるものがある。

現在前橋砂利合名會社代表社員、群馬縣建築組合特別會員、群馬縣土木建築工業組合第一支部長總代等の要職に在つて國策に順應し、統制經濟の眞意を認識し産業の開發、文化の向上に資するため日



夜間斷するところなき努力を致されつゝある。

氏は資性溫厚にして篤實、公平無私の人格者であり、業界に寄與されたる幾多の功績と共にその信望は絶大なるものがあり、未曾有の難局下に於ける指導者として氏の活躍は益々期待されるところである。

群馬、前橋市岩神町

帝國蠶糸會社鶴見工場技師長正五位勳五等

**塚越萬平**

氏は縣立桐生織物學校卒業後、文部省中等教員檢定試驗化學科に合格、その後大正元年靜岡縣廳に勤務し、卓拔せる手腕を發揮し、遂に群馬縣工業試驗場長に榮進し、地方技師として、一面縣立前橋工業學校長を兼ね育英界にも精勵され、その功績は極めて顯著なるものがあつた。

氏は昭和五年正五位勳五等高等官三等の榮位を以て勇退されるまで、染織業の統一を圖るため工業試驗場を設立、或は大正七、八年當時の物價騰貴の際、製糸家が糸に油を塗り、糸の重量を增加せしむるの弊があり、その品質の惡化は著しきものがあつた。氏はこの弊害を防止するため、全國で率先して原料檢定所を設置するなど工業行政に貢獻せるところは甚大なるものがある。

尙特筆大書すべきは絹糸を原料とする絹洋服地の發明草案がある。氏は之が實現具體化に多年の努力を傾注し、遂に昭和五年五月成功し昭和六年三月今井吾介氏の經營する神奈川縣保土ヶ谷の靴下工場の一部にてこれが工業化を實現せるものにして、氏は技師長として招聘せられ、のち鶴見帝國蠶糸製織部の創設と同時に技師長に就任し現在に至れるものである。

氏は質實剛健、努力の權化と稱すべき奮闘家にして、識見又卓越せる逸材であり、その數多の業績と共に斯界に於ける信望は絶大なるものがある。

群馬、前橋市本町

**前橋商工會議所**

本會議所は明治三十一年一月創立を見たるものにして、選擧權者八九八名、議員三〇名會頭は鈴木愛三氏が當選した。

當地は機業地として名高く、特に現非常時局下に於ける産業經濟界は極めて重大なる時局に際會し、産業機構上に於ける商工會議所の地位とその使命は益々重大を加へる秋、會頭以下役員及び議員諸氏は戮力協心、最善を盡して精進しつゝある。

常務理事 正七・勳六・内田親章

氏は篤農家内田清造氏の長男として出生、小學校卒業後中等程度の私塾に學び、三郷村、上陽、伊勢等の各小學校に奉職兒童敎育に盡力されたが、伊勢崎を最後に轉換され、勢多郡書記、縣屬、縣會議員、地方商工主事を經て、群馬會館創立當時は同館事務を取扱ひ、昭和七年一月地方事務官商工課長に就任、昭和九年特別大演習當時は大任を負ひ至誠一貫の努力を致されたが、昭和十年退職され、以來商工會議所常務理事に迎へられ現在に至つた。

氏は溫厚篤實にしてまた識見高邁なる人格者にして、各方面に貢獻されたる功績と共に、世の信望は絶大なるものがある。

家庭に在つては、兩親共に健在、長男は既に夫人を迎へ、その他七女あり極めて惠まれたる生活を營まれてゐる。

群馬、碓氷、松井田町

土木建築組合長 **儘田菊二**

電話一五番

當家は松井田町屈指の舊家にして、祖父の代より煙草製造業を創めたのであるが、先代善太郎に至つて、土木建築請負業及び木材商をも兼營し、今日に至る。

當主菊二氏は、先代の次男として明治四十二年四月二十八日に出生し、高崎商業卒業後家督を繼承するや一意專心家業の興隆に盡瘁せられ着々としてその業績を擧げ、遂に今日の盛大を贏ち得られた奮鬪家である。

現在工業組合第十支部組合員、松井田壯年隊第三分隊長、松井田警防團副分長松井田警察署管内土木建築組合長、同木材商理事等の要職に在り、非常時局下に於ける國家目的を認識し、協力一致以て臣道實踐の實を擧げんことを期され日夜間斷なき努力を續けられその功績は洵に顯著なるものがある。

氏は眞摯公平なる人格者であり、鄕黨の信望は頗る篤くその將來は益々屬望されてゐる。家庭にはツヤ夫人との間に一男二女をあげ和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、高崎市九藏町

商工會議所議員 **羽鳥仲藏**

電話四二八番

當羽鳥家は、當主まで既に十五代の家歷を有する當市有數の舊家である。先代は始め魚問屋を經營してゐたが、のち料理業に轉じ現在に至つた。

當主仲藏氏は、先代の長男として明治十六年七月二十三日に出生、家督繼承以來、家業の發展興隆に盡力し、極めて顯著なる業績を擧げ、遂に今日の盛況を贏ち得られたものである。

現在高崎冷造製造株式會社監査役、全國料理業聯合會本部理事、商工會議所議員四期、甲種料理店群馬縣聯合會長等の要職に在り、寧日なき奮鬪を續け、非常時局下に於ける職域奉公、臣道實踐の至誠を致しつゝある。

氏は資性溫厚にして篤實、圓滿なる人格者として、各方面に寄與せられたる功績と共にその德望は絶大なるものがある。家庭にあつては養嗣子定八夫妻に令孫三男一女があり、和氣溢れる生活を營まれてゐる。

群馬、高崎市石原町

羽切製作所主 勳七等 **羽切廣吉**

電話一三一四番

當家は代々農を家業としたが、先代吉藏氏に至り組合製糸を設けてこれに從事昭和六年三月現住所に株式會社羽切製作所を創立し、現在に至つたものである。

當主廣吉氏は大正三年兵として橫須賀海兵團入團し、海軍三等兵曹となり、大正三年及び九年には動員され、赫々たる武勳を樹てゝ、勳八等及び勳七等瑞寶章を、それ〳〵授與せられたる勇士である。

氏は村會議員を經て、現在商工會議所理事、縣製糸業組合評議員、隣保組長等



の要職に在り、日夜奮鬪努力され業界に貢獻せる功績は洵に甚大なるものがある。

殊に非常時局下統制經濟時代に即し、組合精神の普及達成を計り、以て國策に順應し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期されてゐる。

氏は資性質實にして剛健、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者にして、その顯著なる業績と共に各方面の信望は絶大なるものがある。

家庭に於ては夫人ヒロさんとの間に二男一女があり、和氣堂に滿つるの生活を營まれてゐる。

群馬、高崎市大橋町

鹽穴業 **關口耕三郎**

電話八五五番

氏は明治十六年十一月の出生にして、當家は高崎市に運送業の老舖として尊父の代より明石屋號を以て經營し、尊父歿後長兄家督を相續したるも、不幸にして先年長逝したるため、こゝに當主耕三郎氏は、家業の一切を繼承し、家運の進展に盡瘁せられその業績は頗る顯著なるものがあつたが、先年鐵道省の一驛一店方針の確立に從ひ、多年經營の一切を丸通運送店に合同し、現在會社の取締役として專心的努力を續けられてゐる。

而して多年使用し來りたる從業者の生活保護のためには北高崎驛前通りに明石屋自動車用品部を開設し專ら自動車部分品の販賣をなされてゐる。

氏は溫厚篤實にしてまた情理に厚き人格者にして、業界の信望はもとより、從業員には慈父の如く敬慕されてゐる。而も家庭には巨萬の富を擁し、悠々自適の生活を營まれてゐる。

群馬、高崎市新町

商工會議所議員 **森清三郎**

電話四七番

當家は屋號を百足屋と號し、高崎市に於ける履物商中資產家として聞えてゐる。當主清三郎氏は實父小林鷲太郎氏の四男として明治二十七年二月三日の出生にして、後叔母森家の養嗣子として入籍し、昭和二年先代物故と共に家督を繼承したるものである。

以來家業の發展興隆に寧日なき努力を續け、その業績は極めて顯著なるものがある。

現在高崎商工會議所議員、高崎市第四十六區長、商業工業勞務調査委員、群馬縣商工更生委員、高崎履物商工組合聯合會々長、高崎警防團第五分團消防部長、高崎國策協力指導員、高崎物產株式會社監査役等々枚擧に遑なき重職にあり、肇國以來未曾有の難局下に於て、各界一致協力し職域奉公の至誠を捧げ、以て聖戰目的達成に寄與し、東亞共榮圈確立の礎石たらんことを期し、日夜粉骨碎身の努力を續けられてゐる。

氏は資性溫厚篤實、また情理に厚き人格者であり、滅私奉公の精神と共に各方面の信望は絶大なるものがある。

殊に家庭にあつては、よき父、よき夫として、修身齊家に努め、また子女の敎育に意を用ひ、而して質實相應の生活を營んでゐる。

家庭には夫人キヨさんとの間に一男二女をあげ、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、高崎市八嶋町

## 石田建材株式會社

電話(代表)一〇二一番

當社は建築用材料及これに附帶する一切の事業の經營をなし、その取引先は内地一圓はもとより朝鮮、滿州にまで及んでゐる。事業の關係上本社を東京に置き當高崎支店以外に川口市支店をも經營しその業績は極めて顯著なるものがあり、現在益々發展向上しつゝある。

**社長　石田想吉**

氏は群馬縣甘樂郡一宮町の出身にして、現在高崎商工會議所議員、その他の要職にあり、本年四十歳の少壯實業家として、嘖々たる名聲を謳はれてゐる。

氏は資性溫厚篤實なる紳士にして、また情理に厚く、本業を通じて產業の開發を計り、非常時局下に於ける國策に順應すべく專心努力を致されつゝある。その至誠秀拔なる識見は、業界の好指導者として、各方面よりの敬仰は絶大なるものがある。

群馬、高崎市本町

## 高崎榮養食配給所會計　木暮竹次郎

當家は屋號を小野屋と稱し、製麵製造卸商として聞え、その聲望は極めて高く先代竹次郎氏も市會議員、その他の公職に在つて盡瘁し、その功績はまことに顯著なるものがあつた。

當主竹次郎氏は先代の男として明治二十九年十二月十三日の出生にして、大正六年兵として朝鮮漢口第七十四聯隊に入隊一步兵伍長勤務上等兵として善行證書を有せられたる勇士である。

除隊以來は專心家業の發展に努力され着々その業績を擴張し、昭和九年十月には木暮織物工場を經營、同十五年四月戰時下市民の體位向上に寄與せんとして同志と謀り高崎榮養食配給所を設置され、爾來極めて順調なる發展を遂げつゝある。

現在高崎榮養食配給所會計、本町二丁目區長、警防團消防副部長、在鄉軍人會北分會長等の要職にあり、非常時局下に於ける國策に順應し、滅私奉公の誠を捧げ、以て東亞共榮圈確立に寄與せんことを期され、日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

資性溫厚にして篤實、家庭にあつては夫人はなんとの間に二男をあげられ、極めて平和な生活を營まれてゐる。

群馬、高崎市宮元町

## 辯護士　芥川辰次郎

電話四三五番

氏は先代新八氏の男として慶應二年八月五日三重縣に出生した。明治二十七年辯護士を開業以來、上毛法曹界の重鎭として信望極めて厚く、東亞辯護士大會には推されて日本代表者として出席した。また昭和十五年十一月十日在野法曹全國大會に於ては、宮城司法大臣より多年在野法曹界における功勞者として表彰される等、その功績は枚擧に遑がない程である。

氏は夙に辯護士會長、縣會議長、市會議長等の要職を歷任し、現在は專ら實業界に活躍して居る。

大資本を擁する高崎板紙株式會社監査



役、上毛新聞監査役、方面委員、人事調停、司法保護委員等の重職に在り、上毛に於ける法曹、實業界の最長老として衆人敬仰の的である。

公平無私、識見高邁なる人格者でありまた深甚なる眞言宗の信仰家として聞え同宗別格本山慈眼院を創立して、特に本山より院殿號を贈與せられた。

群馬、群馬、澁川町

土木建築請負業

## 岡本仁三郎

電話七二番

氏は土木建築請負業木藤定一郎氏の次男として、大正二年二月十二日の出生である。昭和十年六月澁川町の同業岡本仁三郎氏長女チエさんの女婿として入籍され、養父他界と共に家業一切を繼承され現在に至つたものである。

氏は日本大學工科の出身にして、昭和八年兵として本事變に應召され赫々たる武勳を擧げ歸還されたる勇士である。

氏が家督相續以來家運の進展に盡瘁されたる業績はまことに顯著なるものがあり、今日の盛況を贏ち得られたる重要なる要素である。

現在群馬縣土木建築工業組合第五支部長、澁川警察署管內土建組合會計、隣組長、町內評議員等の要職にあり、土木建築事業を通じて職域奉公の完遂を期し以て產業開發に資せんとして日夜奮鬪努力を續けられてゐる。

氏は資性質剛健にして、また眞摯氣鋭の向上に氏の存在は重要なるものとして斯界の信望は絶大なるものがあり、業運は益々隆盛を極めてゐる。

氏は消防組頭として八ケ年獻身的な努力を致され、今また岩鼻町警防團長、岩鼻鐵道株式會社取締役、高崎土木建築請負業組合副組合長等の要職にあり日夜間斷するところなき奮鬪を續けられてゐる。

即ち土木建築事業に關しては、これを以て產業開發の基礎事業たる自覺の下に職域奉公の至誠を捧げんことを期し、警防團長としては一致協力以て銃後國民の赤誠を致さんことを念願とし粉骨碎身の活躍をなされてゐる。

資性溫厚にして謹直、能く時代の方向を把握する有識の人格者にして、その仁俠の風と共に各方面の德望を一身に聚められてゐる。

家庭に於ては夫人キミさんとの間に三男二女をあげ和氣藹々たる生活を營まなてゐる。

事業に對しては、一意專心、これを徹底的に完遂せねばやまない熱力を以て、當り、家庭にあつてはよき父、よき夫として修身齊家に力を致してゐる。

群馬、岩鼻町

土木建築請負業
警防團長

## 高橋長三郎

電話四三番

當家は累代岩鼻町に居住し、先代長三郎氏に至つて土木建築請負を營むに至つたものである。

當主は尊父歿後尊父名を襲名すると同時に高橋組の一切を繼承し、以來家業の伸展向上に專心努力され、その堅實眞摯なる營業方針と共に業界の聲望は絶大な

群馬、高崎市本町

高崎海産乾物商業組合理事長 **荒木利兵衞**

電話二六六番

當家は屋號を小山屋と稱し、先代利兵衞氏の創業したるものにして、西上州に於ける同業者間の權威にして、當主は尊父物故と共に家業を繼承し、一意專心業務の伸展に盡瘁して、家運は益々盛況を極め堅實なる營業方針と巨萬の富を擇し海産物乾物鑵詰問屋の覇者であり、群馬縣下に於ける多額納稅者としてその信望は絶大なるものがある。

氏は謹嚴實直にして情理に厚き人格の所有者にして、その業界に寄與されたる功績と共に現在高崎海産乾物商業組合理事長の要職に在り、組合精神の普及振興に依り、非常時局下の國策に順應し産業報國の實を擧げるべく日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

家庭には六人の子女を惠まれ、その家庭は春風堂に滿つるの感あり、洵に目出度き限りであり、近隣美望の的となつてゐることはいふまでもない。

群馬、高崎市若松町

發明協會員 **湯淺文五郎**

氏は明治二十七年の出生にして、さきに履物商を經營してゐたが、群馬縣に於ける絲瓜の產出に着目し、以來これが加工製品として利用範圍を研究すること多年、この間商工省補助金を支給される等その研究の成果は著しきものがあり、遂に昭和十五年十月工場を新設するに至つた。

絲瓜は縣下土里村を中心として年產約百五十萬本にして、これが用途は頗る豐富なるものがあり、化粧水はもとよりランドセル、スリツパの製造等も可能にして、殊にスリツパは外人間に好評あり、外貨獲得の一要素としても重要なるものである。

氏は現在發明協會員として日夜研究に沒頭してゐるが、斯業の發展向上のためには販賣價格の制定、業界の統制等が不可缺であり、この方面にも氏の手腕が期待されてゐる。

氏は溫厚篤實なる人格者にして、しかも該博なる知識の所有者であり、特に非常時局下に於ける代用品の生產が要請されつゝある現在、氏の存在は洵に重要なるものと云ふべきである。

群馬、伊勢崎市榮町

繭業家 **橋本勝**

電話六七九番

氏は明治二十八年九月二十八日尊父末吉氏の長男として出生した。十九歳にして藏前高工附屬工業學校を卒業後前橋市勝山工場へ勤務、昭和八年より獨立して輸出人絹業を營み、家業の伸展に粉骨碎身し、遂に今日の大成功を贏ち得たるものであつて、現在縣下第一位の多額納稅者として知られてゐる。

氏は資性溫厚にした篤實、また情理に篤き人格者にして、その卓越せる識見と高邁なる精神とにより各方面に寄與するところは甚大なるものがあり、その德望は極めて高く內外の敬仰を一身に聚められてゐる。

家庭には尊父末吉氏、母堂エイさん高齡にして尙健在、夫人つねさんとの間に



榮治君、同夫人千代子さん、登美子さんがあり、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。尙氏は趣味として長唄、園藝を愛し極めて高雅な趣味として聞えてゐる。

群馬、伊勢崎市宮前町

井下繊出織物工場 **井下辰雄**

電話二二四番

當家の祖は遠く壹千餘年前、井上美濃守に發し、のち赤城神社神官を務むるに至りて井下の姓を名乘りたるものにして當地方井下姓の草分けとして知られる名家である。

尊父久馬氏の時代まで機業盛大を極めてゐたが他界後業勢思はしからず十數萬圓の負債を蒙り、その業績は沈滯の底にあつた。

氏は先代久馬氏の長男として明治二十五年九月二十七日の出生にして、家運最惡の悲境を繼承され、これが再興と伸展に盡されたる努力は業界の等しく驚嘆瞠目を惜まざりしものにして、粉骨碎身超人的の活躍を致され、着々その成果を得られ遂に今日の地方第一の大工場たらしめたるものである。

現に市會副議長、縣參與、工業組合理事、縣產保險議員、榮養食購買組合理事長等の要職に在り、その卓越せる手腕により寄與せる功績は枚擧に遑のない程である。

氏は資性溫厚にして謹直、至誠一貫の人格者にして各方面の信望は絶大なるものがあり、諸官公衙の指名入札人である亦東京鐵道局上野保線事務所の指名權をも有されてゐる。以てその堅實なる業績を知るべきであり、特に官廳より表彰されたるに至つては枚擧に遑なく、同業界の好指標として敬慕されてゐる。家庭また極めて圓滿、目出度き限りと云ふべきである。

群馬、高崎市下和田町

土木建築請負業 **宮越幸作**

電話一七四番

當家は先代より土木建築業を營まれたるものにして、當主幸作氏はその男として明治十九年一月の出生である。

先代歿後家業一切を繼承し、爾來家運の伸展向上に專心的努力を續けられその業績は洵に顯著なるものがあり、大正十五年には宮越製材所をも創設經營され現在に至つてゐる。

群馬、高崎市本町

百足屋代表者 **小林彌七**

電話(代表)五番

當店は父祖業代砂糖問屋として關東に聲名極めて高き老舖である。

現代表者彌七氏は、先代の後をうけその業績の伸展向上に盡瘁する傍ら滅私奉公の至誠を以て公共事業に奮闘され、その功績は極めて顯著なるものがあり、曩

に實業同志會より推されて代議士となり嘖々たる名聲を謳はれた。また前高崎商業會議所會頭として多年の蘊蓄を傾倒して商工業の發展促進に寄與したる事は、市民推稱の的たる事實である。

氏は資性溫厚にして篤實、卓抜なる識見を有する人格者であり、その各方面に貢獻せられたる業績と德行は現在尙一般市民の欽仰敬慕するところとなつてゐる。

尙全國砂糖問屋の重鎭として高名なる日本橋區小網町百足屋商店小林彌太郎氏は小林彌七氏より出でたるものにして、既に巨富を以て全國業者間に著聞せられてゐる。なほ最近は機械工具の卸店をも設置され各工場への配給等、業務極めて順調なるものがある。

群馬、高崎市並榎町

土木建築請負業 野口組 **野口國次郎**

電話一一六八番

氏は先代茂三郎氏の長男として、明治三十年十二月二十九日の出生である。

當野口組は、曩に先代茂三郎氏が碓氷郡板鼻町に土木建築請負業を創めたるに發し、現主國次郎氏に至るや、その堅實なる營業方針により、今や優剌たる業績を擧げ、縣下に於ける有力なる請負業者として、官公衙は勿論、一般同業者間にあつても、信用は絕大なるものがある。

現在縣土木建築請負業組合高崎支部幹事の要職にあり、非常時局下に於て土木事業を以て、臣道實踐、職域奉公に邁進して居られる。

氏は資性質實にして剛健、しかし情理に厚き人格者にして、その手腕と共に、統制經濟下に於ける業界に寄與するところ多く、極めて甚大なるものがあるべく、業者間の信望と期待を一身に集めて居る。

家庭に於ては夫人エイさんとの間に二男一女あり、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、高崎市新町

**高陽信用組合**

本組合は大正十一年の創立にして、幾多の難關を克服し現在に至れるもので、非常時局下組合員の共存共榮を期し、眞摯なる活躍が續けられてゐる。

區域は、群馬縣高崎市及群馬郡佐野村一圓とし、所期の目的達成のため、產業經濟の發達に必要なる資金の貸付、組合員と同一の家に在る者、公共團體又は營利を目的とせざる法人若しくは團體の貯金の取扱、產業經濟の發達に必要なる資金の爲め手形の割引等極めて發剌たる業績を擧げつゝある。

現在の貸出四十五萬圓、貯金は五十萬圓に及び、幹部役員の畫策施行まことに機宜に適し、益々順調なる伸展をなしつつあり、統制經濟下に於ける金融機關として、組合員に寄與するところは極めて甚大なるものがある。

群馬、高崎市八島町

**井上工業株式會社**

當社は衆知の如く高崎市八島町に堂々たる店舖を有し、土木建築請負及之に附隨する一切の業務を本來の使命として、二十數年前に法人組織となし設立されたものであるが、その始めは遠く明治初年現社長房一郎氏の祖父平三郎氏の創業に



拘るものである。爾來逐年業務の發展を遂げ先代保三郎氏に至つてその基礎は益益堅固を加へ、陸軍省を始め各官廳の指定權を收むると共に從來の個人經營を一族の法人組織として現在に至るもので、實に創業以來三代に亙りその社運の隆盛は日と共に顯著なるものがある。

社長 **井上房一郎**

氏はに夙上野美術學校に學び、卒業後世界美術の殿堂たる佛蘭西に多年留學をなし、その歸朝の船中當時の警保局長として盛名のあつた唐澤俊樹氏と相識り、玆に同氏の媒酌に依り、現夫人を迎へる至つたことは當時の新聞を賑はしたものである。

歸朝後は尊父保三郎氏を聘け、從來の建築請負業に審美的色彩を加味し、時代の進展と共に社運の興隆に盡瘁され、他面美術方面にもその蘊蓄と豐富な財力を投じ、篤學の士を扶けつゝ日本文化の向上に貢獻する等、その功績は燦然たるものがある。時偶々尊父保三郎氏の長逝に會し、玆に名實共に父業一切を繼承し、業界はもとより實業界の重鎭として、統制經濟時代に於ける國策に順應し建築奉公の指標となつてゐる。

氏は資性溫厚篤實、また識見卓抜せる人格者にして各方面の信望は絕大なるものがあり、氏の今後の活躍は萬人の刮目して待つところである。

群馬、高崎市成田町

群馬縣土木建築工業組合理事 **湯淺梅太郎**

電話七八番

氏は明治十七年八月二十九日碓氷郡八幡村の出身にして、當家は父祖累代米穀商を經營されてゐたが、氏の壯年期に至り、氏の叔父が武藏水力電氣會社の工事請負に關係されたるを機とし、同工事の完成後、即ち大正十年獨力をもつて土木建築請負業湯淺組を創設、爾來幾多の難關を突破し現在の盛況を贏ち得られたるものである。

現在、群馬縣土木建築工業組合理事、群馬縣方面委員、高崎市第二十二區長、商工會議所議員等の要職に在り、日夜間斷なき努力を致され、その功績は枚擧に遑のない程である。

氏は資性溫厚篤實、また情理に富みたる人格者にして已れを虛うして盡力せられる努力家であり、ために業界はもとより、各方面の信望は極めて篤く、一世の師表と敬仰されてゐる。

家庭に二男あり、長男は仙臺高工出身の俊英にして陸軍步兵少尉高崎北部監視隊長、其の他在鄉軍人北部副團長として活躍せられ、次男は目下早稻田大學專門部在學中である。

群馬、高崎市東町

商工會議所議員 鐵工機械業 煉炭製造業 **廣田松郎**

電話七三七番

當家は大正五年以來煉炭製造業を經營し、高崎市に於ける業界の重鎭として聞えてゐる。

當主松郎氏は先代垣四郎氏の長男として明治二十六年十二月二十日富山縣に出生した。家督繼承以來、一意專心家業の發展に盡瘁して、着々その業績を擴大し、昭和十二年には鐵工機械業をも經營し、その業績もまた極めて活潑なるものがあり、前途は益々有望なるものである。

現在は東部合同運輸有限會社々長、群馬縣煉炭工業組合監事、統制委員、東町相談役、商工會議所議員、市會議員、高崎燃料小賣商業組合理事長等の要職に在り、非常時統制經濟下に於ける國家目的を認識し、一致協力產業の開發、文化の向上に寄與し、以て職域奉公の至誠を致し、聖戰目的完遂の礎石たらんことを期し、日夜粉骨碎身の努力を續けてゐる。

氏は資性謹嚴にして實直、しかも公平無比なる人格者にして、各界に貢獻したる功績と共に、その信望は甚大なるものがある。

家庭にあつては母堂フシさん尙健在にして、夫人は先年物故されたが三男七女があり、長男金一氏夫妻の間に一男を惠まれ、極めて平和な生活を營んでゐる。

群馬、高崎市田町

商工會議所常議員　**高橋鎌太郎**

電話(代表)一二〇番

氏は明治二十四年五月二十六日新潟縣に出生した。十六歲にして高崎市海產物問屋小山屋本店に見習として入店し、以來孜々營々として奮闘し、遂に大正六年に宿望成つて獨立、現在の地に海產物問屋を開業するに至つた。爾來業績は極めて顯著なるものがあり、堅實眞摯なる營業方針と相俟つて、益々發展の一路をたどり、その販途は西上州及埼玉、東京方面に及んでゐる。

現在、高崎冷藏株式會社長、高崎海產物組合顧問、商工會議所議員、日本海產物群馬配給組合常務理事等の要職に在り、專心產業の振興生產の擴充に貢獻して來たが、時恰も未曾有の難局下に際し、愈々職域奉公の至誠を致し以て國家目的完遂に寄與せんことを期されてゐる。

關係事業として燃料報國の見地より、群馬縣特產の亞炭再製品の供給、及び冷藏庫の活用に依る軍需携行食料の製造等非常時局下に於ける食糧の確保を計るなど、各方面に於ける氏の活躍は極めて潑剌たるものがあり、その功績は甚大なるものがある。

氏は溫厚篤實、識見卓拔なる人格者であり、業界に盡した著大なる業績と共に聲望頗る厚く、衆人敬仰の的である。

夫人は先年逝去したが、いま家庭には一男二女あり、養嗣子善四郎氏夫妻の間には長男坦君を惠まれ、和氣藹々たる生活を營なんでゐる。

群馬、邑樂、館林町

機業家　**宮田伴次郎**

當家は、元館林藩にして代々地主篤農家として知られてゐる。

當主伴次郎氏は先代甚吉氏の長男として明治十五年六月十三日に出生し、家業を繼承するや、一意專心業務の伸展興隆に盡力され着々その成果を擧げ、今日の盛況を贏ち得られたものである。

氏の手腕力量は衆知のものにして、元同業組合長、理事長を歷任し、現在町會議員、勞務委員、信用組合理事、商工會副會頭、群馬縣スフ工業組合監事、關東毛織物工業組合館林班長、同理事等の要職に在り各方面に貢獻せるところ甚大なるものがある。しかも氏は組合精神の普及徹底に依り產業報國の實を擧げ以て非常時局下の國策に順應せんことを期されてゐる。



氏は資性溫厚篤實なる人格者にしてまた情理に富み、その顯著なる功績と共に各方面の信望は絶大なるものがある。

家庭には夫人ッカさんとの間に一女あり養嗣子を迎へ、五人の令孫を惠まれ和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、新田、太田町

水谷組主　**水谷英重**

電話一四七番

氏は先代庄次郎氏の長男として明治三十六年十月十六日の出生にして、早稻田商業學院理科卒業後昭和十二年步兵軍曹として應召され中支に轉戰、赫々たる武勳に薰る勇士である。

事業の得意先としては東武鐵道株式會社、中島飛行機株式會社等を有し、その堅實なる營業方針と相俟つて業績は頗る顯著なるものがあり、その盛況は業界の等しく注目するところである。

現在太田警察署管內土木建築請負業副組合長、營業統制委員、群馬縣土木建築工業組合第十一支部長、町內幹事、東武興業株式會社取締役等の要職にあり、未曾有の難局下に於て國策を遵奉し、土木建築業を基礎として產業の開發に資せんとして、粉骨碎身の努力を續けられてゐる。

氏は資性質實にして剛健、また情誼に篤く各方面に貢獻せられたる功績と共にその德望は絶大なるものがある。

家庭にはシゲ夫人との間に二男一女あり、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、利根、東村

萬屋工務店主　**星野弘**

電話八番

當家は代々萬屋と號し、當地方における屈指の舊家であり、尊父筆吉氏の代に至つて土木建築請負業を家業とするに至つたのである。

氏は明治三十四年十一月十九日、筆吉氏の次男として出生。不幸にして長兄早世のため、法政大學經濟部卒業するや、尊父を輔佐し、天稟の資性により能く父業の一般に通曉し、郡下屈指の土木業者として、その業績は極めて顯著なるものがあり、前途洋々なるものがある。

現在利根砂利合名會社代表者、群馬縣土木工業組合第六支部長の要職にあり、非常時局下の國策に順應し、產業開發の基礎事業たるの責務を自覺し、以て專心東亞共榮圈確立に寄與せんと日夜粉骨碎身の努力を致してゐる。

氏はその資性質實剛健にして情理に厚く、業界に貢獻されたる業績と共に同業者間の人望は極めて高く、その敬仰を一身に蒐めてゐる。

家庭には兩親共に健在、キヌ夫人との間に二男一女あり、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、邑樂、館林町

機業家　**中島幸造**

當家は邑樂郡中野村に於ける舊家であり、篤農家である。

當主幸造氏は尊父長次郎氏の次男として明治二十九年十二月二十九日の出生である。氏に至りて始めて毛織物界に志を立て、大正十年四月八日より毛織物輸出に從事し家業の伸展向上に一意專心奮闘され、その業績は極めて顯著なるものがある。

あり、爾來順調堅實なる發展を遂げつゝある。

現在織物工業組合理事の要職に在り、統制經濟下に於ける組合精神の普及達成を期し、以て臣道實踐、職域奉公に邁進せられ國家目的完遂の一翼たらんとして日夜間斷することなき活躍をなされてゐる。

氏は資性質實にして剛健、卓拔せる見識の所有者であり、その鞏固なる意志と信念とは業界等しく敬仰するところであり、その信望は絶大なるものがある。

家庭には尊父、母堂共に健在にして、夫人せい子さんとの間に一女あり、現在東京日本女子高等學院に在學中である。

群馬、吾妻、岩島村

池原組店主　**池原省三**

電話三八番

氏は先代由松氏の長男として、明治二十八年三月十四日に生れ、夙くより土木請負業に關係してゐたが、大正七年十一月現住所に移轉されたものである。

氏は業界の發展に資するため工業組合の設立を計る等、その功績は甚大なるものがあり、遂に推されて群馬縣土建工業組合第七支部長、木材商業組合代議員等の要職にあり、非常時局下に於ける東亞共榮圈確立の一翼として、土木事業を通じて産業の開發、文化の向上を期して益々その機能を擴大強化し、極めて堅實なる業績を擧げつゝある。

氏は資性質實剛健にして仁俠に富み、その風格は各方面の敬仰するところにして、その手腕力量と共に業界の期待は頗る大なるものがあり、統制經濟下に於ける組合精神の普及徹底による業界の合理化等は特に刮目されるところである。

家庭に於ては夫人フイさんとの間に五男五女を惠まれ、極めて和氣藹々たる生活を營まれてゐる。因に長男實氏は目下南洋興發株式會社に勤務してゐる。

群馬、伊勢崎市本町

機業家　**星野善作**

電話二二三番

當家は約四代以前に分家し、大正二年頃より機業を經營して、現在に至つたものである。

當主は先代文吉氏の長男として明治十八年三月四日の出生にして、家業を繼承以來、一意專心業務の進展興隆に盡瘁し着々その成果を得、今日の盛況を贏ち得たるものであり、その躍進振りは業界稀有のものとして令名嘖々たるものがある。

現在業望に推され織物工業組合常務理事同會計の要職に在り、統制經濟下に於ける業者の向上を計り、以て國策順應の至誠を致すべく、益々奮闘を續けられてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、しかも情理に富める人格者にして、業者間はもとより、顯著なる功績と共に各方面の信望は絶大なるものがある。

一方、修身齊家の道に精進し、よき父よき夫として、子女の教育に力を効してゐる。

家庭には夫人はなさんとの間に二男一女をあげ、長男吉夫氏は恒子夫人を迎へ長女愛子さんは養子一義を配偶とし、次男勝君は、慶應大學法科に在學中である。



群馬、伊勢崎市本町

土木建築請負業　**山田喜作**

電話二四二番

氏は先代勝太郎氏の長男として、明治十七年二月二十八日の出生である。

先代までは石材商を家業とされてゐたが、當主に至つて土木建築業に轉業されたものである。以來氏は家業の進展に一路邁進、着々とその業績を擴大し、今日の盛大を見るに至つたものである。

現在群馬縣土木建築工業組合理事、土木建築工業組合第四部長、同理事、日本赤十字社特別社員等の要職にあり、日夜間斷なき努力を致し、その功績は洵に甚大なるものがある。

至誠一貫以て非常時局下の國策に順應せんとする氏は年來の抱負にして、統制經濟下に在る工業組合の運營に關しても組合精神の普及徹底を計り、以て職域奉公の實を擧げんことを期してゐる。

氏は資性質實にして剛健、しかも情理に篤くその顯著なる業績と共に斯界はもとより各方面の信望は絶大なるものがある。

群馬、伊勢崎市宮前町

機業家　**下城虎次**

電話(代表)一五六番

家庭には夫人テウさんとの間には二男一女あり、長男健一郎君は武藏高校卒業後目下大陸に出征され勇戰力闘を續けられてゐる。

當家は、尊父榮作氏に於て本家より分家、機業を營みたるものにして、業界の功勞者であり、廣巾同盟會創立者にして元輸出會長等を務め、顯著なる業績を擧げた名望家である。

當主虎次氏は、その長男として明治十九年十月三日に生れ、家業を繼承するや一意專心、業務の伸展興隆に盡瘁し、着着成果を收めて、今日の隆盛を贏ち得たものである。

現在工業組合顧問、所得稅調査委員の要職に在り、組合員の福利增進、同時に組合精神の普及徹底により國運の伸展に寄與し、以て東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期し、寧日なき努力を致されつゝある。

群馬、北甘樂、富岡町

土木建築請負業　野口組主　**野口初太郎**

電話二〇五番

當家は先代元吉氏以來土木建築請負業を營まれてゐる北甘樂郡に於ける土木建築請負業界の重鎭である。

當主助太郎氏は先代の長男として明治二十六年十二月十二日の出生にして、家業を繼承するや一層家運の隆盛に盡瘁せられ着々その業績を擧げ現在では土木建築業、製材業等を經營され益々飜進の途上にある。

氏の營業方針は堅實眞摯なるものとして定評があり、隧道、鐵道、各官衙の指

定請負人であり、各種産業開發の基礎事業として土木報國を目的とし以て國家目的達成の一翼たらんことを念願とし益々奮闘努力を續けられてゐる。

現在防空群長、隣組々長の要職に在り銃後國民の指導者としてその信望は絶大なるものがある。

家庭には母堂イシさん老來益々健在、夫人イチさんとの間に四男一女をあげ極めて圓滿なる生活を營まれ、春風堂に充つるの感がある。

群馬、前橋市曲輪町

## 群馬縣購買販賣利用組合聯合會

電話(代表)四三三一番

本會は曩に有限責任萬年信用組合と稱し、昭和三年設立されたるものを改組し今日に至つたものである。

その事業とするは、この未曾有の危局に遭遇し、益々強化される統制經濟下に在つて總ゆる國家的目的達成の爲産業組合本來の使命に鑑み、愈々その機能發揮に努め、國策遂行に協力、公益優先を信條とし、卽ち販賣に於ては米麥木炭の一元集荷、購買に於ては重要生産資材たる肥料、飼料、農機具、綿製品を始め日用經濟用品の圓滑適正配給等が遂行され、極めて激剌たる業績を擧げてゐる。

氏は明治十九年一月二日の出生にして會長就任以來會の精神の普及達成に盡瘁し、その功績は極めて顯著なるものがあり、昭和十三年四月及十五年と二回に亙り縣政功勞者として表彰される等その業績は甚大なるものがある。

氏は資性溫厚篤實にして、高潔なる人格者にしてその高邁なる識見と共に業界はもとより各方面の人望は極めて高いものがある。

群馬、前橋市本町

## 群馬大同銀行

電話(代表)四二〇一番

當銀行は夙に當地金融界の重鎭として且つ最も信用ある貯蓄機關として、永年健全な發展を遂げてきた。

其の間、當地産業界の發展に貢獻するところ、頗る大であつたが、近時、今事變勃發以來、斯業界は未曾有の難關に遭遇し、本銀行も亦、影響を受けるところ尠くなかつた。然し乍ら、當銀行は、この超非常時の突破は、産業の振興と貯蓄の增大とに俟つべきものであり、この二つは共に、銀行の活潑なる活動を必要とすることを痛感して、全行員と全機能を擧げて、大いに奮勵するところあり、着着難關を克服し、新東亞建設に積極的に貢獻しつゝ、着々と發展の軌道を進んでゐる。

尙、當銀行の所在地は前橋市本町九三番地である。

## 會長 菅谷勘三郎

氏は明治二十一年一月二日の出生にして會長就任以來會の精神の普及達成に盡瘁し、その功績は極めて顯著なるものがあり、昭和十三年四月及十五年と二回に亙り縣政功勞者として表彰される等その業績は甚大なるものがある。

氏は資性溫厚篤實にして、高潔なる人格者にしてその高邁なる識見と共に業界はもとより各方面の人望は極めて高いものがある。

群馬、前橋市本町

## 群馬大同銀行

電話(代表)四二〇一番

當銀行は夙に當地金融界の重鎭として且つ最も信用ある貯蓄機關として、永年健全な發展を遂げてきた。

其の間、當地産業界の發展に貢獻するところ、頗る大であつたが、近時、今事變勃發以來、斯業界は未曾有の難關に遭遇し、本銀行も亦、影響を受けるところ尠くなかつた。然し乍ら、當銀行は、この超非常時の突破は、産業の振興と貯蓄の增大とに俟つべきものであり、この二つは共に、銀行の活潑なる活動を必要とすることを痛感して、全行員と全機能を擧げて、大いに奮勵するところあり、着着難關を克服し、新東亞建設に積極的に貢獻しつゝ、着々と發展の軌道を進んでゐる。

尙、當銀行の所在地は前橋市本町九三番地である。

## 頭取 小島友治郎

氏は明治二十一年に出生。

京都帝國大學出身の秀才で、才德兼備の人材として、夙に斯界に令名があつた人で、昭和十六年三月迄、日本銀行の發行局長として、大いに敏腕を揮ひ、戰時日本の經濟界に寄與するところ多大であつた。

當銀行頭取就任後未だ幾千もたゝぬが、溫厚圓滿なる風格と卓越せる手腕とは、早くも全行員の尊敬と信賴の的となつてゐる。



群馬、前橋市琴平町

## 群馬縣購買販賣利用組合聯合會

電話(代表)四三三一番

本會は曩に有限責任萬年信用組合と稱し、昭和三年設立されたるものを改組し今日に至つたものである。

その事業とするは、この未曾有の危局に遭遇し、益々強化される統制經濟下に在つて總ゆる國家的目的達成の爲産業組合本來の使命に鑑み、愈々その機能發揮に努め、國策遂行に協力、公益優先を信條とし、卽ち販賣に於ては米麥木炭の一元集荷、購買に於ては重要生産資材たる肥料、飼料、農機具、綿製品を始め日用經濟用品の圓滑適正配給等が遂行され、極めて激剌たる業績を擧げてゐる。

氏は明治十九年一月二日の出生にして會長就任以來會の精神の普及達成に盡瘁し、その功績は極めて顯著なるものがあり、昭和十三年四月及十五年と二回に亙り縣政功勞者として表彰される等その業績は甚大なるものがある。

氏は資性溫厚篤實にして、高潔なる人格者にしてその高邁なる識見と共に業界はもとより各方面の人望は極めて高いものがある。

群馬、前橋市本町

## 群馬大同銀行

電話(代表)四二〇一番

當銀行は夙に當地金融界の重鎭として且つ最も信用ある貯蓄機關として、永年健全な發展を遂げてきた。

其の間、當地産業界の發展に貢獻するところ、頗る大であつたが、近時、今事變勃發以來、斯業界は未曾有の難關に遭遇し、本銀行も亦、影響を受けるところ尠くなかつた。然し乍ら、當銀行は、この超非常時の突破は、産業の振興と貯蓄の增大とに俟つべきものであり、この二つは共に、銀行の活潑なる活動を必要とすることを痛感して、全行員と全機能を擧げて、大いに奮勵するところあり、着着難關を克服し、新東亞建設に積極的に貢獻しつゝ、着々と發展の軌道を進んでゐる。

尙、當銀行の所在地は前橋市本町九三番地である。

## 頭取 小島友治郎

氏は明治二十一年に出生。

京都帝國大學出身の秀才で、才德兼備の人材として、夙に斯界に令名があつた人で、昭和十六年三月迄、日本銀行の發行局長として、大いに敏腕を揮ひ、戰時日本の經濟界に寄與するところ多大であつた。

當銀行頭取就任後未だ幾千もたゝぬが、溫厚圓滿なる風格と卓越せる手腕とは、早くも全行員の尊敬と信賴の的となつてゐる。

群馬、桐生市本町

## 織業家 青木藤太郎

電話二二〇八番

氏は明治四十三年の出生にして、家督織承以來家業の發展興隆に一意專心盡瘁せられ、着々として家運の隆盛をかち得られ、爾來その堅實なる營業方針と眞摯なる奮闘に依り業界の聲望は甚大なるものがありその發展振りは業界の等しく刮目するところである。而も氏は新進氣鋭なほ前途に幾春秋をのこし今後の活躍は期して待つべきものがある。

氏は資性質實にして剛健、しかも情理に厚き人材であり、機業を以て國策に順應し産業報國の實を擧げ、以て非常時局下の國家目的たる東亞共榮圈の確立に寄與せんことを念願とせられ日夜間斷するところなき至誠を致されてゐる。

家庭生活も極めて圓滿にして美しい家風をなし、和氣藹藹たるものがあると聞えるが、洵に目出度き限りと云ふべきである。

群馬、前橋市琴平町

## 小野里光治

株式會社小野里組 專務取締役

電話三九三二番

氏は尊父、現小野里組社長龜澄氏の次男として出生、前橋中學卒業後、早稻田高等工業學校に學び同校建築科を優秀なる成績にて卒業、現小野里組專務取締役として盡瘁せられてゐる。

當小野里組は昭和十四年九月、尊父龜澄氏が斯業の發展向上を期して設立されたものにして、業績極めて優秀なるものがある。加ふるに少壯氣鋭の光次氏が豊富な學識と天稟の資質を以て尊父を輔佐せられてより業績は更に顯著なものがある。

現在群馬縣土木建築工業組合監事、琴平町壯年隊分隊長、家庭防空部長、前橋砂利合名會社役員等の要職にあり、職域奉公、臣道實踐の誠を致されて日夜營々孜々たる努力を續けられてゐる。

資性質實剛健、情理に厚く、その卓越せる手腕力量と相俟つて各方面の信望は極めて篤く、その名聲は嘖々たるものがある。

群馬、前橋市榮町

## 佐藤榮太郎

佐藤組主 勳八等

電話二七五一番

氏は先考文治氏の長男として明治十七年四月二十八日新潟縣に出生した。のち明治三十九年現住所に移り土木建築請負業に從事、以來一意專心斯業の發展興隆に盡瘁され遂に今日の大をなされたものである。

今や巨萬の富を爲し縣下土木業界の重鎭としてその聲望は嘖々たるものである。氏は又日露戰役に從軍し赫々たる武勳を樹てゝ勳八等瑞寶章、一時賜金を賜はつた勇士である。

現在群馬縣々會議員、前橋市會議員、前橋商業會議所副會頭、群馬縣土木建築工業組合理事長、前橋警防團副團長、配給理事長等の要職に在り未曾有の難局下

に於ける業界の指導者として、國策順應臣道實踐の完遂を期され日夜間斷するところなき努力を致されてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、高邁なる識見を有される人格者にして、滅私奉公の至誠と共に各方面の德望は絶大なるものがあり、曩に日本赤十字社有功章を授與された。

家庭には夫人トヨさんとの間に二男二女あり、加ふるに長男夫妻に令孫二子が惠まれ和氣藹々たる生活は正に春風堂に充つるの感がある。

群馬、桐生市旭町

內地織物工業組合理事 **小島武次郎**

氏は明治三十三年三月四日の出生にして、昭和二年現住所に開業、以來、その該博なる研究により機業界に貢獻するところ甚大なるものがあり、曩に商工會議所議員、代議員二期等を歷任され、現在內地織物工業組合の理事として縱橫の活躍を續けられてゐる。

その營業情況は頗る溌剌たるものがあり、內地交織女物着尺は一ヶ月約一、二〇〇餘反に及び、主要なる取引先は、三越、松坂屋、大阪大丸、京都丸紅等である。

機業に依る職域奉公は氏の年來の抱負であり、殊に非常時統制經濟下に在つて東亞共榮圈確立の一翼として臣道實踐の誠を致されんことを期して居られる。

叨ち從業員の指導に就ても如上の主旨を徹底せしめ、女工達には近き將來に於ける良妻賢母としての敎養を與へる等、その施設には萬全を期して居られる。而も溫厚にして篤實なる氏は業界に於ける信望はもとより、各方面の德望も極めて甚大なるものがある。

趣味としては園藝を愛し、庭內に美しき花園を設置しあり、多忙な日常の寸暇を悠々自適せられると聞き及ぶ。

群馬、高崎市羅漢町

土木建築請負業 **中山米次郎**

電話四六〇番

氏は群馬縣土木業の重鎭として、土木建築工業組合第二部員、群馬縣土建組合評議員等の要職にあり、時局下未曾有の難局に對し、國策順應、土木事業を通じて臣道實踐の誠を致さんと老來益々業界の進步發展に貢獻しつゝある。

氏は資性溫厚篤實にして、長者の風格ある人格者にして、業界に於ける信望は絶大なるものがある。

家庭には夫人フサさん、長女ウタさん令孫三男一女があり、嫡孫精一君は目下滿洲に在り勇戰力闘を續けられてゐる。

群馬、桐生市永樂町

## 桐生商工會議所

電話二〇六一番

桐生商工會議所は昭和十五年四月五日に創立された。

國家興隆の基は、地方商工業の發展にある。然し乍ら自由主義經濟の時代ならば兎に角、今や國家の方向に逆行するが如き商工業の存在は許されないし、又、その發展も豫期し得ないことは論を俟たぬ。地方商工業は打つて一丸となつて、國策の線に沿つて動かなければならない。

こゝに、それ等商工業の中樞となり推進力となる機關が必要となる。斯かる意味から、本會議所が誕生ずるに至つたのである。創立以來日は淺いが、その業績は著しく、當地商工業を統率して、新東亞建設に多大の貢獻をなしたが、今後の活動に期待されるところも、また實に大である。

## 會頭 森宗作

氏は明治十七年八月三日に出生。幼時から秀才の聞えが高かつたが、長ずるに及び、實業界に入るに及んで、氏の明晰な頭腦は一層の鋭敏性を增し、斯界の成功者として、着々、頭角を顯はしたが、他面、溫厚篤實、人情味豐かな風格の持主で、絶大な人望を得るに至つた。

會頭に就任以來、私事をなげうつて、當地商工業の發達に盡瘁して、功績尠からず、各方面の信望はいよ〳〵篤い。

尙、當會議所の所在地は、永樂町二丁目一一八四番地、內地織物工業組合內である。

群馬、桐生市廣澤町

機業家 **飯塚癸巳三**

氏は明治二十六年七月十一日の出生にして、長ずるに及び當飯塚家に入籍し家業の輸出織物業一切を襲承され一意專心家運の發展向上に盡力せられ、爾來その堅實なる營業方針と、機宜に適せる企畫とにより極めて顯著なる業績を擧げ、その盛況振りは業者間の刮目するところである。

氏は資性篤實にして剛健、しかも情理に厚き人材にして機業により國策に順應し職域奉公の實を擧げ以て非常時局下における國家目的たる東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期し、日夜間斷するところなき至誠を致業てゐる。

即ちその滅私奉公の精神は業界に貢獻すること頗る甚大なるものがあり、今や名實共に吉田組の支配者として嘖々たる名聲を博して居られる。

現在大政翼贊會桐生市支部參與、同桐生市壯年隊長、桐生市軍人分會顧問、群馬、桐生市宮本町

吉田組主 **吉田熊次郎**

電話二一五九番

當家は祖父の代より土木建築請負業を營み、現在三代を數へる當地業界の重鎭である。

當主熊次郎氏は現在桐生材木商業組合理事長として盡瘁されてゐるが家業の一切は次男龜雄氏の奮闘によつて經營されてゐる。

龜雄氏は明治三十一年五月十五日の出生にして慶應大學經濟學部の出身である。大正十一年陸軍自動車學校入隊陸軍中尉に任ぜられ、今事變に出動し赫々たる武勳を樹てた勇士である。

歸還以來尊父を輔佐して家業の進展を計り日夜奮闘努力を續け、その業績は日を逐うて顯著なるものがあり、今や名實共に吉田組の支配者として嘖々たる名聲を博して居られる。

現在大政翼贊會桐生市支部參與、同桐生市壯年隊長、桐生市軍人分會顧問、群

馬縣土木建築工業組合理事、同營業統制委員、大政翼贊會協力會議員等々の要職に在り、徒らなる競爭意識を廢し、各人一致協力して東亞共榮圏確立の一翼たらんことを期し、日夜間斷なき努力を續けてゐる。

即ち經濟總力戰完遂の途上、最も遺憾とする官公衙の入札制度の改良を計る等その努力と功績は甚大なるものがある。

氏は資性質實にして剛健、しかも情理に厚く、滅私奉公の至誠と共に各方面の信望を一身に聚めてゐる。

家庭には御兩親益々健在、アイ子夫人との間に二男一女をあげ和樂圓滿な生活を營んでゐる。

群馬、桐生市宮本町

松井組主

## 松井豊吉

電話二二三〇番

當家は三代の家歷を有せるものであるが、當主豐吉氏に至りて十五年前に分家し土木建築請負業を家業とされた。

氏は先代兵三郎氏の次男として、明治二十八年二月一日の出生である。土木業を經營、以來營々玆々として家運の興隆に盡瘁せられ、着々その業績を收め、堅實なる營業方針と相俟つて斯界の壓望は甚大なるものがあり、同市業界の重鎭として聞えてゐる。

氏は國家目的完遂に對しては利害を超越し、欣然これに參與せんとする決意を有し、現在市會議員、商工會議所議員、桐生材木商組合理事等其の他の要職に在り、滅私奉公の精神を以て臣道を實踐し、產業の開發、文化の向上に資せんことを期し、寧日なき活躍を續けてゐる。

氏は語る「われ等業者は、臨戰態勢下において、舊態勢を淸算し、國家目的に卽應して力心一途の熱意を以て、皇國發展に努め、われ等の職域を通して臣道實踐を致さねばならぬ」。

氏は資性溫厚にして篤實、識見また卓越せる人格者であり、その秀拔なる手腕功績とは共に各方面の期待極めて篤く、衆人敬仰の的になつてゐる。

家庭に於ては夫人センさんとの間に三男一女を惠まれ和氣藹々たる生活を營んでゐる。

群馬、桐生市西堤町

井草組主

## 井草峰吉

電話三二一一番

當家は土木建築業として二代の家歷を有し、先代は縣下土木業の先覺者として聞えてゐた。

當主峰吉氏は先代佐四郎氏の長男として、明治十五年十二月三日に出生された。明治三十五年日露戰爭と共に動員され赫々たる武勳に薰る勇士である。歸還以來は專心家業の興隆に盡瘁せられ、その堅實眞摯なる營業方針と共に極めて顯著な業績を擧げ、同業界の重鎭として信用絕大なるものがある。

現在桐生土木建築資材有限會社長、群馬縣土木建築工業組合總代及營業統制委員、桐生貨物自動車有限會社監査役、日本赤十字社員、桐生市消防組部頭等の要職に在り、非常時局下の國策を遵奉し、協力一致總親和の精神の下に東亞共榮圏確立の一翼たらんことを期され日夜粉骨碎身の至誠を盡されてゐる。

氏は資性高潔無比、また情理に厚き人格者であり、その業績を收め、堅實なる營業方針と相俟つて斯界の壓望は甚大なるものがあり、同市業界の重鎭として聞えてゐる。

氏は國家目的完遂に對しては利害を超越し、欣然これに參與せんとする決意を有し、現在市會議員、商工會議所議員、桐生材木商組合理事等其の他の要職に在り、滅私奉公の精神を以て臣道を實踐し、產業の開發、文化の向上に資せんことを期し、寧日なき活躍を續けてゐる。

氏は語る「われ等業者は、臨戰態勢下において、舊態勢を淸算し、國家目的に卽應して力心一途の熱意を以て、皇國發展に努め、われ等の職域を通して臣道實踐を致さねばならぬ」。

氏は資性溫厚にして篤實、識見また卓越せる人格者であり、その秀拔なる手腕功績とは共に各方面の期待極めて篤く、衆人敬仰の的になつてゐる。

家庭に於ては夫人センさんとの間に三男一女を惠まれ和氣藹々たる生活を營んでゐる。



格者であり、その識見力量と共に各方面の敬仰を一身に聚められてゐる。

家庭に於ては夫人キエさんとの間に二男二女を惠まれ、既に長男英一夫妻に令孫建一君があり和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、桐生市末廣町

織物輸出絹

## 桐生工業組合

電話二三七三番

本組合は、高級輸出向絹織物を製造し外貨の獲得、業界の進歩向上を目的として、昭和七年六月十八日設立認可を得たるものである。

爾來幹部役員の盡策施行ことに機宜に適し益々顯著な業績を擧げ、各種、商工業組合中に在つても、最も優良なる組合としてその前途は愈々多幸なるものがある。

專務理事

## 江原辰之助

氏は當組合常務理事として就任以來、業界の進歩發達に日夜間斷するところなき努力を致され、就中、組合精神の普及達成により非常時統制經濟下に於ける職域奉公の誠を致し、以て東亞共榮圏確立の一翼たらんことを期され、その功績は洵に顯著なるものがある。しかも氏は資性溫厚にして篤實、情理に富める人格者にして、その業界に貢獻せられたる功績と共に斯界の信望は絕大である。

群馬、桐生市宮前町

桐生製材株式會社
專務取締役

## 宮川常次郎

電話二七三七番

氏は尊父直次郎氏の次男として、明治二十一年四月十八日の出生である。明治四十一年近衞砲兵十四聯隊に入營除隊するや通運業宮川喜平氏長女ツルさんの女婿として入籍、養父喜平氏逝去と共に家督を相續して現在に至れるものである。

現在群馬縣土木工業組合理事、桐生製材株式會社專務取締役、群馬縣地代家賃協定委員、四丁目納稅組合長、桐生材木商業組合理事、上州木材商業組合評議員等の要職に在り、日夜努力されその功績は極めて甚大なるものがある。

氏は年來共同生活の基礎は一に和に據るものとの見識を有し、同時に社運の隆盛を計るには社員の性能を知悉し、適材適所を旨とし以て非常時局下の國策に順應せんと專心努力を續けつゝある。

氏は溫厚篤實にして情理に富み、業界に貢獻せられたる功績と共にその信望は絕大なるものがある。

家庭には夫人ツルさんとの間に一男二女あり、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。因に長男嘉一郎君は現在東京工業大學に在學中である。

群馬、北甘樂、一ノ宮町

湯川工務店主

## 湯川重太郎

電話一五番

氏は先代金次郎氏二男として小田原市に出生した。

現工務店の創設は約十五年以前にして一ノ宮町に本據を置き、その事業係は群馬、長野の二縣に及び業績極めて活潑にして新進土木請負業としてその躍進振りは業界稀れに見るところである。

現在、軍指定により磯部工場建築が進捗中であり、これの總支配人には實兄密

三氏が當られてゐる。

當店は軍部の專屬とも稱すべくその他水力發電工業等に示されたる業績は多種多樣にして業界注視の的になつてゐる。

本店がかく顯著なる業績を擧げられたるは、關係者一同の一致協力は勿論であるが、これの推進力としての氏の功績は重大なるものがあり、非常時統制經濟下に在つて、土木建築業を以て國策に順應し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期し益々奮鬪努力を續けられてゐる。

氏は溫厚にして篤實、圓滿なる人格と共に業界の信望は絕大なるものがある。

群馬、群馬、澁川町

**松井組主　須田壽三郎**

電話二六七番

氏は利根郡の農龜藏氏の四男として明治三十年八月十九日に出生し、二十餘年前より土木建築請負業に從事されてゐたが、遂に昭和十年獨立經營の志成り、松井組を設立し現在に至つた。

獨立以來家運の伸展向上に營々玆々として奮鬪されその堅實眞摯なる營業方針と共に業績は頗る活潑なるものがあり、その事業は東京電力を主體とし官廳方面に亘り前途は益々有望である。

現在澁川警察署管內土木建築組合長、縣土木建築工業組合第六部總代、澁川町警防團工作班副班長等の要職に在り、土木建築業を通じて國策に順應し産業の開發、文化の向上に寄與せんとして日夜粉骨碎身の至誠を致されてゐる。

氏は資性質實にして剛健、しかも情理に厚く、業界に貢獻せられたる功績と共にその信望は絕大なるものがある。

家庭にあつては夫人キクさんとの間に五男三女を惠まれ極めて幸福なる生活を營まれ春風堂に充つるの感がある。

群馬、前橋市一毛町

**小林組主　小林義太郎**

電話二六二九番

當家は、明治二十七年祖父三次郎氏の代に土木建築請負業を家業とし、當主義太郎氏まで三代の家歷を有する當地業界の重鎭として、聲望斯界を壓するものがある。

當主は尊父三次郎氏の長男として明治四十一年八月十三日の出生にして、前橋中學を經て慶應義塾高等部を卒業、家業を繼承するや一意專心業務の發展興隆に盡瘁され、その堅實眞摯なる營業方針と共に極めて顯著な成果を得られ、現在は製材販賣業をも營まれ益々順調なる業績を示されてゐる。

卽ち鐵道、縣其の他の指定請負人としてその信用は頗る篤く、推されて土木建築工業組合第一支部總代、前橋建築協會評議員、日本赤十字社正會員等の要職にあり、業界一致協力東亞共榮圈確立の一翼として産業の興隆文化の向上に寄與し以て職域奉公の至誠を至さんことを期され、日夜間斷することなき努力を續けられてゐる。

氏は資性溫厚篤實、また情理に富みたる人格者にして、滅私奉公の精神と共に各方面の敬慕を一身に聚められてゐる。

家庭にあつては兩親共健在、夫人トヨ子さんとの間に二男一女ありて、その圓滿振りは正に春風堂に滿つるの感がある。



群馬、桐生市稻荷町

**阿部組店主　阿部恒司**

電話三一四二番

當阿部組は先代久六の創業されたるものにして、當主恒司氏はその長男として明治二十七年五月十五日の出生である。

氏は步兵上等兵として善行證を有する勇士であり、除隊後は土木建築請負業に盡瘁され、堅實眞摯なる營業方針を以て着々として發展向上し、今や當地土木業界の重鎭として聞え、製材業をも經營されてゐる。

現在桐生市々會議員、市參事會員、桐生土木建築資材有限會社監事、群馬縣土木建築工業組合員、桐生木材商業組合理事、桐生大間々製材組合組合長、稻荷町納稅組合長、同評議員、土木委員等の要職に在り日夜間斷なき奮鬪を續けられてゐる。

卽ち國家未曾有の難局に際し、戰時體勢の緊迫强化にともなひ、土木報國を念願とし國策遵奉、職域奉公の至誠を致し以て東亞共榮圈確立に寄與せんことを期されてゐる。

氏は資性質實にして剛健、誠私奉公の人格者であり、その手腕力量と共に、斯界の信望は絕大なるものがある。

家庭には夫人トクさんとの間に二男七女があり春風堂に滿つるの感があり洵に目出度き極みである。

京都、久世、大久保村

**製材業　田島伊助**

電話宇治二五一番

氏は、明治三十六年五月六日生誕。京都第十六聯隊自動車隊に入隊し、陸軍輜重兵上等兵に昇進して除隊となり、今事變に出征して二ケ年餘戰線を活躍して歸還せる勇士である。

昭和九年一月、田島製材所を設立、建築材料の製材に從事し、本郡一圓に供給して來たが、目下建築請負業も兼ねてゐる。

現久世郡宇治郡材木商組合監事、京都土木建築業組合常任監事等を勤めて、斯界に貢獻してゐる。

京都、綴喜、田邊町

**田邊町役場**

當町は、奈良街道にそふ、南山城中央の一聚落にして、農業の中心地である。西南の甘南備は、生駒山塊の一秀峰にして、山頂の眺望よろしく、南山城の平野と木津の長流を瞰下し、模糊たる京の甍とこれをめぐる悠々たる比叡、愛宕の山山とを白雲の外に眺むることが出來る。

主なる産物は米麥にして、茶、大根等も産する。

官公衙に、田邊土木事務所、府農林產物檢查所綴喜郡支所、府農事試驗場山城園藝場、蠶業取締所田邊支所、京都區裁

判所出張所、田邊氣象觀測所、大阪地方專賣局煙草販賣所、田邊郵便局等がある。

小學校の建築は完成し、教育施設設備も整つてゐる。

名勝としては、甘南備寺、醐恩庵（一休禪師の墓があり、又の名を一休寺といひ、本堂及び一休坐像は共に國寶である）靈鷲供養塔等がある。

交通は便にして、片町線由邊驛がある。

當町は、半農半商にして、農業は盛んであるが、今後工業を發展せしめて、町勢の向上を圖るべく期待されてゐる。

## 町長　桐山　德重

當家は、當町内に於ける屈指の名門にして、尊父故德次郎氏は、區長、町會議員等を歷任して功績を擧げた。氏は、その三男にして、明治三十一年四月に生れ、のち分家して一家を創立した。

大阪府立四條畷中學校卒業、助役、學務委員等を歷任して、現在は町長の外、町會議員、銃後奉公會長等を兼務して健闘してゐる。

京都、綴喜、田邊町在郷軍人分會長

## 片岡秋三

氏は、明治四十一年十一月十八日に生れ、二十三才の折、當片岡家の養子となる。

當家は、代々農業を營む舊家にして、養父源三郎氏は篤農家として知られてゐる。

秋三氏は、大正十五年京都輜重兵第十六聯隊に入隊せる陸軍輜重兵軍曹にして、今事變に出征、二ケ年餘北支及び中支の戰線に活躍せる歸還勇士である。

現在は、當町在鄉軍人分會長に推され、また十年間青年學校指導員として盡瘁し今日に至る。

殊に分會長としては、團員を指導訓練して、出征家族に對しては、各班に分れて、これを慰問するは勿論、農繁期等には手傳をしてゐる。而して現下の局勢に鑑み、在鄉軍人會を再認識せしめ、非常時日本の强力なる銃後國民として、烈々たる軍人精神を發揮し、本來の使命達成に力めてゐる。

京都、相樂、山田莊村

## 清水秀三郎

農業家

當家は、代々織物業を營み、開祖は詳かでないが、當地方における業界の舊家として知られてゐる。

先代故市次郎氏は、織物業に成功すると共に、篤農家として知られてゐた。氏は、その二男として、明治二十八年二月二十九日の生誕。大正十二年、氏を中心に、令弟藤原與十松、甥清水繁次の三氏共同經營にて、清水織物工場設立、爾來協心戮力、孜々營々、事業を擴張し、業運を繁興せしめて今日に至る。

製織は絞張地、織機六十臺（現在二十臺使用）從業員九名（前は二十四名）、販路は主として奈良地方である。

母堂いそさん（七十一歲）、令室するさんとの間に四男一女あり、和やかな家庭を營んでゐる。

剛毅闊達にして、事の大小を問はず、誠意を以て善處する人柄として、町内の信望が篤い。



京都、相樂、相樂村

## 福岡忠治

農業家

當家は、家歷五百年を閱する村内屈指の舊家より分家して、三代を傳へ、先代まで農業を營んでゐたが、當主の代に至り、機業に轉じ、今日に至る。

先代故秀太郎氏は、篤農家として、農事改良に專念して、村の農業經營上に沒すべからざる功績を遺してゐる功勞者である。

當主忠治氏は、その長男にして、明治三十五年八月十四日に生れ、本津農學校卒業、昭和十年より福岡織物工場を創設、機業の製織に着手して、奮闘努力、今日の隆昌を見るに至つた。

一方、現に山城機業小組合理事として、業界の向上發展に力を效し、また十七年間、南都銀行木津町支店長代理を勤め、當地方の金融に貢獻するところ少くない。

着實謙和、身を修むるに固く、家を齊へるに殷にして、他の範たるべき人柄である。

岡山、吉備、總社町

齒科醫

## 秋山啓策

令室きぬゑさん、令弟常嗣君（二十五歲）家業に從事してゐる。令妹ひささん（二十二歲）奈良師範學校卒業、目下敎職にあり、初等敎育に親しんでゐる。兄弟相扶け、相携へて、愉しい家庭を營んでゐる。

院長秋山氏は稀にみる苦學力行の人として評判の人である。

家は代々屈指の舊家にして由緒ある家柄であるが、幼少の折には財的に惠まれざる境遇に置かれたため、苦學力行、獨學に專念しなければならなかつた。

氏は先代長七氏の三男として明治二十四年十月二十一日に呱々の聲をあげた。幼にして大器たるの素質に惠まれてゐたが前記の通りで、齒科醫を志望し、單身家鄉を出で、或は岡山市に、或は東京市と轉々として苦學しながら齒科醫學を勉强し、その間困苦缺乏、幾多の艱難に遭遇しても不屈不撓、遂ひに齒科醫師としての國家試驗に合格して資格を獲得するに至つた。

榮冠常に涙あり。

大正六年現住地に開業したときには、既に臨床的には幾多の經驗を積んでゐた、その血涙的體驗が基礎になつてゐたことゝて、氏の技量を墓つて寄せ來る患者が日に月に增大して行く一方であつた。

現在二三ケ所に出張所を置いて、體が幾つあつても足りぬほど忙殺されてゐる。

資性溫厚にして信望篤く、恒に「富まずとも正しく强く生きよ。」の信念の下に着々としてその地盤を築いてゐる。

昭和十六年に鄉土久代村國民學校奉安殿謹建には金壹千圓を寄附してゐる。

氏は恒に財を蓄積することは私のためではなく、公共に對して盡す心に燃えてゐるからである。

趣味としては讀書家として知られ、家風は恒產ある人として、自らなる品位と格式が備はり、義理を重んじ、人情に篤く、近隣よりの評判は頗るよいのである。

家庭には一男二女の子福に惠まれ、二

女とも既に緑づいて多幸なる家庭の人となつてゐる。一家またその人格を反映して非常に明朗である。

## 岡山、吉備、生石村

**藤壽、住友生命保險代理店　荻野石太**

氏は本年六十九歳の高齢にして、該地方に於ける屈指の名望家である、而して現在、生石村農會長、學務委員、方面委員等の要職にありて、一路總親和村政の指導者として、清く正しく職責完遂に邁進してゐる。先代石太郎氏は正直一途の人格者で、衆人の尊敬と信望を一身に集めた鄉土開發の大恩人である。

尙ほ氏は農工銀行、富國火災保險並に上記の藤壽、住友生命保險の代理店を經營し、縱橫無盡の活躍を續けてゐる。

一見極めて冷淡に見え、且つ官僚的な氣風を感ぜしむるが、それは皮相の見方で、燃ゆるが如き烈々たる日本精神と、鐵の如き確固たる信念を持つ人格者である。昭和十四年の旱魃に直面したる際、是が對策として地下水利用を實行して成果を得たるも、氏が逸早く協議をして、早速處理工作を斷行したるに依る。卽ち氏が地方自治に對して如何に卓越したる手腕と實行力を有するかは、こゝにも窺知し得る處である。

昭和八年十一月五日吉備郡教育會の感謝狀を始めとし、其の他多數の表彰狀は實に、氏の人德と多大なる功績を反映せしものである。

家庭には龍代夫人(婦人會顧問)に、二人の子息と其の夫人等にて、氏の前途は實に賴もしく、而してその老後は極めて幸福なるものと羨望の的となつてゐる。

## 岡山、川上、玉川村　役場

**玉川村　西茂樹**

當村は郡の東南隅に位して吉備、上房兩郡の交叉點にある。高梁川東を流れ、北に落合村、西に成羽町がある。

主産物は米、春繭、夏秋繭、麥、木炭生柿、蒟蒻等があるものは玉泉坊、大德寺、社寺の主なるものは玉泉坊、大德寺、寶藏寺で、交通は對岸伯備線中廣濱驛に渡船を以て連絡し、民風も淳朴で良俗をなしてゐる。

氏の家は代々の舊家にして屈指の素封家である。

先代は家業の傍ら、產業公共につくした人として知られてゐる。

氏はその男として明治二十二年九月二十二日に呱々の聲をあげた。

幼にして頭がよく、將來の大器として大いに囑目されてゐた。

夙に向學の志に燃え、敎員として職を選び、敎壇生活二十數年、恒に理路整然たる主張を以て育英に當り、氏の薰育を受けて出世してゐる人が枚擧に遑がないほどである。

家庭の都合で敎師生活に別れ、鄉土發展に意を注ぎ、當村々長として就任、爾來孜々として一貫せる信念を以て指導して今日の大を成すに至つたのである。

資性溫和にして聲望兼備の好紳士といはれる人。

趣味は讀書、川柳、圍碁等である。

令室沖子さんまた夙に貞女の聞えある人にして、その間に、智也、圭吾、淳吉健樹さん達のよき子福に惠まれ、恒に和氣藹々たるものがある。



因みに、先代は三十五年間役場に奉職し精勵恪勤は今でも人の語り草とされ、令兄卓爾氏令弟他石氏共に醫師として名高く、令妹も醫家へ嫁いでゐる。

## 岡山、玉野市

**木材業　大賀賢一**

今から六代前大賀宗馬左衞門義秀氏が常山城の御殿醫となり、其子賢順及其子良覺氏三保治老人まで、四代醫業を繼ぎ、五代目豐氏の代に至つて材木商を營んだ。

豐氏は家業の傍ら玉區總代を二期つとめ、また自治組合長、納稅組合長、家屋稅調査員、玉野商工副會長、衞生委員等として公共のため多大の功勞をつくした人である。

氏はその長男として明治三十五年一月一日に呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦拔群、恒に悠容として迫らざる風格は大器として囑目された。

長じて家督を繼ぎ、日夜精勵恪勤、幾多の困難にも遭遇したが、遂ひに不屈の精神を以て努力し、讓られた財を更に大ならしめ今日に至つてゐる。

夙に縣立岡山商業に學び、兵役に服して主計伍長になつた人。

氏また父に劣らぬ公共につくす念に燃え、日比町會議員一期、消防組部長——殊に消防關係の勤續は二十二年に及び、また日比町在鄉軍人會副分會長、評議員理事、分會長等——これまた十五年間をつとめ、軍人會方面より一回、消防關係では三、四回表彰されてゐる。

つとめ、軍人會方面より一回、消防關係では三、四回表彰されてゐる。

資性溫厚にして信用ある。

年收額二十數萬といはれ、その商品内容を列記すれば、

一、製材及木材
二、山林筏採
三、建具、四、金物、五、硝子類である。

家風も恒產出來たる舊家に相應はしく自らなる品位に富み、人情を重んじ、義理また篤し、殊に濟濁合せ呑む大度量の人として部下に慕はれ人にも尊敬される所以である。

家庭には兩親健在、五男二女のよき子福に惠まれ、使用人とも十四人の大家族で、恒に笑聲に滿ち圓滿なる家庭である。

## 岡山、吉備、岡田村

**齒科醫　小野正雄**

當家は屈指の舊家にしてきた由緒ある名門である。

尊父貞治氏は現在村長として令名嘖々たる人である。

氏はその長男として明治三十五年二月十八日に呱々の聲をあげた。幼少の頃から頭腦衆に秀れ、向學の志に燃え、夙に高梁中學を經て岡山醫科大學に學び、大正十三年三月卒業後は、大阪胃腸病院に助手として勤務し、臨床研究すること數年、人體の機能組織については蘊奧を極め、その體驗を基礎として歸鄉し、岡田村を選んで醫院を開業したのである。

資性溫厚にして何等飾氣ない人にも拘らず當醫院が恒に門前市をなす所以のものは氏の手胴とその人格を雄辯に物語つて餘りあるものと思ふ。

總社町の山崎醫院々長として令名ある山崎氏は氏の伯父に當る。

趣味としては讀書の愛好家として知ら

れてゐる。

令室澤代さんの尊父は神戸法曹界の重鎭で、夙に神戸高女を卒業し、貞淑にして溫和の氣風は人々に知られ、長男貞雄さん――高梁中學三年生。允子さん、麗子さん――國民校在學。陽子さん五歳、淳子さん一歳。

一家恒に氏の人格を反映し、圓滿にして明朗でつねに近隣羨望の的となつてゐる。

## 岡山、吉備、川邊村

醫師　岡　暢

氏は吉備郡服部に明治二十八年七月二十日に呱々の聲をあげた。幼にして大器として囑目されに悠つね容として迫らざる風格の持主であつた。

家は屈指の舊家にして名門である。

嚴父德次郎氏は八十五歳の高齡を以て矍鑠壯者を凌ぐものがある。德次郎氏は教育界に身を獻げること三十有餘年、また村長として十六年をつとめ、實に公共につくした功勞は絶大なものである。

氏はその長男として生れた。

夙に縣立高梁中學を經て岡山醫科大學に學び、大正十年卒業して、同大學病院其他に於て臨床研究すること數年、人體組織の諸機能、殊に呼吸器の研究に於てはその薀奧を極め、昭和六年六月十一日に當地の大塚醫師の後を享け獨立開業したのである。

資性重厚にして信望篤く、殊に飾色の尠ない性格が醫師として、また學者肌の人として人に慕はれ、豐かな體驗が、招かざるに患者が實に絶え間なく押し寄せて來るのである。

氏は川邊、清音兩國民學校醫として至誠の奉公を致し、趣味として圍碁を愛好して、英雄閑日月ありの境地を樂しんでゐる。

令室八重子さんは上房郡高梁の名望家より出でたる人、長女幸子さんは總社高女在學。康子さん十一歳國民學校在學。

一家、氏の人格を反映し實に明朗である。

## 岡山、勝田、湯鄕村

湯鄕溫泉　錦園旅館

當岡山縣下に名高き湯鄕溫泉に錦園旅館としてその設備と清楚を以て聞ゆる當旅館は鐵道省指定の旅館である。

客を遇するのには親切を以てその營業方針とし、周圍の風光また明媚にして自らなる仙境をなし、兩者相俟つて、常に旅客者は門前既に市をなす盛況をなしてゐる。

當館の經營者また有名な風流人で、營利を度外視したその風格は人に慕はれ、また尊敬されてゐる。

天惠晴雪覇土壤、若輩而何去古鄕
苦心交戰抱宿望、履界整策求海外
有爲轉變廻百計、過去魄年不婬婦
魂塊曙了不爲足、補洞一身顧如夢
敎是子孫傳不憚、片言一辭誌本懷の一

詩は、その吟詠の一つである。

また湯鄕名產白鷺燒は遠く海外にも響き渡つてゐる。

これは備前の住人陶師滿藤芳六氏が當地に來り、昭和十五年十二月一日を以てその苦心の力作を皇紀二千六百年記念事業として創め、これを當地發展の資とするため古の緣りと結びて出來た名陶器である。



## 岡山、川上、成羽町

田中醫院主　田中敬治

氏の家は當町屈指の舊家として由緒ある家柄である。

嚴父久太郎氏は家業の傍ら、公共に功勞をつくして有名である。

氏はその男として明治三十一年に呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦明敏、また悠容迫らざる態度は大器として囑目された。

夙に岡山醫科大學を卒業し、開業前、幾多の臨床上の體驗を積み人體組織の機微を研究し、その薀奧を極め、現地に獨立創業したのである。

資性重厚にして技術――學者肌の人、然しその手腕、德望を慕ふ患者が日に月に增し、今日では招かざるに門前市を成す盛況である。

氏はまた有名な信念の人にして、他人の幸福のためには、一身を犧牲にしても構はぬといふ、實に淸く正しく、强くをモツトーとして至誠の職域奉公に獻げてゐる。

令室美須惠さんは夙に貞淑にして、內助の功篤きものがある。

その間に二男三女のよき子福に惠まれ既に氏のよき後繼者として愼吾さん、富男さんともに將來を樂まれ、女子の美登子さん、迪子さん、照子さんは令淑溫和な性質で近隣より評判されてゐる。

一家實に和氣靄々として笑聲に滿ち、頗る明朗な家庭である。

## 栃木、宇都宮市扇町

栃木縣燃料小賣商業組合聯合會

電話二一八八番

本會は所屬組合相互の聯絡協調を保ち、併而燃料小賣商業の改良發達を圖る爲め、共同の施設を完備するを目的として設立されたのである、而して本會の地區は栃木縣一圓であり、當地區內の薪炭小賣關係の商業組合を以て之を組織す。

而して本會は所屬組合及組合員の爲め取扱商品又は營業用品の仕入又は仕入の斡旋、同上商品の販賣及販賣の斡旋、燃料小賣商業の改善に、又は營業に關する統制、更に業界の健全なる發達を期する爲必要なる指導研究並に調査、更に組合及組合員の爲め陳情、建議及び意見の開陳、併而功勞者に對する表彰等を爲し、且つ前述に附隨する一切の事業其の他本會の目的を達成するに必要なる施設を完備して、一般業者の經濟の發達及び之に伴つて實質的福利增進を招來する事を以て設立されたのである。

而して現所屬組合の十七組合は、當局より指定せられる以前に、各業者が自發的に共販制を計畫し、その企業合同は昨年九月より實施してゐる。斯くて當組合が今日の隆盛を見るに至る迄には、幾多の障碍又は難關があつたのを見事突破し不撓の努力と不斷の活躍に依つて獲得したが、是は實に驚異的であり、且つ日夜分たぬ努力奔走の賜であり、又その反映である、現在では斯業界に於ける模範的組合として廣く知られてゐる。更に配給機構に又之が運行に細心の注意を拂つて堅實なる經營方針を樹てゝ目的達成に邁進してゐる、所謂現行の配給事業は現時局下に於ける國策の一端で、特に其の萬全を期してゐる。

**理事長　石川清一郎**

氏は明治三十四年の生れで現在働き盛りである、本會設立以前、即ち任意組合當時の組長を六七年勤めてゐたが、其の當時に於てすら氏の明敏なる頭腦並特異的手腕は一般に認められてゐたのである。

斯くて本會設立に當つては日夜東奔西走、其の活躍は實に目覺ましきもので、設立功勞者の第一人者である。爾來理事長に就任して本會の爲め、內容の充實に或は堅實なる經營方針に、凡ゆる點に最善の努力を盡し、遂に今日の實質的隆盛を獲得するに至つたのである。

資性溫厚篤實なる人格は斯界のみに止らず、地方一般から崇敬され、併而將來を大いに期待されてゐる。

**栃木、宇都宮市大町**

## 栃木縣豆腐商業組合

電話二八六八番

本組合は昭和十四年三月六日に設立さる、而して其の目的とする所は、豆腐製造販賣業の改良發達を圖る爲、共同の施設を爲す點に在り、其の地區は栃木縣一圓であり、且つ地區內の豆腐製造販賣業を營む者を以て組織されてゐる。

而して本組合設立に至る迄には種々雜多な障碍或は難關を突破して、遂に其の目的を達成するに至つたのであるが、爾來本組合設立の趣旨及目的を貫徹する爲め、日夜分たぬ活動を續け、組合自體の經濟的向上に、且つ組合の堅實なる實質的隆盛の獲得に、全く文字通りの東奔西走を續けて、今日この實績を收め、斯界に於ても優秀なる組合として認められるゝに至つたのである而して現在の幹部には、理事長に柏村喜平氏を推戴し、常務に鈴木清作氏外二名理事に竹山榮吉氏他十六名が其の任に就き、監事には齋藤兵四郎氏外六氏が就任して、一糸亂れぬ統制と共の完璧を期して、本組合本來の使命達成の爲め大いに活動してゐる。

**理事長　柏村　嘉平**

際しては、早くより其の必要なるを見透し愈々是に着手すると共に全く日夜分たぬ不撓の活動を續け、幾多の障碍或は難關を排除して遂に是を完成するに至つた功勞者の第一人者として一般から感謝されてゐる。

斯くて設立と同時に理事長に推され、爾來その職責完遂に最大の努力を盡し、組合の健全なる隆盛を獲得し、併而組合員の經濟の向上を圖る爲め、實に目覺ましい活躍を續けて現在着々として其の業績を收めつゝある。

資性溫厚篤實な人格者で、斯界のみに止らず、地方一般の信賴と崇敬の的となつてゐる。

併而氏の特異的手腕と豊かなる溫藉に將來の隆盛と共に地方の經濟的發達とは氏に期待する所また甚大である。

**栃木、足利市通町**

## 栃木縣皮革製品工業組合

本組合は皮革製品工業の改良發達を圖るため共同の施設をなす目的で地區を栃木縣一圓として昭和十五年十二月七日に認可されたのである。

組合員既に百九十名を擁し縣下有數の模範組合といはれてゐる。



本組合はその目的完遂のため左記の事業を行つてゐる。

一、製品及設備の檢査竝に取締二、統制三、製品の販賣四、營業に必要なる物の供給五、資金の貸付及貯金の受入六、營業に關する指導、研究及調査

當組合幹部はもとより、各員一致協力し着々業績をあげてゐる。

役員としては理事長茂木嘉吉、副理事長田中長次、常務理事八木寅吉、入野末吉、理事中山次郎、木村準三、平塚善助坂本幸太、鈴木末一郎、橫山兵吉、砂岡祐三郎、小藤期穎、阿乃津富太郎、監事渡邊藤松、石戸彌五郎、八木正已、齋藤榮の諸氏である。

**理事長　茂木　嘉吉**

氏は當理事長としての外、數多の要職に推されてゐる人格者にして、內外の信望を一身に集めてゐる。

町內屈指の舊家にして由緒ある家柄で、先代は家務の傍ら、產業公共のため多大の功勞を致した人である。

氏はその男として呱々の聲をあげ、幼少の頃からその態度悠容として迫らず、夙に大器を以て囑目された。

家業に於ても日夜孜々として精勵し、先祖以來の財をして更に一層大ならしめて今日に至つてゐる。

養性重厚にして、清濁合せ呑む大度量は部下に慕はれ、人に尊敬を受ける所以でもある。

今や斯界の重鎭として自他共に許す大存在である。

**福島、若松市七日町**

**商工會議所會頭　高瀨喜左衛門**

電話(代表)二〇二番

當家は會津藩士として連綿たる家歷を有し現に十四代を數へる舊家として著聞し、極めて由緒ある名家である。

當主喜左衛門氏は明治二十七年六月十四日の出生にして、幼名を喜平治と稱したが尊父喜左衛門氏物故と共に襲名し家督一切を繼承せるものである。

氏は夙に俊敏にして出藍の譽高き逸材として聞え將來の大器を以て囑望されてゐたが、果して現在商工會議所會頭、市會議員、各調查委員等の要職にあり、日夜市勢の進展向上に盡瘁されてゐる。

即ち當市產業界の指導者として冷徹氷の如き批判は些々たる歪曲をも斷乎として是正改革し、惜しみなき犧牲と努力とを拂ひ莫大なる成果を擧げてゐる。

事業としては合名會社白木屋漆器店を經營し堅實眞摯なる營業方針は嘖々たる好評を博してゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、識見又卓越せる人格者であり市民の德望は絕大なるものがある。

今や國家未曾有なる時艱に際會し萬民協力一致の總力が要求される現在、これが推進力としての氏の存在は寔に重且つ大なるものがある。

家庭に於ては母堂イチさん七十歲の高齡ながら益々健在、夫人道子さんとの內に二男二女をあげ和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

因に長男治男君は水戶高校在學中にして夙に使節學生として伊太利に派遣されたる英才であり、次男常男君は會津中學長女綾子さんは若松高女卒業後東京家政學院に、次女孝子さんは國民學校にそれぞれ在學中である。

宮城、加美、中新田町

## 中新田菓子工業組合

本組合は中新田町に設立し、爾來その堅實なる進展を目指し、内容の充實に完璧を期し、日夜孜々として其の職能を振ひ、遂次向上の一途を辿つて來た、其の間多大の難關或は障碍に際會するも、斷然之を排除して邁進、其の間種々改善、及び改組されて、遂に今日の隆榮を招來したのである。本組合としては其の發展を期する爲め種々設備を完全にし、一糸亂れぬ統制の下に、現時局を鑑み、極力之が實現に腐心し、延いては組合員の經濟向上、福利增進に副ふため、其の活躍は目覺しいものである、現理事長に淺野爲吉氏を推戴して、その敏腕と蘊蓄に信賴すると共に全員一致、全能力を發揮して其の結實に躍進中である。

**理事長　淺野爲吉**

氏は治明三十年五月十一日林藏氏長男として生る。當家は當地方切つての舊家で、代々淺林と稱す元魚問屋として大いに繁榮を極めてゐたが、當時祖父忠藏氏流行病のため、二十三歳の若きに他界し、之と共に一時家運も衰頽するに至つたが、林吉氏の時に至つて山形南部方面の料理店のコツクとして入り、爾來菓子製造を志して之が研究に務め、開化饅頭と名付けたものを賣出して大いに人氣を集めたのである。

而して氏は現在壯年團副團長、農會、産業、商工、經濟各方面の調査員、及び産業組合理事の要職に就任して氏の特異的手腕を振つて多大の功績を收めてゐる尚ほ町會議員に再三推されたが是は堅く辭退してゐる。

家庭には夫人と五男一女が在り、常に和氣藹々として極めて圓滿な生活を營んでゐる。

宮城、登米、佐沼町

## 佐沼菓子工業組合

電話六三番

本組合は當佐沼町に設立す、而して現時局を鑑み、此處に斯業の組合を創設するの必要に迫られ、町内各營業者を糾合して確固たる方針の下に經營し、逐に今日の隆盛を招來したのである、斯くて一糸亂れぬ統制を、堅實な經營に依つて一途その目的達成に邁進、併而組合員の經濟向上、業務執行上の指導及び至便に供する信條を以て努力してゐる。而して理事長に佐々木養治氏、專務理事吉田柳一郎氏を幹部として推し、共の完璧を期して益々將來の進展に奔走してゐる。

**理事長　佐々木養治**

氏は明治二十六年四月二十二日に生る而して當家は當地方切つての舊家で、四代前の時菓子製造に從事したのが始めで、爾來代々本業を經營して來た。斯くて氏は一意專心家業の發展に努力を拂ひ、驚異的實績を擧げてゐる、而して菓子工業組合の存立を必要とする機會に遭遇し、之が實現に東奔西走、日夜を分たぬ活躍は遂に目的達成を來し、爾來現時局下に卽應した經營方針に基いて堅實な歩みを續けてゐる。

溫厚篤實なる人格は、斯界に止らず、一般の信賴と期待を掛けられてゐる。

家庭には夫人と、三男四女があり、共の外長女の養子及二男一女の孫も一緒に生活し、和氣藹々且明朗極めて圓滿な家庭として知られてゐる。



**專務理事　吉田柳一郎**

氏は明治二十六年五月二十八日に生る當家は福島梁川藩士で、明治の初年には酒造家として廣く知られてゐる、而して先考勝治氏が當地に來り、菓子製造業を開設したのである。

斯くて氏は其の業をついで之が發展を目指して一意努力、多大の實績を收めたが、氏は佐々木養治氏と無二の親友で、本組合の設立と共に專務理事の要職に就任し、協力一致其の隆盛と内容充實に奔走、こゝに今日の業績を擧げ、尚ほ絶對的完璧を期して活躍してゐる。

事に當りて熱心、全力を傾けて、これが徹底を期さねば止まない性格を有ち、また明快果斷、全く隙のない手腕家として知られてゐる。

勿論氏の溫厚篤實にして高潔なる人格は斷界に止らず、一般の信賴と尊敬を集めてゐる、家庭には祖母、夫人及一男があり、明朗且つ圓滿な生活を營んでゐる氏の趣味は園藝、讀書で、之に依つて疲勞の恢復をし、併而慰安の一つとして親しんでゐる。

宮城、宮城、塩釜町

自轉車附屬品商

## 熊谷省吉

電話二三番

當家の出身地は岩手縣西岩井郡日方村にして農業、米穀、油類等を業として代々舊家である。

先代秀吉氏は業務の傍らいろ〳〵公共のためにつくした人である。

氏はその二男として明治十九年十月二十日に呱々の聲をあげた。

幼にして大器たるの素質に惠まれ、風雲の志に燃え、海上生活に憧れ、滿二十歳より海員として着々地位を占め、機關長として、日本郵船、市役所、北海炭礦汽船會社を經て、内務省土木工事關係から三陸汽船會社を通じて四十一歳までの間、二十數年を海上生活に費したる人である。

退職後鹽釜船舶機關士の講習會長をしたが、大正十五年一月十五日に自轉車販賣業を創業し、日夜孜々として、業務の發展に努力し、多難なる業界の競爭を克服して遂ひに今日の大をなすに至つたのである。

資性重厚にして信望厚く鹽釜自轉車附屬品小賣組合理事長、町内會長、衞生組合監事等の要職に推され至誠の奉公を致してゐる。

令室はるよさんは石越村の舊家菅原清一郎氏の長女として明治二十九年に誕生された人。貞女の聞えが高い。

長男和秀さんは頭腦よく、仙臺商業學校に在學しよき後繼者として、その將來を樂まれてゐる。

一家恒に靄々として幸福な家庭である。

宮城、志田、古川町

古川菓子工業組合理事長

## 高橋忠三郎

當家の出身地は黒川村にして、代々篤農家として有名な家である。

先代忠之丞氏は稀にみる勤勉な人であつたが、業務の傍ら、いろ〳〵公共のためつくした人である。

氏はその二男として明治十三年八月廿三日に呱々の聲をあげた。

幼にして大器たるの素質に惠まれ、特に學術優秀であるため、受持の先生から

將來教師となることを勸められたこともあつた。

夙に菓子製造業として立つことを決心し、明治二十五年頃仙臺に於ける有名なる菓子屋日進堂に修業のため奉公し、日夜孜々としてその研究に專心した。

明治三十九年十一月三日、日進堂より北進堂といふ家號を貰つて現住地に門門して今日に至つたのである。

性資溫厚にして、信用厚く古川菓子工業組合の理事長として推され、このほか商工會評議員、方面委員等數々の要職につき至誠一貫の奉公を致してゐる。

令夫人としゑさんは明治十五年の誕生である。永い間の內助の功勞者として評判である。

相續人たる觀之亟氏は明治二十八年の生で、よき後繼者で、令室りんさんは山形縣鶴岡市松浦源藏氏の令明である。

長女つね子さんは若柳町の小野寺鐵郎氏に嫁し、二女房子さんは古川高女出身の才媛、三女信子さん、四女淸子さん、是亦古川高女を卒業してゐる。淸子さんは現在大藏省に女事務員として奉職してゐる。

一家恒に靄々たるとしてゐる。

宮城、仙臺市鐵砲町

仙臺自轉車小賣商業組合理事長　友保義雄

當家の出身は廣島縣呉市にして有數な舊家として知られてゐる。

先代は家務の傍ら、いろ〳〵公共につくされた人としられてゐる。

氏はその男として明治三十一年一月三日の出生で、幼にして大器たるの素質に惠まれその勤勉なること驚くばかりであつた。

夙に向學の志に燃え、頭腦明敏であるところから中學も頗る優秀なる成績を以て卒業し、大阪高等工業學校に入學した。同校卒業後、工業界に入り、日夜孜々として研究し、自轉車方面は於いては技術者として、また商業家としても重きをなし、遂ひに今日、表記商業組合の理事長に推されるに至つた。

資性重厚にして信用厚く、人の長たる素質として充分である。

家庭は恒に圓滿にして、笑聲の絕える間なく近所でも評判の模範家庭といはれてゐる。

宮城、仙臺市國分町

仙臺子製造工業組合理事長　齋藤民助

當家は當地方の舊家として、また由緒ある家柄として有名である。

先代民吉氏は酒造業として大成功し、地方に於ける酒造界の重鎭であつた。またその傍ら、いろ〳〵公共方面へもつくした人である。

氏はその次男として明治十六年十月七日に呱々の聲をあげた。

幼にして大器たるの素質に惠まれ、その勤勉なること驚くばかりであつた。

大正八年壹月菓子製造に從事し、屋號風月として東北中知らぬ人がないほどの繁昌を來たしたのである。

資性重厚にして信望高く、仙臺菓子工業組合理事長に推されるに至つた。

令室はる子さんは明治十七年の誕生で東京市本鄕區駒込吉祥寺の舊家、井關忠一氏の長女である。

因みに先代民治氏は九十五歲まで健在の高齡者であつた。母堂しけ子さんは六



十五歲で他界してゐる。

圓滿な家庭として評判である。

山梨、甲府市櫻町

## 山梨縣豆腐商業組合

理事長　守岡芳造

本組合は昭和十五年十月廿四日の設立にして、前身は山梨縣豆腐蒟蒻同業組合の名稱を以て其の業務を執行して來たもので、それが改組されて現在のものとなつたのである、而して區域は縣下一圓にて、理事長に守岡芳造氏が就任し、副理事長に齋藤瓦丸氏を、更に理事として和田保造氏以下十一名、監事に日向寶藏氏以下二名の幹部を擁して其の完璧を期し着々隆盛の一途を辿つてゐる。又本組合の特徵は支部制度で、甲府、峽西、峽東峽北、南部、北部、市川、身延の八支部を設置して其の進展を圖ると共に、組合員の至便に供してゐる。斯くて本組合の堅實な經營方針の下に獲得した其の實績は、斯界に頭角を現はしてゐる。而して本組合設立の目的は、組合員相互の聯絡協調を保ち、併而豆腐油揚商業の改善發達を圖る爲め、共同の施設を爲す點で、當組合の存在は斯業界にとつて最も重要なる機關にして、本組合に對して市民の信賴と期待は實に甚大である。

氏は當地方に於ける事業家として廣く知られてゐる。而して家業に對しては凡ゆる設備を整へ、堅實なる營業方針の下に特異的手腕を振ひ逐次隆盛の一途を辿り、今日その驚異的實績を獲得してゐる。斯くて氏は斯業界の將來を洞察して、こゝに組合組織の機關を設立する事の必要を認め、業者の贊同を求めて完成し、業者間には勿論、一般市民からも大いなる絕讃と信賴を受けてゐる。

資性溫厚篤實にして高潔なる人格は又各方面に反映し、業界の進展に對しても多大に期待されてゐる。

山形、山形市香澄町

自轉車附屬品販賣聯合會元常務理事　佐野薰

當家は元釜石藩士にして藤原家より出で、連綿たる家歷を有する名門である。曩に農を營み後代々地主篤農家として名高くその後幾多の變遷により、約二十七年前尊父鍵三郎氏山形鐵道に勤務中日露戰役に從軍し勳八等を賜はり、除隊後は滿鐵機關手として七ケ年、各地鐵道に八ケ年、最後に山形縣專賣局に勤務すること六ケ年、その各界に貢献せしところは甚大なるものがあつた。

尙母堂シゲさんは佐野屋旅館を約十年に亙り經營せられてゐたが四年前他界された。

當主薰氏は明治三十五年八月二十五日の出生にして、上町淸野自轉車店に滿五ケ年間勤務され、大正十年七月現住所に獨立開業せられたるものである。

昭和十五年九月東京に於て輪業界の總會が開催されたる際、山形市內より設樂氏と共に代表者として上京され、爾來、聯合會の必要を痛感し、自ら常務理事となり尾形忠次郎氏を會長として、熊谷安次郎、太田森藏、淸野德雄、五島春藏、高橋芳松、稻毛義一、石井政治、佐藤忠藏の諸氏をそれぞれ理事監事とし、献身的努力を續けられて順調なる經過を辿つてゐたが、愈々認可を見んとせる際、極めて利己主義的なる一派の策謀により遂

にして現在築港工事進捗中に屬す。
深浦港はその南方にあつて兩港相並び鐵道また十字形に交叉し海運共に至便にして活氣あり。
山陰の一寒村加茂の里が町になり、新興の商工都市として市制の施かれたのは昭和九年四月である。
産と業して畜産、林産、米、麥、繭、桑葉、屠畜、生糸、打綿、足袋、絹織物眞綿、刻煙草等である。
交通としては省線山陰本線は市街の南部を東西に貫き米子驛がある。
初代市長に西尾常彦氏、助役堀江龍一郎氏、收入役鹿島富一氏、上記三氏ともに二期と三期と現在に引續いてゐる。
尚第一期市會議長遠山光德氏、第二期坂田武市氏、第三期現在再び遠山氏である。

## 市長　西尾常彦

氏は當市長として三選され現在に至つてゐる資性溫厚にして德望衆に秀れたる人である。幼にして頭腦明晰にして、また悠容として迫らざる態度は夙に大器として矚目された。
當市長としても遠大なる抱負と一貫せる信念を持ち、至誠の奉公を致してゐる。
家は代々素封家にして屈指の舊家である。
先代も家業の傍ら、公共、並びに産業自治に多大の貢獻をつくした人である。
家庭も非常に圓滿で多幸である。

## 靜岡、田方郡、伊東町

## 伊東魚類小賣商業組合

本組合は魚類小賣商業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、昭和十四年一月十九日に認可されたものである。
現下重大時局に直面し、幹部はもとより各員一致協力し、その使命達成に努力し、設立短期日にも拘らず現在でた縣下有數なる優良合員として自他ともに許す大存在になつたのである。
役員としては理事長山口高市、常務理事松下藤吉、理事關野猪三郎、富士信吉池田誠一、三橋一郎、監事木梨八百藏、山本吾一、片山正太郎、鈴木喜作、島田喜一の諸氏である。



## 鳥取、米子市

## 米子市役所

當市は縣の西北隅にありて、嶷々突出すること凡そ二十粁に及ぶ夜見ケ濱（或は弓ケ濱と呼ぶ）の基幹部を占め東は車尾村に南は成實村に接し、北に加茂村、福米村あり、肥沃なる伯西平野に續く。而して西は住吉村及島根村に境し、また中海に面す。南部は丘陵の地にして耕地その間を綴り雛山、湊山、飯山等の小丘中海に瀕して相並ぶ。湊山に城趾あり。北部中海に臨みて米子港がある。良泊にして現在築港工事進捗中に屬す。
深浦港はその南方にあつて兩港相並び鐵道また十字形に交叉し海運共に至便にして活氣あり。
山陰の一寒村加茂の里が町になり、新興の商工都市として市制の施かれたのは昭和九年四月である。
産と業して畜産、林産、米、麥、繭、桑葉、屠畜、生糸、打綿、足袋、絹織物眞綿、刻煙草等である。
交通としては省線山陰本線は市街の南部を東西に貫き米子驛がある。
初代市長に西尾常彦氏、助役堀江龍一郎氏、收入役鹿島富一氏、上記三氏ともに二期と三期と現在に引續いてゐる。
尚第一期市會議長遠山光德氏、第二期坂田武市氏、第三期現在再び遠山氏である。

## 市長　西尾常彦

氏は當市長として三選され現在に至つてゐる資性溫厚にして德望衆に秀れたる人である。幼にして頭腦明晰にして、また悠容として迫らざる態度は夙に大器として矚目された。
當市長としても遠大なる抱負と一貫せる信念を持ち、至誠の奉公を致してゐる。
家は代々素封家にして屈指の舊家である。
先代も家業の傍ら、公共、並びに産業自治に多大の貢獻をつくした人である。
家庭も非常に圓滿で多幸である。

## 靜岡、田方郡、伊東町

## 伊東魚類小賣商業組合

本組合は魚類小賣商業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、昭和十四年一月十九日に認可されたものである。
現下重大時局に直面し、幹部はもとより各員一致協力し、その使命達成に努力し、設立短期日にも拘らず現在でた縣下有數なる優良合員として自他ともに許す大存在になつたのである。
役員としては理事長山口高市、常務理事松下藤吉、理事關野猪三郎、富士信吉池田誠一、三橋一郎、監事木梨八百藏、山本吾一、片山正太郎、鈴木喜作、島田喜一の諸氏である。

## 理事長　山口高市

氏は當理事長としての外に數多の要職につき恒に一貫せる信念と遠大なる努力を以て至誠の奉公を致してゐる。
家は代々由緒ある家柄として、屈指の名門である。
先代は家業の傍ら公共のためつくした人として知られてゐる。
氏はその男として呱々の聲をあげた。幼にして大器として矚目された人。
家業に於ても日夜精勵、あらゆる苦勞を突破して先祖以來の財をして一層大ならしめ今日に至つてゐる。
資性溫厚にして信用篤く、清濁合せ呑む大度量は部下に慕はれ尊敬される所以である。
一家和氣藹々として笑聲に滿ち、明朗である。

## 山梨、甲府市櫻町

## 山梨縣製靴工業組合

本組合は製靴工業の改良發達を圖るため共同の施設をなす目的で昭和十三年八月二十五日に設立認可されたものである。
本組合はその目的達成のため左の事業を行ふ。
一、製品及設備の檢査竝に取締
二、統制
三、製品の販賣
四、營業に關する指導、研究及調査
五、資金の貸付貯金の受入
六、營業に必要なる物の供給
當組合の幹部はもとより各員一致協力し着々業績を擧げ現在既に百十七名の組合員を擁し、縣下でも有數の模範組合といはれてゐる。
役員として理事長は淺川正、理事鈴木喜重、中山新治郎、能登得松、淺川孝雄、飯田巖、監事天川貞治、鶴田喜太郎の諸氏である。

## 理事長　淺川正

氏は當理事長としての外、數多の要職に擧げられ、內外の信望を一身に集めてゐる人格者である。
家は屈指の舊家にして、また由緒ある家柄として知られてゐる。
先代は家業の傍ら、產業公共のため多大の功勞をつくした人である。
氏はその男として呱々の聲をあげ、幼少の頃から頭腦抜群、大器を以て矚目された。
家業に於ても精勵にして恪勤、その繼承せる財を更に一層大ならしめ今日に至つてゐる。
資性重厚にして信望篤く特に淸濁合せ呑む大度量は部下に慕はれ人にも尊敬される所以である。
今や斯界の重鎭として押しも押されもせぬ貫錄を示してゐる。
家庭もその人格を反映し、和氣藹々として圓滿明朗である。

## 京都、相樂、山田莊村

## 山城絞振工業組合理事長　木原爲七

尊父故熊次郎氏は、篤農家として、村內の信望を蒐め、自治產業の改善發展に盡力した功勞者である。
當主爲七氏は、その長男として、明治十九年十月一日に生誕、鄕校を經て、縣立郡山中學校に學び、大正十月、志を立てゝ、織布工場を經營、以來研鑽精勵、

優秀な製品を出し、次第に信望を高め、販路もまた遂年擴大して、業運隆盛に赴いて、今日の成功を見るに至つた。

一方業界においても、確乎たる地歩を築き、現在は衆望に推されて、山城綿職物工業組合監事、山城蚊帳工業組合理事長の要職に就き、斯業の改善發達に懸命の努力を捧げてゐる。

溫雅淳篤、家庭にあつては、よき父、よき夫として家を整へ、豐かな團欒の生活を營んでゐる。

令室きみさんも、貞淑の聞えが高い。令孫四人ある。

三重、松阪市日野町

## 松阪信用組合

當組合は、大正十三年八月、有限責任組織を有つて設立したものである。

當市は、南勢中部の主要都市をなし、商工業が發達し、殊に往昔より松阪木綿の生産本場として、全國的に有名であつた。しかし近年一時、時代の進展に從つて、微退を來したが、松阪木綿會社が興亞紡績と合併して以來、一路事業を擴大して旺盛なる業況を呈してゐる。また時局産業會社工場が著しく發展し、從つて市勢頓に昂揚してゐる。

當組合は設立以來、順調なる運營をつづけ、今や市内における中商工業者の唯一の金融機關として大發展を遂げ、而して市街地信用組合としては、全國第一位の優秀組合たる聲名を謳はれてゐる。

**組合長 鈴木藤兵衛**

氏は、理事長に就任以來、確乎たる信念を有つて、堅實なる經營方針をとり、これが强化發展に、渾身の努力を傾けて、益々十全なる機能を發揮せしめ、市勢の向上伸展の推進機關として、使命の達成に邁進してゐる。

東京、北多摩、武藏野町

## 二神 飛行機部分品 製作所

電話吉祥寺一六番

當製作所は本邦野球界に多大の貢献を致しつゝある二神武氏の經營に拘るものして、内外の信望高く、年と共に好決算を示し、發展に發展を重ねて、今日に至つてゐる。

**所主 二神武**

氏は愛媛縣、屈指の舊家二神駿吉氏の三男として、明治三十四年八月二日に東京に呱々の聲を擧げた。幼少の頃から悠容として迫らざる態度は夙に大器の素質に惠まれてゐた。

夙に名古屋の明倫中學校を經て大正十四年立教大學商學部を卒業し、滿鐵本社員として入社、昭和九年貝島炭鑛に轉じ昭和十三年四月迄勤務す。その前に一年志願兵として陸軍少尉に任官し、現業を開業したのは昭和十三年七月である。

資性重厚にして、清濁合せ呑む大度量は人に尊敬され部下に慕はれる所以である。

スポーツに理解深きことは申すまでもなく、東京大學野球聯盟理事、大毎、東日主催の都市對抗野球大會顧問、立教大學校友會理事、同校同窓會理事等の要職にあげられ、一貫せる信念と遠大なる抱負を以て、國民體育の向上を指導してゐる。

神道を家宗とし、家庭には富美子夫人あり。明治四十二年に愛知縣に生れ名古屋高女の出身である。



長男正和さん昭和七年生、二男眞さん昭和九年生、長女昌子さん昭和三年生。

埼玉、兒玉、本庄町

## 兒玉郡菓子工業組合

本組合は菓子工業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で設立誕生したものである。

主なる役員をあぐれば、理事長戸谷桂吉、理事折茂萬藏、石井庄一郎、櫻井德重、江原慶造、福島勝治、飯野昌次、町田喜三、三野澤健三郎、監事關根愛三、飯島金平、堀口由太郎、飯田年治の諸氏である。

**理事長 戸谷桂吉**

氏の家は群馬縣勢多郡新里村に於ける連綿たる舊家にして由緒ある家柄として知られてる。

先代吉田修造氏は業務の傍ら、いろいろ公共のためにつくした人として知られてゐる。

氏はその三男として明治三十二年十月九日に呱々の聲をあげた。幼少時代より秀才として評判高く、夙に早稻田大學商科を卒業し、一年志願兵として入隊、陸軍少尉に任官して正八位に敍せられた。

氏は計理士の資格を有し頭腦明敏と云はれる。

現在の養父戸谷間四郎氏に見込まれ養子となつた人である。

間四郎氏は當年六十五歳にして病床にあり、壯年時代は實業に志し、非常に事業を好み大會社を創立して重役となつたこともあるが、色々迂餘曲折の生活を送つて來た人である。

氏は資性重厚にして信用厚く當理事長のほか、いろ〳〵な役員として公共につくしてゐる。

令室有子さんは間四郎氏の長女で、夙に貞淑の聞えの高い人である。

一家圓滿で多幸である。

埼玉、入間、南畑村

信用組合長 **大澤安行**

當家の祖は、尾張國犬山城主にして、慶長十八年、小田原より當地に來住せる大澤治郎左衛門氏にして、太閤記その他の古書に出てゐる有名な人物であり、代々庄屋戸長等を務めて來た由緒正しき名門にして舊家である。

祖父治郎左衛門氏は、本縣第二回目の縣會議員に推され、尊父治郎左衛門氏もまた縣會議員、村長等を務めた自治功勞者である。

當主安行氏は、明治二十四年三月九日亡父の長男に生れ、村長を經て、現在は信用組合長の要職について多大の貢献をなしてゐる。

村内の一支柱たる貫碌と實力を備へ、信望を蒐めてゐる。

尊父は五十歳、母堂君惠さんは六十二歳にて逝去した。

令室切子さん(四十四歳)、入間川町大野庄吉氏長女、長男誠一君(二十三歳)、東京高商在學中、二男二郎君(十五歳)川越中學在學中、三男則有君(十二歳)、長女妙子さん(九歳)、二女公子さん(五歳)がある。

埼玉、入間、東金子村

警防團長 **吉田源十**

電話豊岡一一六番

當家は、さきに火災に遭ひ、古文書記錄を燒失したので、古いことは判然しないが、家系十數代を繼承する、當地方屈指の舊家にして、代々篤農家を出してゐる由緒ある名家である。

祖父太左衞門氏は、明治初年頃より、出機にて織物業を營み、現在にて三代斯業に携り、今日では織機にて、隆々たる業運にある。

當主、源十氏は、明治二十九年三月二十五日、故角次郎氏の長男に生れ、家業に出精する一方、現在は所澤織物工業組合理事、警防團長、產業組合監事、學務委員村會議員等の要職を兼務してゐる村內の重鎭として、信望を蒐めてゐる。

これといつて趣味は有たないが、弓道をよくし、織物の研究に意を用ひてゐる高雅清秀の人柄である。

尊父角次郎氏は七十四歲、母堂スイさんは八十四歲、共に高齡を以て長逝した。

令室キイさん（三十五歲）堀兼村東三ツ木の國川直次郎氏の二女、長男貫一君（十歲）、次男準一君（十歲）、三男富行君（六歲）、長女文子さん（九歲）がある。

埼玉、入間、入間川町

商工會副會頭　**小高金三**

電話三一〇番

先考金三郎氏は、本縣入間村より同地に轉じて一家を創立、屋號を足袋金とし足袋洋品雜貨問屋を營み、以來刻苦碎身一代にして縣下有數の資產家に成功せしめた立志傳中の人物として、聲名を博してゐる。

當主金三氏は、明治二十七年七月二十五日、亡父の長男に生れ、幼名熊吉と稱してゐた。尊父の歿後家督相續して、家業を繼承し、誠實勤勉、益々業運を發展せしめ、一方自治產業及び公共公益に盡瘁し、現在は商工會副會頭、相續稅調査委員等に推されて力を竭してゐる。

令室啓子さん（三十一歲）、東京市本所區業平町酒井佐助氏長女、長男金三郎君（十八歲）川越商業學校在學中、長女照子さん（十四歲）、二女弘子さん（十歲）、二男弘安君（四歲）、三女淳子さん（三歲）がある。

店員菊次氏は、當年五十三歲にして、十二歲の折、先代より仕へ、現在まで四十一年間勤續せる模範店員である。

埼玉、入間、入間川町

所澤毛織會社重役　**牧野朋作**

電話一一二番

當家は、代々和歌山藩に仕へ、先考兵次郎氏は、二十五歲の折、商業を志して當地に移り、荒物商の傍ら絹糸商を經營爾來拮据勵勉、奮進健闘して、ついに今日機業家として成功するに至つた。

當主朋作氏は、明治三十年六月二十三日、故兵次郎氏の長男に生れ、家業に專念すると共に、町會議員一期、消防組頭十三年間、その他の公職を經て、現在は所澤織物工業組合監査役に推され、また有限會社所澤毛織會社監査役に就任して縱橫に活躍し、斯界の雄を以て知られてゐる。

尊父兵次郎氏は八十四歲、母堂よねさんも八十一歲の長壽を以て逝去した。

令室里さん（四十二歲）、縣下飯能町の舊家小野澤松太郎氏の令妹、長男正一君（十七歲）、川越工業學校在學中、次男英男君（二歲）、長女宮子さん（十八歲）、川越高女を經て、日本女子高等商業學校在學中、次女幸子さん（十一歲）、三女和子さん（八歲）、四女妙子さん（六歲）がある。



埼玉、入間、入間川町

農業家　**多加谷乙未**

電話一一五番

當家は、家系十數代を傳へる由緒ある土着の資產家として知られ、尊父鋤太郎氏は、どちらかといへば學者肌の人にして、壯年時代より製糸業を經營して來たが、晩年は振はず、ついに閉鎖の止むなきに至つた。以來老後は、專ら書道に親しみ、清雅な生活を愉んだ。

當主乙未氏は、明治二十八年三月四日その長男に生れ、年少時代は家運衰退して、惠まれなかつたが、壯年時代より機業を營み、强靱なる意志力を以て、砕身の努力をなし、ついに今日の成功を收め家運を挽回するに至つた。

現在所澤工業組合理事として、重きをなしてゐる。

埼玉、入間、藤澤町

村會議員　**石田米藏**

當家は、屋號を末屋と稱し、四代前より分家して一家を創立し、代々庄屋戶長等を務めた家柄である。明治二年頃より機業を營み、當地方における斯業の先驅として、現在隆々たる業運にある。

當主米藏氏は、明治十八年三月十八日先代七五郎氏の長男に生れ、尊父の歿後家督を繼ぎ、家業を繼承して、これに專念出精すると共に、現在は、村會議員二期重任し、また工業組合理事として活躍し、村勢の發展に力を效して居り、また母堂シゲさん（六十一歲）、元製糸家深澤利吉氏令妹、長男磐君（十四歲）川越工業學校在學中、長女孝さん（十五歲）東洋家政女學校在學中、次女あいさん（九歲）三女きりなさん（七歲）、四女フミさん（五歲）、令弟良五郎氏（三十八歲）、同辰年氏（三十七歲）、令妹米さん（三十四歲）の兄弟がある。

尙、氏は、少年時代より孝行者として知られてゐる。

埼玉、入間、蕨町

味噌醸造業　**淺見文藏**

電話二二番

祖父清吉氏の代に分家して一家を創立し、以來味噌醸造業に從事する、當地方有數の舊家である。

當主文藏氏は、大正二年八月二十三日尊父文藏氏の長男に生れ、幼名を恒吉と稱し、同十四年、年少十三歲の折、尊父逝去せしを以て、世襲名を名いで文藏と名乘り、母堂リヤウさんに慈育されて成長し、現在は、各公名譽職に就いて盡力してゐる。

機業の改良發展に盡瘁して、職域奉公の誠を捧げてゐる。

尊父は六十九歲にて、母堂トミさんも共に逝去した。

令室ヤスノさん、長男七郎氏（三十二歲）、二男儀重郎氏（三十一歲）、三男伊助君（二十九歲）、四男正治さん（二十歲）、入營中、五男仙吉君（十八歲）があり、七郎氏の令室まささんは、下藤澤の舊家磯部家の生れである。

當年二十九歳、新進氣鋭の青年事業家にして、將來を重囑されてゐる。

母堂六十四歳にて健在、令室文子さん（二十三歳）、縣下北足立郡平方町永島莊次氏長女、長男征一郎君（三歳）、令妹ヨシさん（二十四歳）川越高女出身、外に使用人數名ある。

家庭極めて圓滿である。

殊に、氏は、孝心篤く、よく母堂に仕へてゐる。

## 埼玉、入間、水富村

機業家　正八位　**飯島富平**

當家は、家系十數代を傳へる、當地方屈指の舊家にして、代々篤農家を出して家門を高めてゐる。

當主富平氏は、先考染三郎氏の四男として、明治二十八年十一月九日に生れ、大正十一年三月分家して一家を創立した。

十八歳の折、尊父と親交のある神田氏の經營する染織試驗場の技手として勤務半年後、蕨町の織物店に二ケ年勤務し、その間一切の研究をなし、五十七、八圓の貯金も出來たので、これを資本に宿望たる獨立開業をなすべく、大正三年九月自ら製品を平岡に持つて行つたが、不合格となつたので、止むなく尊父に出資方を懇請すべく、歸鄕し、家業を手傳つてゐる中、一年志願兵として入隊することゝなり、滿期除隊後は、武藏野染織會社に二ケ年間勤務して退職し、親友の多賀谷乙未氏に諮り、その力強い援助により始めて機業家として獨立、爾來孜々營々今日の盛榮を見るに至る。

氏は陸軍豫備少尉にして、四ケ年間在鄕軍人分會長を勤め、鄕軍の指導に任じた。

令室イフさん（三十九歳）、西久保龍藏氏長女、長女富美さん（十六歳）、二女督子さん（十四歳）、長男一平君（十二歳）、三女孝子さん（七歳）、四女清子さん（一歳）がある。

埼玉、入間、水富村

機業家　**野田直治**

電話一二番

當家の先祖は、小笠原藩士にして、家系十數代を繼承する、當地方屈指の名家

先代友吉氏は、大正二年四月、分家して一家を創立し、同時に商號を野直として機業を營むに至つた。

當主直治氏は、先代の二男として、明治二十年一月七日生誕。家業に出精硏鑽して、業運を繁興せしむる一方、村會議員、商工會長二期、信用組合監事三期、同組合理事等を歷任して濶達自在の快腕を揮つて貢獻し、現在は、所澤織物工業組合理事に就任して、斯界の刷新向上に盡力してゐる。

氏は、溫雅至誠の人柄にして、衆望高く、將棋に趣味を有つてゐる。

尊父は六十八歳、母堂シンさんは八十七歳にて逝去した。

令室タケさん（五十四歳）、長男政治君（二十八歳）、川越工業學校出身の秀才、家業に從事し、よき父の助力者として精勵してゐる。

埼玉、入間、入間川町

郵便局長　**大野茂**



である。

尊父庄吉氏は、當町郵便局を新設し、自ら局長となつて、多年通信事務に携り功勞顯著なるものがある。昭和十五年末六十九歳の高齡に達したので局長を令息茂氏に讓つて退き、今は、別居してゐるが、さきには、町會議長、信用組合長の要職にあり、七十歳の老軀を提げて盡力してゐる。

現局長茂氏は、明治四十年五月二十二日、尊父の長男に生れ、早稻田大學政經科卒業、青年團長として、三年間青年の指導に當り、現在は郵便局長の外、大野製茶工場を經營してゐる。

學識手腕を兼備する、少壯氣鋭の材幹として、前途を重囑されてゐる。

母堂ちよさん（四十九歳）、尊父と共に別居。令室ふささん（三十四歳）入間郡入間村の舊家神田瑞穗氏の次女。長男康夫君（六歳）、長女綾子さん（十三歳）、次女道子さん（十一歳）がある。

令妹かねさんは南畑村の資産家大澤安行氏に嫁し、同ふみさんは、箕田村川鍋卓吉氏を迎へ、管原町に分家し、夫君は町助役を務めてゐる。

## 埼玉、入間、豐岡町

機業家　**細田政治**

電話二一番

氏は明治十三年一月二十六日の生誕にして、長ずるに及び機業を營み以て家業と爲すに至れり。而して機業に對する豐富なる氏の造詣と實行力は、逐次順調なる進展を致し今日の隆盛を招來す。

而して元縣會議員、町長、町會議員（五期）等の要職に就任せしこともあり、其の間極力職責完遂に努力をし、現在は町會顧問、參事會員等の重職に据はり、一意專心その內容の充實と生產擴充に獻身的努力を盡しつゝあり、衆人の信望强大なるものがある。溫和高潔なる人格は自然全ゆる事業の上に表現されるは勿論、能く衆人の信望と期待を把握せし處にして、こゝに亦氏の徹底せる實行力の成果に外ならざる所以のものなり。

更に氏の家庭は尊父、母堂に、夫人はまさんとの間に四男三女の子福者にして、こゝに亦氏の家庭は常に明るく、子供を中心としての家庭は常に圓滿なり。加へて子女は大學、中等に通學中のものあり、卒業して就職の者あり、氏の將來は洋々たるものあり。

本家は當地方切つての舊家にして、十代前迄は明らかなるものゝ由なり。

## 埼玉、南埼玉、岩槻町

埼玉織物工業組合總代　**川島佐吉**

當家は代々の舊家にして由緒ある系圖の家柄であつたが、明治五年、北足立郡土呂村より當地に移轉し、手機業によつて白木綿專門並びに、買付をなすやうになつたものである。現在岩槻方面に於ける第一の機業家として近鄕で有名である。先代竹次郎氏は當地移住の始祖で幾多の辛酸を經今日の基礎の素地をつくりまた公共のためにつくした人であつた。

當主はその男として明治十七年一月十五日に呱々の聲をあげた。

夙に父の手助けをして家業の發展を計り、傍ら町政のため、或は公共のため多くの貢獻をした。

資性重厚、衆望厚く織物工業組合總代に推されてゐる。

令室智惠子さんまた溫順にし貞女の聞え高し。

長男重男さんは浦和商業を經て明治大學政治經濟科に通學してゐる。

登美子さんは粕壁高女在學中。

秀治さん、正敏さんはまだ若年ながら頭腦明敏、將來を囑目されてゐる。

家風は既に恒産の出來た家として品位に富み、苦勞人の出だけあつて、義理人情に厚く近鄕でも評判が頗るよい。

常に和氣靄々として、團欒の家庭、よき子福に惠まれた當家こそ多幸そのもので近隣でも羨望してゐる。

## 埼玉、秩父、三田川村

## 三田川村役場

當村は、三山、飯田、河原澤の諸部落よりなり、各一字をとつて三田川村と稱するもので、明治年間、埼玉縣下に編入せられて今日に至つたものである。

奥秩父群馬縣寄りの山村にして、周圍は秩父連峯に圍繞せられて、小鹿野町の西に接して居り、南に兩神、北は倉尾の二村にそれ〳〵境して、土地は概ね高地性をなしてゐる。

而して、主要物産には林業、養蠶、畜産等が行はれて居り、農業は古來よりさしくて、未だ自給自足の域に開發されてゐない。

村社二、寺院二十一の多きに及んで、村民また崇神敬祖の念篤きを以て、その質實剛健なるは、村長を輔けてよく一致團結し、時局下、遺家族への勞力奉仕に部落常會に、村行政機關の統率に襄贊して多大の實績を收めつゝあるは、ひとり當村のみならず、また近鄕に及ぼせる影響も僅少にとゞまらず、當代稀にみる大人物として、その將來の活動こそは各方面より期待せられてゐる。

氏を輔けて名助役宮原當藏氏あり、以下收入役に富山時政、書記近藤一二、高野彦次郎、山口義盛、猪野道治、齋藤龍男の諸氏いづれも多士濟々の才幹にして克く一致團結して、日夜村勢開發に獻身的努力を累ねてゐる。

### 村長 福島幸八

由緒の古く治革の正しきは、近鄕隨一の名家として稱されてゐる。

氏は父祖の血を享けて、幼にして明晰なる頭腦の人として讀はれ、長ずるに及んでは村自治產業に徹して篤く、各種公共事業に參與して、その手腕の高邁果斷なるを認められるに至つた。

こゞでて、村民の推擧するところとなり現村長の要職に就いてよりは、銳意、村勢伸展に傾倒し、郡下町村長中の最年少に拘らずその治績は枚擧に遑がない。

時局下、村產業經濟の振作興隆に志しては事業の共同施設と作業に留意し、又は銃後青少年の敎育に萬全を期し、遺家族への勞力奉仕に、救護訓練の向上に、率先躬行して實績を擧げつゝあるは、ひとり當村のみならず、また近鄕に及ぼせる影響も僅少にとゞまらず、當代稀にみる大人物として、その將來の活動こそは各方面より期待せられてゐる。

氏を輔けて名助役宮原當藏氏あり、以下收入役に富山時政、書記近藤一二、高野彦次郎、山口義盛、猪野道治、齋藤龍男の諸氏いづれも多士濟々の才幹にして克く一致團結して、日夜村勢開發に獻身的努力を累ねてゐる。

## 埼玉、川越市連雀町

## 川越自轉車小賣商業組合

電話一二五番

本組合は自轉車小賣商業の改良と發達を計るため共同の施設をなす目的で、昭和十四年十二月十三日認可されたのである。



現下重大なる時局に直面して、幹部はもとより、組合員各自が一致協力して、その使命達成に猛進し、あらゆる困難を克服して今日では縣下の有數なる組合として知られるに至つた。

役員としては理事長櫻井長四郎、常務理事井上歌吉、高柳繁三、理事島野鉞次郎、淺見宗次郎、常岡定吉、細淵芳太郎細田喜四郎、監事井上長平、牛窪和吉、內田與三郎の諸氏である。

### 理事長 櫻井長四郎

氏の家は代々の舊家にして屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、產業公共に功勞ある人として知られてゐる。

氏はその男として、呱々の聲をあげた。幼にして頭腦衆に秀れ、大器としてその將來を囑目されてゐた。

家業に從つても勤勉にして、專心その發展に心を碎き、あらゆる困難を克服して今日を築き上げた人である。

當理事長として一貫せる信念と遠大なる抱負理想を以て指導してゐるは勿論、その他數々の要職に推され嘗に至誠の奉公を致してゐる。

家風も恒產ある家として、自らなる品位と格式が備はり、淸濁合せ呑む大度量は部下に慕はれ、またAにも立てられるのである。

一家また圓滿、多幸である。

## 埼玉、入間、飯能町

## 入間西部自轉車小賣商業組合

本組合は自轉車小賣商業の改良と發達を計るため共同の施設をなす目的で昭和十四年十一月二十日に認可されたものである。

現下重大なる時局に直面して、幹部はもとより組合員一致協力して、日夜懸命の努力をし、あらゆる困難を切り抜けて今日では縣下でも有數の組合に仕上げたのである。

役員としては理事長中澤宗治、梶間弘輔、小熊永輔、河井善次郎、大森重兵衛高橋安治、田島吉太郎、石井竹三郎、中里爲次、今村市三の諸氏である。

### 理事長 中澤宗治

氏の家は代々の舊家にして屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、產業自治の功勞者として知られてゐる。

氏はその男として、呱々の聲をあげた資性溫厚にして信望篤く、淸濁合せ呑む大度量の人として部下に慕はれ、また人にも立てられるのである。

當理事長としても、一貫せる信念と遠大なる理想を以て、至誠の奉公を致してゐるのである。

また、常務梶間弘輔氏は理事長の輔佐役として、多忙極まる組合の仕事を一手に引受け、巧みに處理してゐる人で、令名嘖々たるものがある。

## 埼玉、川越市鍛冶町

## 株式會社 第八十五銀行

電話(代表)八〇番

わが國の銀行業は、六十九年前の明治五年に發布せる國立銀行條令により、その翌年、第一國立銀行、卽ち現在の第一銀行が創立されたのが嚆矢である。當行は、明治十一年五月、全國中第八十五番目に生れ埼玉縣下における最古の歷史を有つ銀行である。その後國立銀行は百五

十三行出來たが、現在、私立に改組して存續するものは、僅か三十數行に過ぎず當行は、この少數の最古の歴史を持つ、堅實な銀行の一つである。

創業以來、順調に發展し、資本金、準備金、諸勘定共累增し、今日まで幾多の經濟的難局に際會したが、つねにこれを克服して微動だにせず、而して昭和十二年、國家の大方針に基いて、縣下における川越渡邊銀行、浦和商業銀行、西武、秩父兩銀行を合併して以來、營業は一段の躍進振を示してゐる。

支店は、縣下にては熊谷、秩父、本庄深谷、寄居、小川、松山、志本、上尾、浦和、鳩ヶ谷、蕨、川口の各地方に置き東京では板橋、成增、練馬、石神井、更に昭和十五年十二月帝都の中心日本橋區内に一ヶ所新設して、手形交換所に加盟した。

營業方針として堅實、充實、誠實の三實を基調とし總てに親切を旨として、行員一同努力し、一般の信頼を深めて、地方銀行としての使命を果しつゝある。

當行は、つねに國策に協力して活躍して來たが、この未曾有の重大時局に際しては、貯蓄報國の普及徹底に努め、金の賣却、預金の吸收、國債の消化に全力を注ぎ、異常なる成績を擧げてゐる。

現重役は頭取山崎嘉七、副頭取綾部利右衛門、常務取締役新井保次郎、同渡邊研三、取締締役山田房吉、小谷野傳藏、鈴木康太部、森田角三郎、渡邊吉右衛門出口充二郎、監査役菅間正作、伊藤長三郎、相談役田口庸二の諸氏である。

## 埼玉、川越市川越

商工會監事　**田中音吉**　電話五二四番

當家は、もと本縣入間郡田面澤村において、今より十數代前に開創した舊家にして、代々農業を營み、而かも篤農家として、家名を高めた。

尊父故音吉氏の代に至り、明治元年より機業を經營し、逐年業運發展向上して今日の隆昌を見るに至つた。

當主音吉氏は、明治十九年十月二十八日、尊父の長男として生誕、長じて家業に從事し、尊父のよき助力者として、奮鬪努力し、尊父の逝去後、家督を相續して家業を繼承し、さきには區長二期、商工會議員を務めて貢献し、現在は引續き同商工會監事として、當市商工業の發展に盡瘁してゐる。

溫雅篤實の人柄にして、當市機業界に重きをなしてゐる。

夫人八重さん(四十九歳)、長男修平氏(三十八歳)川越工業學校出身、長女幸子さん(三十二歳)、川越高等女學校出身、次女千さん(二十七歳)、同高女出身、市川市宮田山本菊五郎氏に、三女政子さん(二十七歳)同高女出身、東京市王子區下十條石山舍人氏に、四女貞子さん(二十三歳)、同高女出身、東京市麵町區麵町黑田虎緒氏に嫁してゐる。五女清子さん(十九歳)は東京女子高等學園に在學してゐる。

## 埼玉、川越市川越町

市會議長　**河合正臣**

當家の祖は、秋田藩士にして、代々秋田縣横堀町に住する豪農として、當地方に名高く、先考榮吉氏は、多年町長に推されて、自治振興に多大の貢献をなせる



功勞者であり、十七年前町長五期在任中、惑しく逝去した。

正臣氏は、明治二十四年三月十日亡父の長男に生れ、秋田縣立横手中學を經て中央大學法科に學び、十二、三年前より大宮鑛山を經營し、東京興信所川越支所長を務め、一方現在市會議員二期、同會議長に推され、市政の大立物として健闘してゐる。

またスポーツ、殊に野球、庭球を愛好するところから、野球球庭聯合會長、同實業團長に擧げられて、財界の健全なる發展に竭してゐる。

敢爲豪腹にして、敏腕家たる聲聞を高めてゐる。

令室いつさん(四十五歳)、長岡市の名門田村榮一氏の令妹、長女節子さん(二十二歳)、川越高女出身、次女文子さん(十九歳)同じく川越高女の出身である。

## 埼玉、秩父、浦山村

## 浦山村役場

當村は、谷川に沿ひて桃林あるを以て古くより武陵桃源に擬するものあり、その風光明婿なるは近郷に比なきを以て、山中の仙境と稱されはゐる。

即ち南方部に位置してゐる、南に東京府西多摩郡と境し、東は名栗村、西に中川村、北部は影森村を控へて、土地は大體に於て沃土をなして、耕作に適してゐる。

主要物産は麥作を筆頭に、桑、繭の蠶種等が旺んである。

村社十二社神社、昌安寺等の古刹がある。

當村には村道相通じて居り、また秩父線影森驛へは約二里の近きにあり、その間縣道通じて交通は至便である。

その他、教育に、文化に、衛生に施設完備して居り、村長以下村民一致團結してますます村勢伸長のために日夜努力を累ねつつあり、郡下第一の模範村として稱されてゐる。

### 村長　勲八等　淺見武雄

氏は明治廿九年一月三十日亡父石作氏の二男として生れた

當家は地方切つての舊家にして、代々農耕に從事して篤農家の譽れあり、また地方自治界にも功勞あり亡父石作氏は多年に亙つて當村々長の大任に就き多大の治績を收めたる人物として村民の信望極めて厚き名家である。

當主武雄氏は、小學校卒業後、大正五年横須賀海兵團に入團して一等兵曹に進級し、勳八等に敍され、恩給の給與を受けて除隊した。

歸村後は鋭意村自治産業に献身沒頭なし、その手腕の高邁果斷なるは認められて村長、及び青少年團長、大政翼贊會當村支部長を命ぜられ、爾來、時局下の農村經濟の振作興隆と、有爲青少年の教化指導に任じて、多大の業績を收め、その功勞は當村今日の盛大の礎を築ける人物として、今や村民一同よりの信用と稱讃は絶大なるものがある。

氏は溫厚篤實にして高潔圓滿なる人格者で、一般村民より慈父と仰がれる外、氏を協けて名助役の淺見豐藏氏あり收入役に中山重五郎、書記新舟松江、中山サノエ諸氏いづれも多士儕々の才幹にしして一致協力して、ますます村勢開發に日夜努力を累ねてゐる。

氏の家庭もまた圓滿明朗のまどゐをなして、ふそ子夫人との間に一男三女をも

うけ、一家の前途洋々としてゐて、村民の羨望をあつめてゐる。

## 埼玉、秩父、日野澤村

## 日野澤村役場

當村は皆野町の西方部に位して居り、北に金澤村、西に矢納村、南に吉田町あり、それぞれの中間にありて、僅かに耕土の地をひらける農村である。

主要物産を擧ぐれば、麥の農産筆頭を示し、之に亞ぐに桑、繭、及び生糸の生産額は逐年旺んである。また、日野澤信用購買組合、生糸販賣聯合組合埼玉社日野澤組及び甘樂社ありて、それぞれ斯業の向上發展に多大の貢獻をなしつつある。

永泉寺、金洞寺、金福寺、大通院、光福寺、法林寺、明德寺、天應院、水泉寺等の寺院はその由緒正しく、沿革の古きを以て縣下に著名である。

而して日野澤の瀧は一名秩父華嚴の稱あり、名勝の地として天下に聲名を謳はれてゐる。

當村には縣道なしと雖も、皆野町へ約二里の近きにあり、村道はひらけて、村内の往來は至便である。

その他、教育、文化、衞生施設完備し時局下、村長以下村民一同ますます協心協力して村勢の開發に盡瘁を累ねつつある模範村である。

### 村長 田村具次郎

當家は村内隨一の舊家にして、代々連綿と農耕に從事して雄飛して功勞あり、また地方自治界にも的となつてゐる名家である。

氏は、幼少より父祖の血を承けて明晰俊敏の頭腦を以て知られ、長ずるに及んでは村治伸長に身を投じて研鑽を累ね、その手腕の高邁果斷にして、溫和篤實なる人格とは、村民の絕大なる信用と好評を博して村長の樞職に推戴された。

爾來、村勢伸長に傾倒すること篤く、由來、當村は耕地すくなく、米の收穫なく、僅かに麥作のみ自給自足なし得る狀態にあるを以て、昭和十五乍、經濟更生計畫をたて、滿洲國内に分村移住を試みその實績を擧げつつあるは、大は東亞建設の大業に翼贊し、小は地方農村の振作發展を促進して不滅の功勞ありと謂ふべく、全國に率先躬行せるその英斷は一に此の實行的手腕に俟つところ多大にして今や氏の將來の活躍こそ、各方面よりいたく期待されてゐるところのものである。

その他、養蠶に、林業に、畜産に、增産を計つて多大なる成果を收めつつあり、また、有爲青少年の指導に當つては道場を村内に設けて、思想的精神的にその向上刷新を企圖しつつあり、氏の如き才幹の存するは、當村のみならず、ひろく縣下第一流の人物といふも過言でなくその名は村政史上に留めて不滅なものがある。

而して、氏を助けて岡田金作氏は名助役の名あり、以下收入役高橋壽郎、書記木幕信行、藤原實、武田半次郎、小林榮一諸氏いづれも鋒々にして、よく協心協力して村勢伸長の實を擧げてゐる。

## 埼玉、秩父、太田村

## 太田村信用販賣購買利用組合



當組合は、昭和十一年村内有力者一同の發唱によつて生れたもので、爾來、事業年と共に盛大を極めつゝ現在に至つたものである。

區域は村内一圓の廣範圍に及んで、組合加入戸數は普きに亙り、農村振作を期して、產業經濟の更生確立と、農具器具及び一般必需品の共同購入と、製產品の共同販賣、以て村民一同の福利增進を計つて、その業績は多大なるものあり、當村今日の繁榮の礎を築けるその功績は不滅である。

組合施設として木炭倉庫一棟あり、及び作業場等共同設備をなして、その規模の大なることは郡下第一の稱あり、而して組合員一同の克く協力一致して融和親和の實を擧げつつあるは、稀にみる優良組合として、その將來こそ、各方面よりいたく囑望の的となつてゐる。

### 組合長 齋藤貞次郎

氏は溫和篤實にして清廉潔白に富むの人格性は、その手腕の高邁果斷なると相俟つて、夙に當村第一流の人物として近鄕に聲名を謳はれてゐたが、村民の信望極めて篤くして當組合長の樞機に推戴せられてよりは、銳意組合事業の擴充を計り、當村伸長の上に多大の寄與を爲したるは、その業績、村勢史上に名を留めて不滅なものがある。

氏以下專務理事に石橋右門氏あり、また理事齋藤儀作、富田種作の兩名いづれも多士儕々の才幹にして、よく氏を協けて組合發展のために日夜の盡瘁を累ねつつある。

## 埼玉、秩父、矢納村

## 矢納村役場

當村は舊幕時代上總請西藩の領地なりしが明治維新後岩鼻、入間、熊谷縣を經て明治九年埼玉縣と改稱せるもので日野澤の西、上吉田の北方に位してゐる。

當村の西は上州につづき、北は兒玉郡若泉村に境して、地勢は概ね高地帶をなしてゐる。

主要物産は重をに林業中心として米、麥桑、繭がある。

鄕社城峯神社、延命寺、長樂寺の古刹があり、村内で產する三津川石は全國に有名である。三羽鵰も名勝の地として有名である。

### 村長 小林波三郎

當家は代々農業に從事して篤農家の稱ある舊家にして、また地方自治行政にも參與しては功勞あり村民の信望極めて篤い名家である。

氏は、早くより村政開發伸長に意を用ひ、村長の樞機に推されてより、爾來、二十有餘年に及んでその任にあり、また青少年團長をも兼任して、當村今日の盛大に導いた治績は不滅である。

當村は古來より地形の關係上、農產物は比較的僅少にして、副業としての蒟蒻馬鈴薯、甘藷等を以て業を成すもの多くまた養蠶、林業の發達は村經濟を助けてゐる狀態より、氏は常にそれらの產額增進に多大の貢獻啓發をなし、その手腕に見識人格ともに勝れたるは、近鄕第一流

の人物として、今や各方面からの信用は絶大なるものあり、將來の活躍こそ嘱目せられてゐる。

氏を助けて西井　織氏は名助役の名あり、以下收入役石井八百吉氏、書記金澤清藏、新井橘之丞、神佳榮一の諸氏いづれも錚の才幹にして、部落常會に村常會に、着々實績を擧げつつある。

埼玉、秩父、秩父町

## 秩父商業組合

電話六三七番

當組合は、地區内に於ける商業の改善を圖り、業者一同のために必要なる共同の施設をして、以て業者の發展向上を期するために、昭和十二年十月、町内有力者一同相謀つて設立された。

爾來、共同仕入に共同配給に、金融に、共同保管、加工事業に、或は共同運輸、組合員の營業に關する指導啓發に、多大の業績を擧げて、事業は一路盛大を辿りつつ今日に至つた。

區域は一町十ケ村、即ち秩父町を始め高篠、樋瀬、尾田蒔、芦ケ久保、影森、久那、浦山、中川、白川、原谷の各村にしてよく組合員一致協力して組合長を協けて事業擴充の實を收めつゝあるは郡下稀にみる優良組合として、近郷より絶大なる稱讃の的となつて居り、昭和十六年五月五日には全國十ケ組合中の第三位優良組合として、商工中央會より表彰され名實共に、今やその存在は當村のみならず、縣下隨一の名聲を誇つてゐる。

**組合長　松本勘次郎**

氏は、當組合設立に際しての、大功勞者で、組合組織成るやその第一代組合長に推戴せられた、高邁にして果斷なる實行的手腕の持主である。

氏は、溫和篤實にして清廉潔白に富む人格者で、組合員一同より慈父の如く仰慕されて居り、まだ氏以下常務理事二名、理事六名、常任監事一名、監事四名いづれも多士濟々の人物にして、氏を協けて克く組合發展に日夜の研鑽を累ねつつあり、その融合親和、以て組合員打つて一丸となつて時局下の地方町村經濟更生に邁進しつつあるは、各方面より將來をいたく期待せられてゐる。

**組合長　松崎清助**

氏は、當組合組織にあたつては日夜寢食を忘れて東奔西走



せる大功勞者で、組合設立と同時に、推されてその第一代組合長の樞機に就いた。

高邁にして果斷なるその實行的手腕は夙に聲名あり、而して、溫和篤實にして清廉潔白なる人格は、ひとしく業者一同の絶大なる信用と稱讃を浴びつつある當町第一流の人柄である。

今日、未曾有の時局下に際して、斯業の發達上に缺くべからざる原料加工品に統制を加へられつつも、率先躬行して、克く國策に卽應して、業界の一段の向上と改善に最善の努力を致しつつあり、大は東亞建設の大業に翼贊して、小は當町産業經濟の更生擴充に多大の業績を收めつつあるは當代稀有の大人物として、將來の飛躍は各方面よりいたく囑望の的となつてゐる。

埼玉、浦和市常盤町

事業家　**赤井重雄**

當家は連綿たる資家にして屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、公共のためにつくした人として知られてゐる。

氏はその男として明治二十六年に呱々の聲をあげた。夙に向學の志に燃え帝國大學法科卒業後は、北海道に於て炭鑛業を廢し、團體生命保險會社に奉職し、日夜孜々として人のため世のための保險事業に從事し、のち家事の都合で炭鑛業を活動し、あらゆる困難を突破して今日の大をなすに至つたのである。

資性溫厚にして果斷、實行を第一とし、酒は氏の好物で斗酒なほ辭せざる人だが、現在の時局柄、一夕一合ぐらゐにしてゐる由。

令室との間に子福に惠まれず、この點を夫人は氣にかけてゐるが、恒に氏の人格を反映して家庭の明朗なことは近隣でも美の的望になつてゐる。

埼玉、川越市大仙波新田

川越織物工業組合長　**沼田文次郎**

當家の開祖は、川越藩士にして、以來當家宗十數代を傳へる舊家にして、代々篤農家として知られ、元屋號を沼田屋と稱し明治八年頃出機業時代より機を經營し

その後織機に改め、業運大いに繁興し、今や當地方屈指の機業家たる盛名を馳せてゐる。

當主文治郎氏は明治元年八月一日、亡父文次郎氏の長男に生れ、幼名を秀吉と稱してゐた。

市會議員一期、商工會議所三期を經て現在は、川越織物工業組合長を始め、所得稅調査委員、營業收益稅調査委員等を兼務し、當地機業界の先導として重きをなしてゐる。

尊父文次郎氏、母堂ムメさんは、既に逝去した。

令室ツヤさん（六十七歳）、長男文二郎氏（四十六歳）川越工業學校出身、同令室（四十六歳）、令孫敬一郎君二十歳）桐生高工在學中、同富美子さん（十三歳）、同芳藏君（四歳）、令孃クニさん所澤町齋藤德太郎氏に嫁し、同清子さんも、當市相原秀市氏の令室となり、一家一門隆盛を極めてゐる。

埼玉、川越市高澤町

會社重役　**井上勘兵衛**

當家の祖は、明智光秀の臣にして、天正十一年六月本能寺の變後、當川越に來住、以來土着して今日に至る。

十二代目の先考勘兵衛氏は、金井島州と稱し、賴山陽と親交あり、家寶として天平七年當時觀經大曼陀羅一幅、生國丹州傳來の古筆、並に檜等を秘藏してゐる、由緒正しい名家である。

過ぐる日本青年館開館に際し、鄕土舞踊と民謠とを演じたが、その中の川越の「獅子舞」は、觀衆の大喝采を博したが、それには由來がある。井上家が、丹波篠山よりこの地に轉住して、長木屋とし、材木商を營んで居た當時、番頭の半右衛門といふ、大酒飲の怠け者があつた。ある年の春頃より、屢々妻を消すのに不審には思つたが、格別咎めもせずに居るとついに一年の月日が流れた。ある日、何氣なく主人が藏に這入ると、隅の方に異樣なものが見えるので、怪しみて近寄ると、意外にも雌雄二頭の桐の木彫の獅子面である。これは半右衛門の刻んだもので、妻を消す理由も判明した。

この獅子舞は、川越市石原町高澤山妙智院觀音寺は、比叡山の末寺にして、弘法大師の開基にかゝはり、慈覺大師の再興せし名刹にして、後陽成天皇の慶長十二年三月、今より三百三十年前の當時、音門品の教旨に則り、惡魔を降伏し、厄難を消除して、國利民福を祈禱し、上下齊しく泰平を謳歌せしめやうとする、趣旨に基いて觀音祭に獅子舞を演じたのが、今日に傳はつてゐるといふ。

當主淸兵衛氏は、當年七十六歲にて、幼名を八造と稱した。壯年時代三井物産に入り、その後時を經て長崎の三井鑛山部に勤務し、國塚磨氏に引立てられた。その後川越倉庫會社並に川越護謨會社等を創設し、現に兩會社の取締役を勤めて居り、また一方公職としては、區長、町會議員四期、市會議員、その他要職に推されて盡力せる市內元老として重きをなしてゐる。

令室みつ子さん(七十五歲)、元幕府の老臣佐久間家に生る。長男良雄氏(四十三歲)海軍中佐、同令室久枝さん、東京市世田谷區經堂坪井芳吉氏の長女、次男彥二郎氏(三十三歲)日大出身、軍醫中尉同令室通子さん(二十九歲)鴻巢町醫師河野柳三郎氏次女。長女鶴子さん(四十二歲)川口市新井茂雄氏令室、次女美和子さん西宮市加藤順太郎氏に嫁してゐる。


埼玉、川越市高澤町

縣會議員 淸水友右衛門

電話一三〇番


當家の祖は、川越藩士にして、先考友右衛門氏は、明治十二年分家して一家を創立、當主友右衛門氏は、明治十八年十二月六日生誕。麻生荒物問屋を經營し、現在縣會議員二期、市會議員四期重任して、市內に重きをなしてゐる。

また一方、埼玉縣燐寸卸商業組合、同ゴム製品卸商業組合各理事長、川越商工會議所議員等の要職に就いて、新體制業界の指導に當り、その健全なる發展を促してゐる。

眞摯篤厚、肫誠高雅、衆望を收めてゐる。


埼玉、川越市連雀町

武州瓦斯會社重役 印藤順造

電話四一七番




明治十七年二月十六日、尊父吉五郎氏の三男に生れ、同四十五年三月分家して一家を創立、土木建築請負業をなし、今日に至る。

さきには町會議員一期、市會議員四期重任し、その他の公職を歷任して、現在は商工會議所議員に擧げられ、また武州瓦斯會社常務取締役をなし、市の實業界に確乎不動の地步を占め、隱然なる勢力を有つてゐる。

政治に關心を有ち、元民政系に屬して活躍したが、政黨の解消せる今日では、翼贊政治に協力して、臣道實踐の誠を捧げてゐる。

令室ウメ子さんは、淸川町元町長高橋健次郎氏の令妹、不幸にも四十七歲を以て永眠した。

長男基造君(二十六歲)は、早大理工科を優秀なる成績にて卒業した秀才、目下出征中、次男英次郎君(二十四歲)は、同早大理工科在學中、三男泰造君(二十二歲)は、橫濱高工在學中、兄弟三人とも揃つて秀才である。

家庭は常に明朗にして、和氣藹々と團欒し、前途洋々としてゐる。


埼玉、川越市連雀町

市會議員 印藤元右衛門

電話一六三番


當家の開祖は、源氏の血流を汲む印藤氏が、久しく住してゐた。眞言宗新義派の圓照寺に青石の古碑數基あり、これは皆加治氏ものであると傳へられてゐる。

村は佛子、野田の二字を以て成り、飯能川の東に接し、成木川が村內を貫流してゐる。

產物は米、麥、繭、レース等である。

敎育文化、衞生等の諸施設設備がよく整つてゐる。

社寺には村社白髭神社、同八坂神社、圓照寺(眞言)、高正寺(曹)、長德寺(曹)等がある。

交通は、村內に武藏野線佛子驛がある。

村民は、古くより質實淳朴の良風をなし、國策に卽應して增產報國に全力をそゝいでゐる。


埼玉、入間、元加治村

村長 元加治村役場

宮岡 茂助


當家は、今より十數代前當村に來住し代々農業を營み、當

農家を以て知られてゐる、當地方屈指の舊家として著聞されてゐる。

三代前より機業を創め、その後織機を備へて、業運盛榮を極めてゐる。

先考茂助氏は、金内の總ゆる要職を歷任して自治産業の改善發達に著しい功績をなした功勞者である。

氏は、その長男として明治二十五年十月十五日に生れ、現在は村長の外、青年團長、村會議員、所澤織物工業組合理事等を務めて盡力し、尠からざる貢献をなしてゐる。

母堂リウさんは六十五歳にて逝去した。令室幸子さん、德次郎君(十九歳)、川越工業學校出身、昭三君川越工業學校在學、四郎君、五郎君、嘉六君、信子さん(十七歳)、飯能高等女學校在學、智子さん(十六歳)同校在學中である。

賑やかで圓滿な家庭を營んでゐる。

## 埼玉、入間、奥富村

機業家　**長濱一郎**

電話二〇二番

秩父颪に桑枝が唸り、荒川の微風に夏秋蠶の桑葉が囁くといふ埼玉縣は、群馬と並んで養蠶縣の稱があり、秩父銘仙は古くより全國に知られてゐる本縣の特産である。

その機業家の一人たる氏は、先代故金三郎氏の長男として明治三十五年四月三十日に生れ、大正三年當地に轉じた。

近來機業家は、資材の不足や種々の統制に依つて、不自由を痛感してゐるが、時局に對し良識を有つ氏は、これを忍んで研鑽砥礪、職域奉公の誠を致し、業運の向上發展に專念して、今や當地方有數の機業家たる聲名を謳はれてゐる。

一方村會議員として、匆忙の身にも拘らず、村治産業の發展に力を效し、多大の貢献をなしてゐる。

資性極めて溫厚にして、謹直、村内の信望を蒐めてゐる。

尊父金三郎氏は、六十六歳にて逝去した。母堂きんさん(五十七歳)、令室サカヱさん(二十九歳)、令弟源四郎氏(二十九歳)は家業に從事してゐる。

## 埼玉、秩父、尾田蒔村

**尾田蒔村役塲**

當村は、寺尾、蒔田、田村鄕の部落を合してなるもので、秩父町の西に接し、東方荒川あり、西は小鹿野町に境して土地は既ね平坦である。

主要物産には米、麥の外、養蠶飼育も旺んで、その業は村内經濟の七割までにも及んで發達の域にある。副業としては蔬菜、果樹栽培で、また畜産、林業も旺んである。尾田蒔信用購買組合、生糸購買利用組合埼王社尾田蒔組及び秩父組がある。

村社三、寺院十四がある。

當村は稚父驛に近く、縣廳へ約二十里にして至り、またバスは近鄕に往來相通じて交通は至便である。

その他、教育、衛生、文化施設完備して居り、村長以下村民一同協心協力してますます村勢の伸長のために日夜の努力を累ねつつあり、郡下稀にみる優良村として稱されてゐる。

## 村長　富田龜市

氏は溫厚篤實にして清廉潔白なる人格者で、その識見手腕ともに卓れたるは、稀にみる名村長として、近鄕より絶大なる稱讃と信用の的となつてゐる人物である。

氏は村長の樞機に推戴せられてより、夙に、村内産業經濟の自力更生、開發向上を計り、農事實行組合に於て、常會を開きて農作物の改良研究に對する一般村民の指導を試みると共に、昭和十五年に報國農場を設置して良好なる成績を收め、その業績は當村今日の盛大の礎を築いて不滅である。

また、銃後國民の一致協力による村勢伸長を企て、各種團體の應召軍人遺家族の慰問に勞力奉仕に、甚大なる助成をなしつつあり、或は、村内青少年をして農繁期の害蟲驅除を行はしめて實績を擧げつつあり、名實共に、郡下第一流の大人物として、今やその聲價は絶大なるものがある。

氏を助けて關根豐三氏は名助役の稱あり、以下收入役内田庸氏。書記高原俊助原島釜太郎、島田常作、風間眞太郎、小林健藏、内田宮子の諸氏いづれも多士儕々の才幹にして、日夜研鑽を累ねて村勢伸長に邁進しつつある。

されば當村は、自治に産業に、益々堅實なる發展を約束されてゐる。

## 埼玉、秩父、秩父町

**秩父町役塲**

當町は往古、中村鄕と稱せられ、武家時代に入つて武光庄となり、明治二年、大宮町と改稱し、大正五年に至つて秩父町と改めて今日に至るものである。

郡の中央に位して、荒川の源流十里餘の地點、秩父盆地を睥睨せる高峰武甲の連峯は北西に横はり、土地は一帶に地味肥沃にして商工業が旺んである。

當町の西に長若、尾田蒔の兩村あり、南は影森、久那の二村に續き、東は高篠横瀨の兩村の、それぞれ接してゐる。

主要物産は絹織物、清酒、蠶種、製材及び米、麥等である。また秩父工業試驗場、縣造林事務所、東京帝大農學部演習林事務所等がある。

國幣小社秩父神社をはじめ、村社一、無格社二、寺院十六、基督教會一、神道教會三、天理教會一がある。

また、秩父公園、石經藏岩窟、秩父橋秩父神社は名勝舊蹟の地として全國に有名である。

當町には秩父鐵道秩父驛、御花畠驛あり、その他、バス相通じて交通は至便である。

また教育に、文化に、衛生に施設完備して居り、町長以下町民一同一致協力して益々町勢伸長の實を擧げつつあり、稀にみる優良村としてひろく稱讃の的となつてゐる。

## 町長　松本由太郎

當家は古くより當町に代々居をなし、近鄕切つての名家として知られてゐる。

氏は幼少より頭腦明晰を以て謳はれ、長ずるに及んで專ら地方自治界の開發向上に通曉し、皇道精神の遵奉と、健全なる町民の身體鍛錬とを以て、その根本方針とし、町民に對しては、産業經濟の自己更生、一致團結の美風を涵養し、以て時局に對する正しい方向の認識の培養につとめたるは、その功績、銃後國民の精神的思想的教導に資して、不滅なるものがある。

かくて、村民一同の心服するところとなり、氏は町長の樞機に推戴せられ、爾來、町勢伸長に沒頭して寧日なき活動を

績け、當町産業經濟の振作興隆に多大の業績を擧げると共に、また時局下銃後國民の團正を強調して、秩父町内冠婚葬祭實踐要綱を設け、虚飾を排して簡素を守り、以て日本人古來の家族制度の美風と禮儀の徹底を期するなど、その治績は縣下各方面より絶大なる稱讃の的となつてゐる。

而して、氏を助けて名助役井上市太郎關根伸會兩氏あり、以下收入役高野照三庶務課長齋藤桂、厚生課長今村廣三郎、戸籍課長加藤兵七、産業課長鹽谷源作、兵事課長山口光三、稅務課長濱谷六郎の諸氏いづれも多士濟々の人物にして、協心協力、よく町勢伸長の重責を遂行してゐる。

埼玉、秩父、樋口村

## 樋口村役場

當村は、明治九年八月埼玉縣の所屬となり、同二十二年町村制を施行するに際して野上下郷及び矢那瀬の諸部落を合併して成るものである。

秩父郡のほぼ東北端に位して、土地は一帶に平坦多く、西北に山岳を以て圍繞せられると雖も、南に荒川沿岸あり、農耕地をひらいて、村民は農業に從事し、順農村として知られてゐる。

主要物産は農産業を筆頭として、畜産工産、林産、鑛産、また家畜業も旺んで之吉氏あり、以下、收入役新井門太郎、書記福田利秀、飯野彌之助、農會技術員田野福吉、養蠶技術員新井善五、森林技術員高澤好雄諸氏あり、いづれも村の代表的才幹にして、協心協力して村勢開發向上に日夜寢食を忘れて努力研鑽を累ねてゐる。

埼玉、秩父、金澤村

## 金澤村役場

當村はもと族本榊原主計の知行所なりしも、明治九年埼玉縣に編入せられて今日に至るものである。

郡の西方に位して、野上の西、西方兒玉縣若泉、本泉二村に接して居り土地は一帶に農耕に適せる沃土に恵れて、古くより純農村を以て知られてゐる。

主要物産は米、麥の外に、養蠶飼育が盛んで、牛、豚、軍用兎、養鷄等の副業も發達してゐる。

昭和十一年經濟更生特別助成村になり組合を中心として發展の途上にある模範村である。

永泉寺他九の寺院古刹があり、また、日野澤の瀧は景勝の地として天下に聲名がある。

當村には縣道未だ通ぜずと雖も、皆野町に約二里にして至る近きにあり、交通は便利である。

今や時局下に當り、産業に經濟に、村長以下村民一同一致團結してますます、村勢充實を擧げるべく努力を續けつつ居り、縣下稀にみる優良村として、將來を嘱望されてゐる。

### 村長　眞々田種成

氏は資性溫厚篤實にして淸廉潔白に富むの人格者で、村長に推戴せられてよりは、村勢開發向上に多大の業績を擧げつつあり、村民一同の信望頗る厚い人柄である。

就中、産業經濟方面の發達に留意しては、各種副業の奬勵をなし旺んならしめ木炭、杉、檜等の要材を販出して、林産地としても當村の名を遠近に高からしめる等、その功績は不滅である。

而して昭和十一年に經濟更生特別助成村に指定されてより益々村内經濟機構の確立に邁進しつつあり、花卉の栽培に園藝の發展に、また村内各處にマンガン、白土に恵れるを以て、將來有望なる鑛業地帶としての開發に日夜研鑽を累ねつつあり、その手腕に、人格識見に、今や、各方面より多大なる屬望を以て將來の活躍を期待されてゐる。

氏を助けて櫻井谷五郎氏は名助役の稱あり、以下收入役四方田富次郎、書記新井將監、持田實太郎、宮前洪三郎、高橋孫次郎、佐宗政子諸氏あり、いづれも多士濟々の才幹にして、村勢伸長に鋭意努力を續けつつある。

埼玉、秩父、白鳥村

## 白鳥村役場

當村は、もと白鳥莊と稱し、土地の豪族白鳥氏の領せるところなりしも、のち白鳥村と改稱して、今日に至る。

郡の北方部にあり、東は大里郡寄居町に、北は樋口、西に野上、南は三澤村とそれぞれ境して、土地は一般に高地をなしてゐる。

主要物産は米、麥、繭、生糸等で、白鳥村岩田信用組合、生糸販賣埼玉社布風組がある。

村社五、寺院七がある。

名勝を以て知られる長瀞は村内にありて、全國旅客間に有名である。

當村は長瀞驛野上驛の近くにあるも、一般に交通は不便で、わづかに道村相通じて、村内の往來をたすけてゐる。

時局下に當り、今や村長以下村民一同協力一致して益々村勢伸長に研鑽を累ねつゝあり、縣下有數の能筆村としていたく稱揚の的となつてゐる。

### 村長　大澤寅次郎

當家は代々農業に從事して篤農家の稱あり、十五代連綿として續く村内切つての舊家である。先代鶴八氏は家業にある傍ら、地方自治界にも雄飛なし、多大の功勞ありたる人格者で、村民の信望頗る厚い名家である。

當主寅次郎氏は、慶應元年十一月七月

亡亀八氏の孫として生れた。幼より夙に明晰なる頭脳を以て知られ、長ずるに及んで、縣會議員を始め、村會議員、代議士等の重職に參與して名あり、こえて現任村長に推戴せられては、村治伸長に意を用ひ、その功績は枚擧に遑なく不滅である。

而して當村は農産業の豐富をみる傍ら山村地は最もひらけて木炭、用材の產出も極めて多く、或は養蠶事業も發達して居り、その年額二萬貫をこえるに至つて今や近郷第一の優良村として、地方民の羨望の的となつてゐるが、これら何れも氏の日夜の盡瘁と多年に亙つての研鑽努力の賜であつて、ひとしく、村民一同の絶大なる信望をあつめて、村の存在はまさに當代稀有の太人物として、各方面よりその將來を、いたく嘱望せられてゐる。

氏を助けて名助役田島源七氏は温和篤實を以て知られ、以下收入役に坂本豐作書記大澤和眞、新井永昌、森田要作、中川武信、柳井菊次郎諸氏あり、また農會技術員に野原直吉氏いづれも多士儕々の人物にして、よく協心團結してますます村勢伸長に不斷の努力を累ねつつある。

## 埼玉、秩父、横瀬村　村長　逸見　藤七

當家の開祖は古く、代々地主にして農を營み、加ふるに庄屋戸長をつとめて名あり、苗字帶刀を許されたる家柄にして近郷第一の舊家名門と稱されてゐる。

亡父藤七氏は村長、助役、村會議員、及び郡會議員等をつとめて功勞ありたる人物で、村民一同の信望極めて篤いものがある。

當主藤七氏は、小學校卒業後は、先代の血を承けて、夙に地方自治行政に通曉すること厚く、各種公共事業團體に參與しては、その手腕の高邁果斷にして、溫和篤實なる人格とを稱揚された。

こえて、村民の推すところとなりて現任村長の大任を拜してよりは、ますます研鑽を累ねて、村經濟の自力更生、振作興隆に意を傾けつつあり、時局下、銃後國民の指導敎化に任じては大政翼贊會村支部長、銃後奉公會長及び青少年團長の樞機をも兼任して、治績多大なるものあり、當村今日の盛大に導いたるその功績は不滅である。

亡父藤七氏の長男として生れた。

## 埼玉、秩父、横瀬村　役場

當村は往古、丹波武信の子孫横瀬氏の領せるところにして、江戸時代には忍藩となり、明治維新後、埼玉縣に編入せられたるものである。

秩父町の東南方に接して居り、南は入間郡下名栗村に境し、その中間に武甲山聳えて、土地は一帶に高地性をなしてゐる。

主要物產は、米、麥の他、絹織物、林產、工產、水產等であるが、村財一、寺院十、また根古屋城跡、古御嶽城跡は名勝の地として天下に周知である。

當村には村道相通じ、また秩父驛には約一里の近きにあり、縣廳へは十二里にして、達し得られて交通は至便である。

その他、文化、敎育、衞生施設完等備して居り、村長以下村民一同ますます一致團結して村勢伸長の實を擧ぐべく努力を累ねつつある優良村である。



而して、氏は郡下町村長中にありて、最少年者として將來を嘱望されて居り、その前途は幾春秋に富むの氣概は、當代稀有の名村長として、その聲價、ますます近鄉に高からんとしつつある。

氏を協けて長島金作氏は名助役の譽あり、以下收入役島田善作、書記長島武雄、淺田德造、加藤潔、加藤一郎、大野喜作、森田源七、本橋キミ子、平沼すみ代諸氏、いづれも多士儕々の才幹にして克く村勢開發のために日夜の研鑽をつゞけてゐる。

## 埼玉、南埼玉、菖蒲町　自轉車小賣　久喜商業組合

電話坪二番

本組合は久喜署管內三町十ケ村を區域とし、組合員の福利增進を圖り、相互扶助、共存共榮を目的とし昭和十五年六月七日設立認可を得たるものである。

爾來幹部役員の積策施行はまことに機宜に適し極めて順調なる發展を遂げ、その業況は極めて潑剌たるものがあり、最も優良なる組合として好評嘖々たるものがある。

本組合は菖蒲、久喜、白岡の三地區に分れ、配給機關は總て事務所に於て運用し、通知連絡は各區に擔當者を置き極めて合理的に處理しつゝある。

### 理事長　荒井　正一

氏は明治三十一年十二月一日の出生にして、本組合長就任以來は組合精神の普及徹底により、未曾有なる難局に對處し以て東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期され、日夜寧日なき至誠を捧げられてゐる。

氏は資性温厚にして篤實、情理に富みたる人格者にして、業界に寄與せられた功績と共にその信望は絶大なるものがある。

## 埼玉、南埼玉、久喜町　南埼玉製菓工業組合理事長　高山喜一

電話一五番

當家は久喜町近在にて代々名主を勤められたる資家にして頗る由緒ある家柄として知られてゐる。

先代清三郎氏は東京市日本橋區新川新堀に住し、酒類の仲買商として重きをなし、傍らいろ〳〵公共のためにつくした人であつた。明治三十三年に他界したが氏は母堂あさ子さん、同三十九年に沒してゐる——との間に長男として明治二十八年一月二日に呱々の聲をあげた。

幼少の頃より大器たる素質に惠まれその勤勉なること驚くばかりであつた。

夙に食堂方面に興味を抱き、昭和二年四月二日に大食堂を經營し大繁昌を來たし、須田町にも支店を設けてゐたが、感ずるところあつて、昭和十三年秋、一切を讓渡した。

昭和元年、パンの製造に從事し、昭和九年、莫大なる資本を以て、驛前の現住所に店舖を構え移轉した。

氏はその着眼に於いてもすこしも誤らず、またその經營手腕と相俟つて、今日の大成功をなすに至つた。

資性温厚、事に臨んで果斷、信用厚く現在、南埼玉製菓工業組合長、警防部長等に推され令名嘖々たるものがある。

令室きよ子さんは鷲見村の名家田村元右衞門氏長女として明治三十二年に誕生した人である。

長男薫さんは頭腦明晰にして現在、富山藥學專門學校に在學してゐる。

二男博さんは古川商業の出身、昂さんは同校四年生、長女智さん等のよき子福に惠まれ、使用人よしさんといふ忠勤者あり、恒に一家和樂の家庭である。

因みに氏は消防功勞章を賜はり、また商工會よりも表彰されてゐる。

## 埼玉、南埼玉、越ヶ谷

## 越ヶ谷自轉車小賣商業組合

本組合は自轉車小賣商業の改良と發達を計る目的で昭和十四年十月設立して、同十五年七月に認可されたものである。

現下重大なる時局に直面して、幹部はもとより組合員一致協力して、日夜孜々として努力し、あらゆる困難を克服して今日では、縣下有數なる組合に仕上げたのである。

役員としては理事長前田豐吉、常務理事山崎精次郎、理事岡本薫、田中壽助、山崎富藏、監事坂田金三郎、鈴木宗吉の諸氏である。

## 理事長 前田豐吉

當家は、當地方屈指の舊家にして代々の名家である。

先代豐吉氏は家業の傍ら、產業自治のため功をつくした人として知られてゐる。

氏はその男として明治三十三年二月三日に呱々の聲をあげた。

長じて家業に從ふや、專心その發展に心を碎き、幾多の苦難を突破して遂ひに今日の大をなすに至つたのである。

資性重厚にして信用篤く、清濁合せて呑む度量は部下に慕はれ、また人にも立てられるのである。

當理事長としても一貫せる信念を以て指導してゐる。この外氏は警防團員消防二部長として至誠の奉公をつくしてゐる。

一家恒に氏の人格を反映して明朗である。

## 埼玉、北足立、與野町

埼玉織物工業組合總代 **相川平之助**

電話六八番

當家相川家は屈指の舊家にして近鄕でも有名な素封家である。

氏は當家の養子であるが、養父秀吉氏は公共自治のため多大の功勞のある人であつた。

氏は近くの植水村の篤農家青木萬次郎氏の次男として、明治二十九年七月十五日に呱々の聲をあげた。

大正五年第三聯隊に入營し、農業に從事してゐたが、資性溫厚にして近鄕で評判のよいことは隨一であつた。

相川家に見込まれて養子となり大正十三年十二月に與野町一一九七番地の現住地に分家した。

昭和二年財界パニックの當時は、氏の家もその影響で、相當苦境にあつたが、至誠努力の人だけに遂ひにそれを切拔けたことは寧ろ立身傳中の人として、認められるに至つた。

現在、埼玉織物工業組合長のほか、警防部長、消防組區役員等の要職で專らその指導に當つてゐる。

令室京子さんは當家の長女として生れた人で、資性至極溫順で、よく夫君に仕へ夙に貞女の聞えあり。



長男健一さんは北支征中、二男昭三さんは與野農學の三年生、達雄さん、敏夫さんは未だ若年である。

氏の趣味としては盆栽を愛好し、家庭は靜かで頗る圓滿である。

## 埼玉、秩父、兩神村

## 兩神村役場

當村は、江戸時代關東郡代の支配下に屬してゐたるも、明治九年埼玉縣に編入せられたるものである。秩父連峯を以て圍繞せられ、有名なる兩神山を控へたるを以て村名にとる、村民また、古くより敬神崇祖の念極めて厚きは、近鄕にその比をみない。

當村は小鹿野町の西に接する狹長の部落なれど、純農村にして米、麥の收穫に乏しきと雖も有畜、蔬菜、果樹栽培、養蠶、林業が旺んである。近年、森永製菓工場と提携なし、乳牛飼育も發達をみつつある。

村社一、無格社二、寺院十三あり、丸神瀧、藥師堂は名勝の地として知られてゐる。

その他、教育、文化、衛生施設完備してをり、村長以下村民一同協心協力してますます村勢の伸長の實を擧げつつある郡下隨一の優良村である。

## 村長 千島英雄

當家は代々連綿たる舊家にして、その由緒は古く、沿革の正しきは、地方切つての名家として稱されてゐる。

氏は幼にして俊敏を以て謳はれ、長ずるに及んで村治產業に通曉し、各種公共事業に參與して、その手腕の高邁にして溫厚篤實なる人格性とに、絕大なる信用を博した。

村民一同の信望により、村長の要職に就いてよりは、爾來、一貫して滅私獻身の活躍を以て村勢開發に當り、村經濟の合理化に、青少年の思想善導に、或は遺家族への勞力奉任に率先躬行して、その功績は不滅なものがある。

氏を協けて名助役守屋靜氏あり、收入役に小澤正平、書記加藤清次、高橋槌惠出浦忠雄、坂本初太郎、根岸敬、吉野胤雄諸氏いづれも多士濟々の才幹にして融合親和の實を擧げつつ、銃後國民の本分達成に日夜邁進しつつある。

## 埼玉、秩父、野上町

## 野上町役場

當町は往古白鳥庄に屈し、江戸時代に入つては川越藩に編入せられしも、明治に至つて埼玉縣となり、昭和十五年に町制を布いたものである。

當町は有名なる長瀞の所在地として、天下に喧傳されてゐる。

主要物產は米、麥の農產を上位に、絹織物、桑、繭も旺んである。また秩父特產絹織物陳列館あり、生絲販賣組合埼玉社若松組、及び野上組がある。

縣社寶登山神社はじめ、無格社一、來院八がある。

當村には秩父鐵道長瀞、野上の二驛あり、また縣廳には約十七里の近きにありて交通は至便である。

その他、教育、文化、衛生の施設完備してをり、町長以下町民一同、一心協力して明るく希望に燃へてますます町勢伸長の實を擧げつつある郡下第一の優良町である。

## 町長　堀口哲

當家は、父祖累代德望家として地方切つての人望ある名家にして、その由緒正しくして吉きは、郡下第一の稱ある舊家である。

氏は、幼少より頭腦明晰を以て知られ長ずるに及んで、夙に地方自治行政上に通暁し、その溫厚篤實、慈愛深き人格はその業績にみるべきものあり、朝方第一流の人物と稱されてゐる。

而して、當町長の大任を拜してよりは日夜研鑽して懈らず、加ふるに、天下の名勝長瀞を控へてその重責大なるものあり、昭和八年にこれが保勝會を設立して、施設經營に、また宣傳に、あるひは保勝の擁護改善に活躍を續けつつあるは町民一同のいたく感謝するところのものである。

今や、多難なる時局下に當り、當町も全國市町村に率先躬行して、產業經濟の自力更生、振作發展のために、日夜努力を積みつつあり、氏を助けて、助役、牧入役、區長、町會議員等、いづれも多士濟々の才幹にして、協心協力して町政開發に銳意邁進しつゝあるは、大は東亞建設の大業に翼贊し、小は地方町村の自治產業の興隆を促して、その功績は不滅である。

埼玉、秩父、倉尾村

## 村長　黒澤大作

當家は地方切つての舊家にして、代々連綿たる名家で、また地方自治界にも功勞ありたる人物を輩出して、村民の信望の的となつてゐる。

氏は父祖の血を承けて、幼少より俊才の譽れたかく、長ずるに及んで村自治產業に研鑽を累ね、その手腕の高邁果斷にして、溫厚篤實なるは、村民一同の推擧するところとなつて、村長の要職に就任した。

爾來、銃後國民の本分達成に萬全を期して、青少年敎化指導に、遺家族への勞力奉仕に、或は農事の共同作業訓練に、率先躬行して努力を拂ひつつあるは、大は東亞建設の大業に翼贊し、小は地方農村の經濟更生と振作興隆を促して功績顯著なるものあり、時局下有爲の人物としてその將來の活動は各方面よりひとしく囑望の的となつてゐる。

氏を協けて名助役淺香幾三郎、收入役香淺萬龜、書記關口政光、丸山俊正、宮田至、勅使河原亥藏諸氏いづれも適材適所の人材にして、よく融合親和の域にすすみつつ、日夜村勢開發に滅私獻身の努力を累ねつつある。

埼玉、秩父、長若村

## 長若村役場

當村は長留、碧岩の二部落を併せて成り、それぞれの名をとりて、長若村と改稱、明治年間、埼玉縣下に編入せられたるものである。

小鹿野町の東南部に當り、秩父町の西南にあり、周圍山岳に圍繞せられたる一農村である。

主要物產は養蠶業を以て筆頭とし、その他乳牛の飼育、麥、大豆、馬鈴薯等の農產物も旺んである。近年、鐘紡の繭荷受場設置をみ、また森永製菓工場の進出をみて、當村の乳牛の品質佳良なるは天下に周知である。

村社一、寺院十、また半太夫墓跡、三十三番札所の靈域あり、札所前に湧出する鑛泉は諸病に靈効ありて遠近の浴客をあつめて盛大を極めてゐる。

當村には縣道相通じ、また秩父町約二里の近きにあり、交通は至便である。

その他、敎育、文化、衞生に施設完備してをり、今や村長以下村民一同一致團結して、ますます村勢伸長の實を擧ぐべく日夜努力を累ねつつあり、郡下第一の優良村として稱されてゐる。

當家は地方切つての舊家にして、代々地方自治界にも功勞ありたる名家である。

氏は父祖の血を承けて、夙に村自治行政に通暁し、商來、各種公共事業にも參與して、その手腕の高邁果斷なるを謳はれた。

認められて村長の樞機に推戴せられてよりは、銳意、村勢の開發に盡瘁なし、產業經濟に、有爲青少年指導敎化に任じて、その治績は枚擧に遑なく不滅である。

而して、時局下に際會しては、遺家族の勞力奉仕に、農事共同作業を奬勵してその功績は、大は東亞建設の大業に翼贊し、小は地方農村の自力更生と振作興隆に貢獻して偉大なるものあり、當村今日の盛大の礎を築いて顯著なるものがある。

氏を協けて板倉勇次郎氏は名助役の稱あり、以下收入役三枝勝三、書記黒澤新一郎、松井良一郎、堀口喜三、笠原德重郎諸氏、いづれも多士濟々の才幹にして克く研鑽を累ねて、優良村の名を高めつつある。

埼玉、秩父、三澤村

## 三澤村役場

當村は、中古白鳥の庄に屬してゐたが、天正十八年幕府代官の支配所となりその後幾變遷を經て、維新後忍、入間、熊谷の諸縣を經て、埼玉縣となり、今日に至る。

皆野町の東に接し、北は白鳥、南は高篠村がある。

產業は農業が主で、絹織物を產出してゐる。

本村の特色は、區部落會と醫療施設とである。

區部落會は、大政翼贊の臣道を完うする目的を以て組織したもので、村長これを統轄し、區域内各種團體と緊密なる連絡を圖り、全員積極的に協力して、經濟產業、敎化、警防、保險、衞生、社會施

設等の刷新發展に努め、かつ時局下必要物質の增產供出、配給及び消費規正に關する事項、その他共同生活に必要なる諸般事項を遂行しつつある。

醫療施設、本村は交通不便な農山村にして、昔より醫師の村にして、村民の保健衛生上甚だ遺憾とされてゐたが、昭和七年經濟更生村に指定せられるや、村民の保健如何は生產能力の增進に至大の關係あるを以て、全村民頻りに醫療施設の實現を要望しつゝある時、縣當局においては、昭和十年九月醫療施設奬勵規程を制定したるに依り、當村は同規程に基き同十一年六月三菱合資會社助成金の交付を受けて、診療所を新築し、爾來村民の醫療に完璧を期することに努め同年七月より工場健康保險を實施し、なほ同十二年において經濟更生特別助成施設として病室一棟の新築並に施設の完備を期し、村民の保健と農村經濟更生に大なる效果を收むるに至つた。

診療所の職員に所長（醫員）一名、看護婦一名、產婆一名、書記一名で、夫々献身的に村民の保健衛生に盡力してゐる。

現村長は山口正雄氏、助役は小河利介收入役野澤絹三郎の諸氏、書記は田島一男、大濱壽雄、持田忠良、松本喜久藏氏等、農會農會技術員は玉谷剛、養蠶技術員は關口道次郎氏である。

## 村長 山口正雄

氏は、時局下において、村內の臨戰態勢を强化して、臣道實踐の誠を效し、その他村內の各施設經營に意を用ひて、多大の業績を擧げ、村民より深く信賴されて、名村長の名をなしてゐる。

## 埼玉、秩父、大河原村 大河原村役場

當村は、外秩父の內にて、江戶時代は旗本深津彌七郎、龜井駿河守、松平大和守、雨宮平右衞門等に分屬してゐたが、明治九年埼玉縣治に移して、今日に至る。

縣の東北隅に位し、南東西の三方は比企郡に境し、北は槻川村に接してゐる。養蠶の盛んな地にして、村經濟の中核をなして居り、米麥作もよく行はれてゐる。

村經濟の主軸をなす大河原信購組合は著しい發展を遂げて、村民の共同福祉のため、目覺しい活躍をなしてゐる。

その他教育保健衛生等諸機關も整つてゐる。

人物としては、學者の宮信通泰氏が出てゐる。

社寺には村社熊氣神社、同息形神社を始め、聖岩寺（兩日）、常光寺（同）等がある。

交通は、東上線小川驛よりおよそ二里縣道により自動車が通じて便してゐる。

村民は、傳統的に純朴質實の良風美俗をなして、平和鄉を形成して居る。

また時局に對する認識も、村理事者の指導よろしきにより、極めて深く、擧村一致農業增產に邁進してゐる。

## 村長 足立彌平

當家は、家系八代を傳へる、當村屈指の舊家にして、代々農業を營んで來た、尊父故彌平氏は、篤農家として知られ、村の農事改良に勤からざる貢獻をなし、また村長、その他村內の總ゆる要職を歷任して獻身的努力をなした功勞者である。



當主彌平氏は、その長男として、昭和十七年四月に生れ、現在は村長を始め、產業組合長、農會長、青年團長等、村內における一切重要な地位に就いて、村勢の擴充發展に盡力して、多大の業績を擧げてゐる。

時局下、村民を指導して、村の臨戰態勢を强化し、以て國家の大業に協力せしめんとしてゐる。

淸秀淳篤にして、實踐力の旺盛な名村長として、村民の信賴を寄めてゐる。

## 埼玉、北足立、與野町 埼玉織物工業組合總代 長坂修三

當家の開祖は相當古く、昔忍藩士として有名な素封家である。尊父乙治氏は獨學より小學校教員となり、四十有餘年間育英のためにつくした大功勞者である。

現在八十歲尙ほ壯者を凌ぐ慨がある。

氏はその男として明治二十五年八月十日に呱々の聲をあげた。夙に小學校を卒業して、東京京橋區大根河岸の神邊直吉書店に入りて旣に二年間勤務した。かねて氏の頭腦のよさを見込んだ叔父福田康次郎氏は埼玉縣立桐生織物學校に入學せしめた。果せる哉、氏は卒業まで優等を通し、その後十ケ年御禮奉公として叔父福田氏に仕へ、大正十年二月一日出機屋を開業したが大正五年の財界の動搖に直面して一時店を閉鎖し、大宮町油屋呉服店が親戚の關係にあるので、三年間整理に力を借りた。昭和八年再び機業を始め、捲土重來の意氣で、あらゆる辛酸を嘗め、今は思出の話にしてゐるが、あるときは子供の貯金やら、保險金を解約してまで事業に打込み今日の大成功をなすに至つたのである。

商標は○長印である。

氏は本業の傍ら織物組合長、又商工會議所評議員、警防團防毒部長、埼玉縣產定委員、小布部課長、浦和織物工業小組合理事長等の要職をかね專らその指導に當つてゐる。

責性重厚、信望愈高し。趣味はスポーツ。魚釣りなどである。

令室なみ子さんは貞女にして內助の功あり、植水村島根の生れで臺灣で警部をしてゐる鈴木敬助氏の姉さんに當る。

長男直次郎さんは浦和商業卒業後、內閣企畫院に三年勤務後、今中央大學法科に學んでゐる。次男富次郎さんは浦和商業卒業後、日本海產大宮支店に勤務。

家庭は恒に平和で多幸である。

## 埼玉、北足立、戶田村 金庄織物合名會社

當地方は往古にその濫源を發する由緒ある織物特產地として、海外に知られてゐる。

近年、家內工業として、その經營する戶數は盛大を極めつゝあり、加ふるに技術機械の向上改良に副ふて、その年產額の莫大なること、品質の優美嶄新にして柄合、意匠、色彩等はすべて巧緻にして地質また堅牢なるは、他にその追隨を許さざるものがある。

而して、郡下業界にありて、當會社の存在は、その組織の整備せること、機臺の充實、從業員一同の家族的一致協力の親和を以て、夙に聲名あるところのものである。

市場も、遠く京阪、東京地方に販出されて大衆同嗜好を迎へ、その事業の盛大

なるは、ますます全國機業者一同の絶大なる信用と好評とを博しつつある。

### 代表社員 金子庄五郎

氏は、明治十年十月五日、亡父庄五郎氏の長男として生れた。

當家は四代前に分家獨立して一家を創めたるものにして、由來、當地方にあつて機業を開業して、盛大を迎へ、業者一同の信望の的となつてゐる名家である。

當主は、幼名を善一郎と謂ひ、のち庄五郎と改名し、家督を嗣いだ。

父祖の血を承けて頭腦明晰にして、溫和篤實なる人格者として知られ、戸田小學校卒業後は、中山塾に籍を置きて、漢學を修めたる碩學の士である。

氏は、夙に地方自治行政に通曉し、村治開發に留意して篤く、曩には、村會議員、消防部長、荒川水利組合員、國勢調査委員、名譽助役、大宮商業銀行取締役等の大任を家業の傍らつとめて多大の治績を收めた。

こえて、昭和六年より同十五年までは蕨織物工業組合長に推戴せられ、その手腕の高邁果斷なるは、當代第一流の人物として稱さるるに至つた。

而して、家業たる機業は、逐年盛大の途を辿り、絕えざる技術改良工夫の研鑽と此の日夜の奮鬪と相俟つて、今やその規模の大にして、組織の確立整備せるは郡下にその比をみず、ますます擴充ならんとしつつある。

氏以下從業員一同よく一致協力して事業繁榮に努力しつつあるは、氏の謂ふところの機業報國の本分を達成してその功績は大なるものあり、一は東亞建設の大業の一助となり、一は業界の向上發展に貢獻して不寫であり、特筆さるべきものがある。

氏は魚釣りを趣味とし、その技は普く入神の譽れがある。

家庭もまた極めて圓滿明朗で、內助の功厚き夫人サクさんとの間に、長男得氏守、鐵次、幸助、順子、信子、三代子さんあり、長男得氏は、川越工業學校卒業の秀才にして、現在埼玉織物工業組合理事、消防部長等の要職にあり、父子二代につづく一家の繁榮ぶりは、近鄕より絕讃と羨望の的となつてその前途まことに洋々としてゐる。

埼玉、北足立、六辻町

埼玉織物工業組合總代 **田中茂十郎**

電話二二三一番

當家は代々地主、篤農家として知られ明治十五年頃より手機をもつて機業を營み今日に至つた。

當主茂十郎氏は尊父藤藏氏の男として出生し、家業を踏襲するや、專心業務の進展擴張に努力し、著々その成果を擧げられた。現在工業組合總代、現町會議員六期の重職にあり寧日なき奮鬪を續けられ、就中、工業組合總代として、この難局下に組合員と一致協力、日本機業界の一翼として隆昌され、重要なる推進力をなして居られる。蓋し氏の如きは產業上稀に見る功勞者といふべく今後の活躍は萬人より期待されてゐる。

氏は溫厚にして篤實、長者の風格を有し、その手腕功績と共に各界の德望は頗る厚いものがある。

家族は夫人千代さんとの間に二男あり既に長男增一氏には壽々子夫人がある。因に同氏は浦和中學卒業後、桐生高工出身の俊才にして嘗て青年團長二期を勤めた有能なる努力家である。

次男敬氏は早稻田大學專門部卒業後、高等主計學校卒業の英才である。



埼玉、北足立、鴻巢町

### 鴻巢自轉車小賣商業組合

本組合は自轉車小賣商業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、設立認可されたものである。

現下重大なる時局に直面して、幹部はもとより、組合員一同協力して、その使命達成に努力し、あらゆる困難を切り拔けて、今日では縣下でも有數な組合に仕上げたのである。

役員としては理事長新井長作、常務理事今井順、理事便幸梅松、長谷川芝郎、藤村光五郎、今井武二、松川岩松、原島森造、島村幹二、常任監事吉田竹次郎、小高儀輔、大隅信藏の諸氏である。

**理事長 新井長作**

氏の家は、當地方有數の舊家にして、明治三十一年七月十二日に呱々の聲をあげた。家業の農業より轉じて、自轉車販賣業に從事したが、一度業務につくや、專心努力して、その發展に心を碎き、幾多の苦難を突破して遂ひに今日の大をなすに至つたのである。

資性重厚にして信望あり、當理事長としても一貫せる信念を以て至誠の奉公を致してゐる。

この外埼玉縣聯合會常任監事、日本自轉車小賣聯合會副支部長、警防團警護部の役員として令名嘖々たるものがある。

家庭はその人格を反映して明朗で、近所の羨望になつてゐる。

埼玉、川口市

### 矢作織布有限會社

電話鳩谷一七二番

當地方は、古くより織物業發達し、その年產額は全國第一の稱がありて、津々浦々の業者及び需要家一同の絕讃の的となつてゐるところのものである。

而して、近年、技術の向上改良と共に機械一夫の發達をみてより、その品質の佳良にして堅牢なるは、多數の機業家を有するに至つて、他の追隨を許さざるものがある。

就中、當會社は、地方にあつて、その規模に、製品に、熟達せる手法に、逐年基礎確定して重きをなしてをり、當市第一流の優良會社と評せられるに至つてゐる。

當會社は、時局下に際會し、機業の發展は一に、機械製品の向上にありとの下に、役員從業員一同一致團結して、ますますその機能の萬全を發揮しつつあり、當市機業の今日あるは、實に、當會社の寧日なき工夫による優秀織機技術の賜といふも過言でなく、その產業報國の使命達成に邁進しつつある當會社の今後の飛躍こそ、官民一同ともに多大の囑望を以て注目してゐるところのものである。

**理事長 矢作眞一**

氏は明治三十年九月二十五日亡父綱五郎氏の長男として生れた。

當家の開祖は既に數十年前に遡り、土地切つての由緒ある家柄にして、代々連綿として地主を誇り、また庄屋戸長をつとめて功勞ありたる名家である。

亡父綱五郎氏の代に及んで、明治初年頃より機業を試み、爾來、盛大を極めつつ今日に至つたが、その系統古く、技術の卓抜せるは、縣下業者間に重きをなしてゐる。

當主眞一氏は、幼少の頃より俊才の譽れ高く、染織工業學校卒業後は業を嗣いで一意、その開發向上に傾到して已まず當家今日の位置を築ける努力は、中興の祖として永く當家青史に名をとどめて不滅なものがあり、特筆さるべきである。

趣味は、スポーツを能くし、その技は典型的現代人として、對人的にも好評がある。

家庭には、內助の功厚きタツエ夫人あり、及び長女三代子さんは、目下越ヶ谷高等女學校に在學中の才媛にして、一家は多年圓滿を極めて、ますます前途洋々たるものがある。

、埼玉、秩父、皆野町

## 皆野町簡易圖書館

當町は、往古忍藩領となり、後、入間熊谷縣を經て、明治九年埼玉縣となりたるものである。

長瀞の南方部に位してあり、荒川の東岸に沿ふて市區をなし、地勢は概ね平坦にして沃土をひらいてゐる。

主要物産は、農產物を筆頭に、工業、林產、畜產業が之に次いで旺盛を極めてゐる。

村社一、寺院四あり、村落の名に戰場(センバ)の稱あり、武田信玄と北條軍との激戰地として有名である。

當村には秩父線皆野驛あり、交通は至便である。

その他、教育、文化、衞生施設は完備してをり、町長小林泰永氏以下助役に大島豐三郎氏あり、町民一同協力團結してますます町勢伸長の實を擧げつつある優良町である。

就中、當町では、町內常會を每月一日神前に於て開き、祈願祭をなす等、その實績はみるべきものあり、及び、當圖書館は設立以來、銃後國民と有爲なる青少年の思想的精神的啓發に任じて、多大の功績あり、閱覽者は終日殺到して、盛況を極めて爲り、以て本町の文化的水準の如何に高きかが判るところのものである。

當家は近鄕切つての舊家にして、氏は夙に教育界に身を投じて爲く、各地農村小學校を歷任してはその溫和篤實にして高潔圓滿なる人格性とを謳はれたが、現在は町內小學校の校長の樞機に日夜研鑽して、忠良なる日本國民の智德情意の涵養につとめる傍ら、推されて當館長の大任に就き、爾來、多年に亙つて、莫大なる功績を收めつつある當町第一流の人物である。

その識見度量ともに卓れたるは他に比肩なく、地方自治行政にも通曉してその功勞は不滅なものがあり、各方面よりひとしく將來を囑望せられてゐる才幹である。

家庭もまた、圓滿明朗のまどゐをなしてをり、一家の前途ますます多幸の一路を邁りつつある。

埼玉、秩父、槻川村

## 槻川村役場

當村は、外秩父の內にて、幕政時代は旗本の所領、その他に分屬してゐたが、明治九年埼玉縣に編入され、坂本、大內澤、背谷、白石の四大字を以て一村をなしてゐる。

郡の東北部にあり、南大河、西三澤、南大椚村に接し、東は大里郡利原村に境してゐる山間の部落にして、この邊の住民は紙漉を業とし、川岸には楮晒小屋なる異體の建物がある。

產業としては林業が盛にして、村經濟の六割はこれに依存してゐる、この外養蠶が盛んに行はれ、農業の副產物として蒟蒻、甘藷、トロ、筍、百合等がある。畜產もまた行はれ緬羊、乳牛、養鷄、兎を飼育して居り、惠まれた豐かな農村である。

團體として衞生組合、產業組合、生絲組合、生絲販賣埼玉社大內組等があり、村經濟の發展に竭してゐる。

神社には村社天兒安神社、同八幡神社同大內神社、同八幡大神社等があり、寺院は永泉寺、高圓寺、その他各宗派の寺院がある。名勝としては七瀧不動大日岩窟があり、また蛇紋石の產地として有名である。

二本木山のハイキングコースは、東京市の綠地帶として指定されてゐる。

現村長は福島隆策氏、助役は缺員、收入役は磯田善平氏がある。

埼玉、秩父、白川村

## 白川村役場

本村は、秩父郡の西南部に位し、南北共に大小山岳連り、西は大瀧村より、村の中央部を荒川が貫流し、これが東流して中川村に至り、耕地は殆どこの荒川の南北岸にあり、緩傾斜をなしてゐる農山村である。

產業は、農業を主體として經營しつゝあるが、人口の密度に比し、耕地面積僅少なるため、農家は概ね養蠶を專業の如くにしてゐる。從つて桑園の面積は、全耕地の六割を占め、主要穀菽の如きは、自家の需要を充すに困難な狀態にある。

しかし村民は、純朴にして、團結同榮の精神に富み、良風美俗をなしてゐる。

一例を擧示すれば、多年の懸案たりし荒川を堺に、大字白久を第一學區とし、大字贄川を第二學區とし、西區に小學校存立してゐたが、これを一ヶ所に改築統合し、教育の編成、財政上の經濟更生を圖り、その他村民の協力一致を以て、經濟

更生委員會を中心に、村是たる「住みよき白川村の建設へ」挺身邁進しつゝあることである。

やがて、この更生計畫は完遂されて、縣下の模範村が建設されるであらう。

なほ村民は、相携へて銃後の護りを固くして、增産報國に力心一途の努力をなしてゐる。

村長は新井勘次氏、助役に福井武夫氏牧入役は磯田慶次氏である。

書記には濱中數雄、千島政治、新井榮治、福井君子、新井アサ子、柴崎貞治の諸氏があり、農業技術員に高橋濱治、農會書記に加茂下甲子雄氏が居り、夫々職務に精勵して、村勢の向上に力を致してゐる。

### 村長 新井勘次

氏は、村長に就任以來、日夜寧處なきまで、村治に盡瘁して多大の業績を擧げ、殊に經濟更生計畫の成遂に主力を注いでゐる。

手腕識見共に卓越せる名村長として、村民の絶大なる信望を收めてゐる。

埼玉、熊谷市

## 熊谷燃料商業組合

本組合は燃料商業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、昭和十三年五月二十日に認可されたものである。

現下時局重大なる折柄、幹部はもとより組合員一同協力して努力し、日夜孜々としてその使命に向つて猛進し、あらゆる困難を克服して縣下有數の組合に仕上げたのである。

役員としては理事長猪俣源次郎、專務理事小林圭助、常務理事平島源三郎、石川作吉、坂本近平、高瀨榮三、理事棚澤和太郎、荼澤榮之助、島山米三郎、田島八一、高田宗三、望田新一郎の諸氏である。

### 理事長 猪俣源次郎

衆に秀れ、大器としてその將來を囑目されてゐた。

家業に從事するや日夜專心、その發展に心を碎き、幾多の苦難を突破して遂ひに今日を築きあげた人である。

責性重厚にして信望篤く、清濁合せ呑む大度量は部下に慕はれ、また人にも立てられるのである。

當理事長としても一貫せる信念を以て指導してゐるは勿論、其他數々の要職に推され至誠の奉公を致してゐる。

家風は自らなる品位を備へ義理に篤く、人情を重んじ、近隣より頗る評判がよい。

埼玉、川口市芝

川口織物工業組合理事長

### 矢作政之助

電話廠二一〇番

祖父敬左衞門は自治産業方面に對して隨分と辛苦克服、獻身的努力を盡し、斯業に對しての功勞者として知らる。而して氏の家庭は、尊父母堂への孝養を盡し、又夫人娟子さんとの間に二男二女の子女ありて、子女を中心としての家庭は極めて圓滿なり。

氏は明治三十四年八月十三日の生誕にして、七代前に本家より分家したるものにて、地主として地方的に知らる。而して明治三十五年頃より斯業に就業し、是



が順調なる隆昌を招來せしむる研究と其の蘊蓄を傾けて努力を拂ひ、今日の成果を獲得せり。

現在氏は警防團分團長、自治組長、並に防犯區長、川口織物工業組合の理事長等の要職に就任して、之等各方面に對しての進展向上を目指して、獻身的努力を拂ひ、確然としたる堅き信念と、撓ゆまざる實行力に依り、今日の結實を獲得したるものなり。

更に埼玉織物工業組合總代の職に在りて是亦氏の人格と手腕に依り實質的進展を得たると共に、其の將來を期待さる。

當家は代々敬左衞門を襲名するを家風とせる事を附言す。

埼玉、川口市榮町

## 川口自轉車小賣商業組合

本組合は自轉車小賣商業の改良と發達を計るため共同の施設をなす目的で、昭和十五年五月三十日に認可されたものである。

現下重大なる時局に直面して、幹部はもとより組合員一同、日夜孜々として努力し、あらゆる困難を突破して、今日でも立てられるのである。

當理事長としても一貫せる信念と、遠大なる理想を以て指導してゐるは勿論、この外、日本自轉車商業組合聯合會埼玉縣副支部長、埼玉縣自轉車小賣商業組合聯合會常務理事、川口金壽網稅組合長として至誠の奉公を致し、令名嘖々たるものがある。

今や斯業の重鎭として堂々たる貫祿を示し、自他ともに認めてゐるのである。

一家恒に圓滿、また多幸である。

埼玉、大里、長井村

## 長井村役場

當村は、齋藤實盛の生誕の地として天下に有名である。

妻沼町の南方部に位し、熊谷を隔てること約二里、東方に利根川ありて、土地は概ね平坦をなし、農耕に適せる純農村として知られる。

主要物產は、米、麥、繭等が旺んである。

西光院をはじめ、龍泉寺、長慶寺、大性寺、正法寺、長昌寺、慈眼寺、寶藏院

の古刹あり、また實盛塚は古蹟の地として有名である。

當村より熊谷にバス往來し、交通は至便である。

その間、文化、教育、衞生に施設完備してあり、村長以下村民一同、一致協力してますます村政伸長の實を擧げつゝあり、郡下第一の優良村として稱讃されてゐる。

## 村長 内田善一

當家は近郷第一の舊家にして、代々名主庄屋をつとめて功勞あり、村民一同の信望の的となつてゐる名家である。

當主善一氏は陸軍少尉として、今事變勃發に際しては參加出動して動功あり、陸軍中尉に進級した。

除隊歸鄕後は、鋭意村勢伸長のため日夜研鑽を重ね、また各公共事業にも參與して多大の業績を收めて、その手腕の高邁にして果斷なると、溫厚篤實の資性は普ねく近鄕民より絶大なる信用と好評とを博するに至つた。

こえて、村民一同の推すところとなりて、現村長に就任してよりは、ますます精勵碎心して村自治の開發向上に貢獻なし、時局下、地方農村經濟の自力更生、振作興隆を促進すると共に銃後國民の體位向上にも留意し、或は遺家族への勞力奉仕に、銃後青少年の精神的思想的敎育に、その治績は大は大亞建設の大業に翼贊し、小は地方町村の基礎擴充に寄與して顯著なものがある。

氏はなほ前途幾春秋に富み、その人格識見ともに卓絶せるは、當代稀にみる人物として、將來各方面よりいたく囑望せられてゐる。

氏を協けて名助役の譽れある新井武一石井勘作氏以下收入役に長島常次、書記內田八郎、丹羽供宗、大島信、長谷川良覺、安井美津子、羽島武吉の諸氏いづれも、多士濟々の才幹にして、克く團結協力して、寧日なき努力を累ねて、村勢擴充につとめつつある。

埼玉、大里、鉢形村

## 鉢形村役場

當村は往古、北條氏、鉢形城をここに築きて據りたるところにして、今なほ、殿原小路、連雀小路、鐵砲小路の名存して、歷史上の舊蹟に富む地である。

荒川の流れを挾んで北は寄居町に相對してゐり、南は比企郡下竹澤村に接して、土地は概ね高地性をなしてゐる。

主要物產は、米、麥及び繭等である。

淨恩寺、清本寺、良秀寺、泉福寺の古刹あり、鉢形城跡は、前記の北條氏の據城として名勝の地で、近年指定史蹟に加へられた。

當村より寄居驛へ約半里にして達し得られ、また村內には東武線貫斷し、鉢形驛ありて、交通至便である。

その他、文化、敎育、衞生に施設完備して爲り、村長以下村民一同ますます一致協力して村勢伸長の實を收めつゝあり、郡下第一の優良村と稱されてゐる。

## 村長 神谷茂助

當家は代々連綿たる舊家にして近鄕第一の稱あり、地方自治界にも功勞ありたる人物を輩出して村民の信望極めて篤い名家である。

氏は、父祖の血を承けて頭腦明晰の譽れあり、夙に村自治に徹する厚く、各種公共事業團體にも參與して、その手腕の



高邁なるを謳はれた。

こえて、村民一同の推擧により、現村長の要職に就いてよりは、鋭意、村經濟の確立、銃後國民の使命達成に邁進してその業績の多大なるは、枚擧に遑なく、當村今日の盛大を迎へて、不滅である。

而して、時局下、銃後の守りも固くすべく、遺家族の勞力奉仕に、青少年の精神的敎化訓練に、或は慈善會、矯風會の機關を設けて着々その實績を收めつつあるは、當村第一流の人物として稱せられ郡下有數の名村長の聲名高く、その將來は各方面よりいたく囑望せられてゐる。

氏を協けて名助役齋藤春吉、收入役齋藤春、書記島塚勇三郎、武內多重郎、齋藤孝三、島塚重興、齋藤庫吉、農會技術員高橋幸太郎、農會書記山口論太郎、養蠶技術員保泉品吉諸氏いづれも多士濟々の才幹にして、克く一致協力してますます村勢伸長のために研鑽を累ねてゐる。

埼玉、北埼玉、羽生町

## 羽生小賣商業組合

自轉車自轉車

本組合は自轉車小賣商業の改良と發達を計るため共同の施設をなす目的で、昭和十五年五月七日に認可されたものである。

現下重大なる時局に直面して、幹部はもとより組合員各協力して、日夜孜々として努力し、今日では縣下でも有數なる組合として知られるに至つた。

役員としては理事長中村芳男、常任理事小林茂三郎、理事福田實之助、中村峯藏、藤倉孫八、武田末吉、監事藤野半之丞、新喜助、小川良作の諸氏である。

## 理事長 中村芳男

氏の家は代々の舊家にして屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、產業自治のため功をつくした人として近鄕に普く知られてゐる。

氏はその男として明治三十三年六月三日に呱々の聲をあげ、幼にして頭腦秀れ將來の大器として囑目されてゐた。

資性重厚にして信用篤く、清濁合せ呑む大な大度量は部下に慕はれ、また人にも立てられるのである。

今や氏は斯業の重鎭として押しも押されもせぬ堂々たる貫祿を示してゐる。

埼玉、大里、深谷町

## 大里郡菓子工業組合

一家員にその人格を反映して明朗である。

本組合は菓子工業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、創立認可したものである。

現下重大時局に直面して、幹部としてはもとより組合員各自が協力して、あらゆる困難を克服し、今では縣下でも有數なる組合として知られてゐる。

役員として理事長井草清三郎氏以下數名の理事監事で組織してゐるのである。

## 理事長 井草清三郎

當家の先祖は上杉家の重臣にして、幕政時代には深谷城に登城せし井草氏として知られる。其後數十代の變遷を經て代々屋號を河內屋と稱するに至り、四代前の半兵衞氏は餅屋として、地方に知られた。

尊父伊平氏は河內屋號で、魚屋を營み繁榮を極めるに至つた。

氏はその男として明治二十六年十月二

十日に呱々の聲をあげた。

幼少の頃から頭腦衆に秀れ、將來の大成を囑目されてゐた。夙に菓子製造見習のため、元深谷町内にあつた椙原覺八といふ菓子屋に入り、二十三年といふ長い間、菓子製造の修業をした人である。

現住所に開業したのは大正八年二月である。

資性溫厚にして圓滿なる人格のため、數々の要職に推される人で、菓子關係の各役員や、基督敎方面の役員、町政、內閣國勢調査關係其他枚擧に遑ないほどの公共の要職に就き、至誠の奉公を致したのである。

常に一貫せる信念と遠大なる理想を以て事に當る人である。

令室まさ子さんは明治二十九年の誕生にして貞淑の聞え高く、長女茂枝さんは深谷高等女學校を卒業して、家事の手傳をしてゐる。

家風は恒産出來た家に相應はしく、品位と格式自ら備はり、義理を重んじ、人情また篤く、近隣の評判が頗るよく、一家また氏の人格を反映して、常に明朗である。

## 埼玉、大里、深谷町

深谷自轉車商
業組合理事長

### 佐藤福治

氏は埼玉縣比企郡高坂村の酒造家佐藤力藏氏の三男として明治二十三年五月四日に呱々の聲をあげた。夙に川越中學校を經て日本大學法科を卒業し、東京に於て約七、八年會社に勤務したが、現在熊谷市内に於ける自轉車王といはれる令兄清一氏の關係で自轉車の卸商に着手し大正八年九月十二日深谷在新井橋に於て開業した。同所で約八年間孜々として活動し、昭和元年一月十五日より現住所に店舗を新築して、群馬縣一帶及び深谷北鄕にかけて取引をなし、その販路は大擴張されたが昭和四年財界の變動に直面し、代金數千金の回收不能のため、一時神經衰弱にさへも陷つたこともあつたが、或日魚釣に友人より誘はれ、飜然として悟るところあり、貸金を全部棒引して、新規に人生を出發せんとしたのである。

その考へや酬ゆられ、着々として財を築き今日の大をなすに至つた。

資性溫厚にして信望厚く、深谷自轉車商業組合理事長としてばかりでなく、近鄕の靑壯年から慈父の如く親しまれ、隣組長、其他の名譽職にあげられてゐる。

氏はまた九星學研究をなすこと約十年斯道の大家としてまた夙に雄辯家としても有名である。

趣味にはこの學問の外に、魚釣りがある。

令室きん子さんは群馬縣碓氷郡東橫野村の舊家田島綜八氏の義姉に當る人、貞淑を以て評判である。

長男薰さんは深谷商業の出身で現在令兄方で斯業の見習をしてゐる。美知子さん、進さん、俊さんそれ〳〵頭がよく皆級長をしてゐる由。

當家の前途は多幸である。

## 埼玉、川口市飯塚町

### 日本輕合金鑄造合資會社

電話三三二〇番

本社は壓迫鑄造法研究家「ドクトル」江副淸重の發明に係る專賣特許二重壓迫鑄造法の工業化を目的とし、廣く軍需並に一般の需に應ずべく昭和十三年一月資本金十萬圓を以て設立されたるものである。

主要製品は兵器部品、航空機部品、電氣機器部品、內燃機部品、測量光學機器部品、自動車部品、各種ピストン等にして主要得意先は中島飛行機株式會社、日立製作所、立川飛行機株式會社、日本電氣株式會社、汽車製造株式會社、內務省東京土木出張所、安全自動車株式會社、日本兵器工業株式會社、合名會社測機舍長坂精機研究所等である。

發明者江副氏は醫學研究中、大正二年米領マニラに渡航し同地大學に於て齒科を專攻し開業中偶々補綴齒科鑄造法の缺陷を感じ、之が改善研究に沒頭すること十有餘年遂に江副式二重壓迫鑄造法を發明し、大正十五年歸朝直に特許出願をなし昭和三年一月專賣特許を得、引續き美術工藝品鑄造に成功せしを以て更に進んで工業品鑄造に應用すべく各種機器用輕合金鑄物の研究を重ねたる結果專賣特許數件並に實用新案を得たるものである。

卽ちその應用は極めて廣範圍に亙り、本社の業況も又潑剌たるものがあり、國家非常の秋に際會し一層重大なる貢獻をなすものと期待されてゐる。

## 埼玉、川口市根岸

自治功勞者

### 森藤太郎

電話一六六番

當家は祖父周吉氏當時本家より分家したる當地隨一の古き歷史を有する機業家であつた。なほ當家は風呂敷の元祖として高名であつた。

當主藤太郎氏は尊父李右衞門氏の男として明治二十年十月十四日の出生にして二十四、五歲の頃より家業に從事、專心家業の發展に盡瘁せられ、その間埼玉織物工業組合監事二期、村會議員三期、學務委員三期を歷任し、精勵至らざるはなく、自治方面に對して幾多の貢獻を殘されたる事は、何人も感激措かざるものである。

最近、この未曾有の難局に對し、感ずる所があつて家業を廢したが、現に、信用組合評議員、自治組合長、納稅組合長等の重職にあり日夜間斷するところなき活躍を致されてゐる。

氏は資性溫厚篤實にして圓滿なるその人格は關係各界の德望極めて厚く、氏の今後に期待するところ益々大なるものがある。

家庭には長女うめさん、婿俊男氏の間に一女あり和氣藹々たる家庭を營まれてゐる。

## 埼玉、北埼玉、忍町

忍織物會社
取締役

### 大塚惣助

當家の系圖は相當古く、元忍藩にして明治十五年頃、祖父惣兵衞の代所謂埼玉木綿時代より手機を始め、菖蒲町などに於いて買付をしたものである。

尊父惣助氏は斯業を營む傍ら公共のため多大の功勞のあつた人である。

氏はその男として明治二十一年十月二十九日に呱々の聲をあげた。

明治二十六年家名を襲用して惣助となつたのである。早くから父の手助け旁々色々辛酸を嘗め今日の大をなすに至つた。

埼玉織物工業組合管理人のほか、現在忍織物有限會社取締役として、また元町々會議員、方面委員等の要職にあつて、

夙に令名あり。

責性重厚、信望特に厚い。

令室滿壽子さんは熊谷市の名門、中澤武十郎氏の長女として明治二十二年に生れ、夙に貞淑内助の譽あり。

長男吉郎さんは熊谷商業出身の秀才で頭腦明敏、よき後繼者である。

また、長女喜美子さんは忍高女學校出の才媛。斯くよき子息に惠まれた當家は多幸である。

埼玉、北埼玉、上忍町

北埼製菓工業組合理事長等

## 安田清太郎

當家は忍藩士にして歸農後は代々地主として近隣でも有名な家柄である。

今より四代前忍町字齋條より現住所に移住したもので、屋號を松屋といひ、既に百年程前に菓子の製造に從事したと云ふ。

氏は幼にして兩親に死別し、並々ならぬ苦勞をし、着々業績をあげ、家運隆盛になつたところ、先妻よね子さん、長女浪子さんに先立たれ、その精神的な動搖から、宗教的となり、日蓮宗の大信心家として知られるやうになつた。

責性重厚にして信望厚く、北埼玉製菓工業組合理事長の要職に推されるほか、衞生委員として二十年間、隣組長、防空群長等として至誠の奉公を致してゐる。

令夫人しう子さんは二度目の方であるが頗る氣立てのやさしい人で、貞淑の聞え高し。

長男光太郎さんは滿洲に於いて活躍し、次男經壽さんは東京本所電話局に勤務、三男孝壽さん、四男忠壽さんと二女てる子さんがある。

圓滿な家庭として褒められてゐる。

埼玉、川口市前川

## 川口製織有限會社

電話三四七八番

當社は、最初市内業者を主として組織されたが、近年、業界の發展と、技術の改良向上と相俟つて、時運に副ひ、區域も近郷一圓に擴充して、規模を修正し以て基礎を鞏固ならしめて今日に至つたものである。

由來、當地方は、古くより織物工業發達して、その製品の優秀なるは全國的に聲價あり、市場もとほく京阪、東京地方にまで販出されて、需要者一同の絶大なる信用と好評を博してゐるところのものにして、就中、當會社の存在は、縣下機業界にありて重きをなし、その事業の盛大なるは他の追隨を許さゞるものあり、ます〳〵繁榮の途を迎へつゝある優良會社である。

社長に野呂安太郎氏あり、以下役員一同從業員一致團結して、時局下産業報國に邁進しつゝあり、將來の發展こそ各方面より期待を以てみられてゐる。

## 社長　野呂安太郎

氏は明治三十一年に亡父豐吉氏の長男として生れた。

當家は地方切つての舊家にして、先代豐吉氏もまた、機業界に雄飛せる先覺者にして、織物工業組合理事長をつとめ、市會議員にも參與して、地方自治界に功勞ありたる人物である。

當主安太郎氏はその血を享けて、幼少より俊才を以て誇り、長ずるに及んで、家業を繼ぎ、爾來、日夜の研鑽工夫を累ねて、機業界にその人ありと認められるゝに至つた。



その手腕の高邁にして果斷、溫和篤實にして高潔圓滿なる人格性とは、業者一同のいたく信服するところとなり、推されて當會社長に就任した。

現在、氏は、野呂安鑄造工場を有し、事業はます〳〵盛大を極めつゝあり、その公私繁務の傍ら、市會議員、司法保護委員等の要職にも推されて、地方自治界に多大の業績を擧げつゝあるは、當代稀にみるの大人物として、今や各方面關係者よりの信望は絶大なるものがある。

氏は趣味に劍道、魚釣を能くし家庭には内助の功厚き夫人まさ子さんとの間に長男の榮一氏、二男富士男氏、三男日出男、長女芳子さんあり、極めて多幸明朗のまどゐをなして、一家の前途ます〳〵多祥たるものがある。

埼玉、川口市前川町

川口織物會社長

## 山崎新太郎

電話鳩ヶ谷一六七番

祖父故義次郎氏は十六歳より六十五歳迄役場に務め、自治産業上の功勞者として其の名聲高し。

尊父故澄太郎氏は元の政友會系の政治家にして、村長の職に在りし間、道路の改修事業に甚大なる貢獻を爲し、是が功勞者として世に知らる。而して埼玉織物工業組合の初代理事長となつて、斯業の充實せる進展と事業の擴充に盡したる遺蹟も亦大いなるものあり。

氏は明治二十八年六月一日生誕し、長ずるに及び祖父尊父の遺業に志し、現在川口織物有限會社の社長の職に在りて、氏の豐富なる薀蓄と稀に見る敏腕を以て斯業の躍進的發展に盡瘁され、其の職責完遂するの目的のみに非ず、是を以て業人の經濟的向上を念願して已まざる精神的發露の現れなり。

而して溫厚篤實、清淨高潔の氏の人格は業人の信望を負ひ、將來に期待さるゝ事また甚大なり。

園碁、將棋、謠曲等の趣味を持たれ、母堂わかさんへの孝養を盡し、夫人そめさんとの間に一男五女ありて、子供を中心としての家庭は常に笑聲絶えず、極めて圓滿なり。

更に當家は元祿時代に芝村より同所に分家されたるものにして、代々地主として、將又豪農として地方に知られし家柄にて、明治三十年頃より機業を營む事になりしなり。

埼玉、川口市根岸町

機業家

## 森今城

電話一二六番

氏は明治二十四年二月二十五日の生誕にして、長じて機業を營み以て家計を樹つるに及べり。而して斯業に對する豐富なる薀蓄と其の實行力、並に手腕は、逐次實績の上に現れ、埼玉織物工業組合理事長の職にも推され、し事もありて、能く業人に知られし處なり。

尚ほ溫厚誠實なる氏の人格は業人の信望を極めし事に依り認めらるゝ所にして斯業界に氏の存在するは、現在及將來に業界の實質的進展を招來するに缺くべからざる人として大いに期待さる。

又氏は村會議員、埼玉織物工業組合理事長、常務等の要職に在りし事もあり、其の方面に對しての氏の功績は確然として殘り、業人の信望を厚からしめた所な

り。

夫人つきさんとの間には五男二女の子福者であり、長男は慶應大學文科を卒業し、次男は浦和商業を卒業等の秀才揃ひにして、子供を中心としての家庭は常に明るく朗らかにて極めて圓滿なり。

斯くて斯業界の將來を氏に期待する處甚大なりと云ふべし。

### 埼玉、川口市前川町

埼玉織物工業組合監事　**新井健一**

氏の尊父故次郎吉氏は、埼玉織物工業組合の創立者にして、織物界に對する大貢獻者として其の名聲極めて高し。なほ教育事業にも盡瘁せられし功績も甚大にして小學校へ二宮尊德の像を寄贈され、其の他多額の金品等を寄附せられたり、此處に表彰を受くるに至れり。

明治二十七年頃は貿商を營みたる事もありたるが、大體祖父の時代より特に、町村制施行以來引續き村會議員、或は方面委員等にも就任して能く其の職責の完遂に務め、自治産業に對しても功勞者として知らる。

而して氏は明治三十一年三月二日生誕し、長ずるに及び代々の遺業を引繼ぎて是が驚異的進展を招來し、今尙機業界に其の敏腕を揮ひ、以て斯業に盡したる氏の貢獻も甚大なり。現在埼玉織物工業組合の監事の職に就任し、其の職責を全ふするが爲め、獻身的に努力しつゝあり、其の人格と敏腕に期待さるゝ處また大なりと云ふべし。

現在母堂(七十七歳)と夫人とらさん、及三男二女の子福者にして、母堂への孝行と子を中心としての家庭生活は極めて圓滿にして其の衆望こゝに集ると云ふも過言ならず、

### 埼玉、川口市根岸

縣織物工業組合監事　功七級勳七等　**齋藤茂作**

電話二二八番

氏は嚴父佐吉氏の男として明治十六年四月十六日石川縣金澤市袋町に出生し、明治四十二、三年頃より飯塚合名會社に事務員として約十年間勤務され、退社後現住所に於て機業を營み約二十年、業務に見るべきものがあつた。その間日露戰役に動員され勇戰力闘、赫々たる武勳に輝く勇士である。

現在埼玉縣織物工業組合監事として、一致協力、日本機業界の一翼として、日夜盡瘁され、重要なる推進力をなして居られる。蓋し氏の如きは産業上稀に見る功勞者といふべく、今後の活動は萬人より期待されてゐる。

資性溫厚篤實にして圓滿なる人格者であり、趣味は旅行、ハイキング等にして專ら質實剛健の氣風の涵養に勤められてゐる。

家庭には夫人なかさんとの間に一男一女あり、長男猛夫さんは慶應大學法科卒業後、日本パルプに勤務され、長女富子さんは浦和宮崎家政高女卒業後尙專科に學ばれる由である。洵に平和な家庭を營まれ目出度き限りと云ふべきである。

### 埼玉、川口市

埼玉織物組合總代　勳八等　**福井園藏**

電話一五七番

當家は代々農を營み、尊父伊勢五郎氏も本家より分家し當地に至り農を業とさ



れてゐたが、當主周藏氏に至つて機業を以て家業とした。

氏は明治十六年一月九日、嚴父伊勢五郎氏の男として出生、日露戰爭に於いては勇躍出征、赫々たる武勳を樹て目出度く凱旋された勇士である。

現在、埼玉織物組合總代として一致協力、日本機業界の一翼として日夜盡瘁され、重要なる推進力をなして居られる。然も氏は統制下にある機業に就ても大いなる抱負を持ち今後の活躍は萬人の期待するところである。

その外、衞生組長を經て、氏子總代、隣組長等の要職にあり益々奮闘されてゐる。

氏は溫厚篤實なる人格者にして、趣味として溫泉、旅行等である。

家庭にはキク夫人との間に長男長市さんがあり、令孫一男君、敏明君、勇三君と共に和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

因に長男長市氏は鳩ヶ谷小學校在學中引續き級長を務めたる秀才にして、既に教育會より銀メダル、蒔繪硯箱を授與され、二十八歳まで青年團長を勤められた人望家であり、又縣下第一の雄辯家として聞えてゐる。

### 埼玉、熊谷市

## 熊谷鮮魚商業組合

本組合は鮮魚商業の改良と發達を計るため共同の施設をなす目的で昭和九年に設立認可されたものである。

現下重大なる時局に直面して幹部はもとより、組合員一致協力して、その使命達成に向つて猛進し、あらゆる困難を克服して、今では縣下でも有數な組合として知られるに至つた。

役員としては理事長田中治平、常務理事新井安之助、理事關根晴吾、堀口長次郎、新井四郎、荒井茂平、植野勝次郎、監事小貝好安、內田金次、加藤仁太郎の諸氏である。

**理事長　田中　治平**

家にして屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、產業自治のため功ある人として知られてゐる。

氏はその男として明治二十一年に呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦衆に秀れ大器として將來を嘱目されてゐた。

長じて先代以來の海產物鮮魚卸に從事するや日夜その發展に努力し、幾多の困難を征服して今日を築いた人である。

夙に金澤九聯隊に入營し陸軍伍長の位を持つてゐる。

資性溫厚にして信用篤く、淸濁合せて呑む大度量の人として部下に慕はれ人にも立てられるのである。

當理事長として一貫せる信念を以て指導してゐる。

この外熊谷市商工會議所議員として至誠の奉公を致してゐる。

一家は恒に圓滿にして多幸である。

### 埼玉、熊谷市石原町

縣會議員　**水野朝一**

電話一二一・三一八番

當家の先祖源助氏は、德川時代水戸より當地に轉住し、熊谷名產として世に聲名を謳はれてゐる。五家寶の製造をなして家名を興し、祖父丑松氏は、家業に精

勵すると共に、自治産業の改善發展に多大の貢獻をなした功勞者として今尙、市民に欣仰されてゐる。

當主朝一氏は、明治三十年十二月二日故辰五郎氏の長男に生れ、昭和十二年應召、內地の勤務に就いて歸還した豫備陸軍步兵中尉である。

青年學校指導員、在鄉軍人分會長、その他の公職を歷任して、現在は、縣會議員、商工會議所會頭等の要職に推されて潤達自在の快腕を揮ひ、世の信望を收めてゐる。

當年四十四歲、前途を重囑されてゐる

令室たけさん(三十五歲)、東京市芝區金杉町米穀問屋杉村好一郎氏四女、長男英利君(十五歲)、次男實君(八歲)、長女美智子さん(十二歲)、次女照子さん(十一歲)、三女妙子さん(十歲)がゐる。

滋賀、蒲生、八幡

家庭用綿絲系需給統制會

## 蒲生郡事務所

電話八幡一二六番

當統制會は、昭和十五年六月、現會長山本寅之助氏等の發起斡旋により、業界の統制及び資材の圓滑なる配給を目的として設立したものである。

當郡一圓を區域とし、各部落毎に代表世話係を配置し、年二回この世話係を招集して、資材の配給、業界の統制、その他の事項につき打合せをなして、その健全なる發展を圖つてゐる。

また一方、業者をして、一般家庭に對し、ヌキ糸の再生利用方法及びその節約を普及徹底せしめて、時局協力、產業報國に熱意を捧げてゐる。

現役員は、會長山本寅之助、副會長池田源三、專務監事小川金兵衞、監事二階堂太吉、藪寅吉、淺田忠次郎の諸氏である。

會長

### 山本寅之助

滋賀、蒲生、安土村

糸を營む舊家にして

## 滋賀縣疊工業組合

電話四四番

亡父清寅氏は町會議員、その他の公職を歷任せる自治功勞者にして、八十三歲の高齡を以て逝去した

當組合は、昭和十五年四月、製品の改良と技術の向上及び共同施設により業界の發展を期する目的を以て設立し、現在は主として資材の圓滑、かつ敏速なる配給に全力を傾けてゐる。

氏は明治二十二年二月十七日、その男に生れ、家業に精勵すると共に、現在は八幡町商工組合常議員、蒲生郡衞生綿配給事務所長、縣製綿工業組合理事、町內會長、當統制會長、その他多くの要職を兼務して活躍し、業界の花形として有力な地步を占めてゐる。

現役員は理事長西村善一郎、理事丹波常次郎、廣田良太郎、福永三藏、岩崎安三郎、鵜飼源吉、佐生伊三郎、監事藤元龍藏、竹田清兵衞、小梶傳藏の諸氏である。

滋賀、相樂、山田莊村

油袋製造業

## 森田勝五郎

當家は代々農業を營んで來たが、大正五年頃より現在の油袋製造業を開始し、今日に至る。

亡父藤藏氏は、篤農家として、村內の農事改良に多大の貢獻をなした功勞者である。

當主藤五郎氏は、亡父の長男にして、明治三十年三月二十六日に生る。

油袋の材料は、棕梠人毛等にして、現在二十五名の從業員を使用して製造に多忙を極めて盛運にある。

販路は全國一圓及び滿洲、朝鮮、大連等である。

一方、公職としては農會總代、商工省商業調査委員、その他の要職に就いてゐる。

眞摯敦厚にして、自治公共の念に厚くまた人間味豐かな人で、從業員一同は氏を深く信賴し、各々仕事に勵んで、業績を擧げてゐる。

家庭また圓滿明朗洋々としてゐる。

滋賀、相樂、山田莊村

材會議員

## 西置榮藏

當家は、家系五百年を繼承し、代々農業を營む當村切つての舊家である。

先代岩次郎氏は篤農家として、村民に信望が篤かつた。

當主榮藏氏は、明治十二年一月二十一日、亡父の長男に生れ、明治三十一年、第三十八聯隊に入營、日露戰役に從軍して、勳八等に敍せられた古强者である。

農會總代を十二年間、また同會評議員等を勤め、現在は村會議員二期、軍友會長に推されて、多大の貢獻をなしてゐる。

殊に氏は、祖先の血を汲んで、農事に精勵し、これが改良發展に努め、幾多の功績を擧げてゐる精農家である。

滋賀、相樂、山田莊村

瓦製造業

## 井上淺次郎

當家は、代々當郡川西村において農業に携つてゐたが、先代故新六氏の代に至り、瓦製造業に轉じ今日に至る。

當主淺次郎氏は慶應二年四月五日、亡父の長男に生れ、尊父の歿後、當村に轉じて、父業を繼承して製瓦業に勵んでゐる。

尊父は製瓦について獨自の秀れた技術を有し、信望を博してゐたが、氏もまたそれに劣らない技術により、一枚々々を丹念に燒いてゐる。

一方、相樂郡產業報國會員として活躍し、職域奉公の誠を捧げてゐる。

樸實廉介自治公共の念に篤い人柄にして、園藝に趣味を有つてゐる。

當年七十五歲、今尙矍鑠としてゐる。

家族は令孫竹夫氏(三十歲)同令室しかのさん(二十四歲)、嫁しかさん(五十歲)があり、極めて圓滿和樂の生活を愉しんでゐる。

滋賀、蒲生、八幡町

町會議員

## 大森石松

氏は、明治五年八月七日に生れ、同四十五年當町に來住、青年時代より相撲界に入り、大日本相撲協會に屬し、大阪、愛知、京都、東京等各地を巡業し、三十

二歳の折、縣立彦根中學校、同八幡商業學校、同神崎商業學校等につき十五ケ年間、相撲を通して體育向上の指導をなし多大の貢献をしたが、昭和十六年三月協會を退くことゝなり、横綱男女川、大關前田山の一行三百餘名により、當町において華々しい引退興行をなし、また協會では、多年の功績を讃え協會碑を建設することゝなつた。

現在は、町會議員に二期重任して、町政の發展に盡力してゐる。

剛毅潤達、圓滿篤實の人柄にして、町内の信望が篤い。

家族は令室うた子さん、養女政子さんの三人、平和な生活を營んでゐる。

滋賀、蒲生、八幡町

## 滋賀縣瓦商組合

電話三〇八番

當組合は昭和十五年三月、既存の組合を發展的に解消し、區域を全縣一圓に擴大して設立したものである。

主なる事業は、製品の共同販賣にあるが、今後はこれを工業組合組織に改組して、技術の向上、增産擴充を圖り、當地の特産として、全國に販路を擴張し、時局下における職域奉公、臣道實踐の實を完了すべく計畫してゐる。

### 組合長 前田平四郎

當家は農業を營む町内屈指の舊家であるが、先代故平四郎氏によつて瓦製造業を創め今日に至る。

當主平四郎氏は、亡父の長男にして、明治七年二月に生る。現在町會議員、當組合長、その他の要職に就いてゐるが、殊に組合發展のため、懸命の努力を捧げて大いに業績を擧げてゐる。

滋賀、蒲生、安土村

## 運送業 橋本好太郎

電話安土一番

當家は、代々染物原料商を營み、氏は明治十八年十一月十一日、亡父儀三郎氏の長男に生れ、鄕校卒業後家業を手傳ひ大正三年當驛開通と同時に、運送業に轉向し、今日に至る。

さきには村會議員三期勤續して、多大の貢献をなし、現在は滋賀縣小運送組合聯合會長に推され、業界の重鎭として、業者の向上發展に盡力してゐる。

上記の如く、氏が大正三年、鐵道運送業を開始すると同時に、一驛一店主義を强調してこれを實現せしめ、昭和十六年三月、縣下の同業者を糾合して、滋賀縣小運送組合を創立し、價格の統制、物資の配給鐵道の時季取扱防止等の申合せをなし、時局下の職域奉公、逞しき臣道實踐を完了すべく、新しく發足し、今日に至る。

滋賀、蒲生、日野町

## 日野トラツク株式會社

電話二五四番

當會社は、昭和十五年十月、株式會社組織を以て創立し、縣當局指導の下に、重役從業員一丸となつて、社運の興隆に健闘して、運輸報國に邁進してゐるが、何分設立未だ日淺いため、業績は見るべきものが擧つてゐないが、今後に多くを期待されてゐる。

重役は取締役社長山中英次郎、專務取締役岡榮吉、取締役齋藤のぶ、同福永勇



藏、監査役鉾山留五郎、同野村新太郎の諸氏である。

錚々の重役陣に依り前途多望である。

尙、當會社の出張所が、郡下櫻川村に一ケ所設けてある。

### 社長 山中英次郎

氏は、當會社の創立に當り、日夜奔走して盡力し、創立と同時に自ら社長となつて、これが經營の衝に當り、社運の發展に全力を傾けてゐる。實力と信望を備へる名社長と謳はれてゐる。

### 專務取締役 岡榮吉

當家は、當町内屈指の舊家にして、氏は明治三十年十月一日に生れ、年少の頃は京都方面にて織物業に從事したことがある。その後トラツク運輸業を營むこと十餘年。當會社の創立に當り、現社長と共に多大の努力をなして專務取締展の椅子に就いた實行力旺盛な敏腕家にして、將來を重囑されてゐる。

現在日野町警防團班長、滋賀縣自動車協會日野支部副支部長等を務め、挺身奮勵してゐる。

滋賀、坂田、長濱町

## 長濱木工工業組合

當組合は、時局に即應して、資材の配給、營業統制、共同施設の經營により、組合員の福利增進を圖る目的を以て、鳥居篤三氏を理事長として創立、以來組合精神の普及徹底に努め、目的の遂行に力を效し、今日の盛榮を見るに至つた。

今後組合としては、洋家具の製造に着手、共同施設を實施して、一層業運を發展せしめ、職域奉公、臣道實踐の實を擧ぐるべく、組合員一同結束を固くして、逞しき精進をなしてゐる。

### 專務理事 伊藤尙次郎

當家は、當町の舊家にして、先代尙治氏は木材商及び土木建築請負業を兼營し家産をなした。

當主尙次郎氏は、製材所及び木材商を營み、業界に重きをなしてゐる。

當工業組合專務理事としては、理事長のよき輔佐として、會務を掌理し、組合の發展に家業を顧みず、挺身努力を輸し組合員に深く信頼されてゐる。

滋賀、坂田、長濱町

## 長濱料理飲食店同業組合

當組合は、明治四十一年、長濱町外二郡を區域とし、業者の融和、業務の圓滑なる經營により、福利增進を目的として設立、以來幹部の經營よろしきと、組合員の協力により、逐年業績發展し、この非常時局に際しては、自肅自戒、國策に即應して、業界の刷新改善を圖り、互惠互助の精神に基いて、職域奉公に奮進してゐる。

現役員は、組合長藤林元次郎、副組合長伊藤文三、委員堀江佐次郎、川村泰治中村清吉、西村正吉、堀清太郎、上野馨澁澤常次郎、伊藤彌一、近藤多三郎、吉田小三郎、木村吉太郎、堀部元信、野村甚三郎の諸氏である。

### 組合長 藤林元次郎

氏は、組合員の時局認識を深めて、自肅自戒に努め、一方物資の配給に力を效して、その營業の圓滑を圖り、組合員一同より、多大の信頼をうけてゐる。

滋賀、坂田、長濱町

## 長濱燃料商業組合

電話七二一番

當組合は、昭和六年、任意組合として設立し、同十三年八月、時局に即應して商業組合組織に改組し、商工省の認可を得て、今日に至る。

目的とするところは、業者間の無益なる競爭を防止して融和を圖り、價格を統制して、配給を中心に業務の圓滑なる運營を期するにある。

毎月一回組合常會を開いて、事業の打合せ今後の方針等につき協議して、組合精神の徹底に力めてゐる。

尚、時局下の失業對策につき、幹部は愼重に講究してゐる。

理事長藤井一郎、常務理事高山勇、理事川瀬捨三、山口源七、國友九十郎、田中文四郎、監事吉田與左衛門、三橋次郎八、岩崎信次郎、書記松浦勝也、高山清子の諸氏が銳意會務を掌理してゐる。

**理事長　藤井一郎**

氏は、溫雅敦厚の人望家にして、組合の發展と組合員の福利增進のため、已を顧みず、一身をこれに委ねて盡力し、多大の業績を擧げてゐる。

滋賀、坂田、長濱町

## 湖北菓子工業組合

電話四〇二番

當組合は、昭和十五年十月、坂田、淺井兩郡を區域とし、共同施設、配給の圓滑、規格統一を目的として設立し、以來特に原料の配給に全力を傾けて來たが、今後は共同作業場を設置して、技術の向上子弟の養成に努め、また共同販賣を實施すべく準備を進めてゐる。

毎月一回(二日)組合常會を開き、組合の時局認識を深め、業務上、その他の打合せをなし、時局に協力して、職域奉公に邁進してゐる。

現役員は、理事長富田貞夫、專務理事清水良太郎、理事島崎與五郎、北川喜右衞門、吉田勘次郎、守田甲次郎、柴田善八、小川重藏、木元平太郎、監事花戸市太郎、北居榮次郎、松井三郎の諸氏である。

**理事長(從七位)　富田貞夫**

當家は、代々菓子製造問屋業を營み、家歷三百年に及ぶ、當町有數の舊家である。

氏は、明治三十七年十一月二十九日、先代豐次郎氏の長男に生れ、大正十三年京都野砲聯隊に入營、陸軍步兵少尉に昇進して歸鄉、更に今事變に出征、その功により中尉に昇進して歸還した勇士である。

現在、當組合理事長の外縣菓子工業組合理事、大政翼贊會郡理事、長濱町軍人分會長等を兼ねて活躍してゐる。

明朗溯達、當年三十五歲、前途を重囑されてゐる。

尚、亡父豐太郎氏も、任意組合當時の組合長として盡力した功勞者である。

滋賀、坂田、長濱町

## 滋賀縣蚊帳工業組合

電話四五〇番

當組合は、明治三十一年、近江蚊帳同業組合と稱し、生地製造業者を以て組織創設したが、時代の推移に伴ひ、これが改善刷新を圖り、會務を擴張し、業運を發展せしめ、昭和十三年、時代に對應して滋賀縣蚊帳工業組合に改組し、新らたに仕立業者を包含するに至つた。

今日、時局に協力した企業合同が問題となり、これが前提として、小組合を設立し、組合を中心として業務を遂行するといふ意見が多く行はれてゐるが、當組合員中には、會社組織者が大部分を占めてゐる關係上、現狀維持說を唱へるものもあるが、結局政府の方針、時潮に從ふことが賢明であり、臣道實踐を完うするにあると意見の一致を見てゐる。

理事長樋口松藏、理事林喜代治、西野長九郎、吉村喜一郎、監事高井榮太郎、井上與惣太郎の諸氏の幹部役員を始め、事務長田附文彌、事務員橋本源吾、磯嶋德太郎、日田實一の諸氏が會務の遂行に精勵してゐる。

組合員は青木喜平(富士物產株式會社代表者)西川甚五郎(近江蚊帳製造株式會社代表者)小林源太郎(株式會社小林商店代表者)上田太三郎(上田商店主)大塚篤太郎(大塚蚊帳株式會社代表者)中井俊一(中井商店主)岩塚宮三郎(大東染織工業株式會社代表者)の諸氏である。

滋賀、坂田、長濱町

## 長濱鐵工鑄造工業組合

電話二一七番

當組合は、昭和十三年五月の創立にして、從來業者は主として修繕をなしてゐたが、技術の向上を圖り、新しき製品を製作するを目的として、業者が一丸となつたのである。

區域は當町一圓にして、共同作業場を經營してゐる。尚、將來各種の共同施設をなすべく準備を進めてゐる。

現役員は、理事長岩越林三郎、理事西川德右衞門、柿木彌重郎、中川次、監事長瀨純、中川政一の諸氏である。

氏は、明治三十年一月二十四日、亡林松氏の長男に生る大正六年京都輜重兵十六大隊に入隊、入隊中鍛工術卒業、不幸にも氏は、年少十二歲の折尊父に死別し、十八歲にして家業の鐵工業を繼承、現在は當組合理事長の外、長濱鐵工鑄造工業統制會長、滋賀縣鐵工製品工業組合聯合會理事、同縣賃金統制委員、長濱商工會委員、長濱轉業對策委員等の要職を兼務して、多大の功績を擧げてゐる。

潤達無碍、當町業界の代表的人物として、聲名藉甚たるものがある。

滋賀、坂田、長濱町

## 滋賀縣花緒工業組合

當組合は、昭和七年、縣下の天鵞絨花緒製造業者を以て、任意組合滋賀縣天鵞絨花緒工組合を創設、昭和十六年二月、これを滋賀縣花緒工業組合と改稱し、公認組合に改組し、以來業界の惡習打破、技術の向上、授產事業として轉失業者の救濟に努めて來た。優秀なる組合である

現役員は理事長寺村信次、理事池野重之助、高津木馬太、清水與作、山本四郎川合喜七、監事清水修三、寺村四十三の諸氏である。

**理事長　寺村信次**

氏は、明治三十八年七月三日に生誕。東京高等商業學校卒

業、始めは呉服商を經營してゐたが、十年前、當地の特産たる天鷺絨が、他縣において加工されてゐるのを遺憾とし、先づ自ら之を花緒に加工を創始し、他にも奬勵して、今日の盛業を見るに至つた。

當組合の理事長としては、鋭意組合の健全なる發展に努めて居り、また教育に熱心にして、深い理解を有つ氏は、母校たる島居本國民學校に金一千圓を寄附して表彰された。

滋賀、坂田、長濱町

## 滋賀縣湖北製箱組合

電話五五一番

當組合は、昭和十五年十月、湖北一圓の製箱業者を糾合して設立し、以來主として材料の配給を行つてゐるが、役員及び組合員一丸となつての努力により、業績大いに擧り、順調に發展しつゝある。

現役員は組合長松原吾市、理事西岡幾三郎、監事平塚與惣次郎、前川伊平の諸氏である。

**組合長　松原吾市**

氏は、明治二十五年八月二十日、土木建築請負業をなして本徳平の諸氏。支部長太田太次郎、吉田太一郎、大野直次郎、小原余後一郎、北西米藏、廣田榮次郎、大川三之助、稻葉卯一、上田榮太郎、堀井喜太郎、佐倉磯吉、西村治男、横江英七の諸氏。會計田邊爲造、書記杉浦勝也、事務員中原孝七の諸氏がゐる。

滋賀、坂田、長濱町

## 滋賀縣麵類商聯合組合

電話二三二番

當組合は、昭和十五年四月、現理事長辻善三郎氏らの主唱發起により、縣下の麵類業者を糾合して組織設立したものである。

當組合は、代々麵類業を營み、氏は明治二十一年八月十一日先代の長男に生る。現在從業員七名を擁し、二ヶ所において麵類業を營んでゐる。また當組合理事長として、目下材料の圓滑なる配給を期するため、日夜東奔西走關係官廳に陳情したりしてゐる。組合員一同は、その獻身的努力に感謝してゐる。

**理事長　辻喜三郎**

當家は、代々麵類業を營み、氏は明治二十一年八月十一日先代の長男に生れ、長じて製箱業を營み今日に至る。

現在、當組合長の外、滋賀縣土木建築請負組合六庄村評議員を勤めてゐる。

剛毅濶達、恬淡の人柄にして、世に廣く信望を收めてゐる。

令室との間に秀雄君（二十五歳）一男あり、目下大阪の會社に勤務、最近結婚し圓滿なる家庭を營んでゐる。

滋賀、坂田、長濱町

## 滋賀縣麵類商聯合組合

當組合は、昭和十五年四月、現理事長辻善三郎氏らの主唱發起により、縣下の麵類業者を糾合して組織設立したものである。

主なる事業は、原材料の仕入、共同購入、營業上の統制等である。

區域内十四ケ所に支部を置き、年三回總會役員（支部長）總會を開くことになつてゐる。

現役員は、理事長辻喜三郎、副理事長仙臺善五郎、同西島富三郎、專務理事藤

滋賀、栗太、草津町

## 草津町役場

當町は、東海道五十三次の一たる名驛として知られ、本郡の中央に位する。敦賀美濃路と伊勢路の交會にして、往時は東山道と東海道の交會をなした。今は東



海道線と草津線の分岐點である。

官公衙を始め、小、中等學校、圖書館等の教育敎化機關の完備、經濟産業の諸團體、諸會社が設立されて、町内は活氣を呈してゐる。また神社佛閣も多く、常善寺の阿彌陀像及び兩脇侍像及び光傳寺の阿彌陀像は、共に國寶に指定されてゐる。

交通は、東海道線と草津線との連絡點草津驛があり、縣道また縱横に走り、バスも各地に通じてゐる。

草津、矢倉、大路井を以て一町となしてゐる。

**町長　從七・勳六　井上三郎助**

當家は、家系七代を傳へ、代々醫業をなす、町内有數の舊家である。尊父故貞吉氏は、醫は仁術なりの實踐家にて、町民より慈父の如く敬仰された。

氏は、その長男にして、明治十一年十一月二十七日に生れ、京都府醫專門學校（現醫大）卒業、日露戰役に陸軍々醫少尉として出征、その功により中尉に昇進、從七位勳六等に敍せられた。

現在町長七期重任、栗太郡醫師會理事

その他の公職を兼ねてゐる。

自治制發布五十周年に當り、縣より表彰された、自治振興功勞者である。

助役平尾仙次郎氏は、明治十八年四月四日に生れ、栗太郡役所第一、第二課長八日市町助役（八年）、野洲郡守山町助役等を歷任して、現在は當町助役二期在任中である。自治行政に通曉し、事務練達してゐる名助役として、非上町長のよき輔佐役として快腕を揮つてゐる。

滋賀、栗田、下田上村

## 下田上村役場

當村は、現在の上田上、下田上、大石の三村を合せて、往古は田上郷といひ、このあたり昔は、黒津といふ、水石の奇勝と湖山の要害を以て有名である。

地勢は、大石村の北方に位し、西部の大戸川、瀬田川に而せる所は平坦であり南部及び東部には小竹生ケ岳、矢筈ケ嶽大神山等の山岳あり、宇治川にそふ村落である。

主なる産業は米麥、グリンピース、蔬菜等である。

小學校教育の施設設備完了し、産業道路の改修改築も成り、自治體としての面目を整へたので、今後は、村勢の發展に主力を注ぐことになつてゐる。

殊に、當村は各種團體が、つねに歩調を揃へ、相携へ、相援けて事業の遂行に當るといふ美點を有し、村民もまた勤勞精神に富み、縣下稀に見る貯金をなして居り、一致協力して食糧增産に努め、大政翼贊の强力なる一支柱をなしてゐる。

**村長　猪股俊夫**

當家は、代々農業を營む、村内屈指の舊家にして資産家である。先代故半右衞門氏は、村會議員、郡會議員、村長等を歷任し、地方自治に多大の貢獻をなした功勞者である。

氏は、その長男として、明治三十九年四月二十六日に生る。縣立膳所中學校卒業、助役、村會議員、青年團長等の要職を歷任して、いまは村長を始め、銃後奉公會長、警防團長、産業組合理事、農會長等を兼ねて、八方に活躍してゐる。逞ましき村の主柱として、村民一同、信賴を傾けてゐる。

當年三十六歲の青年村長にして、前途

を尙一層囑望されてゐる。

滋賀、栗太、金勝村

## 金勝村役場

當村は、金勝山にある村にして、山中の御園、荒張、觀音寺の諸村を合して金勝村といふ。金勝は金青にして、金青は土人呼びでコンゼ、またはコンシヤウといふ。

產業は、米作が第一位で、林產、鑛產がこれに亞いでゐる。

名勝に金勝寺がある。本尊丈六釋迦座像は國寶にして、嵯峨天皇勅して菩薩戒儀を修行せしめ、仁明天皇燈火料を施入せられ、金勝の勅願を賜つた。金體寺、善勝寺、正德寺、山口寺の各佛像も國寶に指定せられて居り、大野神社樓門も國寶である。

小學校の增築に迫まられてゐるが、物資の缺乏により延期してあり、產業道路の改修改築は完成し、林道の開通が要望されてゐる。

村民は純朴にして、一致協力、以て大政翼贊の臣道實踐に邁進してゐる。

**村長 勳四等 服部岩吉**

當家は、代々農業を營む、村內屈指の舊家にして大地主であり、富豪家である。先代岩吉氏の代より酒造業を始め郡會議員等を勤めた。氏は、その長男にして、明治十年十一月二十一日に生れ、縣立膳所中學校卒業、衆議院議員に當選すること三回、政友會院內總務として活躍し、縣會議員に當選二回、現在は衆議院議員、村長、栗太郡町村長會長、村農會長、銃後奉公會長等兼務してゐる。

また一方近江日々新聞社長として、地方文化の發展に貢献してゐる。

剛毅濶達、村內に高擧居然たる存在をなしてゐる。

助役　宮城武一郎氏は、明治二十年七月十八日に、當村における有數の舊家にして名望家の聲名を謳はれる宮城家に生れ、區長、村會議員等を歷任して、現在は村助役を勤め、服部村長のよき助力者として、村政を掌つてゐる。

牧入役　富泰次郎、書記竹村徹雄、三好喜一郎、山口久次郎、出町達英、三浦與三、山口喜代治の錚々たる諸氏がゐる

滋賀、犬上、高宮町

## 犬愛菓子工業組合

電話一八番

當組合は、昭和十五年七月、共同設備と業者の融和並に價格の統制を目的として設立し、目下原料の配給に主力を注ぎ組合員一致協力を以て、業界の刷新發展を圖り、職域奉公に邁進し、大政翼贊の臣道實踐を完ふすべく努力してゐる。

現在理事長西村憲二、專務理事森澤嘉一郎、理事杉野留吉、神鳥四郎七、小林利一郎、辻源太郎、前田萬吉、監事辻川久兵衛、辻捨吉、多喜藤三の諸氏である

**理事長 西村憲二**

當家は代々菓子製造卸業を營み、當主にて四代を閱してゐる。

氏は、明治三十八年十月二日、亡父音次郎氏の長男に生る。

當組合理事長の外、犬上郡砂糖小賣商業組合理事長、湖東商業報國會副會長を兼務して功績を擧げてゐる。

溫和淳篤の人柄にして、衆望が高い。



滋賀、犬上、高宮町

## 犬上郡燃料小賣商業組合

電話一七番

當組合は、昭和十五年十二月、配給の圓滑化と共同設備を行ふ目的を以て設立し、犬上郡一圓を區域としてゐる。現在は專ら業者たる組合員への配給機關としての使命達成に努めてゐる。

現役員　理事長藤馬德太郎、專務理事中村善三、理事木村寅吉、集治彥三郎、上池秀吉、松宮傳次郎、丸橋與作、森一志菅喜一郎、小川庄八、宇野新太郎、監事北村音吉、若林寅吉、大矢半四郎の諸氏、書記上川秀雄氏である。

**組合長 藤馬德太郎**

氏は、明治二十五年十二月一日、亡父德次郎氏の長男に生る、大正元年敦賀第十九聯隊に入隊せる陸軍步兵上等兵である。尊父逝去ののち家督を相續して家業の燃料小賣商を營み當組合の理事長、滋賀縣燃料商組合會役員を務め、寧處なきまで活躍して多大の德望を博してゐる。

滋賀、栗太、老上村

## 老上村役場

往昔は、いまの瀨田町と共に瀨田鄕と稱せられてゐた。大字野路の名もまた、古來有名にして近江八景の一なる矢橋はこゝにある。

產業は、農業を主とし、水產も行はれてゐる。

國民學校々舍、產業道路の改修改築既に完了し、其他の施設設備も充實してゐる。殘きれてゐるのは、青年學校の增設である。

今や村民は、擧げて增產奉公に奮進し臣道實踐の誠を捧げてゐる。

神社には、鄕社鞭崎神社、村社新宮神社、治田神社、龍宮神社等があり、寺院には石津寺(眞言)、淨泉寺(眞宗)、等多數ある。

名勝としては、新宮神社本殿、石津寺本堂、鞭崎神社表門は、何れも國寶に指定されてゐる。矢橋浦の歸帆は近江八景の一として有名である。

交通は、草津へ一里、バスの便あり、大津へも一里、舟にて連絡してゐる。

村長永元與四郎、助役駒井彌平、收入役小川長兵衛(代理)、書記谷巖、中西捨吉、石本利三郎、田村佐助、藤下秀法、石本富雄の諸氏が事務を分掌して成績を擧げてゐる。

**村長 永元與四郎**

當家は代々農業を家業とする村內屈指の舊家である。先考與左衛門氏は、區長、村會議員等を歷任して、村治產業の發展に盡瘁した功勞者である。

氏は、その二男にして、明治二十二年四月五日に生れ、縣立膳所中學校に學び村會議員、農會長等を經て、現在は村長、銃後奉公會長等を務めて出精砥礪、甚大なる功績を擧げてゐる。

當村は、道路の改修、國民學校々舍等完備し今後は增產あるのみである。今や村民一致協力して、滅私奉公、臣道實踐の誠を捧げてゐると氏は語る。

家族は、母堂令室の外に六男あり、三男義雄君(二十五歲)は、今事變に出征して歸還した勇士、六男義春君(十七歲)は膳所中學在學中である。

滋賀、栗太、治田村

## 治田村役場

當村は、坊袋、澁川、目川、岡、小柿中澤、下戸山、川邊、上鈎、下鈎の字を以て一村を成してゐる。

長唄の「花の旅」にある「草津の里の姥が餅　つく〳〵杖のしたくさる　目川の水……」の目川は、こゝであり、また鈎部落は、足利家の御殿のあつたところである。

草津の東郊にして、南部が草津川が西に流れて志津村に至り、北及び東は、大寶、葉山の兩村に隣りしてゐる。

村内の諸施設設備整ひ、産業道路の改修、小學校々舍の增築も竣工してゐる。

縣立農事試驗場があつて、村の農事改良を指導してゐる。

また社寺多く、伊砂々神社舊本殿、淨光寺阿彌陀像、安養寺藥師如來、蓮臺寺藥師三尊像は、何れも國寶に指定されてゐる。

村長前田吉右衞門、助役奥井良太郎、牧人役杉本市松氏を始め、書記川那邊宗之、高野三郎、芝原忠治、野知亮戒、川邊元義、澁田一平、芝原順了の諸氏が居り、恪勤精勵してゐる。

### 村長　前田吉右衞門

當家は、代々農業を家業とする、村内に於ける有數の舊家にして、また當地方著名な大地主である。

先考吉右衞門氏は、村長四期、各種團體長、その他多くの公職を歷任し、盡力せる功勞者である。

氏は、その長男にして、明治二十二年四月八日に生れ、縣立彦根中學校卒業、現在は村長を始め、銃後奉公會長、農會長、村會議員、方面委員會長、治田村佛數聯合會長等を兼ね、重大時局下の村治産業の刷新發展に懸命の努力をなしてゐる。

剛毅濶達、實力と信望を備へる强力な村の主柱たる存在にある。

## 瀨田町役場

當地勢多は、古より國史に現れ、古來東西の戰に戰場となつたことは枚擧に遑がない。而もその戰は、つねに瀨田橋を中心としに勢田川を挾み、互に勝負を爭つたものである。本郡中最古の村にして古へは勢多驛と稱し、奈良朝時代の重要地にして近江國府を置いたことがある。

建武年中山景房勢多城を築き、その裔景隆に至るまでの居城地であつた。また小字窪江に古城趾あり、高野甲斐守これに屯し、のち山岡對馬守景祐の居城地なりしといふ。

降つて德川時代に至りて膳所藩に屬し東海道の宿驛であつたが、明治五年九月區制發布せらるゝや、栗太郡第八區に屬し、同十八年五月聯合戶長役場を置くに及び、大江、橋本、神領、南大萱村の聯合となりて、聯合戶長これが事務を掌理した。

かくて二十二年町村制實施と同時に、舊聯合四ケ村及び野路外七ケ村の聯合中にありし月輪村並に栗林新田を合して瀨田村とし、昭和二年一月一日瀨田町と改稱した。

產業は、農業を主とし、水產も行はれ西瓜、柿、甘藷の產地として知られてゐる。



社寺には、官幣大社建部神社を始め、神社佛閣が非常に多い。

また名所古蹟も少くない。勢田大神官（近江龍神の國分寺）、近江八景の一瀨田の夕照、瀨田の橋、瀨田古城址、粟江古城、建部神社、秀郷の故事等がある。

人物としては、尊王家儀田蓮翁、漢學者中川希雲等を出してゐる。

### 村長　従七位　久保久一郎

當家は、代々農業を營む、町内屈指の舊家にして、かつ祖父久左衞門氏は戶長、尊父久左衞門氏も村長、町長、その他の要職を務め、當主久一郎氏もまた町長をして居り、三代續いて自治振興に貢獻し、偉大なる功績を擧げてゐる。

氏は、明治十九年六月一日、亡父の長男に生れ、縣立膳所中學校卒業、後一年志願兵として京都步兵第九聯隊に入隊せる陸軍步兵中尉である。退役後、檢定に合格して訓導となり、二十七年間初等教育に携り、最後に校長となつて退いた。

さきには町會議員、その他の公職を歷任して、現在は町長の外、銃後奉公會長、畜產組合長、町會議員、在鄉軍人聯合會支部審議員、郡町村長、副會長、町農會長、青年團顧問等を兼ね、多忙の身にも拘らず、八方に活躍してゐる。

業績としては、縣立瀨田工業學校の設立、當町における人絹職物會社の創立に盡力し、またの町發展策として、町内及び附近に名所古蹟等が多いので、當町を觀光地とし、また瀨田山を中心にハイキング・コースを實現すべく努力してゐる。

軍事功勞者として、陸軍大臣より表彰された。

剛毅濶達、颯爽たる人物であり、町民の信望が篤い。



滋賀、栗太、物部村

## 物部村役場

當村は、往古物部鄉と稱し、村社勝部神社は、本地佛勝軍地藏なりといひ、舊跡大社にして、神社に並んで城跡あり、勝部右近の居城であつたと傳へられてゐる。

郡の最北端に位し、東は守山町に接し地勢一體に平坦である。

今や、產業道路の改修なり、小學校々舍の新築も落成し、村内の諸施設設備大いに整ひ、村民一丸となつて、增產報國に懸命の努力を效し、大政翼贊の臣道實踐に邁進してゐる。

尙、當村の誇りとするのは、縣下に率先して村常會を創り、同時に婦人常會も設立し、婦人常會の設けてあるのは縣下でも稀れであり、何れも活潑なる活動をなしてゐる。

名勝としては、源氏塁の發生地にして天然記念物に指定されてゐる。勝部神社殿國寶、國寶安樂寺の千手觀音立像、名木ヨノ木等がある。また勤王家古高俊太郎（贈正五位）を出してゐる。

村長山中清治、助役高田重兵衞、收入役竹中廣三郎、書記北川好一郎、大西久雄、山岡茂、舟橋作造諸氏が事務を分掌してゐる。

### 村長　山中　清治

當家は、村内有數の舊家にして、代々農業を營む、資產家である。

尊父故幸次郎氏は、日清戰役に從軍した步兵軍曹にして、その功により勳八等を賜つた。歸還後惜しくも三十一歲にて

長逝した。
氏はその長男として、明治二十六年九月四日生誕、村會議員、産業組合長、農會長等を歴任して、現在は村長の外、銃後奉公會長、産業組合理事、その他の要職を兼務してゐる。
産業組合長當時、組合經營功勞者として縣知事より表彰された。
剛毅濶達、信望と實力を備へる、村の強力なる柱石的存在にある。

滋賀、坂田、長濱町

## 滋賀縣濱紬工業組合

電話三四七番

當組合は、明治四十年、製品の向上、業者の融和、統制等を目的として、任意組合の濱紬同業組合を創設、以來業界に幾多の貢獻をなして昭和九年滋賀縣濱紬工業組合に改組し今日に至る。
現在は、組合員に材料の配給をなし、また製擦加工業なる組合員のために作業所の施設があり、製品は縣の係員によつて强制檢査を施行してある。
今後、時局に即應し、政府の方針に隨從して企業合同をなし、有限會社を設立して職域奉公、臣道實踐の實を擧ぐべく計畫してゐる。
現役員は、理事長林藤一郎、理事中川利七、中川豐松、監事日比廣三、金澤健藏、中野千之助、清水信、專任事務長前川孫一の諸氏である。

理事長 林藤一郎

氏は、理事長に就任以來、その卓拔せる手腕識見と組合員の深い信賴とに依り、組合の經營に專念して多大の業績を擧げてゐる。

滋賀、坂田、長濱町

## 濱縮緬工業組合

電話(代表)四六七番

當組合は明治四十一年、業界の向上發展と業者の融和親接を目的に、滋賀濱縮緬商業組合として創設し、昭和九年四月時運の趨勢に伴つてこれを工業組合に改組し、現在の名稱に改め今日に至つた。
古來より當地方は、濱縮緬の産地として有名であり、またこれは縣の重要物産として全國に販出して年額莫大な收益をあげてゐる。
現在組合員六十四名を擁し、總織機約一千三百臺を有してゐるが、近來企業合同が業界の問題となり、當局においては織機百臺を單位として合同することを慫慂してゐるが、當方の實狀から見て遠かに百臺にすること困難な事情にあるので取敢へず五十臺を基準として、小組合または有限會社を設し、而して後この二つを合同して、法人の資格を有たせて、政府當局の意嚮にそひたいと業者の意見が一致を見てゐるので、これが實現は時間の問題となつてゐる。
組合の事業としては附設工場において製擦加工をなし、また製品の一齊强制檢査を實施して、斯業の新體制經營に努めてゐる。

理事長 谷久助

現役員は理事長谷久助氏、專務理事は水谷爲一氏にして、この名コンビによつて組合は圓滑なる運營をつゞけてゐる。
氏は目下業界の問題になつてゐる。企業合同につき業者意見、また土地の事情等をよく調査研究して、これが實現に萬全を期し、斯業の發展に努めてゐる。



展に努めてゐる。一方この名産濱縮緬の名譽を一層輝しいものにすべく、研究を怠らずに居る。
資性眞摯篤實、情誼に篤い人柄にして世の信望を收めてゐる。

滋賀、栗太、志津村

## 志津村 信用購買販賣利用 組合

電話四七番

當組合は戰時下農村に課せられた食糧生産の確保、供出を完了すると共に兵力勞働力の源泉たる農村生活の刷新厚生に努め、以て高度國防國家建設の要請に應ふべく、現下の資材及び勞力不足の要條件を克服し、その全機能を動員して、增産計畫の遂行と銃後國民生活の安定に全力を傾注すると同時に、これが達成に强力なる推進力たらんとして、全機能を動員して活躍し、多大の業績收めてゐる。
現役員は理事長鈎良三、理事井上親三、奥村憲治、奥村龜吉、高岡倍太郎、寺尾佐右衞門、宇野平治の諸氏である。
創立功勞者として青地重次郎(村長)、井上吉宗、縣會議員の兩氏がある。

理事長 鈎良三

明治元年の生れにして、實に二十餘年間初等教育に獻身盡瘁した功勞者にして、退職は晴耕雨讀の清閑な生活を送つてゐたが、世はかゝる逸材に暇を與へず、大正十年村民一致の懇請により當村村長に推されて就任、更に昭和九年當組合長に就任して、今日に至る。
村治産業の刷新振興に幾多の功績を擧げてゐるが、最近その著しいものに經濟更生五ヶ年計畫があり、本年(昭和十六年)は實行第二年度を迎へ、既に見るべき實績が示されてゐる。これが完遂の曉には、村内の面目は全く一新するであらう。

滋賀、栗太、大石村

## 大石村役場

往古、當地方は忌伊勢と稱した。それは本村大字東に縣社久奈度神社あり、伊勢神宮の荒濶を祀り、伊勢神宮に參向するものは貴賤の別なく、必ずこの社地にて禊祓を修した。卽ち大七瀨祓の一である。
明治維新に際し、今の一大字を一村として庄屋を置き、明治四年大津縣管下とし、更に同五年滋賀縣に屬し、區制施行により、第一區(羽栗外二十一ヶ村)に入り、同十八年聯合戸長役場設置のため栗村外八ヶ村聯合となる。同二十二年町村制施行せらるゝに及び現在の七大字を以て一村の區域とし、大石村と稱した。
地勢は本郡の最南端に位し、村内概ね丘陵をなし、猪の脊山、黒山、花立ノ峰等の山により、三重縣、京都府に境してゐる。中央北部より西部は、所謂宇治川ラインに沿ひ、耕地をなしてゐる純農村にして大石茶の製産地として知られてゐる。
神社には縣社佐久奈度神社、春日神社(本殿國寶)等あり、寺院には法樂寺(藥

師像國寶）若王寺（佛像國寶）正願寺（地像國寶）等がある。

村長中野喜一郎、助役植村九一郎、收入役中井喜久雄、書記坂田殷穀、松溪辨藏、加藤秀定、駒村要三、深田彌平治の諸氏が各々事務を分掌してゐる。

## 村長 中野喜一郎

當家は、代々農家を營む、村内隨一の舊家であり、素封家である。亡父安太郎氏は村長を始め、各要職を歷任して功勞顯著なるものあり、當主喜一郎氏はその長男にして明治三十六年六月十五日に生る。

助役、青年團長、消防組頭等を經て、現在は村長、農會長、村會議員、産業組合長等を兼務し、亡父に劣らない功績を擧げてゐる。

當年三十九歲、前途の多忙多幸が約束されてゐる。

滋賀、栗太、上田上村

# 上田上村役場

當村は往古の田上鄕の一にして、大戸川の北岸にあり、北は鷄冠山、南は不動山あり、四面山岳に圍れてゐる。

産業は農業が主で、水産、林産も行はれてゐる。

教育方面は兒童數の增加に伴ひ、現在增築の必要に迫まられてゐるが、物資統制により延期となつて居る。村内の道路衞生等の施設は大いに整つてゐる。

社寺には村社新宮神社、若宮八幡宮、荒戸神社、稻荷神社、正休寺（眞宗）、教誓寺（同）、眞光寺（同）、福岡寺（同）、西光寺（同）、淨土寺（淨土）、法藏寺（曹洞）等がある。

## 村長 山本榮太郎

當家は、代々農業を營む、素封家にして、尊父故榮次郎氏は村會議員等を歷任して村政の發展に貢獻のた功勞者である。

當主榮次郎氏はその長男にして、明治二十二年五月九日に生る。助役、その他の公職を經て、現在は村長を始め、村會議員（三期）、銃後奉公會長、産業組合理事等を兼ね、遒ましき翼贊村の建設に殉身の努力をなしてゐる。

勁直淵達、手腕貫祿を備へた村の名指導者として、村民の信賴を深めてゐる。

滋賀、栗太、常盤村

# 常盤村役場

當村は、いまは片岡、穴、北大、下寺下物、芦浦、志那、志那中、長東、上寺等字を以て一村となしてゐる。

源氏物語に「しなてるや遙保の水海こく舟のまほにもいもにあい見てかしかな」とある。支那（または志那）は、こゝをいふのである。また支那渡は、家康が大阪陣の折、渡つた所にて、爾後將軍上道の道筋となつたといふ。

本郡の最北端に位し、西及び北は湖に面してゐる。

主産物は米、大麥、小麥、グリンピース、大根等である。



神社には縣社印岐志呂神社、村社天神神社、總社神社、志那神社、三大神社、大菅神社、等があり、寺院もまた多い。天臺宗觀音寺は、聖德太子の木願にて、秦川勝の開基せるもの、阿彌堂、書院の外、國寶が多い。蓮海寺の地藏立像、資光寺の藥師立像も共に國寶に指定されてゐる。

交通は守山驛にバスあり、また湖上舟運の便がある。

## 村長 片岡・勳・舜治 従七・六

當家は、鄕土として代々名主を務め、醫業に携つて來た村内屈指の舊家にして資産家である。

先代故鹿次郎氏は、村醫、學校醫等を務め、村の保健衞生に力を竭した人である。

當主舜治氏はその長男として、明治十三年九月二十八日に生れ、京都府醫學校（理在京都府立醫科大學）を卒業して祖父の業を繼ぎ、現在は村長を始め、村會議員、銃後奉公會長、農會長及び村醫、校醫等を務めてゐる。

當村民は協同自治の精神に富み、時局下において一致協力、以て高度國防國家の要請に應じて、增産報國に邁進してゐる。今後は一層精神立鄕に力を入れ、村治産業の改善を圖りたいと村長はいふ。

澄雅清秀、村民の多大なる信望を收めてゐる。

滋賀、栗太、笠縫村

# 笠縫村役場

當村は昔、笠村と稱したと傳へられてゐる。郡の北西に位し、地勢平坦にして草津川、葉山川西に流れて琵琶湖に注いでゐる。

産業は農産、林産、水産等が行はれ、ことに米作に惠まれ、郡内屈指の收獲を上げてゐる。

村内には社寺多く、村社老杉神社の社殿は國寶に指定されてゐる。

村長小寺包太郎、助役（缺員）、收入役山本信一、書記川端善四郎、木戸五三郎、山本繁雄、木戸太一郎、卯田金治郎の諸氏が執務してゐる。

當村は、一致協力して新體制に即應し、增産報國に奮進してゐる。幸ひ産業道路の改修改築を完了し、小學校の新築も一段落がつき、その他の施設設備も整つたので、今後は生産物の增産あるのみである。

今や、帝國は未曾有の重大時局下にあり、われら村民は勿論一億一心となつて銃後國民の本分を竭し、以て大東亞共榮圈確立に邁進し、なければならない。と小寺村長は熱語した。

## 村長 小寺包太郎

當家は代々農業を營む、村内切つての舊家にして、資産家である。尊父故利右衞門氏は、戸長、村長數期、助役、收入役、この他各種團體長等に就いて盡力した、村内最初の自治功勞者である。

當主包太郎氏は明治十年五月十五日亡父の長男に生れ、村の書記を二十年、助役一期勤めて、今は村長を始め、銃後奉公會長、農會長等の要職を兼ねて、翼贊村政の高揚に努め、村勢の發展に一向專念してゐる。

行政實務に通曉する手腕家として知られてゐる巨材である。

また家庭も恒に、氏の人格が反映して圓滿な生活を營んでゐる。

滋賀、栗太、山田村

## 山田村役場

古くは、矢橋と相並んで、大津への渡航ありし所にして、近世は往來も減したが、いまなほ大邑である。

草津驛より西一里、本郡西端に位し、西は琵琶湖、北部を草津川が流れてゐる。

農産業八割、漁業二割の村にして、農産業の發展は勿論、漁業にも力を注ぎ、村勢の向上暢達に努めてゐる。産業道路の改修改築成り、小學校の校舍も昭和十五年度において竣成し、諸種施設設備も充實してゐる。

社寺もまた多く、藥師堂の藥師像は國寶に指定されてゐる。

**村　長**
**木村由太郎**

當家は代々農業を家業とする村内屈指の素封家である。先考與吉氏は村會議員、その他の要職を歷任して、村の自治産業に多大の功績を擧げた功勞者である。

氏はその長男にして、明治十三年十月三日に生る。縣屬として滋賀縣地方課に勤務し、村會議員に數期重任し、現在は村長を始め、銃後奉公會長、産業組合監事等を兼ねてゐる。

錬成達熟、純誠高雅な人格にして、非常時村政の首班として、蓋し最適任者である。

今や、わが國は未曾有の重大時局にあり、われ等村民は、高度國防國家の要請に從ひ、滅私奉公、以て村政各般の刷新改善をなし、增産報國に努め、大政翼贊の臣道實踐に邁進しなければならないとわれ等の村長、木村氏は語つた。

滋賀、栗太、大津町

## 栗田履物小賣商業組合

當組合は昭和十六年一月の創立にして目的とするところは、共同施設をなし、而して作業上の圓滑化を圖るにあるといふが、近く共同作業場を設置し、機械工業化して增産をなすべく計畫を進めてゐる。

區域は當栗太郡一圓である。

現役員は理事長青木忠治郎、理事三宅三郎、須佐美沖左衞門、監事田中勘三郎の諸氏である。

**理事長**
**青木忠治郎**

當家は三代續いて下駄履物製造卸小賣業を營み、先代故忠治郎は、町會議員、區長等の要職を務め著しい功績を遺してゐる。自治振興功勞者である。

當主忠治氏は、その長男にして、明治四十年七月十九日に生れ、家業を繼いでこれが向上發展に努力する。一方、滋賀縣履物商組合聯合會常務理事、栗太郡履物小賣商業組合、草津町下駄履物工業組合各理事長、栗田郡ゴム被服類配給組合長等の要職に就き、業界の最先頭に起つて活躍してゐる。立役者として多大の期待と信頼を寄せられてゐる。

當年三十五歳、前途洋々たるものあり多忙多幸が約束されてゐる。

令室智子さんとの間に三男一女あり、平和な家庭生活を營んでゐる。

滋賀、栗太、瀬田町

布山鐵工所主　**布山清市**



氏は明治三十六年十二月十二日生れ、今事變には京都輜重特務兵として勇躍出征、各地に轉戰した歸還勇士である。

昭和三年、鐵工所を設立、以來今日まで十三年間各種鐵製品を專門に拮据經營現在では大津市及び瀨田町を地盤として盛運を見てゐる。

國家非常時に際し、自己の利益のみを追求する考へはない。國民として如何なる苦難も忍んで、國家に盡す決意を有つてゐるが、最小限度の生活が支持され得るだけ、つまり現在の事業によつて、生活出來るだけの錢を配給してもらひたいと氏はいふ。

勤固健實、篤實な人柄であり、世の信望も篤い。

母堂とわ子さん(六十一歳)、令室は逝去、二男二女あり、長男邦夫君(十四歳)令弟一雄君(二十二歳)がある。

滋賀、栗太、志津村

## 志津村役場

當村は中世の庄號にして、往古は青地莊とも呼び、草津以東の諸村に被らせた青地氏はその地方の豪族にして、駿河守義綱は蒲生氏鄕の伯父に當る。いま草津の東南數町本村分に追分あり、古の驛址にて、岡田といふ。

地勢に草津町の南方に位し、北部は平坦なれば、南部は丘陵地をなしてゐる農村である。

主なる産物は、米、養蠶、養鷄、グリンピース等である。

既に産業道路完成し、小學校の建築も終了し、村内における各種の施設設備整ひ、全村民一致協力して、食糧增産に奮進し、翼贊體制を確立して、臣道實踐に努めてゐる。

特筆すべきは、村吏員十五年以上の勤勉者には、村費を以て恩給を支給することになつてゐる。これは、全國にその例少い吏員優遇法である。そこで吏員一同は安じて各々その任務に精勵してゐる。

名勝として青地城址、小槻野上兩神社古墳等がある。

助役は奥村憲治、收入役は高岡吉定氏である。

**村　長**
**井上歡三**

當家は當村における屈指の舊家にして代々農業に從事し、養父故久太郎氏は、戶長等を務め、村の開發に專念した功勞者である。

當主歡三氏は、明治二十一年十月一日に生誕。村助役、村會議員(四期)等を歷任して、現在は村長二期)、銃後奉公會長、農會長、産業組合理事等を兼ね、村勢の暢達に獻身的努力をなしてゐる。家庭には、令室があるのみである。

滋賀、栗太、草津町

滋賀縣藤製品工業組合理事

## 松田長兵衛

氏は明治三十三年八月二日、當郡下老上村に生れ、先代までは農業に從事してゐたが、氏の代に至り、藤製品製造業に轉じ、主として乳母車、藤椅子等を製造し、縣下一圓に販路を有して、逐年盛運を加へてゐる。

一方、滋賀縣藤製品工業組合理事として、業界の向上發展に方を效して多大の功績を擧げてゐる。氏は言ふ。

現下われ等業界は、資材の缺乏と人的不足にて、增産は不可能の狀態にあるが自分の希望としては、乳母車の問題である。卽ち農村の家庭は勿論、一般商工業

者の家庭においても、乳母車を使用しない家庭は殆どない。かゝる狀態にあるから、われ等業者の製造する製品を重要必需品として、一般社會人及び當局等において認めて貰ひたい。

資材は南洋、臺灣、海南島方面より輸入するのであるが、海南島ものは未だ手に入らないが、今後は多量に入つて來ると思ふ資材が豐富に得らるれば、われ等業者も他の業者に劣らず家國的に奉公することが出來ると思ふ。

次に要望したいのは、乳母車の附屬品である鋲の圓滑なる配給である。現在は一個の乳母車に四百圓程度であるが、今後は節約して三百圓位にする豫定である。何れにしても鋲はわれ等業者の生命であるので、適正なる配給を念願するものである。

滋賀、栗太、草津町

## 栗太食肉營業組合

當組合は縣當局の指導援助に基き、業者一致團結を圖り、斯業界の改善、發展業者の福利增進を期するため、諸種の共同施設を行ふべく、昭和五年十二月、郡下の業者を糾合して設立したものである。

現在食肉の配給は實施されてゐないが早晩これが實現は遁かれないと見て、業界の企業合同、その他の對策を講じて、職域奉公の誠を致すべく準備を整へてゐる。

組合員の希望としては、食肉の公定價格に伴ひ、牛馬商の生牛等の統制會をもしたいと强調してゐる。

現役員は組合長に安井庄作氏を推し、副組合長に前川勇太郎氏、會計に鎌田庄藏、評議員三久保藤吉、同市川喜平の諸氏が就任してゐる。

**組合長　安井庄作**

三月十六日、縣下蒲生郡苗村に生れ、昭和七年六月より當村において食肉業を營み、爾來逐年業運の繁興を見て、今日の大を成すに至つた。

現在當組合長の外、縣食肉聯合會理事、草津町實業會常議員等を兼ね、業界に重きをなしてゐる。

**常務取締役　山田助治郎**

明治二十六年四月二十日生誕。自動車業を營み、公職としては町内會長に推されて盡力してゐる。

滋賀、栗太、草津町

## 栗太貨物運輸自動車株式會社

電話(代表)二〇七番

當會社は昭和十四年四月、現常務取締役山田助治郎氏等の多大なる努力と縣警察部保安課の指導援助により、圓滑なるガソリンの配給を確立し、業者の向上發展を圖るを以つて創立した。企業合同會社にして、當栗太郡一圓をその區域としてゐる。

現役員に、取締役社長(缺員)專務取締役市村定三郎、同竹村喜藏、常務取締役山田助治郎の諸氏がゐる。

溫厚篤實なる人柄にして、町内の信望篤く、將來の活躍を大いに期待されてゐる。

なほ令兄林之助氏は鄕里苗村において牛馬商、食肉卸商を營み、縣下業界に盛名を謳はれてゐる。

滋賀、栗太、草津町

## 栗太自轉車商業組合

當組合は自力更生、協同施設、商權擁護を目的に、縣一圓を區域として設立、以來和を以て運營し、幹部及び組合員一同銳意これが發展に努力し、昭和十五年商工省より、全國四百の組合中、第一の優良成績なるを認められて表彰された。これに依つて當組合の眞價が窺はれる。

配給所及び再生施設としての工場を有してゐる。同工場は昭和十五年工場法に據る設備を完了し、更生物五百臺内外の能力を有してゐるが、現在は設立當初の機構を多少改革し、公益優先を旨とし、



當會社の創立功勞者にして、引續き常務取締役として、これが發展に懸命の努力を捧げてゐる。溫厚健實なる人柄にして業界に多大の信望を收めてゐる。

滋賀、栗太、山田村

農會長　**杉江善右衛門**

當家は代々農業を營み、名主を務めた膳所藩の鄕士として苗字帶刀を許された村内屈指の素封家にして舊家である。

先代故善右衛門氏は、生前村長を始め村會議員、その他の要職を兼ねて盡力した自治功勞者である。

當主善右衛門氏は、明治十年十月十五日、亡父の長男に生れ、村會議員、區長學務委員、その他の公職を歷任して、現在農會長、產業組合監事等を兼務してゐる。

農會長としての氏は、當村は純農村にして、產物は米が第一、次ぎが大麥、小麥、蔬菜類にして、大根が主である。畜產も行つてゐるが主に使用牛である。

今後村民一致協力して、增產に努め、臣道實踐の誠を效して、銃後國民の本分を完了すべく、決意を固めてゐる。

滋賀、大津市膳所本町

## 滋賀撚糸工業組合

電話一七〇六番

本組合は昭和十三年十二月設立認可、同十五年十一月より事業を開始した。主なる事業は共同購入、共同販賣をなし、總會年四回、每月一回役員會を開いて、會務の遂行、事業の運營等につき協議を爲してゐる。

特色とする點は、組合員一致協力して互助互惠の精神を以て、福利增進を圖り聯域奉公の誠を捧げてゐる。

理事長前田正次、理事久保田德一、山口孫行、山田辰次郎、橋本祐、竹中順平監事大橋孫次郎、谷村俊治、金子左衞門の諸氏によつて役員陣を固めてゐる。

當家は家系七代を傳へる、當地方における有數の舊家である。

當主正次氏は明治二十五年一月三日、亡父辨次郎氏の長男に生れ、大正十二年より撚糸業を營み、今日の盛業を見るに至つた。

さきには商工會議所議員、膳所町商工會工業部長等を務め、現在は滋賀縣撚糸工業組合理事長に推され、斯界の發展に多大の貢獻を爲してゐる。

資性腕誠篤厚、肚の出來た人柄にして組合員に信望が厚い。

狩獵を好み、眞宗に歸依してゐる。

滋賀、大津市寺町

## 滋賀自轉車商業組合

當組合は自力更生、協同施設、商權擁護を目的に、縣一圓を區域として設立、以來和を以て運營し、幹部及び組合員一同銳意これが發展に努力し、昭和十五年商工省より、全國四百の組合中、第一の優良成績なるを認められて表彰された。これに依つて當組合の眞價が窺はれる。

配給所及び再生施設としての工場を有してゐる。同工場は昭和十五年工場法に據る設備を完了し、更生物五百臺内外の能力を有してゐるが、現在は設立當初の機構を多少改革し、公益優先を旨とし、

**理事長　前田正次**

傳へる、當地方における有數の舊家である。

時局協力に努め、職域奉公の誠を捧げてゐる。

理事長宮野忠和氏、外理事三十名を置いてゐる。

**理事長　宮野忠清**

明治三十四年鹿兒島縣に生れ、師範學校を出て、敎壇に立ち、義務年限を終了して退職、警察界に入り、本縣に奉職、漸次累進し、若冠二十八歲にて署長に榮進、のち官を退いて當組合の設立に奔走して初代理事長に就任、今日に至る。

勁直沈摯、手腕識見卓抜の士にして、組合員に深く信賴されてゐる。

滋賀、大津市橋本町

## 大津商工會議所

當會議所は明治十二年商法會話の會と稱して創立、以來今日まで六十餘年間、當市商工業の發展に多大の貢獻をなして來た、古い歷史を有つてゐる。

その間、明治二十四年四月商工會議所法により現在の名稱に改めた、昭和八年膳所町、石山町、滋賀村の三ケ町村を包含し、今日に至る。

現役員は會頭西田利七、副會頭本庄新兵衞、理事岡本保太郎の諸氏にして、顧問に堀田義次郎、生島朝太郎、岡田定次郎、藤澤半四郎、廣野規矩太郎、平山政保の諸氏を推してゐる。議員は左の通り（番號順）

（一）石本德太郎　（二）井上寅吉　（三）煩殿雄一郎　（四）猪飼康助　（五）今村增治郎　（六）今村和一郎　（七）橋本佐市（八）萩山平兵衞　（九）西田久兵衞　（一〇）西田利七　（一一）本庄新兵衞　（一二）松村賢造　（一三）大西本庄正吉　（一四）松村賢造　（一五）小畑文次郎　（一六）小野眞胤祐　（一七）岡本平次郎　（一八）龍田友治郎　（一九）吉田善次郎　（二〇）辰己益次郎　（二一）高木宇太郎　（二二）谷口米次郎　（二三）谷口甚一郎　（二四）津田佐右吉　（二五）鍋谷米吉　（二六）上田元治郎　（二七）國松龍三　（二八）山口周助　（二九）山田次雄　（三〇）益野藤五郎　（三一）前田正次　（三二）松本留次郎　（三三）福井治三郎　（三四）福井定治郎　（三五）三宅五郎兵衞　（三六）三品吉兵衞　（三七）森田象一の三十七氏である。

**會頭　西田利七**

氏はつねに當市商工業者の輿論を代表して、これが向上發展に懸命の努力をなしてゐる、溫厚篤實なる人柄である。

**理事　岡田保太郎**

氏は明治三十二年十月二十三日、縣下甲賀郡に生れ、理事に就任以來、當市工業の發展に渾身の努力を注ぎ、その功績少くない。眞摯淳篤明朗な紳士である。

滋賀、大津市藏橋町

## 大津織物工業組合

電話三八五番

當組合は大正十一年、現理事長兼田文三郎氏等の發起斡旋により、大津織物業組合として創立、兼田氏を組合長に推して業界の刷新向上に努めて來たが昭和十三年三月時勢の推移に從つて、これを工業組合組織に改め、大津織物工業組合と改稱、今日に至る。

區域は大津市、滋賀、栗太、野州の一市二郡にして、資材の配給、價格の統制を主たる事業とし、組合員一致協力、以て職域奉公に奮進してゐる。

現役員は、理事長兼田文三郎、理事中井富次郎、樋見喜代松、宮島友次郎、堀江正次、猪飼米次郎、監事澤田安二、中村三郎の諸氏である。

**理事長　兼田文三郎**

福井縣の人。尊父文藏氏は福井縣において織物業を營んでゐたが、いまは故人となつてゐる。氏はその二男にして、明治十七年十二月十四日に生れ、明治四十五年當地に移住、大正十年より織物業を始め、爾來拮据經營して今日の隆盛を築いた。

大津商工會議所議員、市常設委員、その他の公職を歷任して貢獻し、當組合には創立に盡力して、組合長に推され、以來今日まで勤續、現在は理事長代理を勤めてゐる。

資性質實純誠、當地方業界の重鎭として信望を收めてゐる。趣味は圍碁くらゐもので、自治公共に盡すを念としてゐる。

令室京さんとの間に三女をもうけ、長女に養子を迎へ、平和な家庭を營んでゐる。

滋賀、彥根市東沼波町

## 高藏製作所

電話六四番

當製作所は、元名古屋市にあつたが、昭和十五年四月、當地に移轉、翌十六年三月より事業を開始せる鐵工所にして、今日隆々たる業運になり、當市業界に有力なる地歩を占めてゐる。

工場主は森茂兵衞氏、支配人は柴田善作氏である。

**工場主　森茂兵衞**

氏は經營のみに長ずる手腕の事業家にして、また仁愛の心に富み、使用人を愛し、よく世話をする人間的に練成された人柄である。從業員もまた獻身的努力を以て、これに酬ひ、和氣藹々たる工場風景を描出してゐる。

**支配人　柴田善作**

支配人柴田善作氏は、明治十八年七月十四日に生れ、中學校卒業後渡米して、二十餘年間同地の工業界に關係し、十年前歸朝して彥根鐵工機械工業組合の主事となり、當製作所設立と同時に支配人として勤務、眞宗の篤信者にして、つねに報國感謝の念に滿ちた歡びの生活を以て、業務の隆昌に力を效し、わが產業界に貢獻するを念としてゐる。

信奉する宗敎は眞宗、令室こと子さんとの間に二男あり、家庭もまた極めて和やかである。

滋賀、大津市下栗町

## 滋賀縣薄板金加工工業組合

電話一三六〇番

本組合は昭和十四年、滋賀郡及び大津市を區域として創設した亞鉛板加工工業組合を、同十五年六月、芝田寅吉、芝田直三郎、早川隆藏、西村清吉、小澤捨次郎、木村兼次郎、高坂益吉氏等の主唱發起により、區域を全縣に擴張し、滋賀縣薄板金加工工業組合と改稱して設立したものである。

事業は配給統制を主とし、郡を單位に支部を置き、これに支部長等の役員を配して、會務の圓滑を圖つて居り、組合員一致協力、以て職域奉公の誠を捧げてゐ

る。

現役員は理事長に芝田直三郎を推し、理事は木村兼次郎、小澤捨次郎、奥村喜助、西村清吉、森川才吉、山本與三郎、矢野清助、松崎市藏、藪内兼吉、監事高坂松吉、眞下與惣吉、箭野藤吉、文室辰次の諸氏である。

### 理事長 芝田直三郎

當家は家系九代を傳へ、代々板金加工業を營む。先代龜吉氏は、滋賀縣勸業組合役員等を務め、縣産業界に重きをなした人である。

當主直三郎氏は、その長男として、明治十七年十二月十五日に生れ、歩兵九聯隊に入營、現在は當組合理事長として、業界の刷新發展に專念してゐる。手腕力量の秀れた名理事長として信望を蒐めてゐる。

### 滋賀、大津市石山鳥居川町 興亞黑鉛工業所 主 渡邊賴信

當家は渡邊綱の末裔にして、代々京都市の北面武士として活躍し、左京區田中館の跡が先代等の住居であつたといひ、維新直前は近衞公家に仕へた名門、舊家である。

賴信氏は明治十六年生誕、京都市工業學校染色科卒業、のち市内青染色工場に勤務すること三年、明治の末期に至り、當地にて黑鉛工場を經營、間もなく日本黑鉛工業株式會社に改組し、大正六年黑煙精練の特許を得、苦心の結果漸次隆昌に赴き、朝鮮平安北道に鑛區及び鑛業所を設立、益々内容充實し、更に昭和十年に至り、別個に興亞黑鉛工業所を獨力にて設立、現在一ケ月五百噸内外の生産を見て、日本黑鉛工業株式會社の生産力を凌駕するに至り、鉛筆原料の内地産の大半は同氏に依つて供給されてゐる。今後生産擴充に對處し、貧鑛處理に專念して機構設備等に關し、商工省の認可を受け産業報國に邁進してゐる。

溫雅質實、家庭生活は、極力冗費を省いて節約し、健實圓滿なる家庭を建設してゐる。

### 滋賀、大津市膳所町 大津木工家具建具 工業組合

電話一四七四番

本組合は昭和十三年九月、西村稻吉、下村弘毅氏等の發起により設立、自由經濟より統制經濟に移行せる今日、業者間の競爭を防止し、物資の圓滑なる配給を圖り、業者一丸となつて製産增進に邁進し、漸次發展を見つゝある。

區域は市内一圓とし、事業としては技術工の養成、作業場を設置して、共同作業をなしてゐる。

總會は年二回開き、必要に應じ臨時總會を開くことになつてゐる。

現在の役員は左の通り

理事長下村弘毅、專務理事西村稻吉、理事福井政之助、八田、木村今井の諸氏監事川邊、長谷川の兩氏が就任してゐる何れも斯界の錚々たる人物にして、會運の發展に力を效してゐる。

### 理事長 下村弘毅

當家は代々野州早野村に住し、庄屋を務めて來た家柄にして、先代松三郎氏の代に至り、當地に轉住して家具商を營む。

當主弘毅氏は、明治三十九年二月十七日、亡父の三男に生る。雜貨商業組合を主唱設立して、永年組合長として、斯業の發展に努力し、また商工會議所議員等に擧げられ、現在は大津木工家具工業組合理事長に就任して活躍してゐる。

溫厚誠實、手腕卓拔の士にして、衆庶の信望が篤い。

母堂ますさん、令室すださん、五歳になる長女幸子さんがあり、家庭極めて圓滿である。

### 滋賀、彦根市大橋町 市會議員 若宮德太郎

電話二六二番

當家は代々佛檀製造卸商を營み、當主はその三代目である。

明治二十四年七月十七日、亡父松次郎氏の長男に生れ、縣立八幡商業學校卒業後、明治四十五年京都第十六聯隊に入營せる歩兵曹長である。

現在は市會議員、同參事會員とも市政の樞機に參劃し、これが刷新發展に盡力し、また滋賀縣佛檀製造工業組合理事に推され、斯界の向上暢達に力を效してゐる。

令室すて子さんとの間に五男四女あり長男芳太郎君(二十歳)は營業に從事してゐる。賑やかに圓滿なる家庭を營んでゐる。

### 滋賀、甲賀、水口町 甲賀運輸貨物 株式會社

電話二八番

當會社は昭和十五年十二月、郡下の業者を糾合して設立した。卽ち企業合同化した會社である。

目的はガソリンの配給、業者の融和、運賃の協定等にある。

現重役は取締役社長倅野孝三、專務取締役大矢康太郎、取締役竹若國吉、大森芳太郎監査役大矢善次郎、伊地知多平次、松岡繁男の諸氏である。

事變下においてガソリンは血の一滴として、最重要物資と、自動車業者は、これが入手に非常な困難を來したので、氏はこれがすべく當會社の設立を企て、設立と同時に社長の重職につき、以來己を顧みず、日夜百方に奔走し、一滴のガソリンたりともおろそかにせず、配給の圓滑化に力めてゐる。この熱意には業者一同深く感謝してゐる。

### 滋賀、大津市 大津市役所

電話(代表)一五六〇番

當市はわが國史上貴重なる土地柄にして、上古の狀態は詳かにしないが、皇居の地大和に近かつた關係上、早くより皇化に浴したことはいふまでもない。景行天皇、この地に遷都し給ひてより成務、仲哀天皇に至るまで皇居たりし高穴穗宮は、いま市の北隣なる坂本村大字穴太の地である。その後天智天皇の六年三月、大和飛鳥宮より遷都ありて、大津宮を今の滋賀里に定め給ふた。されども壬申の亂起るに及び、官軍一敗地に塗れたので僅か六年にして、また大和の飛鳥に遷都あらせられた。

桓武天皇平安に遷都し給ひてより逢坂山官道開かれ、東海、東山、北陸三道の咽喉を扼する要路たるに至る。

天正二年織田信長、京畿を經略するに

當り大津に驛を置き、東海道五十三次の驛を定むるや、大津役所を設けて、大久保十兵尉奉行に任ぜられた。

元和三年幕府の直轄地となりて大津代官所を置き、傳馬所を設けて、人馬繼立の事を辯じた。

その後幾多の變遷を經て明治時代に入り、同二十三年七月町制を施行、越えて三十一年十月市制を施行、昭和四年六月都市計畫施行都市として指定せられ、同七年五月北隣なる滋賀村を市域に加へ、更に同八年四月南隣の膳所、石山の兩町を合併して今日に至る。

縣の西部滋賀郡の南端に位し、北は坂本村、西は京都府、東は琵琶湖及び瀨田川に臨み、市街は湖岸狹長の平野を占めてゐる。湖岸の地を除く外は丘陵である小溪すべて西部の山地に發して湖水に注ぎ、疏水は湖の水を引きて京都に至る。附近一帶舊蹟多く、琵琶湖の風光と共に遊覽客こゝに集り、日本のジュネーヴたる觀あり、石山町は、明月に、螢に古來聞えた名所である。

また當地方は工業著しく盛にして、殊に人絹工場頗る多い。

名勝には大津宅址、關蟬丸神社、三井寺、逢坂の關址、幻住庵跡、義仲寺、膳所城址、栗津古戰場、瀨田橋、南郷洗堰、立木觀音、その他甚だ多い。神社も少くないが、寺院の多いことも有名である。

交通は東海道本線の石山、大津兩驛あり、また濱大津驛を起點とする江若鐵道京阪電鐵の京津線は京都より濱大津に來り、湖上には太湖汽船會社の遊覽船あて、近江八景を巡つてゐる。第一疏水は小舟を通じて京都に至るなど、實に通達自在にして至便である。

人物としては杉浦重剛を始め、勤王志士、國學者、畫家、實業家、政治家等各方面の逸材が輩出して、市の誇りとしてゐる。

## 市長　正四・勲三　堀田義次郎

福岡縣の出身にして明治七年四月十四日に生れ、第五高等學校を經て、東京帝大政治經濟科卒業後官界に入り、愛媛、島根、長野各縣の警察部長、三重、滋賀、愛知各縣の內務部長を歷任して本縣知事に榮轉、退職後三重縣より衆議院議員に當選して國政に參與し、現在は市長を始め、銃後奉公會長農會長青年團長等を兼ねて盡力してゐる巨材にして、市內に重きをなしてゐる。

## 助役　正五・勲四　早川清三

縣下高島郡今津町の出身にして、明治十五年五月七日生誕彦根中學校卒業後一年志願兵として入隊した陸軍歩兵中尉、日露戰役に從軍して勳功あり、甲賀郡長、犬上郡長、縣庶務課長を歷任して地方自治振興に多大の貢獻をなし、現在は當市助役の要職にあり堀田市長のよき輔佐役として盡力してゐる。

清秀明朗な士にして、市民の信望極めて篤い。

當市は今や堀田市長、早川助役の指導により、臨戰態勢を確立して、國家の大業に協力して、目覺ましい活躍をなしてゐる。

### 滋賀、彦根市上新屋敷

## 彦根燃料商業組合

電話四一八番

當組合は、昭和十五年一月の設立にして、地區は當彦根市一圓とし、燃料の圓滑なる配給と經營の合理化によつて、新體制に即應し、大政翼贊精神を體して臣道實踐の實を擧ぐるを目的としてゐる。

現役員は理事長澤田繁治郎、常務理事木下喜三郎、金澤治右衞門、井波喜一郎松本光三、古澤寅吉、川瀨頴一、監事山本善城、矢田佐平、中辻藤次郎の諸氏であるが、理事一名缺員となつてゐる。

## 理事長　澤田繁治郎

當家は代々農業に從事して來た舊家であるが、先代より薪炭商を營み、今日に至る。

氏は明治十一年十月に生れ、縣立彦根商業學校卒業、現在は當組合理事長の外滋賀縣燃料商業組合理事、同石炭小賣商組合副組合長、その他の業界團體の役員を兼ねて快腕を揮つてゐる。溫雅讓和の人にして、世の信望が篤い。

### 滋賀、彦根市

## 彦根鐵工機械工業組合

當組合は、彦根市內において各種鐵工機械の製造業を經營してゐる業者を以て組織設立したものにして、業種別にこれを見ると、ウイングポンプ、バルブコック及びウイグボイプ、バルブコック、銑鐵バルブコック、及び銑鐵鑄造、諸機械、精米機械、建築用具、木型、農具、木ネヂ及びキヤップネヂの各製造業及び自動車修繕會社、修繕工場等の業者を包含してゐる。

主なる事業は資材の配給にあるが、近來當業者は、資材の缺乏に窮屈を感じてゐるが、これは國家の大業を完遂するために生ずる現象であるから、國民としては國家に協力するためには、一切を忍ばねばならない。と業者一同は公益優先の翼贊精神を體し、相扶けて利益を分け合つて、業界の發展向上に健闘してゐる。

現役員は理事長中村善藏、專務理事牧之段十郎、澤田由太郎、中村庄次郎、門野寅吉、中島杉三、宮部源一、岡嘉一、監事萩田久太郎、宮村太郎、白野光雄の諸氏である。

## 理事長　中村善藏

氏は市內職人町において、工作機械十五臺、從事員十餘名を擁して、鐵工業を營み、隆々たる業運にある。一方當組合理事長としては、資材の圓滑なる配給に百方奔走して、大いに業績を擧げ、組合員に深く信賴されてゐる。

### 滋賀、彦根市東新町

## 市會議員　上野梅吉

電話五〇八番

明治二十三年十二月十三日に生誕。先代の創業に係るパン製造業を營む。

明治四十四年兵役に服した陸軍歩兵曹長にして、勳八等白色桐葉章を賜つてゐる。

現在は滋賀縣菓子工業組合聯合會、彦根菓子工業組合の兩理事長を兼ね、業界の重鎭として、これが發展に力を竭してゐる。

また一方、市會議員、同參事會員、商工會議所常議員、警防團副團長、大政翼贊會彦根支部參與等の要職に推され、市內に隱然たる勢力を有つてゐる。

氏の理事長たる彦根菓子工業組合は、昭和十四年四月の創設にして、市商工會議所內に事務所を置き、使命の達成に努

めてゐるが、組合員の失業對策につき考慮してゐる。

氏は信念固く、勢力あふるゝ敏腕家として世の信望を嘱めてゐる。

滋賀、彦根市四十九番町

市會議員　**澤　勘四郎**

當家は先代まで農業を營んで來た市内の舊家にして、氏は明治三十四年十一月二十五日、尊父故兼吉氏の二男に生る。

小學校卒業の獨學の士にして、現在は最年少の市會議員として活躍してゐる外農村工業振興會常務理事として、農村工業の指導奬勵に健闘してゐる。

この組合には、農業の餘剩勞力を利用し、農村工業に從事して、農業能率を高め、地方繁榮を行ひ、農村共同の福利增進を目的としてゐる。

これは農業の機械化でなくして、農村における餘剩勞力を利用して、農村に適した機械工業を行はしめて、農家經濟を潤し、農村經濟を安定せしむるといふのである。

尙、氏は彦根製菓共同作業組合相談役に推されて盡力してゐる。

滋賀、彦根市新屋敷町

市會議員　**田中信一**

電話四五三番

當家は代々彦根藩に仕へて來たが、嚴父故牧人氏の代に至り、運送業を創め今日に至る。

信一氏はその長男にして、明治二十八年二月七日生誕、彦根中學校卒業後、父業を繼いで現在は市會議員を始め、商工會議所常議員、所得稅調査委員、大政翼贊常會員、彦根市運送株式會社專務理事滋賀縣セメント販賣組合理事長等を兼ね市政の樞機に參劃して貢獻し、また市運送業界の重鎭として、これが發展に盡力してゐる。

經營の才に富む事業家であり、また時局に良識を有つて、臣道實踐の誠を捧げてゐる。溫雅摯實の士である。

滋賀、彦根市後三條町

**彦根木工洋家具工業組合**

電話八九三番

當組合は昭和十四年六月、市内における洋家具製造業者を以て組織設立したものであるが、これが創立に當り、發起者としての現理事長小里宗太郎、會計宇野正一、理事倉田音逸、平田喜一郎、諸氏の苦心努力は非常なものであつた。

創立、日尙淺いが、業運好調、發展の一途を辿つてゐる。製品は洋家具、製函の二種類にして、販路は八日市、彦根、その他及び官公衙等である。

現役員は、理事長小里宗太郎、專務理事小里龍造、理事倉田音逸、監事加藤清太郎、寺脇晋、會計宇野正一の諸氏である。

**理事長**
**小野宗太郎**

昭和十四年一月十九日生、當組合創立功勞者にして、初代理事長に就任今日に至る。

當組合は事變終了と同時に、事業も終つて、その存在の意義がなくなるのではないかとの世評があるが、事變後といへども、より以上の業績を擧げ、永久的確乎たる存在たらしむべく、氏は勁固たる信念を有つて經營に當つてゐる。

滋賀、彦根市土橋町

丸菱百貨店主　**宮本壽太郎**

電話一〇番

當家は三百年を經る舊家にして、代々下駄製造卸業を營んで來た。

氏は善次郎氏の長男として、明治二十五年四月二十一日に生る。彦根中學校卒業後、地方産業の發展につき、非常な關心と興味を有つて研究してゐたが、かつてチエッコのヤンバーシャー氏が來朝した時、日本の産業は、一方に集結化してゐるといふのに示唆され、産業と文化、都市の地方分散を目的とした百貨店の經營によつて、わが國産業の健全なる發達、都市文化の地方分散を志し、現在の丸菱百貨店を創設し、自ら社長となつて敏腕を揮ひ、今や縣下隨一の百貨店として聲名を謳はれるに至つた。

この外、近江履物有限會社長、彦根實業協會副會長等に就任し、當市實業界一方の雄として鳴らしてゐる。

滋賀、彦根市平田町

市會議員　**若林捨造**

電話四五八番

當家は代々農業を營み、先考寅吉氏は篤農家として知られ、當主捨造氏は、その長男にして、明治二十二年二月二十一日生誕。同四十二年敦賀第十九聯隊に入隊、のち朝鮮守備に派遣され、伍長勤務に昇進して歸鄕し、彦根市合併前の平田村々會議員を經て、引續き現在は市會議員、同參事會員として活躍してゐる。

溫厚廉介、自治公共の念に篤く、公私截然、つねに率先して公先私滅の誠を竭し、また情誼心に富み、身を殺して人のため奔走してゐる。而して時局に對し良識を有ち、大政翼贊の臣道實踐に努め、衆望を收めてゐる。

滋賀、彦根市丸野木町

**滋賀縣籐製品工業組合**

電話二七九番

當組合は昭和十五年六月、縣下の業者を糾合して設立、理事長に伊部文之助氏を推して事業を開始した。

創立以來、未だ日が淺いにも拘らず盛刺たる活動をなし、着々業績を擧げ、健實なる發展を遂つてゐる。

現在最も力を注いでゐるのは、組合を中心に組合員一致協力して業界の統制及

び配給の圓滑化を圖つて、强力なる團體たらしめ、職域奉公の時局協力に邁進するにある。

現役員は現事長に伊部文之助氏、專務理事に伴利三氏、理事に松田長兵衞、若林金三、岩脇定次郎、監事に西村寅一、夏原一郎の諸氏が擧げられ、それぞれ組合の發展に奮闘してゐる。

### 理事長 伊部文之助

當組合の要職に就任して以來、一身一家を顧みず、專心誠意、組合のため獻身的奮闘をなし、多大の貢獻をなしてゐる。眞摯篤厚の士にして、組合の內外に信望を蒐めてゐる。

滋賀、蒲生、日野町

## 日野町役場

昔は當村を日野牧といひ、蒲生川の上流にあり、南は甲賀山を限り、山間とはいへ甚だ廣範圍である。この地は有名な近江商人の出身地にして、有名な感應丸實母散等の特產あり、また日野椀の產地として知られてゐる。

德川の初期、湖東八幡の西村太郎右衞門、岡地勘兵衞等が、遠く海を渡つて安南、シヤム等に雄飛したと傳へられ、その頃から近江商人の先祖は八幡、日野、五ヶ庄など湖東平野の各地から出でゝ京大阪、或は江戶、遠く松前、九州等に渡り、今日の近江商人の基礎を築き上げたその商品の多くは、湖國特產の麻織物、賣藥等であつたのはいふまでもない。

現在の取引は著しく資本化され、從來の行商形式によるものは賣藥に限られてゐる。そして行商人は、如何なることがあらうとも、決して生活の本據を他に移さうとしない、必らず鄕里湖國に歸つて來るところに近江商人の本領がある。

產物は米麥、賣藥等である。

眞宗の寺院、而かも巨利の多いことも著名であり、神社には縣社馬見岡綿向神社等がある。

名勝としては、毘沙門堂の十一面觀音立像(國寶)、正明寺(聖德太子の開基にて、寺內には國寶が多い)金剛寺聖觀音立像(國寶)等がある。

人物としては中井正次右衞門、(實業家、贈從五位)中井源三兵衞、高井作右衞門、山中兵右衞門、野田六左衞門、岡門、岡地勘兵衞等が、遠く海を渡つて安南、シヤム等に雄飛したと傳へられ、その頃から近江商人の先祖は八幡、日野、五ヶ庄など湖東平野の各地から出でゝ京大阪、或は江戶、遠く松前、九州等に渡り、今日の近江商人の基礎を築き上げたその商品の多くは、湖國特產の麻織物、賣藥等であつたのはいふまでもない。

現在の取引は著しく資本化され、從來の行商形式によるものは賣藥に限られてゐる。そして行商人は、如何なることがあらうとも、決して生活の本據を他に移さうとしない、必らず鄕里湖國に歸つて來るところに近江商人の本領がある。

產物は米麥、賣藥等である。

眞宗の寺院、而かも巨利の多いことも著名であり、神社には縣社馬見岡綿向神社等がある。

名勝としては、毘沙門堂の十一面觀音立像(國寶)、正明寺(聖德太子の開基にて、寺內には國寶が多い)金剛寺聖觀音立像(國寶)等がある。

人物としては中井正次右衞門、(實業家、贈從五位)中井源三兵衞、高井作右衞門、山中兵右衞門、野田六左衞門、岡伊右衞門(實業家)、島崎雪圃(畫家)、高田敬甫(同)等がある。

產業道路の改修改築成り、小學校もまた建築が完了してゐる。

青年の思想も健實にして、町內各種團體及び町會議員、その他指導的地位あるものすべてがよく融和し、結束を固くして事に當つてゐる美風は、縣下隨一にして、當村の誇りとするところである。今や非常時局に際し、町民一致協力して、政府の方針に基き、臣道實踐の實を擧ぐべく決意を固めて着々實行してゐる。

### 村長 岩村源左衞門

當家は當町における有數の舊家にして代々商業を營み、先代源六氏は當地方商業發展のため多大の貢獻をなした功勞者にして、また町會議員、その他の要職を歷任して盡力した。

氏は、その長男として明治二十五年九月二十八日に生れ、京都市立第一商業學校卒業、現在は町長を始め町會議員、銃後奉公會長、農會長等を兼務してゐる。

明朗潤達、縱橫の材幹として町民の信望を蒐めてゐる。(自宅電話五二番)



滋賀、甲賀、水口町

## 甲賀郡菓子工業組合

電話一一五番

當組合は昭和八年に設立せる水口砂糖菓子商業組合を同十五年六月、時代の要請に應じ、現在の工業組合に機構を改組して設立したものである。而して商業組合は、これを水口砂糖小賣商組合と改稱して存續し、共に同一事務所において事務を行ひ今日に至る。

主なる事業は、原料の共同購入及びその配給、組合員の愛國貯金及び組合の製造に係る菓子の自治的配給であり、この自治的配給は、未だ他の組合にて實施してゐない事業であり、好評を博してゐる。

更に特筆すべきは、組合員の鞏固なる團結と協力とによりて、原料の自給自足を圖り、かつ國家の增產運動に卽應すべく、荒地の開墾事業に着手してゐることである。これもまた他の組合に見ない事業である。

かくの如く當組合は單に物資の配給を圓滑にして利益を得ようと奔走するのみでなく、積極的に自力を以て局面を打開し、國策に順應しようとするところに、當組合の出色がある。

現役員は理事長松村新治郎、專務理事倉田健太郎、理事西岡吉兵衞、中森龜次郎、瀨古駒次郎、山田直治、谷口孫吉、監事谷口安治、中西義治郎、竹內勘次郎の諸氏である。

### 理事長 松村新治郎

氏は時代に對し良識を有ち、而して公共公益の念に篤く、時局における組合の經營、組合員の動向を正しく指導し、つねに己を棄てゝ、他に率先して各種の施設を行ひ、これが向上に發達に力を效し、名理事長の聲名を謳はれてゐる。

滋賀、栗太、草津町

## 野栗菓子工業組合

當組合は昭和十五年三月、野州、栗太兩郡を區域として創立、同年五月認可されて事業を開始した。

主なる事業として、原料の共同購入、製品の共同販賣、價格の統制、業者の統一融和を圖り、組合員一同協力して新體制下の職域奉公に邁進してゐる。

現役員は、理事長に西田良太郎氏を推し、理事は木村恒二、同辻丑之助の諸氏監事は園清五郎氏が就任してゐる。事務所は當草津町の外に守山町にも置いてある。

### 理事長 西田良太郎

明治三十年六月二十六日、尊父重藏氏の長男に生れ、尊父は、栗太郡大寶村にて農業に携り、氏は當地において菓子製造業を營み、當組合理事長の外、草津町商業報國會役員等を兼務してゐる。

明朗潤達、眞摯敦厚の人柄にして、町內の信望を蒐めてゐる。

滋賀、伊香、木之本町

## 伊香郡菓子工業組合

電話五九番

當組合は昭和十五年六月、本郡內の業者を糾合して、資材の圓滑なる配給を中心に業者の福利の增進を目的として組織

設立したものである。
設立未だ日淺いが、幹部諸氏の努力により、乏しいながらも業者は、その配給によつて營業を持續してゐる。
現役員は理事長川隅治平、理事望月豊吉、岩根益一、杉野重次、監事小野伊三重、居川源矢の諸氏である。

**理事長　川隅　治郎**

七月五日、尊父故雀吉氏の長男に生れ、家業の菓子製造卸小賣業を營み、さきには木之本町會議員、同商工會長、同區長等を歴任して、現在は當組合長の外、伊香郡菓子小賣商業組合理事長、同郡産業奉仕委員等を兼ねて、業界に重きをなしこれが向上發展に盡粹してゐる。
令室ふじ子さんとの間に三男三女がある。

## 滋賀、滋賀、伊香立村
# 伊香立村役場

當村は、龍華村を合して一村となり、龍華は京師北國路の驛所にして、途中と稱する山驛あり、元筏立野と稱してゐた

**村　長　山口　俊三**

である。氏は、明治三十二年二月五日、前田清兵衛氏の二男に生れ、當前田家の養子となり、縣立水口農學校卒業後、大正八年京都輜重兵隊に入隊、除隊後家業に努め、現在は村長の外、滋賀郡村長會長、大政翼贊會支部長、同會縣參與、郡農會副會長、郡畜産組合副會長、郡軍友聯合會長、農會長、商工會長等の要職に就き、當地方に隱然たる勢力を有つてゐる。勤固瀟達の手腕家として知られてゐる。
昭和十二年特別助成村となり、當時農會長に就任した氏は、村の經濟更生に畜産を奬勵して、有畜農村となし、また農業倉庫を建てたりした。あるひは村長としても、幾多の業績を擧げてゐるが、村立病院を經營し、村民の無料診斷なす等衛生施設を完備したことは、その顯著なるものである。
令室フジさんとの間に五人の子女あり圓滿な家庭を營んでゐる。

## 滋賀、滋賀、雄琴村
# 雄琴村役場

當村は舊庄名にて、千野苗鹿の諸村を總べてゐたが、のち今の村名となる。
北は堅田に接し、南は下坂本につゞく地勢は、堅田町の西に連り、背面には比叡の山つゞき大原山がある。
産業は林産、水産、鑛山にして、養蠶、茶、林野産物等がある。
學校、郵便局、産業組合等の文化衞生その他の施設が整つてゐる。
寺院に、昌隆院(淨土)、正倘院(同)、養源寺(同)、光雲寺(同)、光明寺(同)、新智恩院(同)、明星庵(臨濟)、下生庵、福聚寺(同)、長福寺(曹洞)等がある。
名勝として伏龍祠がある。こゝより發掘したる、ステゴドンの化石は、いま東京科學博物館に陳列されてゐる。新智恩院の阿彌陀如來二十五菩薩來迎圖掛軸は國寶である。
助役に泉七大郎氏、收入役に森江勘治氏が就任してゐる。





湖畔の一勝區である。
産業は、林産、水産、農産にして、養蠶、養鷄、菜種、綠肥用作物、茶、林野産物等がある。
教育、衞生、その他の諸施設も整つて居り、經濟的諸機關も設置されてゐる。
社寺には、縣社那波加神社、鄕社雄琴神社、安養院(天台)、正念寺(同)、法光寺(同)、蓮瑞寺(同)、蓮臺寺(同)、福嶺寺(同)、普門寺(同)、雄光寺(眞宗)等がある。
名勝としては、國寶の福嶺寺阿彌陀如來、雄琴鑛泉等がある。
同鑛泉は、比叡山東山麓上にあり、琵琶湖を隔てゝ近江富士の遠望あり、舟遊魚釣り、水泳の遊樂がある。鑛泉は食鹽含有アルカリ性泉にて、胃腸病、婦人病リウマチス等に効がある。
交通は、湖面の舟揖よく、また江岩鐵道雄琴驛がある。
村長田村安次郎氏、助役船木三郎氏、收入役奥村彦次氏、書記榎伊豆雄、奥村松三郎、山本權次、上田石雄、上坂美代技衞員島田啓三、曾我義男の諸氏の優秀なる書記技衞員が、自治機關の運營に盡力してゐる。

**村　長　田中要次郎**

當家は家歴四百餘年を經る村内切つての舊家にして、代々農業を營み、氏は先考喜次郎氏の三男に明治三十二年四月六日に生る。
大正八年大阪輜重大隊に入隊、日露戰役に出征して、勳七等を賜つた輜重兵曹長である。
現在は村長の外、銃後奉公會長、農地委員會長、縣臨時債務處理委員、縣社會教育委員、愛婦分會顧問等を兼ね、翼贊村政の健全なる發展に力を注いでゐる。
趣味は園藝であるが、
尊父故喜次郎氏は、生前篤農家として知られ、村會議員、學務委員、區長等を歴任して多大の貢獻をした人である。

## 滋賀、甲賀、水口町
# 甲賀製材工業組合

電話水口一三五番

當組合は、今より約三十年前に創立した野栗甲同業組合より發展したものにして、昭和の初めこれを甲賀木材同業組合と改稱し、更に同十六年一月、現在の工業組合に改組し、今に至る。
地區は甲賀郡一圓にして、主なる事業は、業務上必要なる器具の購入並に配給共同販賣、價格の統制等である。
今後、新體制に即應して、企業合同をなすべく、既に一應檢檢討濟にて、實施は時間の問題となつてゐる。
現役員は、理事長增森伊助、理事立岡長三郎、平木勇吉、小椋四郎、山本由三郎、立岡孝一、西岡紋右衞門、監事奥村宇八、種村寅吉、福岡藤太郎、山田喜三郎、三浦安五郎の諸氏である。

## 滋賀、栗太、物部村
# 滋賀縣ゴム修繕製品工業組合

當組合は昭和十六年一月、現理事長梅原富造氏等の提唱發起にて、七・七禁令により、ゴムの配給は甚しく不圓滑となつたゝめ、ゴム修繕、即ち主としてゴム靴の修繕をなし、これによつて職域奉公臣道實踐を完うすべく、縣一圓の業者を糾合して組織設立したものである。
八日市町、犬上郡西甲良村吳竹の二ケ

所に支部を置き、主なる事業は修繕料の統制、技術の向上、人格陶成等にして、機關誌を發行して、事業遂行上の一助としてゐる。

目下、全國の組合を統合した聯合會を結成中である。

**理事長　梅原　富藏**

氏は明治二十七年三月二十日、亡父富三郎氏の長男として京都に生る。昭和十五年九月當地に來住現在は當組合理事長の外、滋賀縣露店組合聯合會理事長、守山警察署管內露店組合長等を兼ね、また露店商の機關誌（月刊）を發行して、業界の向上發展に拍車をかけてゐる、方に斯界の驍將たる存在にある。

**滋賀、高島、新儀村**

**織物業　西川周一**

電話一四番

當家は、三代前より酒造業を營み、尊父桑原喜六氏は健在にて、家業に專念する一方、信用組合理事、二十三年間勤續その間理事長にも推され、また村會議員縣方面委員等を歷任せる自治功勞者である。

氏はその二男にして、大正元年九年十八日に生れ、のち西川姓を名乘つて一家を創立し、今日に至る。

縣立今津中學校卒業後、昭和八年幹部候補生として、敦賀第十九聯隊に入隊、今事變に從軍せる功により陸軍中尉に任官せる勇士である。

昭和九年より西川織物工場を創立經營し、現在は十八名の從業員を擁し、隆々たる業運にある。

潤達自在、豪爽快活な人柄にして、當年三十歲、新進氣鋭の事業家として、將來を重囑されてゐる。

**滋賀、高島、大清町**

**滋賀高島菓子工業組合**

電話二番

當組合は昭和十五年八月、共同施設、價格その他の並に業者間の融和協調を圖る目的を以て創立したもでるが、現在は原料の配給に全力を傾け、組合員の福祉增進に努めてゐる。

當家は、三代前より酒造業を營み、尊父桑原喜六氏は健在にて、家業に專念する一方、信用組合理事、二十三年間勤續その間理事長にも推され、また村會議員區域は高島郡一圓にして、堅田、今津兩町に支部を置いてある。

現役員は理事長村田猪三郎氏外、理事十一名、監事四名である。

**理事長　村田猪三郎**

氏は明治十六年三月の生れにして、さきには町助役、町長等、町內の凡ゆる要職について、町治政に著しい貢獻をなし、いまはまた町會議員（三期）として盡力してゐる。組合に對しては、今後更に一段と原料の配給を圓滑ならしむべく意を用ひ、百方に奔走してゐる。

肺篤眞摯の人柄にして、世の信望を收めてゐる。

**滋賀、高島、新儀村**

**高島織物工業組合**

電話四四番

當組合の前身は、高島織物販賣利用組合として大正十三年に生れ、次いでこれを高島織物同業組合と改稱、更に昭和九年六月、現在の工業組合に改組し、今日に至る。



地域は高島、滋賀、伊香の三郡と大津市に亙つてゐる。

現役員は組合長桂田善太郎、專務理事缺員、理事桂田善太郎、高橋捨吉、中村甚六、大江直七、向川利一、桑原彥一、山川藤市、山川三左衞門、監事饗庭三一森田平兵、大江卯一、多胡彥二郎、石塚英三の諸氏である。

事務員、書記長三矢清治、清水新太郎古田藤藏、水谷萬之助、高橋三郎、小島利雄、駒井庄吉、松岡定次、藤井榮一の諸氏が夫々會務を分掌して、精勵恪勤、萬全を期してゐる。

現在、當組合は、組合長以下事務員が一丸となり、全機能を總動員して、資材の配給に大活躍をなし、大いに業績を擧げてゐる。

**組合長　桂田善太郎**

氏は語る。當組合今後の方針は、これを有限會社に改組し商工省の補助をうけ、縣下業界の企業合同のトツプを切つて、範を示し、產業報國に邁進し臣道實踐の誠を捧げたいと、組合員一致協力、準備を進めてゐる。と烈々たる心構を吐露した。

**滋賀、滋賀、堅田町**

**滋賀縣農機具工業組合**

當組合は昭和十四年、縣下における農機具製造業者を糾合して組織設立したもので、資材の配給、共同作業に增產を目的としてゐる。

組合は作業場を有つて居り、組合員の製作品は犂、脫穀機、製繩機、中耕除草機等を主としてゐる。

現役員は理事長遠藤金一、專務理事井四郎、福井貞次郎、監事上西三郎、毛利勘次郎の諸氏である。

滋賀郡伊香保村の出身、當家は代々農業を營んで來たが、一丸となり、全機能を總動員して、資材の配給に大活躍をなし、大いに業績を擧げてゐる。

**理事長　遠藤　金一**

出身、滋賀郡伊香保村の業を營んで來たが、尊父金次郎氏の代より農機具の製造に携り、一方村會議員、區長等を務めて盡力せる自治功勞者である。

氏は、その長男にして、明治二十九年に生れ、大正七年當地に來住、農機具の製作に從事する一方、縣經濟更生委員等を經て、今日では當組合理事長（創立當時より）縣價格調定委員等を勤めて、業界の向上發展に寧日なき活躍をつゞけて甚大なる業績を擧げてゐる。

さきに山形、鳥取、滋賀の各縣より、その製作せる農機具の優秀なるを表彰された。

令室かよさんとの間に三男三女あり、圓滿なる家庭を愴しんでゐる。

**滋賀、滋賀、下坂本村**

滋賀縣莚叭卸商業組合理事長

**小森三兵衞**

電話七番

氏は、明治十九年四月十二日、亡父小兵衞氏の三男に生れ、のち分家して一家を創立した。

本家は代々農業を營む、村內屈指の舊家として知られてゐる。亡父は生前區長村會議員等を歷任して功績をのこした自治功勞者である。

氏は現在繩筵叭販賣業に專念すると一方、區長代理、村會議員（二期）等の要職に就いて、村政の刷新發展に力を效し、また滋賀縣筵叭卸商業組合理事長に推されて、組合の擴充興隆、業者の福祉增進のため、獻身的努力を捧げ、その溫雅敦

厚の人柄と相俟つて信望を蒐めてゐる。
趣味は圍碁、讀書にて、天台宗を信じてゐる。
家庭には貞淑な令室いそさんとの間に二女を儲け、長女に正夫氏を婿に迎へてゐるが、目下同氏は出征中である。

滋賀、神崎、八日市町

## 滋賀縣東部鐵工業組合

電話一〇二番

當組合は、時局下統制強化により、配給の圓滑化を中心として、製品の共同販賣、資材の共同購入、業界技術の同上を圖る目的を以て、昭和十四年七月設立したものである。以來組合員一同、和衷協同、以て目的の完遂に努め、組合の強化發展に力を輸し、いまは盛運にある。

現役員は、理事長藤田莊太郎、理事菊地金男、松田庄太郎、西澤藤吉、加藤定次郎、監事黄地佐平、奥村清太郎、川口傳右衞門、夏川甚吉の諸氏である。

**理事長　藤田莊太郎**

氏は、亡父鶴吉氏の長男として、明治二十六年十二月十三日に生る。當家は代々農業に携つて來たが、氏は、弱冠二十七歳にして鐵工業を營み、現に藤原製作所と稱し、從業員六十名近く擁して盛運にある。

家庭には貞淑な令室いそさんとの間に二女を儲け、長女に正夫氏を婿に迎へてゐるが、目下同氏は出征中である。

滋賀、神崎、八日市町

## 八日市燃料小賣商業組合

電話一四八番

當組合は、昭和十四年一月、共同施設、配給の圓滑、業者の融和協調を目的として設立、同十五年十二月當局より認可されたものである。

區域は、神崎郡一圓と蒲生、愛知兩郡の一部一町十七ヶ村である。

現役員は理事長和田周造、常務理事奥田紋次郎、平井五兵衞、岡田喜兵衞、藤本彌平、久保七太郎、都志八十四郎、監事寺田芳太郎、塚本仁三郎、野矢德次郎、平井友市の諸氏、書記長大橋清次郎氏である。

**理事長　和田周造**

溫雅摯實の手腕家にして、理事長に就任以來、材料の圓滑なる配給に全力を傾け、組合員より深く信頼されてゐる。

滋賀、神崎、八日市町

## 八日市織物工業組合

電話三二一番

當組合は十五年前、業者の融和親睦を圖るために設立されてゐた任意組合を現在の工業組合に改組設立したものである主なる事業は、企業統制による資材の配給による業務の圓滑なる遂行と技術の向上を圖つて、業界の刷新發展を圖るにある。

區域は當八日市町外八ヶ町村にして、組合員は少數であるが、互に固く携へて健實なる運營を見てゐる。

現役員は、理事長岡崎彦治郎、理事矢川彌三郎、若松三郎　田中已之吉、磯部藤治郎、監事福原拾次郎、藤原力藏の諸氏である。



**理事長　岡崎彦治郎**

氏は、當地方における業界の重鎭として、藉甚たる信望と卓抜せる力量とを以て、斯界の發展に盡力し、多大の功績を擧げてゐる。

滋賀、彦根市三番町

## 滋賀縣製麺工業組合

統制經濟の強化は、組合經濟機構の組織化を要請するに至り、當組合も、この潮動に對應し、北川眞藏氏等の提唱發起によつて縣一圓を區域とし、新木三次氏を理事長として、昭和十五年八月に創設以來最も緊要とする原料の配給に、全機能を動員して專念し、大いに業績を擧げてゐる。

現役員は理事長新木三次、專務理事田中兵松、理事八木鶴吉、木村久太郎、野村與十郎、北川眞藏、監事小野源藏、北村文操の諸氏等である。

**理事長　新木三次**

亡父三次氏の代より製麺業を創め、現在にて四十餘年を經る。業界の古參である。

當主三次氏は、尊父の長男に生れ、衆望に推されて當組合初代の理事長に就任以來家業を顧みず、原料の圓滑なる配給に粉身の奮鬪をなし、その努力は着々功を奏して、組合員一同より深く感謝されてゐる。勿論今後一層健闘を續けて、業界の發展に竭すべく種々準備を進めてゐる。

滋賀、彦根市大藪町

## 滋賀縣製麺工業組合

市會議長　堀　勘治郎

電話五三一番

當家は代々農業を營む、當市屈指の舊家にして、素封家である。

尊父故勘平氏は、生前、犬上郡北青柳村々會議員を始め、各種團體長等を歴任した自治功勞者である。

當主勘治氏は、その長男として明治六年六月十九日に生れ、同三十五年東京帝國大學英法科卒業、朝鮮總督府檢事、神戸地方裁判所姫路支部檢事等を歴補し、のち退官して青柳村長に就任して、自治振興に盡力し、現在は當彦根市會議長として市政の向上發展に盡力してゐる、當市の元老として重きをなしてゐる。

市會議長としての氏は、政府の方針に基き、市民一致協力して、臣道實踐の實を擧ぐるは勿論、政治に、經濟に、教育文化各部面の發展を期し、各々の職務を完遂して時局に協力すべきであるといふ。

滋賀、彦根市東新町

## 近江同盟新聞社

電話四二〇番

文化發展の强力なる推進力としての重大使命を有つ新聞社は、最近物資統制によつて、全國的に廢合整理が斷行されたが、近江同盟新聞社は、時局に即應して縣下における四五の小新聞社を合併して株式會社組織となし、現社名に改め、今日近江日日新聞社と共に縣下二大新聞社の一として、儼乎たる存在をなし、歩々颯爽と、報道報國の逞ましき躍進をつゞけてゐる。

**社長　谷鎭治郎**

氏は、明治二十九年六月十二日の生れにして、現在縣會議

員、彦根市會議員、同參事會員、その他の要職を兼ねて、地方治政の刷新向上に盡瘁して功績顯著なるものあり、一方堂堂の筆陣を張つて地方文化に多大の貢獻をなしてゐる。

議政界においては彌次將軍と異名をとつてゐる、立役者であり、親分に民政黨の滋賀縣選出現代議士堤安次郎氏がある

なほ氏は小學校卒業のみの學歷しか有せないが、今日の成功を見るに至つたのはその手腕と努力とによるものである。

豪爽濶達の士にして、前途を重囑されてゐる。

## 滋賀、甲賀、水口町

## 水口製籠組合

當組合は昭和十五年十月、政府の方針と縣當局の指導に基き、組合長に竹村久三郎氏を推して設立したものである。

創立日未だ淺いので、特記すべき業績は擧つてゐないが、役員及び組合員一同一致協力して、組合の向上發展に拔進不退の努力をなし、臣道實踐、職域奉公の至誠を捧げ、以て大東亞共榮圈確立に協力すべき熱意を以て健歩を進めてゐる。

尙ほ現在岐阜縣下における同業者中、同製品を五錢高く賣却しつゝあり、當組合員は五錢安く賣却するといふ、多大の貢獻をなしてゐる。

議政界においては彌次將軍と異名をとつてゐる、立役者であり、親分に民政黨の滋賀縣選出現代議士堤安次郎氏がある

なほ氏は小學校卒業のみの學歷しか有せないが、今日の成功を見るに至つたのはその手腕と努力とによるものである。

豪爽濶達の士にして、前途を重囑されてゐる。

### 組合長 竹村久三郎

當組合は昭和十五年十月、政府の方針と縣當局の指導に基き、組合長に竹村久三郎氏を推して設立したものである。

創立日未だ淺いので、特記すべき業績は擧つてゐないが、役員及び組合員一同一致協力して、組合の向上發展に拔進不退の努力をなし、臣道實踐、職域奉公の至誠を捧げ、以て大東亞共榮圈確立に協力すべき熱意を以て健歩を進めてゐる。

尙ほ現在岐阜縣下における同業者中、同製品を五錢高く賣却しつゝあり、當組合員は五錢安く賣却するといふ、多大の貢獻をなしてゐる。

今後組合の發展は、氏の手腕に俟つところ多大である。

なほ氏は、甲賀郡廢品組合長を兼ねて盡力してゐる。

## 滋賀、蒲生、武佐村

## 滋賀縣廢品回收問屋商業組合

當組合は昭和十六年二月、縣下一圓を區域として創立したものである。設立日未だ淺きため、見るべき業績は擧つてゐないが、堅實なる經營方針の下に、理事長岡田善次郎氏以下各役員及び組合員一同の協力により、將來を刮目期待されてゐる。

岡田理事長の經營方針としては、近き將來政府の方針に基き、企業合同化するは勿論、有限會社の設立を實現せしむべく計畫を進めて居り、一方當業者は警察方面の注意が多いので、今後業者はかゝることなきやう自肅自戒して、本來の職務を完うして、國策に順應すべきである而して現下の狀勢を深く認識して、統後



責性濃厚篤實、實行力旺盛な人として組合員の信望を蒐めてゐる。

今後組合の發展は、氏の手腕に俟つところ多大である。

なほ氏は、甲賀郡廢品組合長を兼ねて盡力してゐる。

## 滋賀、蒲生、武佐村

## 滋賀縣廢品回收問屋商業組合

當組合は昭和十六年二月、縣下一圓を區域として創立したものである。設立日未だ淺きため、見るべき業績は擧つてゐないが、堅實なる經營方針の下に、理事長岡田善次郎氏以下各役員及び組合員一同の協力により、將來を刮目期待されてゐる。

岡田理事長の經營方針としては、近き將來政府の方針に基き、企業合同化するは勿論、有限會社の設立を實現せしむべく計畫を進めて居り、一方當業者は警察方面の注意が多いので、今後業者はかゝることなきやう自肅自戒して、本來の職務を完うして、國策に順應すべきである而して現下の狀勢を深く認識して、統後國民の本分を盡し、職域奉公の實を擧ぐべく期待してゐる。

### 理事長 岡田善太郎

當家は家系三代を傳へ、商業を家業とする、當地方屈指の素封家である。尊父故善五郎氏は生前村會議員數期、村助役、その他の要職を歷任して盡瘁した功勞者である。

氏はその長男として明治三十年二月十六日に生れ、縣立神崎商業學校卒業後、家業に專念する一方、現在は當組合理事長を始め、產業組合長、縣方面委員、司法保護委員、村會議員、村農會總代、商業組合監事、耕地整理組合長、八幡警察署管內屋物商組合長、同管內古物商組合副會長等を兼務し、さきには國勢調查委員、區長、村會議員(一期)等を歷任にして功績顯著なるものがある。

眞摯篤厚にして手腕識見共に秀拔なる村の强力なる支柱的存在をなし、村民の信望を蒐めてゐる。

家族の母堂よつさんは七十一歲の高齡にて健在、令室はるさん(四十歲)との間に二男二女あり、長男善司朗君(六歲)、長女よし子さん(二十歲)は縣立八幡高等女學校出身、目下家庭にあり、次女富美子さん(十七歲)は縣立愛知高等女學校に在學中である。

一家揃つて圓滿和樂の生活を愉しんでゐる。

## 滋賀、坂田、長濱町

## 滋賀縣天鷲織工業組合

電話五一九番

當地方の天鷲絨は、古來より特產品として有名である。舊彥根藩の命により、時の幕府に上納し、製織家は、幕府より指定せられてゐたが、明治維新の改革に際し、各戶製織は自由となり、爾來縣下各地に營業者が頓に增加し「唐天」と稱する紡績綿布の粗製品を濫織するものが續出して、著しく天鷲絨の眞價を傷けんとする虞れがあつたので、明治四十一年四月、製織に從事する同業者の意志の疎通を圖り、而して斯業の開發向上、利益の增進を期するため、大會を開いて協議した結果、滿場一致を以て滋賀縣天鷲絨協會を組織し、春秋二回定時總會開催、賃金の標準、雇傭人に關する協定等を決議した。

これが現組合の濫觴である。その後、時代の轉移變遷に伴ひ、天鷲絨を下駄の鼻緒に製作することが發案され、一般より多大の賞讃を博し、需要增加に從ひ、製織業者も增加する反面、弊害もまた續出するに至つたので、大正五年協會の春季總會において、これが矯正方法につき協議し、越えて同七年秋季總會において重要物產同業組合法による組合の設立を可決、富岡庄治郎氏外六氏を創立委員に擧げ、諸準備を整へて、翌八年五月創立總會を開き、高島郡を除く外縣下一圓を區域とし、全區を八區に分けて各區に一二名の代議員を置く等定款を協定、組合長に富岡庄治郎氏、副組長に吉川太三氏を擁し、同年十二月設立を認可された。

昭和三年工費二萬五千餘圓を投じて、長濱町大字米川に土地を買收して、事務所の新築に着手、同四年四月落成、同時に集合查定場をこゝに移轉して、今日に至る。

かくて幾多の變遷を經て、工業組合法の制定により湖國の組合員を一丸とせる滋賀縣天鷲織工業組合を設立、昭和十年

十二月商工大臣より認可され、歴史ある同業組合は解散したが、業界は時代の進展と相俟つて盛運を見て居る。

殊に事變以來、物資の缺乏により、甚しく窮屈となつて來たが、組合員一同、一致協力して、烈々たる臣道實踐の誠を捧げて、職域奉公に邁進し、業界の向上發展に懸命の努力をなしてゐる。

理事長は辻田太一氏、專務理事は田中熊三氏である。

**理事長 辻田太一**

氏は、傳統を誇る業界の發展に渾身の努力を傾け、組合員と協力して時局に對應する經營方針を確立し、逞ましき前進をつゞけてゐる。眞摯溫雅の人柄にして、組合の内外に信望が篤い。

**名古屋市西區米田町**

## 豐田紡績株式會社

電話西一七一六番

當會社は、昭和十年一月設立にして、現在精紡機約二十萬、織機四千五萬餘臺を有し、工場を本社及び刈谷、南等に設け、業運盛榮を極めて、わが紡績界の雄を以て鳴らしてゐる。

ところが不幸にも、さきに南工場が大火災にかゝり、紡績二萬八千錘、織機三百臺を燒失して、柑當の損害はあつたが、流石は豐田である。資材難にも拘らず、直ちに復舊に着手した。

業況は、輸出の前途不明瞭で、影響するところがあるにしても、資產内容がしつかりしてゐるので、痛痒ほ感ぜずにゐる。

重役は、社長豐田利三郎氏、副社長豐田喜一郎氏（明治二十七年生、東京帝大出身、大正十三年入社）、常務取締役岡本萬次郎氏（愛知縣の人、明治二十二年生、名古屋高商出身、大正十五年入社）、同西川秋次（愛知縣の人、明治十四年生、昭和十二年入社）、同林虎雄（愛知縣の人、明治十六年生、名古屋高工出身、大正七年入社）、同松岡潤吉（兵庫縣の人、慶應出身、昭和十二年入社）、同石田退三（愛知縣の人、明治二十一年生、彦根中學出身、昭和二年入社）、同吉川十四男（兵庫縣の人、明治二十七生、名古屋高商出身、大正七年入社）、監査役豐田平吉、藤野勝太郎、寺田甚吉、井上良雄の諸氏である。

**社長 豐田利三郎**

氏は、滋賀縣の生れで、神戸高商を卒業して、東京一橋高商專攻科に學んでゐた折、世界的に織機發明者として有名な豐田佐吉翁の懇請によつてその婿となり、以來翁のよき輔佐役として努力し、ついに今日の豐田王國を建設して、その主宰となつたのである。

今や中京財界の巨頭として重きをなし、倭指にたへないほど諸會社の重役を務めてゐる。

**岐阜縣陶磁器工業組合聯合會**

岐阜縣土岐郡多治見町



**神戸市神戸區元町通**

**兵庫縣靴工業組合聯合會**

本組合は製靴工業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、商業組合法に依り、事務所を神戸區元町——電話三宮四四九六番に置き、昭和十四年二月二十七日設立認可された。組合聯合會の創立されたのは、翌十五年九月であるが、組合の方が母胎であり根幹であるから、その組合及び役員について記載すると、組合長兼理事長伊藤榮吉、副理事長西門佐市、米田菊二氏であり、理事としては伊藤國松、高橋末吉、大和太七、藤川廣岡崎米次、西島三藏、西畑雄、藤谷信之助、澤村梅太郎、森貝庄太郎の諸氏である。

他に書記長として松原三藏、書記岸本氏等が事務をとつてゐる。

**組合長 伊藤榮吉**

氏の店舗は神戸區元町二丁目一八七番地——電話元町二四八七番であり、頗る繁榮してゐる。氏は組合長兼理事長として、すべてを統率し

てゐる傍ら公共のため孜々としてつくしてゐる。資性溫厚、衆望あり。

**副理事長 西門佐市**

氏は屈指の資家に生れ、原籍は大阪府下豐能勢村である。

實父は橫田萬次郎氏といひ、氏はその男として、明治十七年十一月七日に呱々の聲をあげた。

若くして肚の出來た氏は、神戸でも由緒ある家柄として有名なる西門佐市氏の養子に迎へられたものである。

現在、元町二丁目に盛大な繁榮をつゞけ、大阪心齋橋には支店を置いてゐる。氏は組合副理事長として組合長を輔佐する傍ら、元榮會二丁目町會役員（評議員）等も七ケ年を勤續し、また衞生組合部長として、貢獻するところ甚大で、このため、昭和十六年一月、町會、衞生方面より感謝狀を贈られた。

資性溫厚、現在、東洋百貨サービス株式會社の重役として、令名嘖々たるものがある。

令室はる子さんは貞女の聞え高く、國防婦人會役員として活躍、五男一女に惠まれ、長男佐太郎君は關西學院を卒へ、一月出征第一線にある。

家庭は恒に圓滿多幸である。

**兵庫、西宮市仁川**

**阪神中央靴工業組合**

當組合は靴工業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、工業組合法に依り呱々の聲をあげた。

主なる役員は、理事長橋口重太郎氏、理事澤村重五郎、石本政市、木村善三郎灘本辰藏、大前福太郎、石橋淺太郎、監事吉田久介、阪元義雄、阪元義一の諸氏である。

## 理事長
## 橋口重太郎

當家は近郷の有名な素封家にして、原籍は大阪市東區上本町一丁目であるが、先代市之助は公共のため多大の功をつくした人で、昭和十五年一月八十餘歳の高齢を以て他界した長壽の人であつた。

氏はその四男として、明治二十五年十二月二十日呱々の聲をあげたが、夙に製靴業に從事し、本店及び住所を西宮市仁川に置き、大阪砲兵工廠内には出張所を有するほどの發展ぶりである。

氏は昭和十五年五月當組合理事長に就任したが、夙に聲望あつて、仁川自治會副會長等の要職にも推されてゐる。

資性重厚、百練の手腕を發揮して、その指導にあたつてゐる。

令室おぎのさんも貞淑の聞え高く、五男三女の子福者である。一家旅行やハイクングを好み、家庭の圓滿は近鄉羨望になつてゐる。

因みに氏の令兄幸助氏は、大阪東區上本町にあつて、製靴業を營み、同業の第一組長に推されてゐる。

## 兵庫、芦屋市打出
## 酒類商 西田 源次郎

代々農を以つて業とせるも、尊父德次郎氏の代より、煙草、酒類、米穀商を經營するに至つた。

氏は明治二十二年五月二十二日德次郎氏の長男として生れ、資性溫厚にして實直、勤勉なる努力家として一般の師表として仰がる。早くより父業に專心し克苦勉勵克く今日の大を爲す。一方衆望を負ふて村會議員として二期、部落總代、消防組頭等自治の發展に盡すこと多年、その功績も少なからず、一般の仰慕するところたり。

夫人婦く江さんも亦夫君に劣らぬ國防婦人會の役員として銃後に活躍す。三男二女の子福者にして長男熹君は家にありて父業を扶け、次男正二君は大阪藥學專門學校を卒へ、三男順三君は入營中。

## 兵庫、川邊、園田村
## 飲料組合長 飲食組合長 小松 雅信

時局下料理飲食の衞生施設の徹底、並びに材料の適正入手配給、相互扶助の爲めに斯業組合の運營は益々重要性を帶びるに至つたが、氏は兩組合長として、その圓滿嚴正なる發展に私を洩して盡力なしつゝある人である。常に誠心以て國家統制の規に順ずる態度と、溫厚篤實にして淸廉の人格は公私共衆望極めて厚いものがある。

氏は明治二十八年九月十日高知縣長岡郡本山町に馬太郎氏の五男として呱々の聲をあげ、生家は旅館、魚類商を營み、實父亡き後は令兄が小間物雜貨商を營んでゐるが。氏は少壯にして出鄉、來阪するや森永製菓株式會社工場課に勤務すること實に十六年に及び、退職後、現住地に食堂並に酒類販賣業を經營し、同時に組合事業に專心盡瘁し來れる人で、現に隣保班長等にも推されてゐる。

因に家庭は夫人との間に三人の子福に惠まれてゐる。



## 兵庫、芦屋市桶ノ口町
## 甲南左官業組合

當組合は期業界の統制と材料の共同購入、配給等の圓滿適正を期して、昭和十五年八月十五日設立認可を見たものであるが、爾來理事長以下役職員の協力一致による獻身的な盡瘁によりて、當地方業界に劃期的な一元統制下の圓滿なる運營が招來されてゐる。

現在の役員は、

組合長に福島悅次郎氏、副組合長に齋藤幸一氏、田中貞一郎氏、會計西田松之助氏、下畑石太郎氏、理事藤田宗次氏等が夫々鉄掌して眞摯なる指導推進が行はれてゐる。

## 組合長
## 福島悅次郎

氏は西宮市宮前町の出身、明治二十八年七月六日、先代力藏氏の二男として呱々の聲をあげた。大正五年現住地に於て左官業並に建築材料商を經營するに至り、爾來年と共に盛大を見るに至つた。資性溫厚篤實にして、且闊達大度の風格は、その明敏なる手腕と共に衆望極めて厚きものありて、武庫郡セメント煉瓦小賣商組合常任理事を兼任し、又昭和十六年四月十日認可設立を見た武庫郡左官業組合聯合會の創立に力を竭し、同聯合會長に就任し、業界の伸長に益々精勵する、當地業界の第一人者である。

因に帝國生命保險代理店をなす。

家庭には、夫人との間に一女あり、極めて圓滿である。

尙、令兄喜太郎も西宮市に於て同業に從事し繁榮してゐる。

## 兵庫、揖保、揖保村
## 松原皮革工業組合

本組合は皮革工業の改良發達を計るため、共同の施設をなす目的で商業組合法に依り、昭和十三年四月認可設立したのである。

しかし本組合の由來をたづぬれば、約二十年前に準則組合として結成してゐたのである。

初代理事長瀨戸久藏氏、二代中島儀七氏、三代は現理事長岡田秀一氏である。

現在の主なる役員は、專務理事瀨戸數馬氏、理事桑田虎男、香田勝之、島田淳吉、奥本逸治、浦元傳一の諸氏、監事島田淸一、山田金藏、瀨戸秀義、稻田淳藏會計柳生鶴藏の諸氏である。

## 理事長
## 岡田 秀一

尊父嘉右衞門氏は農業の傍ら、皮革業を始め、現在父子二代にして六十年の經驗を積んでゐる。氏は當組合理事長のほか、村會議員、信用組合理事、隣保班長として村政自治公共のため多大の功勞をつくしつゝあり、

きには區長、學務委員等の要職を歴任して貢獻した。

資性重厚、衆望あり。令嗣純平君も村民の輿望に依り林政に關與せる程の名望家である。代々農を業として、十三代目、即ち尊父嘉吉氏に至り、地主、借家業を有する他、米穀商を業とするに至つた。

令室はつ子さんもまた貞淑にして信望厚く、國防婦人會役員として活躍中。長男純平君とも六男に惠まれ、家庭は幸福である。

氏は◇吉氏の長男として、明治六年十二月二十日の出生。

因みに氏は、明治二十年五月十六日の誕生である。

衛生組合長、宮總代、寺總代等を歴任村治に關して盡瘁貢獻するところ極めて多く

現藥師堂

## 專務理事　瀨戸數馬

代々皮革業を營み百年の經歴を有する舊家である。

實父金五郎氏は八十餘歳の高齡にして健在。氏はその男として明治二十九年一月十九日に呱々の聲をあげ、當組合專務理事として、理事長を輔佐し、專務の一切を處理して信望が厚い。このほか學務委員、村會議員等の要職にあつて功勞が多い。

## 兵庫、芦屋市桶口新田　町會聯合會副會長　高橋文右衞門

高橋家は、實に六百年の由緒を誇る舊家であり、既に祖父文右衞門氏の時代にも村民の輿望に依り林政に關與せる程の名望家である。代々農を業として、十三代目、即ち尊父嘉吉氏に至り、地主、借家業を有する他、米穀商を業とするに至つた。

氏は◇吉氏の長男として、明治六年十二月二十日の出生

時局下の物心兩達に翼贊推進の誠を効してゐる。又縣方面委員たること既に十一年の永きに亘り、功績多大なるものがある。きぬ夫人も内助の功厚く國防婦人會役員等をなし、相携へて公共に盡瘁してゐる。間に長男好一君あり、關大法科を卒へて神戸市役所に奉職して居る。

## 兵庫、西宮市仁川東町
## 甲東料理飲食店組合

當組合は時局下料理飲食の衞生並に材料の適正入手、相互扶助の目的を以て創立されたものであるが、現役員は組合長都築興一氏、副組合長三宅智夫氏、理事平田早苗氏、齋藤知盛氏、篠畑今三氏、會計中島福松氏等の協力指導によつて、組合統制の徹底と國策の線に沿ふ諸種の施策が着々として行はれつゝある。

**組合長　都築興一**

氏は愛媛の出身にして、明治三十一年の生れである。若き時代より朝鮮に在つて諸種の事業に多年關與したが、十年前に歸國し、現地に於て喫茶店を經營するに至つたもので、溫厚篤實にして、眞實誠心の人格と、殊に公共に厚き責性は、現に推されて常組合長たるのみならず隣保組合長として隣保扶助の上にも大きな力を竭してゐる。且、西宮料理飲食組合聯合會總務の要職に推されて、寧日なく業界の刷新と助長に貢獻なしつゝあるが、名實共に當地方業界の重鎭として、その仁德大度の風格と共に衆望極めて厚いものがある。家庭は夫人との間に伊丹高女在學中の長女一人あり、氏の人柄を反映して頗る平和である。因に電話は仁川一八六番である。

## 兵庫、西宮市戸田町
西宮飲料組合聯合會會長
西宮喫茶食堂組合會長
### 岩本林藏
電話一三六六番

氏は丹後美濱の出身にして、明治三十年佐平氏の三男として呱々の聲をあげた。家は代々連綿の家系を傳承せる舊家であつた。

氏は京都府立農林學校を卒業後、大正八年六月舞鶴海兵團に志願し、大正九年鹿取に乘組み、大正十年御召艦として渡英、後、吳海兵團に一年間、之の間高等信號科を受驗、昭和三年海兵團に採用され、更に横須賀にて扶桑乘組三年餘に及び、遂に海軍兵學校、航海科信號教員となり、指導に當ること三年にして海軍を辭し、民間に歸つてからは神戸貯金銀行に六年勤務、合併と同時に退社し、四年前現地に喫茶店を經營するに至つた。氏は常に公共のことに挺身し、その溫厚篤實なる人格と共に信望厚く、現在、西宮喫茶食堂組合長、西宮料理組合聯合會々長の要職にあり、時局下斯業界の統制と組合員の福利增進の爲めに、寧日なき盡瘁を傾注してゐる。更に又町會總務として、貢獻する處大なるものがある。

家庭は、うた夫人との間に一男二女あり、長男は西宮商業に在學中である。

## 靜岡、小笠、掛川町
## 御嶽教城山教會

當教會は、昭和十二年、現主宰者鴨狩垣次氏の創設したものにして、御嶽大神を祭神としてゐる。

月並祭毎月十五日、大祭四月十五日、九月十五日の春秋二季執行。毎日行事として皇軍武運長久祈願祭を行ひ、毎月十日加持祈禱、講話會、また毎月二十三日に當會を開いてゐる。この他、神前結婚式を施行し、毎年夏季御嶽山の參拜をなしてゐる。

信徒七百餘戸を有し、日々參詣者絶へず盛榮を見てゐる。

**主宰者　鴨狩鄕允**

教師名鄕允、大講義。明治四十一年四月十九日、靜岡市御嶽教神聖普通教會鴨狩重次郎氏の二男に生る。少年時代より國體神道を信仰し、兩親及び令兄義胸氏らを教師として教典教義祭式神事一般を修得、昭和十二年靜岡神聖普通教會より當地城山教會に轉じ以來神道の普及に獻身的努力をなしてゐる。

昭和十一ヶ月戰線を馳驅し、勳功を樹てゝ歸還せる步兵軍曹である。

現在は在鄕軍人分會審議員、掛川町青年學校指導員、監視哨長、壯年團副長等の要職に推され、町内の中堅指導者として活躍し、一方靜岡縣神道聯合會東遠副支部として、斯界の發展に多大の貢獻をなしてゐる。

令室和榮さんも神道教師(少講義)にして、夫君と協力して、神道普及に努めてゐる。夫妻とも信仰心厚く、眞摯純誠にして、世の信望を博し、前途の多幸が約束されてゐる。

## 靜岡、小笠、掛川町
## 小笠原自轉車小賣商業組合
電話三六番

本組合は自轉車小賣商業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、昭和十四年二十八日に設立認可されたものである。

出資一口五十圓とし、組合員八十五名を擁する縣下有數なる組合である。

配給所一ヶ所がある。

役員として理事長松田丑太郎、常務佐藤徹太郎、理事角田角太郎、瀧澤正太郎松井與兵衞、鈴木晉平、鈴木正一郎、松田信太郎、松林貞司、監事松田與太郎、柏谷新一、松田馨の諸氏である。

**理事長　松田丑太郎**

氏の家は屈指の舊家にして、先代は公共のためにつくした人として知られてゐる。

氏はその男として、明治二十四年七月十五日に呱聲をあげた。

幼にして大器たるの素質に惠まれた人、責性重厚にして信望厚く當理事長の外、聯合會理事、町警防團長

町會議員二期、商工會役員、大政翼贊會理事等の要職を兼務し、至誠の奉公を致してゐる。

家庭も恒に圓滿である。

## 常務理事 佐藤徹太郎

氏は明治二十三年に誕生し、先代は自治の功勞者として知られてゐる。資性溫厚、衆庶の信望厚く殊に頭腦明敏にして、當組合の發達は氏に負ふところ甚大である。常に理事長を輔佐して、女房役としての職責を完ふしてゐる。

## 靜岡、濱松市砂山町 神理教高光稻荷講社

## 主宰者 松本七十平

本講社は、昭和十五年九月、現社主松本七十平氏の創建に拘り、祭神に天照大神、八百萬神、稻荷大神を奉祀し、月並祭二日、大祭十一月二日に執行し、また日々の行事として皇軍武運長久祈願祭を行ひ、この他、加持祈禱を施してゐる。

氏は、明治十三年本縣濱名郡新津村田尻松本彦三郎氏の五男に生れ、二十歲の頃より名古屋鐵道局濱松保線課に勤務、三十五年間勤續、昭和五年十一月、名古屋鐵道局より表彰狀を受領した。

鐵道局退職後、國體神道に熱烈なる信仰を捧げ、また、令室くらさんも大正十年頃より入信、堅固の生活をなし、現在は共に神道敎師として、民心の敎化、神道の弘布に努めてゐる。

長男彦二氏は、名古屋鐵道局車掌を勤務、同氏令室、令孫親二君、鐵男君、京子さん等がある。

## 靜岡、引佐、氣賀町 御嶽敎御鏡講社

## 主宰者 縣新平

當敎會は、明治四十年三月、現主宰者縣新平氏の創建に拘り、祭神に御嶽大神を祀つてゐる。

月並祭每月九日、大祭四月九日の二回、每年六月御嶽大神登山參拜を行ひ、既に三十餘回に及ぶ。この他、皇軍武運長久祈願祭をなし、また加持祈禱を施してゐる。

信徒五十餘名を有し、何れも熱心な信仰者揃ひである。

明治四年三月十一日、尊父熊五郎氏の長男に生る。同二十年頃より神道の信仰に入り、神道敎師として五十年間神に仕へ、これが普及に專念し同四十三年開明靈神として祭られる。現在御嶽敎議員として、斯界に重きをなしてゐる。

昭和十五年二月、陸軍大臣より表彰狀を受領、また國防獻金により、豐橋聯隊區より感謝狀を受領し、更に氣賀町出征軍人各戶の武運長久祈願祭を施行し、帝國在鄉軍人會より感謝狀を受領した。

資性謹直端正、和雅達熟、當年七十一歲の高齡なるも學識深く、世の信望篤い稀れに見る神道敎師である。



## 靜岡、富士、富士町 富士郡自轉車小賣商業組合

本組合は事變勃發以來、一大難關に遭遇せる當富士郡下自轉車小賣商業界を、統制經濟に卽應せしめ、自由主義經濟から完全に脫却して、斯業の健全なる發達を通じて、新東亞建設の一翼となり、大政翼贊の臣道を全せんことを期して、昭和十四年十二月十四日認可設立された。

主なる事業は組合員の必要とする各種資材の配給であるが、共同販賣事業も着々と進展中で、事業は全般に亘つて、極めて好成績を收めてゐる。

加ふるに業者の支援も甚だ熱烈で、組合員數も急速に增加し、現在では七十七名に上つてゐる。

役員は理事長小池孝正氏を始めとし、常務中野萬太郎氏等々、何れも業界に卓々たる人材で、夫々組合の發達の爲に眞摯な活躍をつゞけてゐる。

## 理事長 小池孝正

氏は明治二十七年十二月十二日に出生した。

業界切つての手腕家で、多年業界の發達の爲に活躍してゐる。

從つて事業も頗る好調に進行しつゝあり、本組合は當地業界の中樞推進力となつて、一路產業報國に邁進してゐる。

役員は理事長渡邊秀吉氏以下、理事、監事は何れも業界の人材揃ひで、自由主義經濟時代の觀念から脫却して、新たなる商業道德の實踐に、烈々たる熱意を有する人達である。

組合事務所の所在地は島田町七丁目八三七八番地である。

## 靜岡、志太、島田町 志太郡自轉車小賣商業組合

本組合は時局に則應し、統制經濟下の自轉車小賣商業の改良發達を圖るために昭和十四年九月十六日認可設立されたものである。

設立以來、業者の壓倒的支持を得、組合加入者は急速に增加し、現在では組合員一二一名に達してゐる。

## 理事長 渡邊秀吉

氏は明治二十七年四月十三日に出生した。

氏は、當地方に稀に見る人格者であるが、その溫厚篤實な風格の半面、高邁なる識見と强靱なる實踐力の所有者である。

業界には早くから活躍して、功績があり、種々の要職を歷任して、業界に重きをなしてゐる。

本組合の設立に際しては、寢食を忘れて、東奔西走した。而して理事長に推されるや、超非常時局下の業界の運命を双肩に、私事を擲つて、組合の發展に盡瘁して今日に至つたものである。

組合内には勿論、近隣に名聲が高い。

**靜岡、清水市入江大曲**

**清　水**　洗染クリーニング商業　**組合**

本組合は洗染クリーニング商業の改良發達を計るため共同の施設を爲す目的で昭和九年十二月二十八日に設立認可を申請し、同十年四月四日に認可されたのである。

現下時局重大なる折柄、組合員各自がその使命に向つて猛進し、幹部はその指導に大童になつてゐる。

役員としては、理事長村田太十、常務理事內山萬藏、理事森惣作、大川六十郎府川清司、渡邊米藏、監事藪崎正次、府川戶作、山崎正次の諸氏である。

**理事長　村田　太十**

氏の家は屈指の舊家にして名望の家柄である。

先代は家業の傍ら、産業自治の功勞者として知られてゐる。

氏はその男として、明治三十年四月二十五日に呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦衆に秀れ、將來の大器として嘱目されてゐた。

家業に從事しても勤勉にして日夜その發展と改良に心を碎き、あらゆる困難を克服して今日の大をなすに至つた人である。

資性重厚にして信望篤く、清濁合せ飲む度量の持主として部下に慕はれ、人に立てられる材である。

當理事長としても一貫せる信念と大いなる理想を以て指導し、その他縣洗染クリーニング商業組合の副理事長として、また縣商工更生委員としても、至誠の奉公を致してゐる。

家庭またその人格を反映し、恒に明朗である。


東京婦人子供服卸商組合指定商
東京婦人子供服商組合指定商
新案時許折疊洋服函
新案特許トランク型洋服函製造元
新案特許折疊帽子函製造元

**大井紙器製作所**

所主　大井儀一

工　場　東京市本所區堅川町二ノ一〇
電話本所(73)七八三六番

神田工場　東京市神田區豐島町一〇
電話浪花(67)三二二八番




**靜岡、清水市島崎町**

**清水庵原**　印刷製本工業　**組合**

本組合は製本工業の改良と發達を計るため共同の施設をなす目的で、昭和十五年十二月十四日に認可されたもので、前には庵原印刷工業組合としてあつたものを改組したものである。

現下重大なる時に直面して、組合員各自はもとより、幹部は日夜孜々として、その使命達成のため努力し、あらゆる困難と戰つて、遂ひに縣下でも有數なる組合に仕上げたのである。

役員としては理事長磯田長作、副理事長西具眞吉、專務理事神谷與助、其他の諸氏である。

專務　神谷　氏

**理事長　磯田　長作**

氏の家は屈指の舊家にして名望の家柄である。

**副理事長　西具　眞吉**

氏は有名なる人格者にして、清濁合せ飲む度量の人として部下に慕はれ立てられる人である。當組合の發展は專務理事神谷與助氏とゝもに氏の功勞に感謝してゐる。

尙氏はこの外、町內會副會長の要職にあつて百練の手腕を揮つてゐる。

**靜岡、榛原、相良町**

**榛原自轉車小賣商業組合**

電話一四四番

先代は家業の傍ら、公共のため功ある人として知られてゐる。

氏はその男として明治二十一年二月十八日に呱々の聲をあげた。

幼にして大器の素質を備へ、その將來を期待されてゐた。

資性重厚にして信望篤く、當理事長の外に商工會議所議員、中駿印刷組合長、江尻警防團部長、志茂町會長、其他數々の要職に推され、恒に一貫せる信念と遠大なる理想を以て團體を指導してゐる。

一家圓滿にして、幸福なる家庭の人である。

本組合は、縣當局の奬勵により、平野梅太郎、河原崎寅十、加藤善作、瀨木松平、坂本治吉、大石風一氏等の主唱發企によつて結成、昭和十四年十月創立總會を開き、同五十年十二月認可され、今日に至る。

郡內一圓を區域とし、七十餘名の組合員を擁してゐる。

主なる事業は配給統制、共同購入をなすにあるが、物資缺乏の折柄、各役員は取扱品の入手に懸命の努力をなし、組合の圓滑なる運營を圖つてゐる。

**理事長　河原崎寅十**

明治二十七年の生れにして、現在靜岡縣自轉車商業組合理事、區會議員等に推されてゐるが、その理事長たる當組合の運營については全力を擧げて盡瘁してゐる。

常務理事に平野梅太郎氏が就任して、河原崎理事長のよき協力者として、目覺

しい活躍をなしてゐる。この名コンビは益々組合を強力なるものに發展せしめつゝある。

### 東京市神田區松住町
## 東京府豆腐商業組合聯合會
電話下谷四四三九番

本會は會員相互の聯絡協調を保ち、併せて豆腐揚商業の改良發達を計るため共同の施設を爲す目的で、昭和十五年八月十九日に設立したものである。

地區は東京府一圓とし、その地區內に於ける豆腐關係の商業組合を以て組織する。

事業として、其の取扱商品は、大豆、油、純綿濾過布、其他營業用品の仕入又は斡旋を爲すこと、營業に關する統制を爲すこと、組合及び組合員の紛議の調停を爲すこと、營業に必要なる貸付等である。

組合の機機に參劃する幹部は理事長吉野金次郎、副理事長小竹定一、土橋幸平專務理事春日綏治、常務理事若月市郎、山本清治、理事佐藤佐吉、杉村松太郎、長尾諒、小田定次郎、高橋今朝三郎、松野平三郎、籠宮勘五郎、村山小市郎、川面由太郎、野末一、間宮清治、關晉松、安西信、下谷勇藏、監事大西政吉、關根英司、川名寅吉、千村芳太郎、富永瀧藏の諸氏である。

### 理事長 吉野金次郎

氏は幼して頭腦衆に秀れ、悠容として追らざる態度は夙に大器として囑目された。その家業に於ても精勵にして格勤、その財を一層大ならしめ、今日に至つてゐる。資性重厚にして內外の信望を集め、恒に一貫せる信念を以て至誠の奉公を致してゐる人格者である。

### 東京市京橋區室町（素の素ビル）
## 昭和電工株式會社
電話京橋一五二番

本會社は、大正十五年十月の設立にして、以來目覺しい發展をつゞけて、今や時局下わが金屬工業界の雄として活躍し國策の具現化に貢獻してゐる。

主なる事業は、アルミニケル、鐵合金、硫安、石灰窒素、加里曹達、その他肥料類、化學工業機械、鑛山機械、その他の機械製作販賣をなしてゐる。

工場を興津、館山、樺太、廣田、鹽尻、橫濱、大町、秩父、小梅、松本、川崎、朝鮮等に設置して、生產能力の擴充に努めてゐる。

大株主は東信電力、森興業、第一生命、石原產業、高橋商事、第一徵兵、日本生命、安田銀行等にして、投資會社は東信電氣、森興業、昭和鑛業、昭和火藥、昭和合成化學、日本油化、日本發送電、帝國燃料興業、日本硫黃等である。

なほ當會社は、昭和十四年六月、昭和肥料と合併增資して、現在の昭和電工と改稱したものである。

主なる重役は、社長鈴木忠治氏、專務取締役佐野精一氏、同石渡吉治氏、常務取締役米村貞藏氏、同安西正夫氏、工場長（川崎）は中村健治郎氏である。

### 社長 鈴木忠治

氏は、「味の素」鈴木商店の社長であることは、世に熟知されてゐる。明治八年神奈川縣に生れ、橫濱商業學校卒業、「味の素」の創業は、



明治二十年汎度の製造に始まり、爾來氏は、尊父三郎氏と共に、業運の發展に刻苦精勵し、ついに同四十一年合資會社鈴木商店となり、更に大正六年資本金三百萬圓の株式に改組擴充し、かくて堂々今日の覇業をなした。

昭和六年尊父逝去と共に代つて社長となり、昭和九年に紺綬褒章を賜つた。產業日本の代表的人物にして、また財界の傑物として知られてゐる。

### 京京市京橋區晴海町
## 市立京橋實業學校
電話京橋一五〇三番

本校は、實業學校令及び商業學校規程により、商業に從事する者に必要なる知識技能を授くると共に、國民生活に須要なる教育を施し、その德性を涵養して、皇運發展に竭さしむるを目的としてゐる

昭和十四年四月四日設立を認可され、同年四月二十一日、築地尋常小學校を假校舍として開校、同年五月十一日、第一學年二學級百八名の生徒を收容して授業を開始した。ついで同十五年十一月現在の所に校舍を新築して移轉し、今日に至る。

修業年は五年限、昭和十六年四月より修業年限四年の一部（晝間）、二部（夜間）を新設して、高等科卒業生を收容することゝなつた。

施設經營として、修養指針に

一、常に此國土に生れたるを光榮とし擧國の精神を體して、日本人たるの自覺を鞏固にして報恩の誠を致すべし

二、自信なき者には勇氣なく、實行力も亦乏し、眞理と體驗とに基きて信念を培ひ、獨往邁進の氣宇を作振すべし

三、業の尊き所以は、皇運を扶翼し奉にあり、日常の些事も能く國本に繫ることを悟り、和衷協同して實績を收むべしを高持して訓育練成に努めてゐる。

特殊施設として、勤勞作業を課してゐる。卽ち府下北多摩郡神代村下仙川に五千坪の農園を設置し、生徒各自一ケ月一回以上の農耕作業を行はしめ、敬神崇祖の精神を振作すると共に、心身鍛鍊、堅忍持久の精神涵養、生物愛護心並に感謝の念の體得に資し、また國策に順應し、一致團結、興亞大業の完成に邁進する氣宇を養成する目的を以て、生徒規約貯金を實施し、各自の勤勞節約によりて得た金額十錢を每月貯金せしめてゐる。

現教職員は、校長金子源三郎、鈴木克毅、原田與三郎、田中清三、佐橋秀次郎齊藤越郎、橫島敏、獅子倉千代治、永山登（書記）、大倉德光、大平駒一郎、前田忠吉、中垣秀吉、河本道三、丹羽直（校醫）、八木林平、土屋昌三、南京耕、柳田賢正氏の諸氏である。

### 校長 從五位勳六等 金子源三郎

氏は、明治二十四年一月八日の生れにして、一橋高等商業學校養成所卒業、開校當時、市立淺草高等實踐女學校長たりし氏は、當校々長事務取扱を命ぜられ、同年五月校長に任ぜられ今日に至つてゐる。

資性眞摯溫雅の人格者として、校の內外に信望が篤い典型的教育家である。

### 東京市中野區高根町
日本綿スフ織物工業組合聯合會常任理事
## 名倉一巳
電話中野三八六三番

氏の家は代々愛知縣に住し、屈指の舊家として、由緒ある家柄として、有名である。

實父田中佐七氏は剛腹果斷の人にして産業自治のため多大の功をつくした人として知られてゐる。

氏は、その二男として明治二十二年五月二十五日に同縣幡豆郡一色町に於て生れたが、前記名門名倉家の養子となつて今日に至つた。

氏は生れながらにして大器たる素質に惠まれ、最初の勤務先として官界を撰び愛知縣碧海、中島等の各郡書記、縣屬、地方商工主事、愛知縣經濟部商工課勤務等に於て、日夜、かげひなたなく働き、幾多の困難な問題に遭遇しても常に不屈不撓、遂ひに同輩をぐん〳〵抜いて、昭和十三年には地方事務官に任命せられ、同年十二月に勇退ししたのである。

資性重厚、衆庶の信望頗る厚く、常時日本綿織物工業組合聯合會が非常な困窮の狀態にあつたのに自らその常任理事となり、果斷なる處理を行ひ、その改良と發展に腐心し、遂ひに今日の盛大を導いたのである。

非常に事務的才幹に惠まれ、宗教としては佛教を奉じ、繪畫、讀書、旅行等を趣味とする圓滿なる人格者である。

令室よね子さんまた貞女の聞えあり、五男一女に惠まれ、家庭は恒に團樂の笑聲に滿ち、近隣羨望の的である。

## 奈良、宇智、宇智村

## 五條酒造株式會社

電話五條七九番

當會社は大正十三年一月、中元藤浩、古川浩平、芳本岩太郎、中堅久郎、阪本純氏等を發起人として設立したものである。

吟釀酒は、神秘の聲、五神、純菊の三種であるが、現在は時局關係で、神秘の聲、純菊の二種は、釀造を自發的に差控へてゐる。

大日本釀造協會近畿支部より賞狀を受領し、また奈良縣、その他からも多數賞狀を授けられてゐる。

販賣先は鐵道省購買部、京阪、京濱地方及び縣下各地に及び、芳醇な銘酒として世に聲名を博してゐる。

現重役は、取締役社長佐伯喜一郎氏、專務取締役中元藤俊氏、取締役須山順輝中田瀧藏、丸井要五郎の諸氏、監査役吉岡大吉、三木寅之助氏、杜氏は水林誠二氏である。

非常時局に處しては、國策に即應して公益優先の新體制商道を堅持して、事業の圓滑なる運營に、社内一同、一致協力して努力してゐる。

### 社長 佐伯喜一郎

氏は、慶應元年、大和國法隆寺村に生れた。

社長に就任以來、社運向上發展に懸命の努力をなし、著しい業績を擧げて社の内外に信望を蒐めてゐる。

一方、宇智酒造組合評議員として、斯界の發展に盡力してゐる。その資性たるや、眞摯篤厚にして、經營の才に長じ、而も時代に對し明識を有つ人柄である。



## 東京市王子區王子町

## 王子製紙株式會社

我國製紙界に君臨し、その內容の優秀と絶體的な製品の市場性は余りに有名であるが、當社は明治六年二月の創立にして、日本文化の進展と共に擴充發展し來つたもので、製紙業界に卽せる巨大な業績と共に間接的な日本文化殊に出版文化に及ぼせる功績は絶大なるものと云ふべきである。

營業種目は各紙種に亘り、その原料パルプ、人絹用パルプに迄及んでゐるが、現在の公稱資本金三億圓、拂込二億二千四百九十九萬四千圓、株券は舊株（五〇圓株）二百九十九萬九千七百六十株、新株（二十五圓株）三百萬二百四十株である。投資會社は王子證券、日本人絹パルプ、朝鮮製紙化工業、北海電氣、樺太鑛業等にして、現在擴張に相當の力點を置き、自社新工場建設計畫の外に、投資會社として、日滿、山陽各パルプ會社の新設、北鮮製紙第二期計畫及電力、朝鮮林業、南洋植林事業等の企畫が遂行されてゐる。近年紙業界の統制と品不足は當社業績の上にも相當影響を及ぼしてゐるが、業績順調にして、資材回轉も著しく昇上し、資產內も亦益々含蓄を加ふるに至つてゐるが、今後貿易統制の强化は、パルプの增產に迫られ、一層成績の向上が期待されるにに至つてゐる。

本社事務取扱所は麹町區有樂町三信ビルにして、電話は銀座五五〇一番、五七三一番である。

## 東京市淺草區三筋町一

## 皮革製造 五藤商店 五藤常光

電話淺草一六六一番

當店は、昭和十年の開業にして、專ら蛇革を取扱つて來たが、最近の戰時統制により、これを中止して、現在は代用皮革の製造販賣に轉じ、ベアーカーフ、レザー、パラマウンド・ハイドラックス等を主として製造してゐる。

ハイドラックスは、優秀な人造皮革にして、多く鞄に用ふるものであるが、今や斯界の寵兒として聲名嘖々たるものがある。

當店は開業以來、未だ日淺いにも抱らず、業運順調に發展して、代用皮革一方の雄として竭つてゐる。

氏は、眞摯篤厚にして、經營の才に長じ、而も時代に對し明識を有つ人柄であり、業界の麒麟兒と謳はれ、確乎不拔の地步を築いて、世の信望を蒐めてゐる。

## 奈良、宇智、野原町

## 警防團長 廣田寅雄

氏は野原町に於て農を家業とせる先代小松寅吉氏の五男として、明治三十一年一月十日の出生にて、大正七年兵として伏見輕重兵大隊に入隊し、輕重兵伍長に任ぜられ善行賞を下賜されたる努力家である。大正十年三月同町酒醬油販賣業廣田和吉氏の長女ヒロノさんの女婿として入籍し、養父死去と同時に家督を繼承した。

因に氏の實家は同地の名望家として聞

え亡父、亡兄何れも村會議員、町會議員に推されて、村治に關する功績はまことに顯著なるものがあつた。

氏は現在警防團長、翼贊會宇智郡協力會理事、町哩事、公益質屋主事、銃後奉公會常任理事等の要職を兼任し、日夜間斷なき努力を續けてゐる。

警防團の運營の成否は、國土防衛、國家資源の警保に重大影響するものとして各員一致協力し、警防團存立の主旨を忠實に遵奉し、以て銃後治安の確保に任ぜんことを期してゐる。

氏は資性質實にして剛健、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、各方面の德望は極めて厚いものがある。

家庭にあつては、夫人ヒロさんとの間に三男三女を惠まれ、和氣靄々たる生活を營まれてゐる。

## 東京市本郷區駒込神明町
## 天理教吳服橋分教會

天理を教旨の第一義とする天理教は、今日全國に五百萬の信徒を擁してゐるが同教が世に出現した半面には、並々ならぬ苦心と努力の伏線があることは言を俟つまでもない。

教祖おみき女史の血の苦心は、識者の悉知するところである。また各教會、或は分教會、宣教所にしても同じことである。而して奇蹟的事實の存在することもまた見遁せない。

その事例の一つを常分教會に求めることが出來る。

常分教會は、先代齋藤きよ女史の創立したものにして、同女史は慶應三年一月千葉縣印幡郡下の舊家齋藤仁助氏の長女に生れ、三十歳の頃肺患に罹つて第三期の重患に陷ち、死に直面して、天理教の信仰に入り、當時千葉支教會長鈴木氏の教をうけるやうになつてから、數ケ月にして奇蹟的に全快した。

以來益々天理教を深く信じて、一身を天理教に捧ぐる決意を固めた。

この奇蹟は近隣の人々の知るところとなり、同女史を中心として集まるもの次第に多くなり、のち獨立して吳服橋宣教所を設立、次いで分教會となつて、今日に至る。

同女史は、天理教學校第三十四期卒業生にして、六、七年前逝去した。

### 主宰者 齋藤又五郎

氏は、先代齋藤きよ女史の長女の婚として同家に入り、きよ女史沒後、その後を繼いで當教會の經營に當り、現在は部下三ケ所、集詰所十四ケ所を有し、隆盛を極めてゐる。

宮城前及び橿原神宮の勤勞奉仕、また陸軍病院に傷病將士の慰問等を行ふなど社會活動をなして、世の信望を高めて居り、なほ氏は、東京市長より貯金奬勵委員に任ぜられて盡力してゐる。

令室きみ子さんも天理教師にて、夫君に協力して教育の普及に、社會奉仕に勵げんでゐる。

竹田政次郎
滋賀・相良・瓶原村



東京市日本橋區室町一丁目
株式會社 三越吳服店
電話(代表)日本橋三三一一番

わがデパート界の王座を占むる三越は吳服店越後屋から三井吳服店にかはり、さらに明治三十七年十二月、株式組織に改めて、現在の三越吳服店に改稱し、創業約三百年の古い歷史を有つてゐる。

今日の三越の礎石は、高橋義雄氏によつて築かれ、日比翁助氏によつて完成されたといひ得る。高橋氏は、三井吳服店時代から理事として、これが經營に當り紺暖簾を棄てゝ大改革を行ひ、いまのデパート式を實施した、斯界の先覺者であり、指導者である。日比氏は、前鐘紡社長武藤山治氏や、もと富士紡社長和田豊治氏等と同期の三田塾出で、堀越角次郎氏の吳服店を經て、三井銀行に入り、ついで三越に轉じた手腕家である。營業方針は、飽くまで健實にして、上流社會に多くの顧客を有し、世の絕大なる信望を博してゐる。

事業規模は、東京本店に支店を市內の新宿、銀座に置き、更に大阪、神戶、高松、仙臺、札幌、京城、大連等に設けてある。

大株主は三越愛護會、二幸、東橫電鐵阪神急行、益田弘、藤村兼太郎、晩成商業、藤原合資等である。

現重役は專務取締役北田內藏司氏、常務取締役櫻井信四郎氏（大分縣人、明治十二年生、明治三十一年慶應義塾卒、昭和十年入社）同能勢昌雄氏（京都府の人、明治二十六年生、大正五年慶應卒、大正十三年入社）取締役中村利器太郎氏（新潟縣人、明治五年生、明治二十二年慶應卒、明治二十九年入社）、同幾度永氏（長崎縣人、日本法律學校卒、明治四十二年入社）、同飯野三一氏（群馬縣人、明治十年生、同二十三年入社）、同豊泉益三氏東京府の人、明治十二年生、同三十八年紐育インステーション・ウインドトレーミングスクール卒、明治四十二年生）監査役林市藏氏（熊本縣人、明治三年生、同二十九年東京帝大卒、昭和二年入社）、同外山知三氏（東京府の人、明治十二年生、同三十五年慶應卒、昭和十四年入社）等である。

### 專務取締役 北田內藏司

氏は、明治十六年千葉縣に生れ、同三十九年慶應義塾卒業直ちに三井物產に入り、のち藤本ビルブローカーに轉じ、更に同四十三年千代田組に勤め、以來大正四年まで大阪支店長として敏腕を揮ひ、辭職して歐米視察をなし、歸朝したのが大正五年、朝吹英二氏の紹介で三越に入り、洋服部主任としてデパート界に第一步を踏み出し、以來秘書課長兼人事課長を經て大阪支店長となり、大正十二年取締役に進み、關東大震災後本店復興に奔走、寢食を忘れて奮鬪した、その一段落がつくと取締役兼本店營業部長に就任、更に昭和二年常務取締役に昇進、ついに現在の專務取締役の要職に就いて大三越を一双肩に背負つて立つに至つた。デパート界の權威、三越の至寶たる存在をなすに至つた。

東京市京橋區銀座三丁目
株式會社 松屋吳服店
電話(代表)京橋三一一一番

當松屋は、五大百貨店中、比較的創業

が新らしい。即ち先代の古屋德兵衛氏が甲州から横濱に出でゝ鶴屋呉服店を興しついで明治二十二年東京進出を企て、神田鍛冶町の松屋呉服店を買收して開業したのに創まつてゐる。震災前まで同所で營業をつゞけて來たが、のち株式組織に改めて銀座に根據を据え、以來銀座名物の一つとして數へられ、伊藤松阪屋といゝ對照をなし、日々十萬人の客を吸收するといふ盛榮なる繁榮振を示してゐる。

營業方針は、どちらかといへば華やかで、生氣潑剌たるものがあり、上流社會の顧客が多い。

現重役は、古屋德兵衛氏（明治四十四年生、昭和八年東北帝大卒業）を社長とし、常務取締役は古屋惣太郎氏（明治四十二年生、昭和六年東京帝大卒）、同山本龍造氏（明治二年生、山梨縣人）取締役若尾鐵之助氏（明治二十二年生）、同太田清藏氏（文久三年生、福岡縣人）同細田武雄氏（明治二年生、山梨縣人）、同小松視次氏（明治九年生、山梨縣人）監査役は吉川彌助、大濱喜一郎氏である。

大株主は古屋合名古屋德兵衛、古屋惣太郎、德榮會等である。

支店は横濱、淺草、今川橋等に設けてある。

## 東京市深川區平野町

パーム製造業　**大畠　彌作**

電話本所二四二九番

氏は、三重縣志摩郡長岡村國崎の出身にして、二十歳の折、固い決心を抱いて出京、四、五年の間準備を整へ、三十年前より現在の所に齒朶パーム製造業（タワシ類の製造）を創め、爾來起伏變轉凡ゆる苦難を百折不撓の熾烈な意氣を以て克服し、拔進不拔の力闘をつゞけて基礎を固め、漸次業運展け、隆盛に赴きつゝあつたが、原料を印度方面より輸入するものを使用してゐた關係から、這般の資金凍結のため、これが輸入杜絶となり、事業が停頓狀態におちたので、代用品を使用して、局面の打開に全力を傾けたが思はしく運ばないので、目下日夜研究を重ねてゐるから、やがて光明を見出すであらうことが期待される。

家庭には令室との間に一男一女を惠まれ、長女は目下女學校在學中にて、何れもよき素質に惠まれてゐる。

## 東京市深川區住吉町

**三和伸鐵株式會社**

電話本所五一三〇番

本社は昭和十三年十一月の營業開始にして、爾來內容の充實に、且つ堅實なる經營方針に依り、其の業績は頓に進展の一途を辿り、今日壁界に於て何等遜色なき一個の會社として存立するに至つた。かくて現時局下に處し、其の國策に順應した政策の下に、よく業務の處理に萬全を期し、併而一糸亂れぬ統制と、確固不動の完璧の下に、全重役自ら其の衝に當つて全員の意氣を鼓吹して、能率增進、併而優秀品の製作に腐心し、今日の實質的隆盛と、搖がざる大磐石を築くに至つたのである。

現重役には代表取締役に淨圓寺信一氏を推戴し、取締役に河田務氏、中谷保氏山田金次郎氏が就任、監査役として松本實則氏、佐藤虎吉氏が其の席を占めて、本社今日の地位を獲得するに至る迄の辛苦努力は勿論、現在に於ても日夜東奔西



走、實に目覺しき活躍は、その將來の確實なる發展を約束されてゐる。

## 代表取締役　淨圓寺信一

氏は明治三十年一月六日北海道に於て生る。

號を啓之とも云ふ、而して當三和伸鐵株式會社が昭和十三年十一月營業開始に至る迄、之が創立に際しては、全く文字通りの東奔西走、日夜を分たぬ努力を拂ひ、其の成果を收めるに至つたものであるが、其の間に於ける氏の辛苦は全く目覺しきものがある、かくて愈々營業を開始すると共に代表取締役の要職に就任し以後營々として勤勉努力、本社が今日の確固たる業礎を築き　斯界に肩を並べて遜色なき業績を獲得して其の名を知らるるに至つた氏の特異的手腕と、技術的蘊蓄は遂に其の成果を招來するに至つたものである。

氏は全く事業家肌の士で、非常に細密なる頭腦の持主であり、又反面剛腹なる所があり、極めて人を使する德が在つて其の統制振は他に見る能はざるものがある、且つ堅實なる經營方針は益々將來の進展を約束づけて居ると言ふも過言ではなく、氏を中心として各重役並に一工員に至るまで一致協力、日夜奔走してゐる本社の雰圍氣はかくあらしめた氏の精神的反映とも云ふべきである。

## 東京市中野區新井町

輸血法研究所長　**前川　雄**

電話中野四六八八番

氏は明治二十年三月十三日東京府に出生した。夙に志を醫學界に樹て獨學力行を續けること多年、明治四十三年には醫師檢定試驗に合格し以來は結核菌に就て粒々辛苦の研究に精勵し、遂に內科治療醫學の大轉向たる內科學的輸血法の創意完成、免疫治療法の理想境の創意完成を遂げ現住所に輸血法研究所を設置して現在に至つた。

即ち前川氏の主なる業績は、向臟器毒性を絶無たらしめ從つて向病原微生物殺減性を極大となり得ることの創意に拘はり、延いては諸多の細菌傳染病の即時的治療法の發見であり、第一に、結核豫防接種法の完成により前川氏結核免疫元の創製、結核病治療法の完成により高値結核免疫血清の創製、體制體質强化法の完成に依る前川氏汎細胞刺戟元の創製があり、如上は孰れも日滿英米獨佛專賣特許出願中である。第二は體質病理醫學決着の曙光、即ちホルモン束各異產生糸統、秩序失調症復元法の創意により例へば喘息、バセドウ氏病、糖尿病、尿崩症、粘液浮腫型質諸多の發育異常症、皮膚白斑症、表皮角化症（鮫肌）老人斑等の根治法の發見、及び神經系陳久麻痺症及び同上失調症等の恢復法の發見、大腦生理機能の昂揚法、例へば精神耗弱症、ヒステリー症等の恢復法の發見、大腦組織實質疾患の恢復法の發見　例へば或る種の低腦質症外傷性ジヤクソン氏癩癇腦炎及び腦溢血後の皮質及び核萎縮症の恢復法の發見、或は人類の體位體制向上法の完成に依る徹底的なる人體若返り法の創意完成幼少壯年者の體制榮養に關する內因の逡速なる向上法（變質强壯法）の創意完成及び美容漂白醫學の完成により皮膚色素メラニン溶消酵素メラノリジンの創製、鮫肌、色黑、なまづ、そばかす、にきび等の根治法の發見、皮膚科學上に於て治療法を有せざる陳久性諸皮膚疾患の恢復法

の發見、例へば頑癬、慢性濕疹、固定性蕁麻疹、鬚瘡、蕁瘡、圓形禿髪症等々の治療法の發見であり、第三に榮養病理醫學の決着として、諸多の榮養失調症等の即時復元法の創意完成である。

要之に全身組織細胞の生活力（精神力、神經力、筋肉力、その他すべての臟器生活力）、昂揚醫術（注射法）の創意完成にほかならない。

氏は右の事業完遂に當り超人的の努力を傾注して日本醫學界に革命的貢献を致さんことを期されてゐる。

氏は資性謹嚴にして重厚、識見手腕兩全の人格者であり、醫學界、賢哲有識人士の注目するところである。

### 東京市王子區王子町

FKS工業所
代表者　藤平　重雄

氏は愛知縣士族尊父重次氏の長男として、明治四十二年七月十六日吳市に出生した。

又當家は愛知縣下に於て日蓮宗の開祖日蓮上人の後裔として著聞せる名門である。

重雄氏は廣島高等師範學校附屬中學を經て上京し、昭和七年早稻田大學應用化學科を卒業、直ちに昭和護謨株式會社に入社し誠驗室に於て研究し、後壽工業株式會社試立に參畫して設立と同時に同社技師長に就任せられ、社運の興隆に貢献せるところ少なくなかつたが、昭和十二年十二月現第一工場所在地たる東京市本所區小梅町にFKS工業所を獨立創業し現在に至つた。

この間氏の不撓不屈の研鑽に依りゴムより薄膜狀物の製造法、鹽酸化ゴム氷嚢製造法、ゴムヨリ薄膜狀の物質製造法に於ける反應促進法、耐水、耐酸、耐アルカリ性を有する薄膜狀物質を以て各種製品の製造法、漁業用絲條の製造法、ゴム加工機等の發明を完成し何れも專賣特許を得てゐる。

即ち當工業所は如上の製品の製造販賣に當り、着々たる業績を擧げ、品質の優良なると相俟つて需要家の好評は茲大にして、その販路は內地全國はもとより遠く大陸にまで及んでゐる。

氏は溫厚にして篤實、技術家肌の人格者であり、該博なる智識と共に業界の推服するところである。

氏は又敬虔なる信仰家として深く日蓮宗に歸依してゐる。

家庭には母堂トミさん尙健在、令姉與志さん、令弟重之さんと水入らずの生活を營まれ、春風堂に滿つるの感がある。

趣味は讀書、旅行、スポーツ、音樂と聞き及ぶ。

### 東京市王子區上十條町

## 日本加工製紙株式會社

當社はアート紙の生產を以て我が國斯業界に品質の優秀を以て聲價大なるものがある、近年アート紙は內需の抑壓と輸出の振興に努め來つたが、對外關係の變動は斯業界に相當前途を杞憂されたが漸次沈靜して、回復市況を呈しつゝあるも前途は未だ豫測出來得ない狀態に在る、而し當社の堅實なる市場對策と工場操作はいかなる狀態に對しても、搖がざる基礎を持つものと云ふべきである。

昭和十五年下期に於ける、業界の迷暗時にも相當の成績を擧げて、その安全感を大ならしめてゐる。



資本金は百五十萬圓全額拂込濟として昭和十五年下期の第四十八回營業報告によれば總利益金二十八萬一千餘圓を計上し、固定資產償却に三萬圓をさき、法定積立金二萬圓、別途積立金三萬圓、使用人恩給基金一萬八千圓、重役賞與一萬五千圓、株主配當八萬二千五百圓（年一割一分）稅引當金六萬圓、前期繰越金二十四萬七千六百二圓四錢、後期繰越金二十七萬三千二百十三圓九十七錢となつてゐる。

現在の重役は、取締役社長高島菊次郎氏、專務取締役井口誠一氏、取締役田中榮八郎氏、長谷川太郎吉氏、井上憲一氏山田元太郎氏、監査役藤野總一郎氏、山本留次氏、小林正一郎氏が夫々就任してゐる。

### 東京市王子區上十條

## 日本擬革製造株式會社

當社は吾が國擬革製造界に君臨し、現下日本皮革代用品の需要著增に乘つて、その創立は尙淺きに不拘顯著なる成績を擧げ、その將來性に安固たる基礎を築きつゝある、資本金三百萬圓二分の一拂込濟にして、赤羽工場、高槻工場何れも運轉狀況概して良好にして、板橋工場も工事完成を俟つて、愈々本格的運轉を見んとなしつゝあり、昨年末の公定價格決定前の實行停滯も一時的現象に止り、市況恢復して、好調を續けてゐる爲に、當社の將來も益々有望視されるに至つてゐる尙昭和十五年七月十七日重役會の決議によつて、板橋工場內にレザー工場創設高槻工場隣接土地買收を行ひ、同年七月二十二日富山縣八尾町に和紙抄造工場買收八尾研究所となし、同年九月三十日王子區志茂町東京ゼラチン研究所を買收し志茂町研究所となした。更に同年十月十四日八尾研究所擴張の爲め隣接せる土地一千餘坪を買收し、同年十一月一日葛飾區本田立石町東京シート工業所を繼承して赤羽工場に併入する等、時局下增產擴充の目的に向つて活潑なる運營を見つゝある。昭和十五年十一月末現在損益計算を見るに、製品賣上四十八萬五千五百餘圓、後期繰越製品代金約十二萬圓總利益金九萬五千二百七十三圓、當期純益金八萬九千二百餘圓。

法定積立金五千圓、使用人恩給基金八千圓重役賞與金八千圓、株主配當金五萬二千五百圓（年七分）稅引當金六千圓、前期繰越金、三萬二千二百餘圓、後期繰越金四萬一千九百餘圓となつてゐる。

重役は日本加工製紙株式會社と同一の陣容である。

### 東京市牛込區市ヶ谷仲之町

礦素興業日本ベンゾトナイト社長
## 渡邊精吉郎

電話牛込五一〇六番

當家は代々四國の土佐山內藩の城代家老を勤めた名門である。

尊父深尾鼎氏は王政復古の先覺者として、明治維新の大業に對し多大の貢献をしてゐる有名な人である。

氏はその三男として明治七年十二月十三日大阪市に呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦衆に秀れ、夙に大器として嘱目された。

明治十五年父と共に上京し、後渡邊家を繼ぐ。趣町區富士見町の商業專修學校豫科本科を卒業して、商業經濟上の知識を豊富に收め、父につきて漢學を修めた

人である。

明治二十五年に日本鐵道株式會社に入社して、日給わづかに十五錢の電信係見習として具に辛酸を嘗め、その後助役、驛長と拔擢され、精勵恪勤、幾多の範例を遺して、本社の運輸係として榮轉し、明治三十九年同社が國有鐵道となるや、それに從つて約三ケ月間勤務したが、明治四十年に滿鐵に轉じ、運輸その他計畫の基礎は氏がその素地をつくつたと云つても過言ではない。

撫順炭礦運輸課を大正元年十二月迄つとめ同社のためまた日本鐵道界につくした功勞は絶大なものである。

大正八年十一月より昭和十一年迄橫鐵の囑託をされ、交通運輸界に於ける生きた字引と言はれて尊敬された。

大正七年朝鮮咸鏡北道に炭鑛を所有しこの發掘經營が氏の礦業興業である。

又氏はベントナイトの會社を發起して同志の協力となり、現在兩社の社長として自ら親しく、その經營の衝に當り今日に至つてゐる。

氏また碩學の士にして、昭和二年に「滿洲に於ける金貨と銀貨」を著作し、昭和八年には「國際經濟に於ける通貨問題」また、昭和十三年に「經濟上に於ける日本の危」機等の著書あり。

資性重厚にして信望篤く、頗る多趣味の方にして、讀書は勿論、旅行、釣、花木園藝、殊に園碁に造詣深し、三味線等にも理解を持ち、多趣味な人として有名である。

家宗として神道を奉じてゐる。一家、その人格を反映し、和氣藹々として笑聲に滿ち常に圓滿にして明朗である。

令室幸子さんは六十年にして、內助の功多い人。

二男駿氏は東京帝大農學部を夙に卒業して滿鐵產業課に勤務、その夫人みどりさんは朝鮮京城で生れ、京城高女の出身にして、貞女の聲え高い。

孫さん——長男千純さん、長女敦子さんがある。

尙、當主の二女清子さんは大連高女を卒業。三女和歌子さんも同校出身にして各人とも緣づいて幸福なる家庭を營んでゐる。

實に美はしい家庭である。

## 東京市牛込區榎町

電星社主　**瀨谷　武雄**

當電星社は、大正十四年瀨谷武雄氏の設立經營に拘るものにして、八年前當區鶴卷町より、現地に轉じたものである。

鶴卷町では、主としてラヂオ用の磁石を販賣してゐたが、現在は同じくラヂオ用のトランスを專門に製作してゐる。

製品は、全部嚴重なる試驗を行つた後世に出してゐるので、その確實なることは世に定評がある。業運も盛榮にあり、更に將來の發展が約束されてゐる。

現在隣組長を務め、家業を顧ず、煩雜な事務を執掌し、隣人情誼のため、多大の貢獻をなして感謝されてゐる。

溫厚摯實、自治公共の念に篤く、公先私後の誠を竭してゐる。

昭和十四年五月、組合に盡力せる功により表彰された。

## 東京市牛込區市ヶ谷加賀町

府立　**第四中學校**

電話牛込七八七番



中學校令は、明治十九年に發布されたが、これよりさき同十二年、東京府尋常中學校の創設あり、以來入學志願者、年を逐うて增加し、頻りに入學難の際を聞くに至り、時の校長丸山淑人氏、敎諭今泉定助氏及び皇典講究所幹事松野勇雄氏等の斡旋で、同二十一年九月、補充中學を麴町區飯田町五丁目皇典講究所構內に設立した。これが即ち本校の濫觴である校名を補充としたのは、府立尋常中學校生徒に缺員を生じた折、學力優秀、品行方正なる者を選拔して、これを補充するから、かく名づけたのである。校長に伯爵阿部正桓伯が推され、同二十二年一月阿部伯職を退き、子爵關博直氏が後任に推された。

明治二十四年四月、補充中學を共立中學と改め私立經營とした。

當時の世情未だ官尊民卑の風甚しく、敎育界もまたその影響をうけ、さきに補充中學開設せられるや、府立尋常中學校に聯絡あるを以て、これに入らんとする者多かつたが、一たび私立中學校に改變するに及び、生徒は失望して四散し、始め百五十餘名であつたものが、當年に至りて百名足らずに激減した、そこでこの際速かに更生の方途を講ぜねば、ついには自滅する外なきに至つた。しかるに當時、供託金を府縣に納付して、府縣立學校と同一待遇を受くる制があるのに、校長幹事等これに著目し、皇典講究所後援の下に、諸般の準備を整へて出願した。

明治二十六年三月、第一回共立中學校卒業式を擧行、同八年松野校長病歿せしにより、幹事の今泉定助氏校長となり、同二十七年四月より府立と同一の待遇を受るごとゝなり、同二十七年四月より共立中學校を東京府城北尋常中學校と改稱し、校長に今泉定助氏が就任した。これにより又入學志望者頓に增加し、同年七月城北尋常中學校第一回卒業式を行ふた而して同三十三年に至り、また復府立と同一の待遇を受くる特典を、明治三十四年三月末を以て廢止する制が布かれて再び公私の岐路に立つたが、當局及び有志の絕大なる援助により、公立學校となることを得、翌三十四年四月現在の東京府立第四中學校と改稱し、深井鑑一郎氏校長に就任、校運こゝに勃然として起り更生の途を辿り、同三十六年十二月、牛込區市ヶ谷加賀町の德川達道伯邸宅を買收して、校舍の新築に着手し、同三十七年一月竣工今日に至つてゐる。

明治四十四年五月、伏見宮博義王殿下御勉學のため、本時に御登校あらせられた。これ實に東京府立中學校に　皇族殿下御降學の嚆矢とし、本校の榮譽とするところである。

降つて昭和八年四月（認可申請は大正六年）夜間中學の開校を認可され、東京府立四中夜間中學とし、更に同十六年四月、精思中學校と改稱した。

かくの如く幾多の變遷を經て、校齡すでに五十餘年に及ぶ、歷史ある中學校として、今は儼乎たる存在にある。

質實剛健の精神涵養　着實、勤勉、服從の氣風を養ふを敎育方針とし、實力の養成に努め、古くより府立一中と共に上級學校入學率の優秀なるを以て、世に知られてゐる。

一方昭和十年、栃木縣那須郡那須村字高久に修養道場を開設して、精神の鍊成と勤勞精慶の鍛鍊に資し、每年各學級交替にて、一週間宛その寄宿舍に起居して心身の鍊成に努めてゐる。

**校長 従五位勲六等 西浦泰治**

氏は、明治九年二月二十日に生れ當四中第一期卒業の東京帝大出身、大正六年本校囑託となり、同八年教諭に任じ、昭和十三年校長に榮進した、本校と深い緣故を有つ、廉正謹直の人格者として、世の信望を高めてゐる。

教頭は山本龜助氏、東京高等師範學校の出身で、至誠一貫、信念に生くる教育家である。

**東京市城東區大島町**

合資會社 **播磨特許亞鉛鍍金工場**

電話本所七三五二番

當社は鐵塔材料、瓦斯管、ドラム罐、暖房用金物、電氣用金具其の他一般、各種鑄物、各種纖手、タンク類、建築用金具、船具類、其の他金物一式、亞鉛壽金及電氣鍍金を營業科目として設立され、堅實眞摯なる營業方針は業界に定評のあるところであり、極めて潑剌たる業績を示し、益々顯著な躍進を遂げつゝある。

**代表社員 播磨 榮吉**

氏は明治二十七年十月二十日の出生にして、資性溫厚篤實又明敏果斷の事業家であり、當社今日の盛大を贏ち得たる原動力として業界の信望は頗る厚い。

氏は又敬虔なる信仰家として日蓮宗に歸依すること深く、當社從業員一同も氏の人格を反映して獻身的努力を捧げつゝあり、非常時局下に於ける産業報國の一端を果して遺憾がない。

家庭に於ては淑德賢母の譽高き夫人との間に一男を惠まれ和氣藹々たる生活を營んでゐる。

**千葉、船橋市本町**

**船橋菓子工業組合**

當組合は、昭和十五年八月、現專務理事川奈部雄之助氏等の主唱發起によつて設立したものである。

區域は、船橋市一圓と東葛飾郡鎌ヶ谷村にして、組合員五十二名である。

事業の主なるものは、砂糖、小麥粉、小豆、澱粉等の原料及び木炭、その他營業上必要なる物資を配給するにある。

現在の戰時經濟の强化に對應して業界の安固、事業の圓滑なる運營を圖つて、職域奉公の誠を效すには、企業合同を實現せしむる外に良策なしとして、目下これに主力をそゝいで着々準備を進めてゐるから、近く製菓會社が生れて來るであらう。

現役員は、理事長に廣瀨三左衞門氏を推し、專務理事は川奈部雄之助氏、理事は加藤治郎、森田覺、仲村彌七、秋山權次郎、青木正作の諸氏、監事は染谷源之助氏、湯淺清司氏、書記長は竹內周三郎氏である。

**理事長 廣瀨三左衞門**

當家は、元祿時代より製菓業を營んで來た、市內屈指の舊家として著聞され、當市業界重鎭のとして居然たる存在にある。

氏は、當組合設立と同時に、衆望を擔うて理事長に就任、以來これが運營に全力を傾けて盡力し、業績顯著なるものあり、眞摯篤學なる人柄と卓拔せる手腕と相俟つて、組合員に深く信賴され、今後



の活躍を一層刮目期待されてゐる。

**專務理事 川奈部雄之助**

當家は、三代前より製菓業を創めまた氏の代に至りゝ叔父より引ついで書籍商を兼營し、業運盛榮を極めてゐる。

氏は、さきに在鄕軍人分會副長、消防組消防手、同消防部長等を、多年に亘つて務め、現在は、當組合專務理事の外、船橋市警防團本部長、千葉縣職業指導員、船橋市食料品小賣商業組合常務理事、隣組長等、多くの要職を兼務して盡瘁し、著しい業績を擧げつつある。

資性溫雅篤厚、手腕識見とも秀拔なる逸材にして、世の信望極めて厚いものがある。

當年三十九歲、前途洋々、將來を一段と屬望されてゐる。

令室すいさんは、昭和十六年四月逝去した。長男昌榮君(五歲)、長女宏子さん(九歲)、次男和治君(三歲)の二男一女と母堂シゲさん(五十九歲)に、令弟四人ある。

家族極めて圓滿、美しい家風をなしてゐる。

**千葉、船橋市海神町四丁目**

**鋼組合理事長 楠林六三郎**

電話一三六番

楠林製作所主たる氏は、現在船橋市鐵鋼組合理事長、千葉縣黃銅製品工業組合專務理事として、業界に重きをなして居り、また立志傳中の人物として知られてゐる。

氏は、明治二十七年六月二十九日、尊父大五郎氏の長男に生れたが、年少十三歲の折母堂キンさんに死別し、十四歲より他家に奉公して、人生航路の苦難と闘ふ身となつたが、十五歲の時、またもや東京小石川の砲兵工廠に勤めてゐた尊父の死に遭ひ、ついに慈愛深き兩親を相いで失ふ大なる不幸を重ねた。

しかし生來勤固たる精神力を有つ氏はたゞ悲しんでばかりはゐなかつた。始めて氏が奉公に出る日の朝、父は赤飯を炊いて門途を祝ひ、そして「一たん家の閾を跨いだら、一人前になるまでは、どんな辛い、苦しみも堪へ忍んで、決して歸つて來てはならぬ。他人の飯には棘があ



る。しかしその棘のある飯を食はねば成功しない。正直と辛抱が第一だ。」との訓へを固く守つて、砕身粉骨の努力をつゞけ、二十二歲の際、七十圓の貯金が出來主人から別に、勤勉精勵を賞されて二十五圓を貰ひ、これを合せて兩親の墓を建てゝ懇ろに弔うた。

たつた一人の令弟弘藏氏もまた、幼少九歲にてガラス屋に奉公し、年期が開けてから、兄弟相勵し、相扶け合つてゐたが惜しくも二十七歲にして夭折した。

氏は、かくて船橋市の相川留吉氏の工場から丸山金屬製作所に勤め、大正八年同丸山金屬製作所の下請をなし、同十二年獨立して、今日に至つてゐる。

現在は、從業員三十餘名を擁し、主としてスナップの製作をなし、隆々たる業運にある。かく今日の大を成すに至つたのは、亡父の教訓を固く守つて、心力一途、拔進不退の努力をなした成果である

令室ムメさん(四十四歲)、四男茂男君(十三歲)、長女八重子さん(十九歲)は、千葉高女を經て目下東京の帝國女子專門學拔に在學中、三女朝江さん(八歲)があり和氣藹れる愉しい家庭を營んでゐるが

二男一女を失くしてゐる。

なほ、船橋市鐵鋼組合は、昭和十四年一月の設立にして、氏はこれが設立に奔走し、設立と同時に、衆望に推されて、理事長に推され、現在に至つてゐる。

千葉縣黃銅製品工業組合は、昭和十六年十一月の創立にして、氏は專務理事の要職にあるが、その前身たる船橋市黃銅製品組合の組合長を務め、多大の貢献をなした功勞者である。

## 千葉、君津、木更津町
## 千葉縣疊工業組合

當組合は疊製造業者間に於ける有志の奔走により昭和十五年八月七日結成されたもので、爾來組合長及び役員の献身的努力は、逐次順調なる發達を齎し、現在認可組合として、名實共に本町經濟の中樞としての機能を發揮するに至つてゐる

現下の非常時局に際會し、當局との連繫も緊密に專ら國策順應の諸方面に組合を擧げて邁進し貯金節約に、產業の振興に努むる處頗る多大である。

而して組合員三十八名、一口金額二十圓である。

### 理事長
### 角井富治

氏は豪放磊落にして大度あり、豁達の氣性である

而して、これが順調なる發展に盡力してゐる役員諸氏の名を擧ぐれば、理事長に江田德太郎氏、常務理事塚越治郎兵衞理事に奥野正三、荒井仲次郎、瀧口三郎遠藤善吉、米本勝治の五氏、監事に高橋茂利治、白井龜三郎、書記渡邊隆司、囑託山田三郎の四氏がそれぞれ任じ大いに活躍してゐる。

## 千葉、館山市北條
## 房總木履工業組合

本組合は杉燒及び檜松桐油桐等の木履の改良發達を圖るため共同の施設を爲すを以て目的とし、地區を館山市、安房郡、夷隅郡、君津郡一圓に亘る當業者を包含して、昭和十五年五月二十日に設立認可されたものである。

事務所を館山市北條一、五二五番地に置き、主なる事業として製品檢査及取締統制、原材料の共同購入、製品の共同販賣、また營業に關する指導研究調査をなし、以て業者の共存共榮を圖ると共に、專ら製品の優良を期し、組合員一同よく時局を認識して、公益優先をモツトーに着々實績を擧げてゐる。

### 理事長
### 江田德太郎

氏は明治三十四年七月十三日生誕。本組合の理事長として職員一同を督勵し、繁雜なる組合事務を執掌し、よくその職責を果し、組合役員以下全組合員から絶大なる信望を受けてゐる。

資性溫厚篤實にして、責任感強き信念の人であり、加ふるに商道的才能に秀た稀れに見る手腕家である。

千葉、館山市那古
房州團扇工業組合
電話船形四九番



本組合は團扇工業の改良發達を圖るため、共同の施設を爲すを以て目的とし、地區を千葉縣下一圓として設立された。

而して地區内に於いて、團扇の製造業とする者をもつて組織され、理事長以下役職員の完全なる統制に依つて、益々業績を擧げ、組合員の消費すべき竹材其の他の數量及び組合事業の統制、營業に關する指導研究及び調査、組合員の福利施設等、堅實の經營振りを示してゐる。

當組合が今日の基礎を誇り、着々發展の一途を辿つて、當地方いな千葉工業界に獨自の立場を築き、確固たる經營方針を堅持しつつ尙ほ一層の貢献をなすは、偏に役員の献身的盡力と、組合員の協力に負ふところ大いなるは言を俟たない。殊に學識經驗ある指導者を招聘して營業に關する講習會竝に實地指導は、組合員一同の眞摯なる研究的態度と相俟つて顯著なる成績を示し、その優良なる製品は業界に定評を得、一層名聲を博してをり名實共に理想的優良組合として、今後の活動は刮目に價するものがある。

因みに現役員には、理事長鈴木又次郎理事横山寅吉、淺野春吉、岩城庄吉、葛岡芳三、金丸市太郎、監事森松治、吉岡好之、三平泰智、書記長山口藤雄の諸氏が夫々就任し、日夜組合進展のため活躍してゐる。

### 理事長
### 鈴木又次郎

氏は夙に手腕家として知られ、全組合員の推輓に依り當組合理事長の要職に就いた。

爾來一意專心組合の發展に努め、組合員一同を督勵して、時局下物資不足の折これが公平なる配給に盡瘁してゐる。

### 書記長
### 山口藤雄

氏は、いまだ春秋ある人物にして、組合創立當時よりの功勞者であり、組合發展の實質的指導者として組合員その他衆庶の信望を博してゐる。

## 千葉、君津、富津町
## 富津町商業組合

本組合は、富津町商業の改良發達を圖るを以て目的とし、區域を富津町一圓として同區域内に於て、運送、文房具雜貨荒物雜貨米穀、酒類醬油薪炭雜貨、食料品菓子砂糖、履物傘、建築材料、呉服洋品服裝雜貨、自轉車並に附屬品、金物雜貨、陶器、青果、石油雜油、漁具船具等の販賣商業を營む者によつて組織された設立以來、組合員は渾然一體となつて協力一致役員諸氏の献身的指導と相俟つて着々業を績擧げ、當地方に獨自の立場を開拓すると共に、共存共榮の組合精神を基調として努力を續け、今日の隆盛を築くに至つた。

而して現在主なる事業内容は組合員の取扱商品の保管運搬に必要なる共同施設組合員の營業に關する指導及研究調査、商品の共同販賣及購入等が規定され、また優秀なる組合員及びその從業員の慰安に關する各種の施設があり、整然たる組織のもとに、名實共に兼備せる模範的組合として、發展の一途を躍進してゐる。

役員には、理事長多田可郎氏、常務理事齋藤良助氏を推し、理事小森善次郎、石野達三郎、鈴木龜氏、山口清繁、岡村春治、井瀨五郎吉、渡邊銀次郎、監事に酒井賢治、結城傳自書記長川名治の諸氏がそれぞれ任じ、各役員は己を滅する眞摯な活動と協力により、極めて緊密なる

連携のもとに、當組合の圓滿な發展に盡瘁してゐる。

**理事長　多田可郎**

複雜を極むる組合業務に於いて、氏の如き熱意溢るゝ努力家こそ適材といふべく、己を抛つて組合のため生死を共にする堅忍不拔の信念と態度は圓滿襟鴛の人となりと相俟つて衆庶の信望は實に絶大なるものがある。

現在町會議員その他の公職を兼任すると共に、率先身を以て組合員の指導督勵に當り、卓拔の手腕を縱横に發揮してゐる。

## 千葉、匝瑳、榮村　加藤藤吉

本村は郡の南部に位し、東南一帶は九十九里濱に面し、他は白濱、東陽、須賀野田の諸村と接續し、地勢平坦にして地味肥沃である。村民の生業は農及び漁業を專らとし、大正末期から副業として養鰯等が頗る盛大となつた九十九里濱の鰯は著名である。

村内には後堀河院の開基に係る古刹藥師寺がある。

加藤家は當地有數の名望家にして、當主藤吉氏は、夙に尊父の衣鉢をうけて村治方面に進出、幾多の要職に推されてその手腕を振つてゐる稀れに見る人格者である。

今や、時局下にあつて、家業の傍ら村治、產業の向上に沒頭してゐる。

**代表社員　金澤勇**

氏は明治三十九年九月二十七日、福井縣の舊家金澤祐次郎氏の長男として呱々の聲をあげた。

幼にして頭腦衆に秀れ、常に悠容として迫らず大器としての素質に惠まれてゐた。

夙に湯本商業學校卒業後、盤城炭鑛に入つたが、青雲の志に燃えたる氏は二十三歳の時上京して、帝國電氣に入つた。

しかし、その才幹を篠崎工業所に懇望され、同所に勤務することになつた。

その間築地工手學校に學び昭和五年に業し、工業の學理と實地を並行して體得したのである。

昭和九年前記場所に獨立開業するや、製品の優秀、價格の低廉が評判となり、特に氏の堅實な經營が、年々好決算を示し今日の大をなすに至つた。

資性溫厚にして內外の信望高く、今や斯業の重鎭として自他共に許してゐる。

時代に良識有つ氏は、戰時國家目的に即應して、携つてゐる事業は勿論、身邊一切の態勢を强化して、烈々たる職域奉公を竭してゐる。

**東京市品川區西大崎　金澤製作所**

電話(代表)三七四七番

當製作所は昭和八年に創立し、爾來、精密機械、工作機械等の設計製作並に特許金澤式サキュウラーテーブルの製作をなしつつ現在に至つたものであるが、常に研鑽を續けて、製品の改良を怠らず、その良心的な營業振りは、各方面の絶賛を博し、事業は逐年發展を重ねてゐる。

而して昭和十四年十二月に合資組織に變更されてからは、當製作所の機構は一段と擴張されると共に、亦整備されて、時局下、職域奉公に遺憾なきを期しつゝ生產擴充に遇進してゐる。



**東京市本區所駒形町三　計理士　椎名文之助**

電話浪花二一一一番

氏は、明治二十三九月十日、茨城縣稻敷郡江戸崎町に生れ、のち同町の名望家椎名家を繼いだ。

大正二年茨城師範學校を卒業して、水戸市尋常等高小學校商業科專科訓導を奉職、のち退職した上京、大正十年より同十四年まで、夜間部の東京實業女學校教鞭を奉職、その間、明治大學商科に學び大正十二年卒業、教職を辭してから、同十四年來、八千代生命保險株式會社に入り、地方課に勤務、昭和五年八月、同社解散により退職、これを機會に、同六年の始めに、神田區岩本町、共榮ビルに椎名會計事務所を開設して獨立、今日に至る。

取扱事務は、會社事務（設立、解散、合併、清算及び決議等の處理）會計及び帳簿、帳及び會計、組織、立案、記帳、計算）報告書類（決算報告書及び稅法上の諸調書作成）經營顧問（能率增進、諸統計案作成、改善資料調査）一般會計（調査、鑑査、鑑定、證明）等である。

氏は、頭腦明晰、縝密周到の手腕家にして、會計事務に通曉せる、斯界の權威者として知られ、大會社、組合、商店、その他より依頼者が多い。

禪宗に歸依し、趣味は讀書、書畫、旅行等であり、家庭には、夫人との間に二男一女あり、和樂な生活を營んでゐる。

**奈良、吉野、中莊村區長　橋本平一郎**

當家は世々農林業を以て家業となし、八代の家歴を有する舊家であり、且つ名望家である。

先代寅吉氏も區長として村治に關與しその功績は多大のものがあつた。

當主平一郎氏はその長男として明治四十一年四月十七日に生れ、青年團長を經て、現在區長、警防團長の要職にあり、日夜粉骨粹身の努力を續けてゐる。

未曾有なる難局に際會し、國家目的を完遂せんがために銃後國民に課せられる職務は寔に重且大なるものがあり、特に經濟總力戰下あつては、國民生活の合理化は一層强化すべきものがあるべく、この國家目的に卽應して、以て東亞共榮圈確立に寄與するために、益々滅私奉公の至誠を捧げつゝある。

氏は資性溫厚にして篤實、圓滿なる人格者であり、その公益優先の精神と共に各方面の信望は絶大なるものがある。

家庭にあつては夫人アイさんとの間に三男を惠まれ、春風堂に滿つるの生活を營んでゐる。

**東京市淺草區雷門　淺草區役所**

電話　代表、淺草八〇番

大東京唯一の民衆娯樂の盛場として、特異の地域をなす淺草は今より三百年の昔には、隅田川口に臨んだ一漁村に過ぎなかつた、今なほ殘つゐる島越のあたり

より葭蘆生ひ茂る間から、駒形並木を通して觀音堂の茅屋根を望み、その靈場を繞つて、僅に小聚落が點在してゐたものである。

天正十八年家康入府後、この地は下谷と共に、寺社地として定めたが、その間に町家が點在した。

當區發展の跡を見ると、淺草寺を中心とする北部と、藏前邊りを中心とする南部との二系統に分れてゐることが看取される。

北部においては淺草寺を中心としての盛場をなし、幕府の社會政策の一つである吉原が、日本橋よりこゝの田圃へ移されると共に、又新なる生命が生み出され高樓軒を連ね、猿若町には劇場三座が鼎立し、かれこれ相俟つて娯樂中心の繁榮を來し、いはゆる奥山氣分を醸成した。

明治時代に入つて觀音堂及びその周圍は淺草公園となつたが、昔よりの奥山氣分はそのまゝ殘された。卽ち當時の見世物や辻講釋は今日の劇場、映畫館、または各演藝場となり、或は水茶屋の類は、西洋料理店、若くは飲食店と變つた。

これに對し南部淺草を見ると、既の渡より須賀橋の邊に建て連らねた米藏、そこに住居を構へて居た有名な札差の人々が生んだ、いはゆる伊達氣分の派手な生活とは、いまなほ昔の語り草となつてゐる。

その南淺草氣風を作り上げた藏前は、今はたゞ地名のみ殘り、米藏の影もなく當時の金融上一大勢力のあつた札差なる特種の職業は見る由もない。

この北部と南部は、傳統的に思想上習慣上差異あるため、區行政上に多少、困難を感することがあるといふ。

神社には、鄕社淺草神社、同岩清水神社等があり、寺院には金龍山淺草寺を始め、各宗派に亘りて三百ヶ寺近くの多數がある。

名勝には、玉川庄右衞門及び清右衞門の墓、松葉町清德寺內）葛飾北齋の墓（永住町誓教寺內）梅田雲濱の墓（松葉町海禪寺內）清草公園、淺草寺（觀音堂、五重塔婆は共に國寶である）安藤廣重の墓（北松山町東岳寺內）、伊能忠敬の墓（北清島町源空寺內）谷文晁の墓（同寺內）その他名勝として數へられるものが少くない。

## 區長　三宅龜吉

氏は、明治十八年十二月の生れで、さきに蒲田區長を務め昭和十三年十二月當區長に榮轉した。

以來よく區政を整へ、諸態勢を強化して、著しい業績を擧げてゐる。

溫雅淳篤の手腕識見共に、卓拔せる名區長として聲名を高めてゐる。



## 東京市瀧野川區西ヶ原

福貿易商會　代表者　松岡義一

氏は奈良市の出身である。

父君を末次郎氏と云ひ、氏はその長男として明治四十年三月二十八日生れた。

生來才氣衆に秀れ、向學心熾烈なるものがあつたが、不幸、世の常の學徒の如く、安閑たる學校生活を享樂することは許されぬ事情の中に育ひ立つた。併し、人一倍負けじ魂の所有者たる氏は苦學力行よく今日の大をなす素地を養つた。

昭和五年上京し、爾來貿業界に入つて活躍、其の間某物產會社に入つて、斯業を修得し、豐富なる經驗を俊敏なる手腕を身に付けて難するところあり、昭和十年、福貿易商會を創立して直輸出入商を始め、奉仕と誠實を根幹とする經營方針に加ふるに、溫厚篤實なる風格をもつて忽ちにして絕大の信用を博し、次第に發展を重ねて、更に事業を擴張、昭和十二年に東京市向島區墨田一丁目に於て、聯合光機製作所を創立して、產業報國に邁進して、訓調なる發展を續けつゝ現在に至つたものである。

圓滿にして篤實、所謂、苦勞人で、周圍は勿論、廣く德望をもつて知られてゐる。

趣味は、釣、旅行、讀書、音樂等であり、宗教は佛教である。

家庭には兩親健在にして、夫人志津子さんがあり、家庭さんとの間に長女淑子さんがあり、家庭は頗る圓滿である。

氏の自宅は西ヶ一原一四〇五、營業所の所在地は京橋區京橋三ノ四、福德ビルヂ六階である。

## 東京市麻布區仲ノ町

市立　麻布工業學校

電話赤坂一〇七四番

本校は、大正十二年四月、實業補習學校令に依り、市立麻布商工實務學校として設立し、麻布南山尋常小學校を校舍として授業を開始した。學科は商業部、機械部に分れ、高等小學校卒業二ヶ年（夜間）とした。

大正十四年四月、土木部新設、同十五年四月、普通部（豫科尋卒一ヶ年）測量選科を新設、同年十二月、青年訓練所規程により認定せらる。昭和五年四月電氣部、測量部選科を新設して、土木部の生徒募集を中止した。同年八月新築南山小學校內に移轉、同六年三月測量專攻科生徒募集休止、同年十一月麻布高等小學校內に移轉、昭和九年四月實業學校令に依る市立商工學校に改組、學科は商業科、機械科、電氣機械科とし、尋卒三ヶ年制（夜間授業）として、引つゞき渡邊諶氏が校長として就任した。

昭和十年八月、現校舍に移轉して獨立し、同十一年三月機械科及び電氣機械科を晝間授業に變更、同十二年三月商業科高卒四ヶ年制（夜間授業）に昇格、ついで同十三年三月機械科及び電機科尋卒五ヶ年制（晝間授業）に昇格し、電氣機械科を電氣科に改稱した。

昭和十四年三月、第二本科機械科並に電氣科、高卒二ヶ年制（夜間授業）を設置同十五年三八學則を變更して、市立麻布工業學校と改稱し、同年七月第二本科の課程を青年學校と同等以上の課程と認定された。

組織は、第一本科（晝間　機械科、電氣

科、修業年限尋小卒五ヶ年、第二本科、學科（夜間）は同樣、高卒二ヶ年である。

教育方針は、國民的錬成により、非常時においては國家に身命を捧げ、平時においては自己の職場に全力を盡し、皇運扶翼の忠誠を捧ぐる有爲の人材を養成するにあり、教育方法は、作業主義教育の主張を導入し、社會狀勢を考へ、實習に重きを置き、かつ生徒の將來に役立たしむむるやう創作的、研究的態度を以て望んでゐる。

生徒の心得として

一、日本人たるの幸福を覺れ

二、帝都市民たるの榮譽を思へ

三、常に本校生徒たるの誇を忘れるな

四、職場に無くてならぬ人となれ

を高持し、これをつぬに恪守せしめてゐる。

特別施設として、つぎのことが擧られる。

行軍、毎週一回以上實施し、徒歩の鍛錬をなしてゐる。

健康相談、毎月一回校醫により實施しその結果により、父兄に治療處置法を通知し、その經過及び結果を報告せしめてゐる。

特別診療券、生徒並にその家族中に病傷者ある場合に申込により發行し、校醫吉の諸氏（昭和十五年九月現在）である。

作業服、常用、職員生徒共に登校と同時に校内にては、全部作業服を着し、作業主義の教育活動をなさしめてゐる。

訓育施設として、校内出入敬禮、宮城奉拜（始業前）をなさしめ、更に土曜挨拶、午前中にて授業終了、調節體操實施後、全生徒は職員に正面し、敬禮號令により「有難うございました」と挨拶し、解散の號令にて、生徒互に「さようなら」の挨拶をなさしめてゐる。

一品獻納日、毎月最終日を一品獻納集收日とし、生徒に各自慰問袋向一品、廢品一品づゝ持參せしめ、翌月一日慰問袋及廢品賣上金を陸海軍に獻納してゐる。

この外、自治、交通、災害避難の訓練を實施し、著しい成績を擧げてゐる。

講習會等の附屬施設

報國團、父兄會、

等大いに活躍してゐる。

現職員は、校長渡邊謹氏、教諭松田辰司、井川保喜、山路寛、水恒豐治、岸久吉、牧野秀雄、鈴木清司、德永善藏、中山獄一郎、星永文、棚橋茂男、進藤英毅阿部吉人、菅原卓郎、石川眞美、金岡弘

## 校長 渡邊謹

昭和六年五月、本校校長として就任以來これが施設經營に全生命を傾例し、校運發展に多大の貢獻をなしてゐる。滑雅淳篤の人格者として、世の信望が極めて厚い教育者である。

奈良、宇智、五條町

## 天理教敷島大教會 南和分教會

電話四三九番

當教會は明治廿五年六月の設立認可に拘り、創建者は熱と努力と至誠の人梅本善七氏である。氏は嘗て製材鋸にて指四本を切落したるを神德により、元通り附着し使用に差し支へなき樣守護を頂き、或は下齒總入齒をなしたるものを誤りて呑み咽喉の中途に留まりしを信仰により救はれるなど、その効驗は奇績的なるものがあつた。こゝに於て天理教への信仰は愈々深まり、遂に宣教所を設置、爾來



多くの病弱者を救ひ、その後、明治三十五年現在の地に移轉され、合計坪數九百八十七坪に、神殿、教祖殿、祖靈殿、調餤室、會長室、客殿等堂々たる教會を建設され、今日に至れるものである。

## 主宰者 梅本英雄

氏は宇智郡坂合村楯塚信四郎氏の三男として、明治十四年九月二十日出生した。その後、當教會創立者梅本氏に懇望されて入籍、前教會長コマ姉より引續いて、三代目教會長に就任した。以來日夜を分たず信徒の布教教導に努めると共に、又天理教敷島大教會役員の要職に在り、農繁期託兒所の開設、或は道路修理、勤勞奉仕等の奉仕事業に盡瘁され、益々盛大ならんとしてゐる。

因に長男一雄氏も天理外國語學校教員として教理普及に盡されつゝある。

家庭は極めて圓滿、近隣羨望の的となつてゐる。

## 東京市赤坂區中ノ町

草野商店 取締役 **草野稻穗**

電話赤坂三五六〇番

氏は福岡縣鞍手郡植木町の素封家として著聞せる草野家に、尊父梅吉氏の二男として、明治四十年三月八日の出生である。

尊父梅吉氏は町長、銀行經營等の要職を歷任したる德望家であり、町金融界、自治方面に寄與されたる功績は甚大なるものがあつたが、現在は第一線を勇退し大正八年當家にて創建せる代行寺の住職として信仰生活に悠々自適して居る。

當主稻穗氏は大正十四年、直方市の縣立鞍手中學を卒業し東京に遊學すること一年、後實業界に入り、令兄と相謀り門司市に於て草野商店の創立を始めとし、三菱商工株式會社、日本商工株式會社、日本鑄造工業日月商會、草野合名會社、株式會社、台灣故鋼鐵屑統制會社等、その他數社の社長、取締役等の重職に在つて精勵されてゐる。

尚麗には九州四國コークス製造協會の初代理事長、帝國コークス株式會社創立發起人として評議員等を歷勤され、數多の功績を殘されたることはよく人の知るところである。

氏は天禀の事業家として氣鋭の手腕を縱橫に揮ひ、その將來は刮目して期待されてゐる。

氏は又、敬神崇祖の念篤き人格者であり、深く日蓮宗に歸依し、法號を隆道と稱し敬虔なる法の道に浴されてゐる。

家庭に於ては淑德の譽高きスミエ夫人（三十三歲）との間に、長男一穗（九歲）、二男二穗（八歲）の兩君を惠まれ、和氣靄靄たる生活を營まれてゐる。

趣味は讀書、旅行等でそる。

## 東京市淀橋區下落合

戶上電機製作所東京出張所長

## 山根藤吉郎

當家は代々三重縣一身田町に住し、その開祖は相當古く、由緒ある家柄として有名である。

尊父宇之吉氏は土木建築請負業の傍ら產業自治のため大功のある人として廣く

知らてゐる。

氏はその長男として、明治三十六年十二月三十日に呱々の聲をあげた。幼少にして大器の素質に惠まれ、向學心に燃え大正十三年早稻田高等工學校電氣科を卒業し、直ちに日本電氣鐵工株式會社に入社した。

爾來業務に對して日夜孜々として研究し、常にその改良と發展に心を碎き、幾多の困難な問題に遭遇しても、見事に解決して大いに手腕を認められた。

大正十四年、事業の發展に件ひ、組織を變更し、社名も現在の名稱に改められたのである。

その後東京出張所、名古屋出張所等を歷任し、昭和十四年四月現出張所に再度轉勤し、昭和十五年八月、遂ひに所長に拔擢せられて現在に至つた。

資性重厚、事務家肌の人で、世の信望特に厚し。

宗教として日蓮宗を奉じ、讀書と旅行をその趣味としてゐる。

令室操さんは貞淑にして夙に良妻賢母の噂が高く、長男晏さん、二男勉さん、幼少ながら、よき後繼者としての素質を備へ、將來を樂しみにされてゐる。長女ひなみさんは小學校在學中である。

寄庭はつねに圓滿で、笑聲に滿ち、近隣より羨望されてゐる。

## 奈良、宇智、五條町

町會議員　川西義雄

電話三六一番

當家は遠く德川家康公治世の頃より、連綿たる家歷を有する牧野村隨一の舊家であり、名望家でもある。

本家は代々農を家業としたが、當主義雄氏は尊父茂吉氏の三男として明治二十五年三月四日出生。のち分家して獨立獨行、具に世路の辛酸を經驗し、その艱難空しからず、遂に巨富を積むに至れる奮鬪家である。

現在町會議員、學務委員、信用組合監事日本杉箸工業組合理事、五條商工會副會長、社寺總代等の要聯に在り、日夜獻身的努力を致してゐるが、特に非常時統制經濟下にあつて配給、生產機構の完璧を圖り、以て國策に順應し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期してゐる。

氏は資性質實にして剛健、公共仁慈に富む人格者であり、その手腕功績と共に信望は絕大なるものがあり、曩に國勢調査に貢獻したる功により表彰されたることがある。

家庭にあつては、夫人サトさんとの間に三男二女を惠まれ、和氣靄々たる生活營んでゐる。

## 東京市下谷區上野公園內

## 第二東京市立中學校

電話下谷六三六四番

本校は、大震災の翌年、即ち大正十三年四月、九段上の第一市立中學校と共に開校したものである。

校舍は、上野公園內に在り、東都第一の環境に惠まれ、校內には大公孫樹、その他老巨木參差し、周圍また大樹亭々として圍繞されてゐる。

自主協調を生活目標と、これに基い



て教授訓練施設が行はれてゐる。

御大典紀念事業として、昭和三年教職員生徒一同の勤勞作業により、埼玉縣下に一萬四千坪の綜合グラウンド及び農場を創設して、勤勞教育の先鞭をなした。

四百米のトラック、五十米のプールや百人の收容力を有つ寄宿舍を設け、以來每週金、土曜日をして、生徒を交替に鍛錬を行はしめてゐる。かゝる施設は全國にも稀にして、本校の特色としてゐる。

而して昭和十六年九月二十　日、この地に伊勢神宮、橿原神宮、明治神宮より、神符を受けて神殿を造營し、單に體錬に止まらず、眞の心身錬成道場となしてゐる。

主なる行事として、春秋二季に耐久行軍を行つてゐる。今春(昭和十六年)は、個人單位にて二十里の行軍を行つたが、秋季には各級を四班に分ち、健康狀態によつて編成し、距離もこれに應じて伸縮せる耐久行軍をなし、好成績を擧げてゐる。

學級數二十、職員は三十三名で、校長は高藤太一郎氏、教頭は福永勝盛氏である。

別に夜間の上野中學校を附設してあるが、これは公立夜間中學校の嚆矢をなすものとして、異彩を放つてゐる。

## 校長　高藤太郎

氏は熊本縣の人。東京高師範學校出身にして、多年校長として本校の經營に當り、健實にして特色ある校風を築き、校內外に信望の高い、眞摯篤厚なる教育家である。

教頭の福永勝盛氏は宮崎縣の人。校長と同じく東京高等師範學校の出身、校長のよき協力者として、校運の發展に努力してゐる。

## 奈良、宇智、五條町

町會長　柿本定一

電話五五番

當家は、代々大阪市に於て絹布商を經營し、六代の家歷を有する舊家であつたが、當主定一氏に至つて現住所に移住した。

氏は先代定七氏の長男として明治三十二年三月十日に出生れ、桃山中學校卒業町內自治に關與して精勵格勤、幾多の功績を擧げ、現在町內調査委員、五條町新町々內會長、社寺總代等の要職に在り、益々奮鬪を續けてゐる。即ち國家未曾有の時艱に際し國家の下部組織たる町內會を指導し、以て國策に順應し、私利を超越して臣道實踐に邁進してゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、識見卓拔なる人格者であり、その業績と共と町內の信望は絕大なるものがある。

家庭に在つては、母堂セイさん益々健在、フサノ夫人との間に一男一女を擧げ和氣靄々たる生活を營んでゐる。

## 靜岡、榛原、坂部村

## 御嶽教明榮稻守教會

當教會は、明治四十年十一月、現主宰者大石六合壽氏の創建に拘り、祭神に國常立命、大己貴命、少彥名命の三柱、別祭神に伏見稻荷大神、天地神八百萬神を

## 主宰者 大石六合壽

少敎正一、明治十年十月、尊父喜三郎氏の長男に生れ、二十八歲頃より國體神道の信仰に入り、四十年の長きに亘る神道敎師にして、無欲恬淡慈悲心に富み、社會善導、民心の敎化に全生命を捧げてゐる。

現在御嶽敎區會議員、靜岡縣神道聯合會評議員等を務め、斯界に重きをなしてゐる。

二男の少講義、高司氏が、所屬敎師として、父のよき助援者として活躍してゐる。

尙、氏は、御嶽敎本廳より、多年勤續の功により、功勞賞を授けられてゐる。

## 靜岡、濱名、雄踏町 湖東薪炭小賣商業組合

本組合は當地方九ヶ町村に居住する同業者を以て、薪炭小賣商業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、昭和十五年八月十五日設立したものである。

組合員五十九名を擁し、設立日なほ淺いにも拘らず、幹部はもとより、各員の協力により、今では縣下でも有數の模範組合として知られるに至つた。

役員としては理事長白都竹次郎、副理事長藤田要太郎、常務鈴木藤五郎、理事山下仙吉の諸氏である。

現下時局重大なる折柄、組合の認識がこの組合ほど徹底してゐるところない。

## 理事長 白都竹次郎

氏は當理事長としての外に警防團の役員、漁業組合の役員等をなん、恒に一貫せる信念と遠大なる理想を以て、至誠の奉公を致してゐる。

家は屈指の舊家にして由緒ある家柄である。

先代は家業の傍ら、公共のため功勞ある人として尊敬された。



齋祀してある。

御嶽敎は、天地開闢の祖神である國常立命、大己貴命、少彦名命の三柱を奉齋し、わが皇國の精神である宗敎神道、神社はその形容であり、即ち精神を基礎とし、日常の行動は勿論、忠孝節義信體の行を明らかにして、敎育勅語を實行し、信仰を唯一の生命となして、安心立命と共に祖神、祖先の靈を崇敬し、報本反始の道義的觀念に立脚して、人類最高の美德たる、わが國體の精華、彝倫標準を以て起たる不離不滅の精神こそ、わが御嶽敎の目的である。

一、時局を認識して、神の敎を守り感謝の生活をなすこと

一、邪敎を克服して傳統的信念へ

一、己の祖先を知らざるの愚を知れ

一、崇敬は理論に非ず、實踐であることを指導精神としてゐる。

大祭三月五日、月並祭毎月十八日、當日は皇軍武運長久祈願祭を行ふ。

この他加持祈禱を施してゐる。

信徒一千餘名を有し、隆々たる盛運にある。縣下有數の敎會として衆庶に知られてゐる。

氏はその男として生れ、幼にして頭腦明晰、大器として、その將來を豫想された。

精勵恪勤にして、先祖以來の財を更に一層大ならしめ今日に至つてゐる。

資性重厚、清濁合せ呑む大度量は部下に慕はれ、また尊敬を集める所以。一家つねに圓滿で明朗である。

## 東京市京橋區新富町 第一化學工業株式會社

電話築地八六二番

當會社の加工製造する耐火木材は、わが國における木材耐火加工法研究の先覺者、林學博士志賀泰山氏の研究に成る特許を繼承し、更にこれを斯界の權威にして當會社の專務取締役高山寬一氏によりて研究完成したる數種の特許方法を實現せる、內務省令防空建設規則による規格品として、斯界において最も光輝ある歷史と貴重なる體驗を有し、他の追從を許さぬものがある。

特徵として、完全なる耐火性を有つてゐる。即ち普通の火災溫度(千三百度位)には勿論、燒夷彈(三千度)に對しても絕對安全であり、延燒性がないこと。無色無臭、無害、吸濕性なく、大工道具や釘を錆びさせない。また木材の强度は增し、かつ防腐性を有して居り、耐火木材の效力持續性は約二十五年以上であること等が擧げられる。

營業所は、京橋區新富町の三柱ビル內にあり、工場は板橋區志村長後町と、大阪市西區江戶堀北通の二ヶ所に設け、わが國、業界第一位の製產能力を有してゐる。

資材は農林省及び商工省の配給品となつて居り、株主には前田侯爵家、日本海電力の有力者がある。

現重役は、專務取締役高山寬一氏、取締役山田昌作、山本一之助、新田與一、監査役に逸見知久、井出四郎の諸氏である。

## 專務取締役 高山 寬一

氏は、明治二十一年三月二十七日、尊父廣助氏の長男として三重縣に生れた。

明治四十一年大阪高等工業學校卒業後東洋木材防腐會社に入つたが、研究創造心の旺盛な氏は、再び學窓に戻り、大正六年京都帝大理科に學び、同校卒業と同時、大阪瓦斯會社の技師となり、副產品製造長に任じついで日本煉瓦株式會社を創設して、これが經營に當つたが、のち退いて木材防腐の研究に沒頭し、志賀博士の研究を繼承して、ついに耐火木材の研究を完成し斯界に大なる貢獻をなして、世に聲名を謳はれ、第一化學工業株式會社專務取締役として、耐火木材の普及と社運の發展に專念してゐる。

## 東京市蒲田區糀谷町 株式會社 木內工場

當工場は、木內庸氏、同茂氏兄弟の經營に拘るものにして、昭和十五年十二月芝區三光町木內合金鑄造所(茂氏經營)と蒲田區糀谷町木內合金工業所(庸氏經營)とを合併し、株式會社に改組して、這ま

しく發足したのである。

現今産業界は擧げて重點主義、中小工場の合廢整理が行はれ、臨戰體態が强化されつゝあるに鑑み、木内兄弟は率先して今同し、相携へて皇運翼贊の臣道實踐に猛進しつゝある。

こゝに當工場をプロスペクトすると、株は同族株で、全額拂込み、現工場は株式に改組と同時に改築、または增築したものである。

重役陣は、取締役社長木内庸氏、專務取締役小山松太郎氏、取締役支配人小山松太郎氏、取締役木内茂氏、取締役なほ工場内に、産業報國會を組織し、社長以下全社員、從業員を會員として、産業戰士たる精神の鍛成に努むると共に、社運の向上發展の側面的推進力として活躍してゐる。

小山松太郎氏

木内茂氏

その颯爽たる行動は、全く軍隊的訓練によるものにして、一糸亂れぬ統制の下に、産業報國に努めてゐる。

## 社長 木内庸

氏は、豪爽勁直の手腕家にして、帝都業界一方の雄たる名を成してゐる。氏を中心に木内專務小山支配人の名トリオ陣は、不動の社礎と相俟て、將來の躍進を約束されてゐる。

加藤信太郎氏

## 東京市神田區花房町 三金齒科金屬合名會社

當社は昭和二年科學白金、サンブラチナの發明研究のため三金研究所として開設され、爾來十有餘年間巨額の研究費を投じ、學生の努力と絶大の犧牲を拂ひ、專心一意あらゆる實驗を重ねた結果、臨床上眞に理想的なりと自負するサンブラチナを完成し、始めて齒科界に發表されたものである。

當サンブラチナは世界電氣爐界の最高權威、米人イー・エフ・ノースラップ氏の發明にかゝる深遠なる學理と精緻なる構造から成り、合金技術を最大限に發揮高揚し、その機能は完全無缺とも云ふべき電氣爐の偉力と相俟つて製産され、斯界の激賞するところとなり、齒科補綴界に一大センセーションを捲き起した優秀品である。

即ち本品は專賣特許を獲得すること三度、昭和十年には工場の第二期擴張增築が竣工して、世界的新鋭機械据附、その他工場内部の最新設備を充實して、完璧無比の一大研究機關の完成と共に、製品の擴充、品質の改善向上に一路邁進し、躍進に亞ぐ躍進を以て名實共に斯界隨一の聲望を贏ち得るに至つた。

當社は工場を兵庫縣川邊郡川西町に設置し、最高の充實を誇る近代科學の研究機關と優秀卓越せる技術員を網羅し、大量に製産し、驚くべき需給の激增に應んとしつゝある。

現在は獨り内地のみならず遠く海外にも進出して、科學日本の光輝と共にサンプラチナの眞價は遺憾なく顯現され、當社の基礎も磐石の如きものがある。



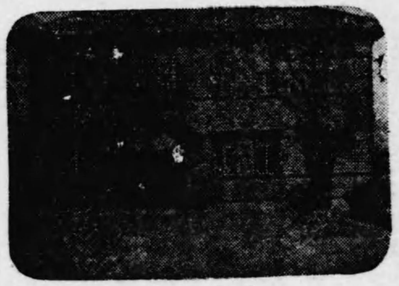
## 埼玉、秩父、影森村 影森村役場

當村は往古より、古歌名句にも詠まれたる如く、東方武甲山の麓に位して、宛ら、山の影なる森の形をなす一小村と謂ふ。これより影森村なる村名をとるものにして、秩父町の南に接して土地は高地性をなし、西に荒川の流域注ぎて、わづかに農耕地をひらひてゐる。

主要物産は米、麥の外に、林業、繭、桑等が旺んである、また影森信用組合、影森村大沼水道利用組合がある。

村社二、寺院四、金仙寺の櫻、橋立の觀音堂、琴平神社の神域等に名勝絶佳の地として知られてゐる。

當村には秩父鐵道影森驛あり、また秩父町へバス往來してゐて、交通は極めて便利である。



全景

そして地方切つての大地主で、その由緒記錄は文獻によれば、既に千年有餘に亘るところの郡下第一の舊家である。先代亡道太郎氏は醫師として村民の信望を一身にあつめた人物で、當主秀氏はその血を承けて幼少より頭腦俊敏を以て知られ東京ドイツ協會を經て歸村後、三十歳にして村會議員に擧げられ、次いで翌年には村長に推され、爾來兩大任を遂行して今日に至つてゐる。

氏は溫厚篤實にして仁慈寬恕に富むの人格者で、義には警防團長に就きて多大の業績を收めたるも、現在は、前揭大任の傍ら青少年團長、衛生組合長、産業組合長、農會長等の重任にも推戴せれ、その手腕の高邁果斷なるは、近鄉より絶大なる信用と稱讃を博してゐる。

當村は古くより農産の收穫に乏しく、氏は之に着眼して、今後大いに高地を利用して各種工業の發達に意を用ひつゝあり、時局下、その活躍こそは、各方面よりいたく期待せられてゐるところのものである。

## 村長 黒澤秀

氏は明治二十五年六月九日、先代道太郎氏の長男として生れた。

當家は代々醫業を營み、阿部家の末孫の他、衞生、教育、文化施設完備して居り、村長以下村民一同ます〳〵一致協力して村勢伸長に研鑽を累ねつつあり、郡下第一の優良村と稱されてゐる。

氏は溫厚篤實にして仁慈寬恕に富むの人格者で、家庭もまた極めて圓滿多幸である。

氏は曹洞宗に歸依して悟道に徹せるの

一家の繁榮は、前途洋々たらんとしてゐる。

## 埼玉、北足立、鴻巣町
## 埼玉敬神會露店商業組合

本組合は業界の樞軸として相互扶助、共存共榮の組合精神の普及徹底により組合の繁榮を致し、組合員の福利增進を圖り以て國策に順應せんことを目的とし、昭和十五年四月設立認可を得たるものである。

以來幹部役員の施策施行は洵に機宜に適し、益々堅實なる發展を遂げ、その業績は極めて顯著なるものがある。

本組合の區域は北足立郡、比企郡、南北埼玉郡、大里郡の一圓に及び、鴻巣事務所外、二十數ケ所の出張所を有してゐる。

### 組合長 ——— 福田辰藏

氏の尊父仙太郎氏は本組合創設の功勞者として業界に寄與せるところは洵に甚大なるものがある。

即ち仙太郎氏は明治三年九月、福井縣の出身にして、當地に來住し露店商を營まれてより實に四十餘年、その功績は業界著名の事實であり

尊父 仙太郎氏

特に町勢の進展に意を用ひ、鴻巣公園を今日の大に至らしめたるは氏の盡力の賜物である。

氏は資性溫達にして重厚、敬神崇祖の念に厚い人格者で、業界の元老的存在として重きをなしてゐる。

現組合長辰藏氏はその長男として出生し、夙に俊敏出藍の譽高く組合員の衆望向上に盡瘁せられ、將來の業界は氏の双肩にありと云ふも過言でなく、その活躍は益々期待されてゐる。

家庭には、夫人とみ子さんとの間に二男二女をあげ、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

## 埼玉、北足立、草加町
## 草加自轉車小賣商業組合

本組合は自轉車小賣商業の改良と發達を計るため共同の施設をなす目的で、明治二十年頃より組合の形をなしてゐたが昭和十五年五月七日に認可をされたのである。

現下時局重大なる折柄、組合幹部はもとより組合員ともに協力して、日夜孜々として努力し、あらゆる困難を克服して遂ひに今日では縣下の有數なる組合として知られるに至つた。

役員としては理事長加藤惣四郎、常任勝田退助、宇田川仁太郎、理事武井彦次郎、横山忠正、平井淺次郎、森井淺五郎阿川富藏、監事伊藤春三、納戸さだの諸氏である。

### 理事長 ——— 加藤惣四郎

氏の家は當地有數の舊家にして屈指の家柄である。

先代は家業の傍ら、產業自治の功勞者として知られてゐる。

氏はその男として明治二十五年三月六日に呱々の聲をあげた。



幼にして頭腦衆に秀れ、大器としてその將來を囑目されてゐた。

家業についても實に勤勉で、幾多の苦難を切り抜け、今日の大をなすに至つた人である。

責性重厚にして、信用篤く淸濁合せ呑む大度量は部下に慕はれ、人にもまた立てられるのである。

當理事長としても、一貫せる信念を以て至誠の奉公を致してゐるのである。

趣味として盆栽を愛好してゐる。

令室ちよ子さんは、夙に貞女の聞え高く、二男一女に惠まれ、長男孝一さんは目下北支方面に出征中であるが、よき後繼者である。

一家つねに圓滿多幸である。

## 名古屋市榮町二
## 株式會社 中村吳服店

商工都市として、近來目覺ましい躍進をつゞけてゐる大名古屋の中心、ビジネスセンターは榮町、大津通り界隈にしてその榮町の一角に堂々たる店舖を構へてゐる中村吳服店は、日々多くの顧客を呑吐して盛榮を極めてゐる。

當吳服店の經營機構は、百貨店的であるが、他のデパートと異り、服飾を中心とし、百四十萬市民の各層に親まれ、堅實なる營業方針を以て、特異の存在をなしてゐる。

他の壯大なる百貨店に比し、決して內容の充實せる點においては遜色がない。

却つて市民は、われらの吳服店としての心安く足を向けてゐる。

社長は松居庄七氏、專務取締役は松居修造氏

取締役 武山一雄氏

松居雅之助、武山一雄氏、監査役は山杉佐助、小澤義男氏である。

## 名古屋市東區南外堀町
## 中部油脂販賣業聯合會

常聯合會は、昭和十四年八月、愛知、岐阜、三重三縣下における揮發油、重油鑛油等の小賣業商業組合を糾合して設立したものである。

設立以來、いまだ日淺いにも拘らず、役員の經營よろしきと、組合員の協力とによつて、機能を發揮し、時局下物資統制、殊に油脂の統制が强化されてゐる現時、これに對處して事業の圓滑なる運營に全力をそゝいぎ好成績を擧げて、會運は發展の一途を辿つてゐる。

現役員は、理事長に伊藤淸助氏を推し理事は河田惣一郎、栗田秀次郎、福田子村鑛太郎、別所德三、阿部平吉の諸氏監事は加藤覺次、小池英夫、北島喜代藏の諸氏である。

福田專務

好、島山音次郎、高野守、林伊三郎、鈴

### 理事長 ——— 伊藤淸助

氏は、溫厚篤實、手腕識見共に卓拔の人柄にして、組合の經營に當つては、時局協力の熱意を捧げて、事業の圓滑なる運營に獻身的努力を效し、少からざる功績を擧げ、世の信望

を高めてゐる。

群馬、多野、新町

土木建築請負業　**中野傳伍**

電話六一番

當家は先代銀藏氏より土木建築請負を家業とし、現在に至つたものである。

當主傳伍氏は先代の長男として明治三十七年十二月一日の出生にして、家業を繼承するや、一意專心家業の發展に盡瘁せられ、その業況は頗る盛んなものがある。

特に氏は鐵筋コンクリート管、セメント瓦製造業界の權威にして、その販途は官廳はもとより、民間各方面に亘り、その需要は益々顯著にして、その前途は愈々有望である。

現在警防團班長、隣區長等の要職にあり、この方面に於ても日夜間斷なき努力を續けられその功績は洵に甚大である。

氏は資性溫厚篤實にして、また情理に厚く業者間はもとより、各方面の信望は極めて篤いものがある。

家庭に於ては慈母マスさん益々健在、夫人ロクさんの間に四男を惠まれ、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、群馬、澁川町

材木商　**萩原秀雄**

電話二七二番

氏は先代藤十郎氏の長男として、明治二十九年九月二十一日に出生し、二十年來木材業を營み、現在に至つたものである。

その間、縣下澁川町に出張所を設置して事業を擴大する等、躍進は洵に顯著なるものがあり、堅實なる營業方針と相俟つて、鐵筋コンクリート株式會社その他大會社の御用商として、その信用は絕大なるものがある。

現在では立木を購入して製材の上販賣業をも營み、これ又活潑なる業績を示しその販途は、地元はもとより、東京方面にも及んでゐる。

氏は溫厚篤實、又情理に厚き人格者にして、この未曾有の難局に際し業界一致協力し、以て國策を遵奉、職域奉公の實を擧げんことを期され、寧日なき努力を續けられてゐる。

家庭には、夫人リヨウさんとの間に、三男三女を惠まれ、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

群馬、桐生市本町

實業家　勳六等　**森宗作**

電話二〇〇一番

當家は代々宗作を襲名し、現在四代を數へる、桐生市の素封家として聞えてゐる。

當主宗作氏は先代の長男として出生、現在六十二歳である。機業、輸出買繼商を家業となし、家督繼承以來一意專心家業に精勵され、業績洵に瀕刺たるものがあり、堅實顯著なる成果は業界等しく嘆稱するところである。

現在群馬大同銀行監査役、帝國飛行協會相生支部長、上毛貯蓄銀行監査役群馬縣翼賛會顧問

桐生商工會議所會頭、市理事、桐生農會長、桐生市警防團長等の要職に在り、非常時局下に於ける產業報國、職域奉公の至誠を致し、以て東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期され、日と共に益々多忙な平常を過ごされてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、また情理に富みたる人格者であり、その風格は數多の功績と共に衆人敬仰の的である。

家庭にあつては十三名の家族に擁され春風堂に滿つるの感がある。

因に長男正雄氏は約十萬圓を投じ、庶民の保健、救濟を旨とし、桐生組合病院を創立し、日夜寧日なき奮鬪を續けられその功績は甚大なるものがあり、今後の活躍は益々期待されてゐる。

群馬、邑樂、館林町

## 館林織布株式會社

本社は大正九年四月、館林撚糸合資會社を買收、資本金三十萬圓を以て館林撚糸株式會社を設立したるがその濫觴である。

當時を回顧すれば歐洲大戰の影響を受け、所謂財界の黃金時代とも云ふべく、企業會社の亂立時代を出現した。然しこの變調的好況時代も永續すべきものでなく、大戰終結と共に襲ひたる財界不況の波は益々深刻の度を加へ、本社も又當然この苦境に立つを免がれず、大正十三年以來缺損に缺損を重ね、遂には事業經營困難に逢着するに至つた。茲に於て斷然工場の方針を一變、織物界への轉向を期し、大正十五年五月二十九日漸く織機一部の運轉を開始するに至つた。

以來總ゆる努力を傾注して着々設備の完成に努め、昭和六年六月三日遂に館林織布株式會社と社名改稱、こゝに名實共に織物工場としての第一歩を踏み出したものである。

昭和十年來、たま〳〵館林機業界に於て本縣奬勵に依る廣巾毛織々機設置の議が起るや、率先これに參加し設置運動に努力、同十一年末廣巾毛織々機の設備を完了、翌十二年一月より毛織の製造を開始、一意專心以て今日に及んでゐる。

創立以來二十有餘年、當時創立せる近隣の諸會社の殆ど跡を斷ちたる中に、本社のみ一人嚴然として今日に及んでゐるのは取締役會長杉本八代氏、專務取締役朝倉忠多氏、その他從業員各位の一致協力、營々孜々として努力せられたる賜物であり、又も、昭和九年陸軍大演習の砌天覽品謹織の光榮に浴し、縣知事より感謝狀を授與される等、本社運は逐年隆盛を極め、益々その業績を擧げてゐる。

**取締役　朝倉忠多**

氏は先代忠右衛門氏の長男として、明治二十四年十二月一日、福井縣に出生した。後上京して立教中學、日本大學經濟科に學び、業成るや足利市山保毛織足利關東織物合資會社等に勤務されてゐたが、育腸を病み、その靜養の爲め現住所へ移りたるものにしてその間、先妻勝己さんの死去される等、